

津幡町

加茂遺跡Ⅳ

2022

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

加^か茂^も遺跡Ⅳ

2022

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター



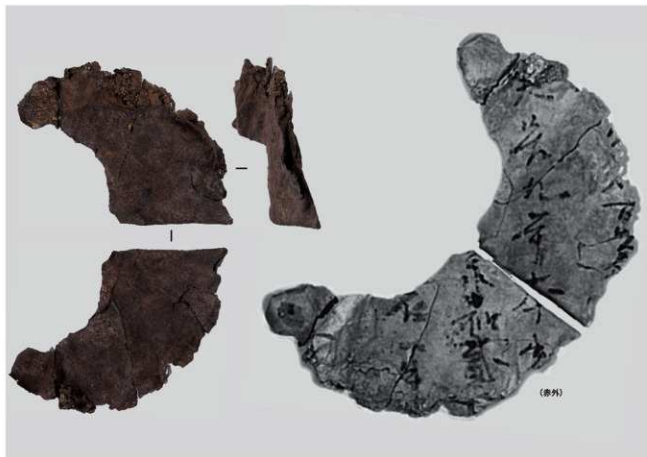
加茂谷を望む（西から）



A区第5面 平地建物 S1501完掘状況（南西から）



F区出土 須恵器四耳壺



(赤外)

A区第1面 (7A1SK07) 出土 漆紙文書

例 言

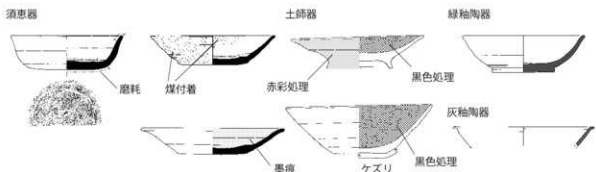
- 1 本書は加茂遺跡第7次調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は河北郡津輪町舟橋、加茂地内である。
- 3 調査原因は一般国道8号津輪北バイパスであり、同工事を所管する国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所(旧建設省金沢工事事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 現地調査は、石川県教育委員会からの委託を受けて、平成13(2001)年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。また、平成14(2002)年度に出土遺物の洗浄、同17(2005)年度に出土品整理、平成17(2005)年度に出土木製品の樹種同定、令和元～3(2019～21)年度に報告書作成、令和3年度に報告書刊行を、それぞれ石川県教育委員会から公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(平成24年度まで財団法人石川県埋蔵文化財センター)が委託を受けて実施した。
- 5 調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査の期間・面積・担当課・担当者は次のとおりである。

期 間	平成13年5月15日～平成14年1月24日	面 積	8,000㎡
担 当	調査部調査第1課		
担当者	本田秀生(調査専門員)、座主哲二(課主査)、林 大智(主事)、湯川善一(嘱託)、 岡田有紀子(嘱託)		
- 7 出土品整理は、平成14・17年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 自然科学的分析として、平成17年度に株式会社パレオ・ラボ㈱に木製品の樹種同定を委託して実施した。本書では、成果の一部を遺物観察表に引用するとともに、分析結果は第6次調査報告書〔津輪町加茂遺跡Ⅲ〕2021〕でまとめて記している。
- 9 報告書の作成は令和元～3年度に、刊行は令和3年度に実施し、調査部関係調査グループが担当した。執筆分担は次のとおりで、遺物の写真撮影は池田拓が行った。

第1・5・7章	山内花緒(調査部特定事業調査グループ主事)
第2・6章	和田龍介(調査部関係調査グループ主幹)
第3・4章	川畑 誠(調査部長)
- 10 調査には下記の機関、個人の協力を得た(五十音順、敬称略)。
国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所、パレオ・ラボ㈱、平川 南、本田秀生、湯川善一
- 11 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 12 本書についての凡例は下記および次頁のとおりである。
 - (1) 遺構実測図等の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅱ系に準拠した。
 - (2) 水平水準はT.P(東京湾平均海面)の標高による。
 - (3) 遺構の名称は第3章第1節の略記号で表記、遺物番号は挿図、観察表、写真で対応する。
 - (4) 写真図版の遺構、遺物は、任意の縮尺である。

【挿図等凡例】

- 1 遺構図版は縮尺1/60、1/100を基本とし、規模や図版の性格により縮尺1/30、1/40等を適宜用いた。
- 2 土器等遺物図版は縮尺1/4を基本とし、縮尺が異なる個体は都度縮尺を付した。断面の塗りわけ・トーン等による表現は、須恵器が断面黒塗り、その他は白抜きとし、トーン等の表現は次のとおりである。



- 3 木製品実測図の木取り等を示すために木目を描き込んでいるが、木目の間隔は目の詰まり具合を表現する程度で、実際の木目間隔を記したものではない。
- 4 遺物観察表のうち、須恵器、土師器の胎土については、次の表のとおり分類を行った。

須恵器

胎土分類	特 徴	実定範囲
A類	断面に0.5mm以下の角一筆角の砂粒を基一多含む。砂粒の形状は不規則で、焼く焼くするものは一般に器表面に砂粒が残り、アツツツの印象を与える。(小砂目) 断面観察時(比秤)は観察可能。 断面の砂目・縦線・赤色粒の吹き出し具合にバラステイがあり、断面に細網が観察できる。	高知県須賀川(小砂目) 徳島県津野(比秤) (徳島県)
B類	断面は滑で、しっとりとした質感がある。胎土に含まれる0.5mm未満の砂粒の量は非常に少ない。断面麻痺になるものが多い。	A類に類しない土師器 美濃郡笠原
C類	断面は非常に緻密で、スリガラス状の質感がある。	金沢市東山(比秤) 比良町
D類	断面は滑で、0.5～2.0mmの角一筆角の石・炭石を含むことが多い。 まれに薄層砂粒を含むことがある。 0.5～2.0mmの砂粒を多く含むものもある。	高知・神水郡津野(小はく石・宝珠石・水取) 高知・津野郡津野(比秤) 高知・津野郡津野(中炭層形)
E類	断面は滑で、0.5～2.0mmの角一筆角の石・炭石を多く含むことが多い。 まれに薄層砂粒を含むことがある。 胎土に薄層砂粒を含むものが多い。	高知・津野郡津野(中炭層形)
F類	断面は滑で、0.5～2.0mmの石・炭石を非常に多く含む。	彦根市
G類	断面は極めて緻密な質感。	徳島県津野
H類	胎土中の砂粒は極めて少ない。細い炭目や赤色炭粒も混入する。	不明
a類	不明	不明

土師器

断面観察	種類	特 徴
あり	a-1	砂粒をほとんど含まない。
	a-2	砂粒をほとんど含まない。 赤色陶化粒を含む。
	a-3	石・炭石の砂粒を含む。
	a-4	石・炭石の砂粒を含む。 赤色陶化粒を含む。
	a-5	石・炭石以外の大粒の砂粒を含む。
なし	b-1	砂粒をほとんど含まない。
	b-2	砂粒をほとんど含まない。 赤色陶化粒を含む。
	b-3	石・炭石の砂粒を含む。 赤色陶化粒を含む。
	b-4	石・炭石以外の大粒の砂粒を含む。

砂粒の大きさ

L	2.0mm～
M	0.5～2.0mm
S	<0.5mm

目 次

第1章	調査の経緯と経過	1
第1節	調査の経緯	1
第2節	発掘作業の経過	2
第3節	整理等作業の経過	4
第2章	遺跡の位置と環境	6
第1節	地理的環境	6
第2節	歴史的環境	7
第3章	調査の方法と基本層序	11
第1節	調査の方法	11
第2節	基本層序	13
第4章	A区の遺構と遺物	17
第1節	調査の概要	17
第2節	第1面の遺構と遺物	18
第3節	第2面の遺構と遺物	52
第4節	第3面の遺構と遺物	110
第5節	第4面の遺構と遺物	145
第6節	第5面の遺構と遺物	153
第5章	C・D・K区の遺構と遺物	182
第1節	調査の概要	182
第2節	建物・柱穴列	182
第3節	土坑、ピット	207
第4節	溝	213
第5節	その他	215
第6章	F区の遺構と遺物	230
第1節	調査の概要	230
第2節	遺構と遺物	230
第7章	総括	260

巻頭図版目次

巻頭図版1	上 加茂谷を望む(西から)	巻頭図版2	上 F区出土 須恵器四耳壺
	下 A区第5面 平地建物SI501完掘状 況(南西から)		下 A区第1面(7A1SK07) 出土漆紙文書

挿 図 目 次

第1図	遺跡の範囲と第7次調査区的位置 (S = 1/4,000) …………… 2	第25図	A区第1面出土遺物実測図3(S = 1/4) ……41
第2図	遺跡の範囲と地区割り(S = 1/3,000) …… 3	第26図	A区第1面出土遺物実測図4 (S = 1/2・1/4) ……………42
第3図	遺跡の位置…………… 6	第27図	A区第1面出土遺物実測図5(S = 1/4) ……43
第4図	加茂遺跡と周辺の遺跡(S = 1/25,000) …… 9	第28図	A区第1面出土遺物実測図6(S = 1/4) ……44
第5図	加茂遺跡グリッド配置及び調査区区割り図 (S = 1/2,000) ……………12	第29図	A区第2面主要遺構配置図(S = 1/300) ……53
第6図	A・C・D・K区の土層層序1 (S = 1/1,000、1/60) ……………15	第30図	A区第2面遺構平面図1(S = 1/100) ……54
第7図	A・C・D・K区の土層層序2(S = 1/60) ……16	第31図	A区第2面遺構平面図2(S = 1/100) ……55
第8図	A区第1面主要遺構配置図(S = 1/300) ……19	第32図	A区第2面遺構平面図3(S = 1/100) ……56
第9図	A区第1面遺構平面図1、グリッド配置図 (S = 1/100・1/600) ……………20	第33図	A区第2面遺構平面図4(S = 1/100) ……57
第10図	A区第1面遺構平面図2(S = 1/100) ……21	第34図	A区第2面遺構平面図5(S = 1/100) ……58
第11図	A区第1面遺構平面図3(S = 1/100) ……22	第35図	A区第2面遺構平面図6(S = 1/100) ……59
第12図	A区第1面遺構平面図4(S = 1/100) ……23	第36図	A区第2面遺構土層断面図1(S = 1/60) ……61
第13図	A区第1面遺構平面図5(S = 1/100) ……24	第37図	A区第2面遺構土層断面図2(S = 1/60) ……62
第14図	A区第1面遺構平面図6(S = 1/100) ……25	第38図	A区第2面SD202(新)遺物集中箇所 取り上げ位置図(S = 1/200) ……………63
第15図	A区第1面SB111平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……………26	第39図	A区第2面出土遺物実測図1(S = 1/4) ……64
第16図	A区第1面SB112・113平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……………27	第40図	A区第2面出土遺物実測図2(S = 1/4) ……65
第17図	A区第1面SB114、SA111・112平面図・土層 断面図(S = 1/60) ……………28	第41図	A区第2面出土遺物実測図3(S = 1/4) ……66
第18図	A区第1面ビット平面図・土層断面図1 (S = 1/40・1/60) ……………30	第42図	A区第2面出土遺物実測図4(S = 1/4) ……67
第19図	A区第1面ビット平面図・土層断面図2 (S = 1/60) ……………32	第43図	A区第2面出土遺物実測図5(S = 1/4) ……68
第20図	A区第1面土坑平面図・土層断面図 (S = 1/40) ……………33	第44図	A区第2面出土遺物実測図6(S = 1/4) ……70
第21図	A区第1面出土遺物実測図1(S = 1/4) ……34	第45図	A区第2面出土遺物実測図7(S = 1/4) ……72
第22図	A区第1面SK07出土漆紙文書実測図 (S = 1/3) ……………35	第46図	A区第2面出土遺物実測図8(S = 1/4) ……73
第23図	A区第1面溝土層断面図(S = 1/60) ……36	第47図	A区第2面出土遺物実測図9 (S = 1/4・1/6) ……………74
第24図	A区第1面出土遺物実測図2(S = 1/4) ……38	第48図	A区第2面出土遺物実測図10 (S = 1/4・1/6・1/8) …………… 75
		第49図	A区第2面出土遺物実測図11(S = 1/4) ……76
		第50図	A区第2面出土遺物実測図12(S = 1/4) ……78
		第51図	A区第2面出土遺物実測図13(S = 1/4) ……79
		第52図	A区第2面出土遺物実測図14(S = 1/4) ……80
		第53図	A区第2面出土遺物実測図15(S = 1/4) ……82
		第54図	A区第2面出土遺物実測図16(S = 1/4) ……83
		第55図	A区第2面出土遺物実測図17(S = 1/4) ……84

第56図	A区第2面出土遺物実測図18(S = 1/4) ……86	平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……150
第57図	A区第2面出土遺物実測図19 (S = 1/2・1/4) ……87	第87図 A区第4面出土遺物実測図 (S = 1/2・1/4) ……151
第58図	A区第2面出土遺物実測図20(S = 1/4) ……88	第88図 A区第5面主要遺構配置図 (S = 1/300) ……154
第59図	A区第2面出土遺物実測図21 (S = 1/4・1/6・1/8) ……89	第89図 A区第5面遺構平面図1(S = 1/100) ……155
第60図	A区第2面出土遺物実測図22 (S = 1/4・1/6・1/8) ……90	第90図 A区第5面遺構平面図2(S = 1/100) ……156
第61図	A区第2面出土遺物実測図23(S = 1/4) ……91	第91図 A区第5面遺構平面図3(S = 1/100) ……157
第62図	A区第3面主要遺構配置図 (S = 1/300) ……111	第92図 A区第5面遺構平面図4(S = 1/100) ……158
第63図	A区第3面遺構平面図1(S = 1/100) ……112	第93図 A区第5面遺構平面図5(S = 1/100) ……159
第64図	A区第3面遺構平面図2(S = 1/100) ……113	第94図 A区第5面遺構平面図6(S = 1/100) ……160
第65図	A区第3面遺構平面図3(S = 1/100) ……114	第95図 A区第5面東半遺構配置図 (S = 1/100) ……161
第66図	A区第3面遺構平面図4(S = 1/100) ……115	第96図 A区第5面 SI501 平面図・断面図 (S = 1/100) ……163
第67図	A区第3面遺構平面図5(S = 1/100) ……116	第97図 A区第5面 SI501 等平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……164
第68図	A区第3面遺構平面図6(S = 1/100) ……117	第98図 A区第5面平地建物復元案 (S = 1/200) ……166
第69図	A区第3面土坑平面図・土層断面図1 (S = 1/30・1/60) ……122	第99図 A区第5面 SI501 出土遺物実測図1 (S = 1/4・1/8) ……167
第70図	A区第3面溝平面図・土層断面図1 (S = 1/60・1/80) ……123	第100図 A区第5面 SI501 出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4・1/8) ……168
第71図	A区第3面溝平面図・土層断面図2 (S = 1/60) ……124	第101図 A区第5面土坑平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……171
第72図	A区第3面トレンチ1・2土層断面図1 (S = 1/60) ……125	第102図 A区第5面土坑等平面図・土層断面図 (S = 1/60) ……172
第73図	A区第3面トレンチ1・2土層断面図2 ……126	第103図 A区第5面出土遺物実測図1 (S = 1/4) ……175
第74図	A区第3面出土遺物実測図1(S = 1/4) 127	第104図 A区第5面出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4) ……176
第75図	A区第3面出土遺物実測図2(S = 1/4) 128	第105図 A区第5面出土遺物実測図3 (S = 1/4・1/8) ……177
第76図	A区第3面出土遺物実測図3 (S = 1/2・1/4) ……129	第106図 C・D・K区第1面グリッド配置図 (S = 1/300) ……183
第77図	A区第3面出土遺物実測図4(S = 1/4) ……130	第107図 C・D・K区第1面主要遺構配置図 (S = 1/300) ……184
第78図	A区第3面出土遺物実測図5(S = 1/4) ……131	第108図 C・D・K区第1面遺構平面図1 (S = 1/100) ……185
第79図	A区第3面出土遺物実測図6(S = 1/4) ……132	第109図 C・D・K区第1面遺構平面図2 (S = 1/100) ……186
第80図	A区第3面出土遺物実測図7(S = 1/4) ……133	第110図 C・D・K区第1面遺構平面図3 (S = 1/100) ……187
第81図	A区第3面出土遺物実測図8 (S = 1/2・1/4) ……134	第111図 C・D・K区第1面遺構平面図4 (S = 1/100) ……188
第82図	A区第3面出土遺物実測図9 (S = 1/2・1/4・1/6) ……135	
第83図	A区第4面主要遺構配置図 (S = 1/300) ……146	
第84図	A区第4面 Q-24区周辺平面図1 (S = 1/60) ……147	
第85図	A区第4面 SD403 平面図・断面図 (S = 1/60) ……149	
第86図	A区第4面 SD404 ~ 406、SD408 ~ 413	

第112図	C・D・K区第1面遺構平面図5 (S = 1/100)	189	第134図	C・D・K区第1面溝土層断面図 (S = 1/60)	220
第113図	C・D・K区第1面遺構平面図6 (S = 1/100)	190	第135図	C・D・K区第1面噴砂土層断面図 (S = 1/60)	221
第114図	C・D・K区第1面遺構平面図7 (S = 1/100)	191	第136図	C区第1面出土遺物実測図1 (S = 1/2・1/4)	222
第115図	C・D・K区第1面遺構平面図8 (S = 1/100)	192	第137図	C区第1面出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4)	223
第116図	C・D・K区第1面遺構平面図9 (S = 1/100)	193	第138図	C区第1面出土遺物実測図3 (S = 1/1・1/2・1/4)	224
第117図	C・D・K区第1面遺構平面図10 (S = 1/100)	194	第139図	C区第1面出土遺物実測図4 (S = 1/4・1/9・1/16)	225
第118図	C・D・K区第1面遺構平面図11 (S = 1/100)	195	第140図	F区第1面主要遺構配置図 (S = 1/300) ..	231
第119図	C区第1面SB01平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60)	198	第141図	F区平面図 (1) (S = 1/100)	232
第120図	C区第1面SB02平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60)	199	第142図	F区平面図 (2) (S = 1/100)	233
第121図	C区第1面SB02土層断面図 (S = 1/60)	200	第143図	F区平面図 (3) (S = 1/100)	234
第122図	C区第1面SB03平面図・土層断面図 (S = 1/80)	201	第144図	F区平面図 (4) (S = 1/100)	235
第123図	C区第1面SB03土層断面図 (S = 1/60)	202	第145図	F区平面図 (5) (S = 1/100)	236
第124図	C区第1面SB04平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60)	203	第146図	F区平面図 (6) (S = 1/100)	237
第125図	C区第1面SB04土層断面図 (S = 1/60)	204	第147図	F区平面図 (7) (S = 1/100)	238
第126図	C区第1面SB05平面図・土層断面図 (S = 1/80)	205	第148図	F区平面図 (8) (S = 1/100)	239
第127図	C区第1面SB06平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60)	206	第149図	確認トレンチ1・2断面図 (S = 1/60) ..	240
第128図	C・D・K区第1面土坑・ピット平面図・ 土層断面図 (S = 1/60・1/20)	208	第150図	確認トレンチ3断面図 (S = 1/60)	241
第129図	C・D・K区第1面ピット土層断面図1 (S = 1/60)	209	第151図	F区第1面確認トレンチ出土遺物実測図 (S = 1/4)	242
第130図	C・D・K区第1面ピット土層断面図 (S = 1/60)	210	第152図	F区水田区画 (S = 1/300)	244
第131図	C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図1 (S = 1/60)	217	第153図	F区第1面水田・SK01出土遺物実測図 (S = 1/4) ..	245
第132図	C・D・K区第1面溝土層断面図2 (S = 1/60)	218	第154図	F区SK02・03平面・断面図 (S = 1/60) ..	246
第133図	C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図3 (S = 1/60・1/20)	219	第155図	F区SK02・04平面・断面図 (S = 1/60) ..	247
			第156図	F区第1面SK02・03・04、その他の 遺構出土遺物実測図 (S = 1/4)	249
			第157図	F区第1面調査区出土遺物実測図 (1) (S = 1/4)	250
			第158図	F区第1面調査区出土遺物実測図 (2) (S = 1/4)	251
			第159図	F区第1面調査区出土遺物実測図 (3) (S = 1/4)	252
			第160図	工事立会 (9区大溝) 出土遺物実測図 (S = 1/4)	253
			第161図	古代掘立柱建物分布図 (S = 1/2,000) ..	262
			第162図	県内出土漆紙文書集成 (S = 1/4)	262
			第163図	加茂遺跡古代遺構図 (S = 1/2,000) ..	263

表 目 次

第1表	第1～11次調査一覧表	1	第43表	A区第3面出土土器観察表2	138
第2表	調査・整理体制一覧表	5	第44表	A区第3面出土土器観察表3	139
第3表	周辺の遺跡一覧表	10	第45表	A区第3面出土土器観察表4	140
第4表	第6～10次調査の調査区名対比表	11	第46表	A区第3面出土土器観察表5	141
第5表	第7次調査の遺構番号一覧表	13	第47表	A区第3面出土土器観察表6	142
第6表	各調査面のベース土一覧表	14	第48表	A区第3面出土土器観察表7	143
第7表	加賀・能登の土器編年と暦年代対比表	17	第49表	A区第3面出土土器・石製品観察表	144
第8表	A区第1面SB、SA規模等一覧表	26	第50表	A区第3面出土土器・木製品観察表	144
第9表	A区第1面ピット規模等一覧表1	31	第51表	A区第4面遺構規模等一覧表	148
第10表	A区第1面ピット規模等一覧表2	32	第52表	A区第4面出土土器観察表	152
第11表	A区第1面土坑規模等一覧表	35	第53表	A区第4面出土土器・石製品観察表	152
第12表	A区第1面溝規模等一覧表	37	第54表	A区第5面S1501規模等一覧表	165
第13表	A区第1面出土土器観察表1	46	第55表	A区第5面土坑規模等一覧表	170
第14表	A区第1面出土土器観察表2	47	第56表	A区第5面溝規模等一覧表	170
第15表	A区第1面出土土器観察表3	48	第57表	A区第5面ピット規模等一覧表	173
第16表	A区第1面出土土器観察表4	49	第58表	A区第5面出土土器観察表1	178
第17表	A区第1面出土土器観察表5	50	第59表	A区第5面出土土器観察表2	179
第18表	A区第1面出土土器観察表6	51	第60表	A区第5面出土土器観察表3	180
第19表	A区第1面出土土器・石製品観察表	52	第61表	A区第5面出土土器・石製品観察表	181
第20表	A区第1面出土金属製品観察表	52	第62表	A区第5面出土土器・木製品観察表	181
第21表	A区第2面溝規模等一覧表	61	第63表	C区第1面SB規模等一覧表	196
第22表	A区第2面出土土器観察表1	92	第64表	C・D・K区第1面柱穴規模等一覧表	204
第23表	A区第2面出土土器観察表2	93	第65表	C・D・K区第1面土坑規模等一覧表	207
第24表	A区第2面出土土器観察表3	94	第66表	C・D・K区第1面ピット規模等一覧表1	211
第25表	A区第2面出土土器観察表4	95			211
第26表	A区第2面出土土器観察表5	96	第67表	C・D・K区第1面ピット規模等一覧表2	212
第27表	A区第2面出土土器観察表6	97			212
第28表	A区第2面出土土器観察表7	98	第68表	C・D・K区第1面ピット規模等一覧表3	213
第29表	A区第2面出土土器観察表8	99			213
第30表	A区第2面出土土器観察表9	100	第69表	C・D・K区第1面溝規模等一覧表1	214
第31表	A区第2面出土土器観察表10	101	第70表	C・D・K区第1面溝規模等一覧表2	216
第32表	A区第2面出土土器観察表11	102	第71表	C・D・K区第1面出土土器観察表1	226
第33表	A区第2面出土土器観察表12	103	第72表	C・D・K区第1面出土土器観察表2	227
第34表	A区第2面出土土器観察表13	104	第73表	C・D・K区第1面出土土器観察表3	228
第35表	A区第2面出土土器観察表14	105	第74表	C・D・K区第1面出土土器観察表4	229
第36表	A区第2面出土土器観察表15	106	第75表	C・D・K区第1面出土土器・石製品・ 金属製品観察表	229
第37表	A区第2面出土土器観察表16	107	第76表	C・D・K区第1面出土土器・木製品 観察表	229
第38表	A区第2面出土土器観察表17	108			229
第39表	A区第2面出土土器・石製品観察表	109	第77表	F区第1面水田遺構規模等一覧	243
第40表	A区第2面出土土器・木製品観察表	109	第78表	F区第1面土器観察表1	254
第41表	A区第3面溝規模等一覧表	122	第79表	F区第1面土器観察表2	255
第42表	A区第3面出土土器観察表1	137			

第80表	F区第1面土器観察表3	256	第83表	F区第1面木製品観察表	259
第81表	F区第1面土器観察表4	257	第84表	F区第1面石・金属製品観察表	259
第82表	F区第1面土器観察表5	258			

図 版 目 次

図版1～6	A区第1面遺構1～6	図版47	A区第4・5面出土遺物
図版7～10	A区第1面出土遺物1～4	図版48	A区第5面出土遺物
図版11～16	A区第2面遺構1～6	図版49～57	C区第1面遺構1～9
図版17～28	A区第2面出土遺物1～12	図版58	C区第1面遺構10、D・K区第1面遺構
図版29～32	A区第3面遺構1～4	図版59～61	C・D・K区第1面出土遺物1～3
図版33	A区第3・4面遺構	図版62～64	F区第1面遺構1～3
図版34～37	A区第3面出土遺物1～4	図版65～66	F区第1面出土遺物1～2
図版38	A区第4面遺構	図版67	F区第1面出土遺物3、工事立会出土遺物
図版39～46	A区第5面遺構1～8		

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

一般国道8号津幡北バイパス改築工事は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所(旧建設省北陸地方建設局金沢工事事務所)が所管する事業である。国道8号線は、新潟県新潟市を起点とし、富山・石川・福井・滋賀各県を経て、京都府京都市に至る延長約590kmの幹線国道で、日本海に沿った北陸地方を結ぶ大動脈の役割を担っている。そのうち津幡北バイパスは、津幡町舟橋から同町刈安まで(延長約5.8km)の慢性的な交通渋滞の解消を目指して昭和59(1984)年度に事業化されたものであり、刈安地内で俱利伽羅バイパスに連結、富山県小矢部市の小矢部バイパスへと続く。

本遺跡の発掘調査は、昭和62(1987)年度の建設省北陸地方建設局金沢工事事務所(当時。以下、建設省)から石川県立埋蔵文化財センター(当時。以下、県埋文センター)への埋蔵文化財包蔵地の所在についての照会に始まる。このような開発事業に際し、周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する場合、事業者は文化財保護法第94条の規定にもとづき、その保護措置を執ることが求められる。県教委では、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るため、各年度に国・県等の関係機関・部局の協力を得て、次年度以降の開発事業計画の早期把握や、分布調査等による埋蔵文化財の有無の確認により、工事着手前段階における埋蔵文化財の正確な把握に努め、保護措置に関して事業者との調整を行っている。

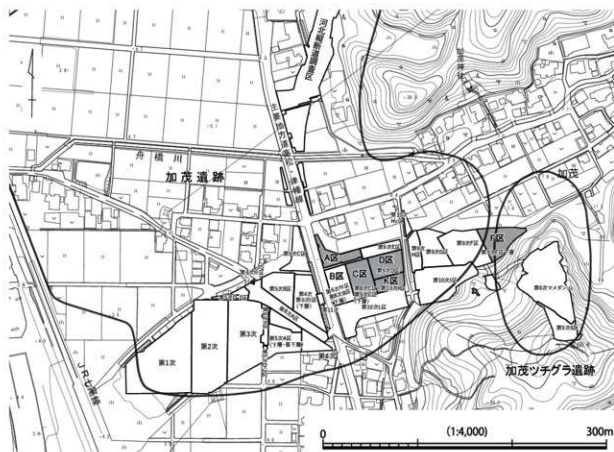
本遺跡については、昭和62(1987)年10月26日付で、建設省から県埋文センターに分布調査の依頼があり、同年11月27日に重機を用いた試掘調査を実施、舟橋地内において奈良・平安時代の良好な遺物包含層を確認した。その後、平成元(1989)年4月17日付けで2回目の分布調査の依頼があり、同年9月25・27日、10月26日、12月4日に現地踏査と重機・人力による試掘調査を実施、東西方向で約500mを測る本遺跡(県遺跡番号No.1303000)と、丘陵地の加茂ツチグラ遺跡(同No.1302000)を確認した。

その後、県埋文センターは建設省と協議を行い、埋蔵文化財への影響を軽減するための道路線形の変更が困難であることから、事業地内の埋蔵文化財について記録保存措置(発掘調査)を実施することとなった。現地調査は、路線予定地西側から順次実施することとなり、平成3～6(1991～1994)年度の第1～4次調査を社団法人石川県埋蔵文化財保存協会が担当した。また平成11～17(1999～2005)年度の第5～11次調査を財団法人石川県埋蔵文化財センター(当時。以下、(財)県埋文センター)が実施し、保護措置後の平成20(2008)年3月15日に津幡北バイパスは全面開通している。本書は、第1～4次調査および第6次調査の一部を報告した「津幡町 加茂遺跡Ⅰ」(2009(財)県埋文センター)、第5次調査を報告した「津幡町 加茂遺跡Ⅱ」(2021(公財)県埋文センター)、第6次調査を報告した「津幡町 加茂遺跡Ⅲ」(2021(公財)県埋文センター)に引き続き、第7次調査を報告するものである。

本書に報告する出土品については、遺失物法にもとづき(財)県埋文センターが津幡警察署に埋蔵物の発見届を提出し、同警察署から通知を受けた県教委により文化財認定が行われた。現

調査次	調査年度	調査主体	調査面積(m ²)
第1次	平成3(1991)	社団法人石川県埋蔵文化財保存協会	4,700
第2次	平成4(1992)		4,000
第3次	平成5(1993)		5,100
第4次	平成6(1994)		2,080
第5次	平成11(1999)	財団法人石川県埋蔵文化財センター	5,500
第6次	平成12(2000)		7,700
第7次	平成13(2001)		8,000
第8次	平成14(2002)		7,000
第9次	平成15(2003)		23,750
第10次	平成16(2004)		24,550
第11次	平成17(2005)		300
調査面積 計			92,680

第1表 第1～11次調査一覧表



第1図 遺跡の範囲と第7次調査区的位置 (S=1/4,000)

在、出土品は石川県埋蔵文化財センターで収蔵・保管のうえ、公開・活用を図っている。

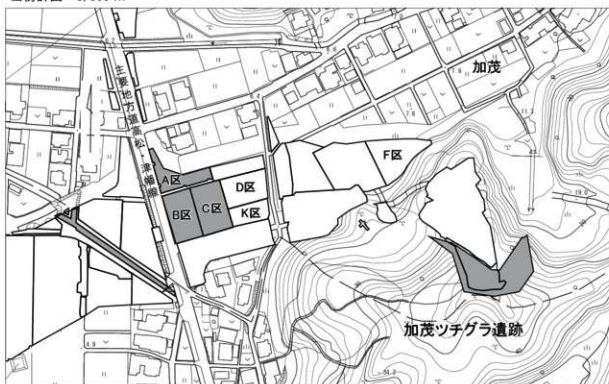
なお、第6次調査で出土した、平安時代前期の古代国家の農業奨励政策や命令伝達方法を具体的に知ることができる「加賀郡勝示札」は、平成22(2010)年6月29日に国の重要文化財に指定された。また、平成13(2001)年度から津幡町教育委員会が津幡北バイパス北側の水田部を主な対象に実施した範囲確認調査の成果をもとに、津幡北バイパス事業地を含む約4.6haが平成27(2015)年3月10日に国の史跡に指定された。津幡北バイパス事業地内の「加賀郡勝示札」出土地・古代北陸道能登支路周辺地は、バイパスの高架位置・構造の変更により現状保存され、現在「加茂遺跡広場」に整備のうえ公開・活用が図られている。

第2節 発掘作業の経過

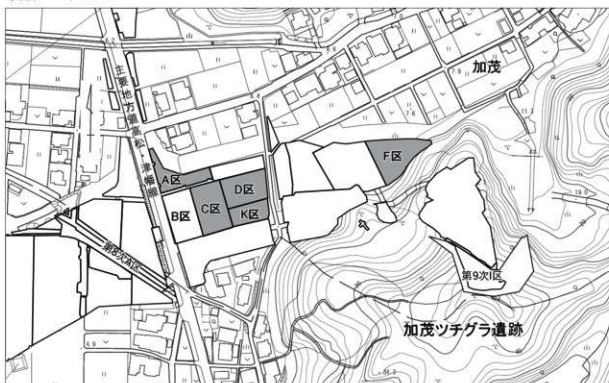
現地調査は、建設省から委託を受けた石川県との委託契約に基づき、(財)県埋文センターが平成13年5月15日～平成14年1月24日に実施した。調査面積は8,000㎡で、担当は調査部調査第1課の本田秀生、座主哲二、林大智、湯川善一、岡田有紀子である。以下、調査日誌抄を記す。

- 4月1日 県教育委員会(以下、県教委)から8,000㎡(面積合計)の調査依頼及び委託契約を受け、県教委へ文化財保護法に基づく発掘調査届出書を提出。調査準備に着手。
- 4月18日～5月9日 18日に現地で国交省、県教委文化財課と調査工程等の協議を行う。A区、B-C-D-K区上層、F区上層、町道の順に進めることで合意。13日に発掘調査届出書に対する通知あり。
- 5月10日～5月24日 10日にB-C区の重機による表土除去作業を開始。プレハブ設置作業等を進め、21日以降現場作業員による周辺整備作業に着手する。

当初計画 8,000 m²



実績 8,000 m²



0 (1:3,000) 150m

第2図 調査の範囲と地区割り (S=1/3,000)

- 5月25日～9月20日 B・C区上層について、現場作業員による包含層掘削、遺構検出、遺構掘り下げ作業、調査員による図面作成等の記録作業を進める。6月11日までに重機によるD・K区の表土除去作業を終え、12日にはA区の矢板打ち、建物基礎除去作業の後、上層の調査に着手する。18日から21日にA区の表土除去作業を行い、上層の調査を進める。9月17日にラジオコントロールヘリコプター(以下、ラジコン)による空中写真測量を実施する。
- 9月21日～10月31日 A区下層の調査に着手し、重機による間層土除去作業を行う。併せてF区の表土除去作業を実施。以降A区下層、F区上層の調査を並行して進める。10月31日に第2回ラジコンによる空中写真測量を実施し、A区第2面の調査を終える。
- 11月1日～11月28日 A区第3面の現場作業員による包含層掘削、遺構検出作業に着手する。15日にF区上層について第3回ラジコンによる空中写真測量を実施する。16日に県教委より委託業務内容変更の依頼があり、調査区の変更(面積は変わらず)を承引する(第2図)。18日に現地説明会を開催する。28日にA区第3面を対象とした第4回ラジコンによる空中写真測量を実施する。
- 11月29日～1月19日 A区第4・5面の調査に着手し、現場作業員による包含層掘削、遺構検出、遺構掘り下げ作業、調査員による図面作成等の記録作業を進める。1月19日に第5回ラジコンによる空中写真測量を実施し、A区下層の調査を完了する。
- 1月20日～1月24日 補測作業、遺物取り上げ作業と並行して、調査区の埋め戻し作業、プレハブ等撤収作業を経て、1月24日に現地作業を完了する。

第3節 整理等作業の経過

遺物は、弥生土器、土師器、須恵器等の土器、陶磁器、石器・石製品がコンテナ(60×38×14cm)で72箱、木製品はコンテナで約15箱が出土した。出土品の整理作業は、平成14(2002)、同17(2005)、令和元(2019)、同2(2020)、同3(2021)の各年度に(公財)石川県埋蔵文化財センター(平成24年度以前は(財)県埋文センター)が石川県教育委員会の委託として実施した。各年度の調査・整理体制は第2表のとおりである。

整理の内容については、平成14(2002)年度に遺物の洗浄作業、平成17年度に土器等の記名・分類・接合、実測・トレース、土器の復元、遺構図のトレースの諸作業を、他次調査を含めて継続実施している。また、平成17年度に出土木製品90点の樹種同定をパレオ・ラボ(株)に委託して実施した。令和元年度～令和3年度に報告書作成作業を行い、令和3年度に本書を編集・刊行した。なお、A区の土坑から出土した漆紙文書について、平成12年2月に平川 南氏(当時、国立歴史民俗博物館教授)の指導を得ている。

	平成13年度(2001) [第7次調査]	平成14年度(2002)	平成17年度(2005)
調査期間	平成13年5月15日～平成14年1月24日	平成14年4月1日～15年3月31日	平成17年4月1日～18年3月31日
調査主体	財団法人石川島精機文化財センター (理事長：山岸 勇)	財団法人石川島精機文化財センター (理事長：山岸 勇)	同左 (同左)
総 括	武田寿夫(専務理事)	武田寿夫(専務理事)	畑 日出夫(専務理事)
事 務	松柳 拓(事務局長) 和泉邦夫(総務課長) 繁田吉彦(経理課長)	松柳 拓(事務局長) 岸田豊久(総務課長) 繁田吉彦(経理課長)	山下寿敏(事務局長) 宅崎仁芳(総務課長) 繁谷孝吾(経理課長)
調 査	谷内尾晋司(所長) 小嶋芳孝(調査部長) 中島俊一(調査第1課長)	谷内尾晋司(所長) 湯沢修平(企画部長) 小嶋芳孝(調査部長)	谷内尾晋司(所長) 中島俊一(企画部長) 湯沢修平(調査部長)
組 成	本田寿生(調査第1課調査専門員) 坂主智二(調査第1課主査) 林 大智(調査第1課主事) 通川善一(調査第1課嘱託) 須田有紀子(調査第1課嘱託)	澤田まさ子(整理課長) 中島俊一(調査第1課長) 川畑 誠(企画課調査専門員)	加内光次郎(整理課長) 二浦純大(調査第1課長) 柿田祐司(調査第1課主査)
作業内容	現地調査 8000㎡	遺物洗浄	土器等の記名・分類・整合 遺構回のトレース 本製品の整理・特定委託

	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)
整理期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日	令和2年4月1日～令和3年3月31日	令和3年4月1日～令和4年3月31日
調査主体	公益財団法人石川島精機文化財センター (理事長：田中雄太郎)	同左 (理事長：田中 博)	同左 (理事長：田中 博)
総 括	榎野武一(専務理事)	田村彰英(専務理事)	田村彰英(専務理事)
事 務	茶籠利雄(事務局長) 伊藤 直(総務グループGL)	北谷俊彦(事務局長) 伊藤 直(総務グループGL)	北谷俊彦(事務局長) 北谷祥子(総務グループGL)
整 理	加内光次郎(所長) 伊藤繁文(調査部長) 川畑 誠(図関係調査グループGL)	伊藤繁文(所長) 川畑 誠(調査部長) 松山和彦(図関係調査グループGL)	伊藤繁文(所長) 川畑 誠(調査部長) 澤辺利明(図関係調査グループGL)
組 成	山内花雄(図関係調査グループ主事)	和田龍介(図関係調査グループ主幹)	和田龍介(図関係調査グループ主幹) 山内花雄(特定事業調査グループ主事)
作 業	原稿作成	原稿作成	原稿作成 報告書発行

第2表 調査・整理体制一覧表

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境



第3図 遺跡の位置

加茂遺跡は、石川県河北郡津幡町字舟橋・加茂地内に所在する。遺跡の位置する津幡町は、北～西はかほく市、東は富山県境、南は金沢市に隣接し、西南部には河北潟が広がる。

津幡町の地形は、東側に宝達丘陵に連なる津幡・森本丘陵、西は海岸部に発達した内灘砂丘と砂丘によって形成された河北潟、その両者に挟まれた河北平野からなる。津幡・森本丘陵は標高100～200m前後の低山帯と、その西側の標高50m～100m程の丘陵地からなり、西側は河川の浸食などで低い独立丘陵や舌状丘陵が形成され、丘陵地の裾まで谷平野が樹枝状に入り込んだ地形となっている。町の西部には、金沢市粟崎からかほく市の大海川河口の海岸部に発達した内灘砂丘と、内灘砂丘の発達過程で形成された潟湖である河北潟が広がっている。

内灘砂丘は最高標高約61m、延長約20kmの砂丘列であり、手取川河口(現白山市)から供給された土砂が沿岸漂砂となって海浜を形成し、その海浜からの飛砂によって形成されたとされている。縄文時代中期前後に完成した「古砂丘」と、弥生時代以降にその内陸部に形成された「新砂丘」からなり、古砂丘上の黒色砂質土(旧地表面)上には該期の遺跡が分布している。

河北潟は日本海側有数の潟湖(lagoon)で、入江(河北入江)が内灘砂丘の発達過程で外湾から隔たれ始め、閉塞して潟湖となったものである。閉塞の時期は、内灘古砂丘が形成され終わる古墳時代前期と推定されている。現在見られる姿は干拓後のもので、干拓前は東西約4km・南北約8km、面積約2,300haの規模を測った。現在は約596haと往時の1/4ほどの規模となっている。もとは汽水湖で、フナやコイを始め、ウナギ、マダイ、イシダイ、キス、ボラ、マイワシなどの淡水魚～沿岸魚まで多様な魚類が生息しており、加茂遺跡第1号木簡に見える「献上人給雑魚十五隻」の情景を彷彿とさせる。河北潟の土地利用は、水運や潟内漁場としての役割が主要なものであったろうが、江戸時代に入ると埋め立てによる新田開発が行われていたことが記録に残されている。それらは主に潟縁の村々によるフゴの埋め立てによるものであったが、なかでも銭屋五兵衛によるもの(1851年)が有名である。17世紀前半～19世紀半ばの約150年間、埋め立てによる新開高はおよそ9000石(面積にして約6.7ha)にのぼった。終戦後の食糧不足事情を解消すべく、全国的に行われた潟湖の干拓事業は河北潟にも及んだ。一説には、内灘砂丘の米軍試験場接収の代案として提示されたとも言われている。とは言い、1963年～1986年に、24年の歳月と総工費302億円をかけて実施された国営河北潟干拓土地改良工事は河北潟干拓事業の最大のもので、実に2/3にあたる1,359haが陸地化した。現在は畑地や酪農地として利用されており、わずかに残された潟は調整池として残るのみで往事の景観は失われてしまっている。河北潟は海退・海進にともなう湖岸線が変化しており、海退期にあたる藩政期に描かれた絵図面には、葡萄の房状に形成された「フゴ・フコ(不湖)」と呼ばれた小潟が発達していた様子が残されている。加茂遺跡も「舟橋フゴ」と呼ばれた小潟に面しており、古代の河北潟東縁の遺跡はこのような

フゴに連なる景観が想定されていた(たとえば平川・県2001、津幡町2012)。しかし加茂遺跡の萌芽～形成期にあたる奈良・平安時代は逆に海進期にあたることから、汀線がフゴ状に残ることは考えにくく、汀線はフゴの東端がそれ以上に奥まで進んでいた景観であったことが出越茂和により指摘されている。第4図の地形図は、加茂遺跡の主要な時期である古代を念頭に置いた、湖岸線が最も内陸まで追ったものとなっている。

調査地である加茂遺跡は、津幡町南部、旧河北潟北東岸部の標高約5～7m前後の低地を中心に立地する、縄文時代から中世に渡って営まれた複合遺跡である。弥生時代の集落は主に中期と後期後半にピークを持ち、緩斜面や低位段丘面上に立地し、古墳時代以降低地部分へと活動範囲を広げる。古墳時代終末期から古代以降は、河北潟の縁辺という立地を生かした陸上・水上交通の結節点として盛況を迎える。遺跡の中央を古代北陸道が縦断し、谷から河北潟へつながる人工的な大溝が2条、遺跡の南と北に流れ、その大溝を中心に該期の遺構が展開する様相を見せている。これらのことから、駅家の付属施設や郡の末端官衙、ないし郡雑人の拠点等の官衙関連的な性格が想定されている。遺跡名にもなっている「加茂」の地名は、遺跡から出土する墨書土器「鴨」「賀茂」(県2009、2018、町2012等)の存在から、少なくとも8世紀後半以降には存在していた可能性がある。そのルーツを京都賀茂神社の勧請に求める見解もあり、墨書土器と同名の賀茂神社(かほく市横山)の社史には、天平勝宝5年(753)に加茂の地に賀茂大明神が垂迹し、大同2年(807)に神託により現在の横山の地へ遷座するとあり、もともと加茂の地に賀茂神社が存在していたことを示唆している。また本遺跡の近くにも加茂神社が村社として残る。

第2節 歴史的環境

加茂遺跡周辺の遺跡の消長は、河北潟の湖岸線をどうとらえるかにかかっているとと言える。三浦純夫は、藩政期の絵図や近代の古地図、米軍撮影の航空写真(1945年前後)を駆使して古代の湖岸線を復元し、水田開発や干拓により消失した河北潟の汀線を鮮やかに描き出した(三浦1993)。これにより漠然ととらえられていた「遺跡から約2km西側にある河北潟」のイメージは覆され、加茂遺跡の大溝～河北潟および北陸道を用いた「内水面交通と陸上交通の結節点」という重要な性格を導く根拠にもなった。第4図は遺跡地図に三浦の復元汀線を重ねたもので、これによれば遺跡の西端から実に50～100mで河北潟に到達する。

河北潟周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていないが、縄文時代に入ると集落が営まれた痕跡が数多く見つかっている。津幡丘陵上には、中期中葉の上山田式土器で知られる上山田貝塚、丘陵裾部には中世まで集落が営まれた指江B遺跡(4)、能瀬イシヤマ遺跡(19)、落とし穴と想定されるビットや中期中葉の遺物が見つかっている谷内石山遺跡(21)などが確認されている。このように、河北潟周辺地域の縄文中期頃までの遺跡の多くは丘陵上や丘陵裾部などに立地しているが、縄文時代後期以降は北中条遺跡(52)、南中条遺跡(54)のように丘陵地を降りて低地に立地する遺跡が現れる。加茂遺跡では、河北縦断道路調査F・G区の河道内から後期の酒見式の土器片が出土するが遺構は未確認である。

弥生時代はおおむね中期以降に活動が活発となり、後期以降には低地および丘陵裾地で遺跡が増加する。調査地周辺では、加茂A遺跡(3)、加茂ヒヤクハチジュウワリ遺跡(25)、指江B遺跡(4)、北中条遺跡(52)などが確認され、北中条遺跡では堅穴建物や方形周溝墓群などが検出されるなど拠点的な集落であったことがわかる。加茂A遺跡では、弥生時代前期・中期(柴山山田式・小松式期)に水場遺構と平地建物が確認でき、前期に属する平地建物は、平地建物としては全国的に見ても古い部

類に属する。弥生時代後期になると、県内でもいわゆる「高地性集落」が形成され始め、かほく市・津幡町に連なる津幡・森本丘陵の標高20～50m前後の低丘陵上に特徴的に見ることが出来る。拠点的なものとしてかほく市鉢伏茶臼山遺跡があり、竪穴建物1～2基単位の衛星的な小集落と目される鉢伏カクチ遺跡、指江ジュウサンザカ遺跡(7)、能瀬南B遺跡(28)などがある。加茂ツチグラ遺跡(マメダン山地区・29)では、建て替えも含め50棟弱の竪穴建物や円筒土坑などを検出した。

古墳時代になると、河北潟東縁の谷部に多くの墳墓が造られるようになる。本遺跡を含めた北加賀地域では、金沢市の小坂・森本地域に有力な地首長層の基盤があったことが仄に指摘されている。本遺跡周辺では河川の谷開口部に小規模な古墳群が営まれ、北から宇ノ気川流域古墳群・能瀬川流域古墳群・津幡川流域古墳群が造営されるが、いずれも中小の在地首長層によるものと目され、盟主的存在をたてない。6世紀後半以降には、河北潟の北部の押水・黒川・中沼古墳群が新興勢力として勃興し、8世紀以降、口能登～北加賀の広範な地域に須恵器を供給する後の高松・押水窯跡群の経営母体とみなされている。能瀬川流域古墳群では4世紀代の円墳からなる御門A古墳群(15)・方墳からなる御門B古墳群(16)、5世紀代の能瀬石山古墳(20)、谷内石山古墳群(22)、時期は明確でないが径12mの方形で単独墳である指江古墳(6)などの小規模な古墳群が低丘陵上に確認されている。古墳時代終末期には、谷内2号横穴(23)や多田西ヶ峰横穴(11)などの横穴墓群が谷平野に面した丘陵斜面に確認されている。集落では指江B遺跡(4)が古墳時代中～後期の拠点的なものと目され、能瀬南B遺跡(28)などが調査されている。また近年では、古墳時代後期～終末期の須恵器窯跡が確認される。加茂窯跡群(2)や多田ツルガタン窯跡(9)、金沢市観法寺窯跡群(～8世紀前半、瓦陶兼業窯に姿をえるか)など、津幡～小坂丘陵の低丘陵斜面地にこれまで不明瞭であった7世紀代の須恵器窯が見つかっており、短期操業の窯場の移動現象を見て取ることが出来る。

奈良・平安時代には、7世紀末～8世紀前半代(田嶋編年Ⅱ～Ⅲ期)に河北潟周辺の丘陵裾部から低地部へ進出する動きを見ることが出来る。古墳時代の拠点集落が古代遺跡へと移行するというよりは、律令政府とその地方支配の進展に伴い、古代北陸道沿いに官衙性格の強い遺跡が点在する状況と理解できよう。このような、前時代の系譜を引かない開発拠点的な遺跡の勃興は金沢市の犀川以東に広がる金沢西部遺跡群にも見ることができ、金沢平野および河北潟周縁地域は古代律令制度の開発に伴い形成されてきた地域と言えよう。さて古代北陸道はかねてより津幡・森本丘陵の西裾を直線的に走り想定されてきたが、金沢市観法寺遺跡で検出された直線道路によりほぼ駅路として確実なものとなった。さらに北陸道は深見駅付近で本道(→坂本駅)と能登国支路(→横山駅)へ分岐し、加茂遺跡で検出された直線道路は能登国支路と考えられる。深見駅推定地は、現津幡川の南岸にある加賀爪地内(43付近)と、その南側の北中条・浅田地内(52北東付近)の2説あるが、北中条遺跡から「深見駅」墨書土器が出ていることや、北中条・浅田付近が標高5m以上の安定的な微高地にあることから、現時点では後者の方が蓋然性が高いように思える。8世紀前半代の端初期は加茂遺跡(1)南半部や、太田シタダ遺跡(57)、金沢市今町A遺跡などが上げられる。太田シタダ遺跡は狭小な調査であったが、廂付掘立柱建物や総柱建物を含む13棟の建物が検出され、溝や欄によって区画される様相を呈している。墨書土器や鈴帯金具、円面鏡などが出土し、官衙の様相を備える遺跡で、比較的短期間に廃絶するようである。8世紀中葉以降になると、かほく市森ガッコウ遺跡や多量の墨書土器や木簡が出土した指江B遺跡(4)、「深見駅」墨書土器を出土した北中条遺跡(52)などの遺跡が確認できる。中でも指江B遺跡は祭祀的色彩の強い遺構・遺物も確認されるなど多様な性格を持っている。これらの遺跡は9世紀代をピークに発展するが、10世紀以降に継続ないし新しく発生する遺跡はごくわずかである。これは加茂遺跡に見られる古代北陸道の廃絶(田嶋Ⅵ期、10世紀前葉)と無関係ではあるまい。加茂



遺跡でも南半部はほぼ島地化(畝溝状遺構の展開)し、北半部は掘立柱建物域が変化する。この変化は、加茂遺跡の担い手が郡雑人のような在地首長層から、名田を経営する富裕百姓・名主層(田堵)へと姿を変えていったことによるものであろうか。

中世になると、英田弘済寺跡(5)等の寺院や津幡城(38)などの中世城郭が調査地周辺の地域で新たに造られる。しかし、集落の立地は、地形の変化や自然災害などにより多少の動きはあるものの、奈良・平安時代と大きくは変わっておらず、指江B遺跡(4)や領家指江ハシバ遺跡(17)、御門ジャモチ遺跡(13)、御門遺跡(14)などが営まれていたことが、これまでの発掘で確認されている。

No.	遺跡番号	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡番号	遺跡名	種別	時代
1	1303000	加茂遺跡	集落,寺院跡	弥生,古墳,古代,中世	31	1303500	加茂奥古遺跡	散布地	古墳
2	1310200	加茂東遺跡	高跡	古墳	32	1303600	総瀬クサヤマB遺跡	散布地	縄文,古代,中世
3	1303300	加茂A遺跡	集落	弥生	33	1303600	総瀬クサヤマA遺跡	散布地	縄文
4	809500	指江B遺跡	集落	縄文,弥生,古墳,古代,中世	34	1306300	加茂池遺跡	散布地	古代
5	809000	英田弘済寺跡	寺	中世	35	1302900	五月田遺跡	散布地	古代,中世
6	809100	指江古墳	古墳	古墳	36	1302800	庄生古神社遺跡	散布地	弥生
7	809600	指江シユウザンザカ遺跡	集落	弥生	37	1311300	清水遺跡	集落	弥生,中世
8	814900	多田ツルカタン遺跡	散布地,集落	古墳,中世	38	1302700	津幡城跡	城跡	中世,近世
9	815000	多田ツルカタン高跡	高跡	古墳	39	1302600	津幡スワヤマ遺跡	散布地	古墳
10	1304100	領家指江ハシバ遺跡	散布地	古代,中世	40	1302500	津幡遺跡	散布地	古墳
11	809300	多田西ヶ塚横穴	横穴墓	古墳	41	1302400	大自台古墳群	古墳	古墳
12	809400	多田城跡	城跡	安土・桃山	42	1305300	倉見ドノフナ遺跡	散布地	縄文,古墳,中世
13	1304800	御門ジャモチ遺跡	散布地	古代,中世	43	1300600	萩原川遺跡	散布地	古墳
14	1304900	御門遺跡	散布地	古代,中世	44	1311200	萩原ニシワラ遺跡	集落	古代,中世
15	1305000	御門A古墳群	古墳	古墳	45	1311900	萩原川B遺跡	集落	弥生,古代,中世
16	1305100	御門B古墳群	古墳	古墳	46	1311100	萩原八幡神社遺跡	散布地	弥生
17	1304000	領家遺跡	散布地	古代,中世	47	1302300	猪俣	その他	近世
19	1304300	総瀬イシヤマ遺跡	散布地	縄文	48	1311600	萩原五月天塚の山遺跡	集落	弥生,古墳
20	1304400	総瀬石山古墳	古墳	古墳	49	1302200	東家瓦カシヤワラ遺跡	散布地	古代
21	1304600	谷内石山遺跡	集落	縄文,弥生,古代	50	1300500	奥田古墳群	古墳	古墳
22	1304500	谷内石山古墳群	古墳	古墳	51	1302100	奥田ボッコリ塚	その他	その他
23	1304702	谷内2号横穴	横穴墓	古墳	52	1304200	北中島遺跡	集落・その他	縄文,弥生,古墳,古代
24	1303900	総瀬遺跡	散布地	弥生,古墳,古代	53	1310500	北中島カテラ遺跡	散布地	中世
25	1310300	加茂ヒヤクハチシユウワラ遺跡	集落	弥生	54	1300300	南中島遺跡	散布地	縄文,古墳
26	1303100	総瀬南遺跡	集落	古代,中世	55	1300400	南中島横穴	横穴墓	古墳
27	1303800	総瀬神社遺跡	散布地	中世	56	1300200	太田遺跡	散布地	古墳
28	1310400	総瀬南B遺跡	その他,集落	弥生	57	1300100	太田シラダケ遺跡	集落	古代
29	1303200	加茂ツチグラ遺跡	集落	弥生	58	1311800	庄ナカシマ遺跡	yayoi	集落
30	1303400	加茂天神遺跡	散布地	古墳	59	1311700	中橋遺跡	集落	弥生,古代

第3表 周辺の遺跡一覧表

【参考文献】

- (財)石川県埋蔵文化財センター2009「津幡町 加茂遺跡1」
 津幡町教育委員会2012「加茂遺跡 詳細分布調査(第1~21次調査区)発掘調査報告書」
 (公財)石川県埋蔵文化財センター2018「津幡町 加茂遺跡・加茂窟跡群」
 宇田高明他2002「石川海岸の地形学的変化と手取川河口デルタの変形」土木学会「海洋間論文集18」
 河北高環境対策期成同盟会2007「河北潟とわたしたちのくらし」
 津幡町史編纂委員会1974「津幡町史」
 藤 則雄1975「北陸の海岸砂丘」『第四紀研究』第四紀研究会
 藤 則雄1999「日本海沿岸における後氷期の環境変化と国際的対比」金沢経済大学人間科学研究所[tefos] vol.23
 三浦純夫1993「V 河北潟と周辺の古代遺跡」『加茂遺跡-第1次・第2次調査の概要-』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
 三浦純夫2015「北陸道深見駅について-河北潟東縁の調査成果から-」松藤和人編「同志社大学考古学シリーズ XI 森浩一先生に学ぶ 森浩一先生追悼論集」
 平川南監修・(財)石川県埋蔵文化財センター編2001「発見! 古代のお触れ書き 石川県加茂遺跡出土加賀群跡示札」

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

調査区割り・調査面 本遺跡の調査は、遺跡が損壊を受ける幅約80m、延長約480mにわたる区間を対象として、工事工程と調整しながら、おおむね西側から順次実施している。広大な調査区は、道路や農道、用排水路で分断されることから、調査グリッドと各年度に付す調査区(地区名)を併用した区割りとし、調査グリッドについては第11次までを統一している。

第6次調査	第7次調査	第8～10次調査	本書の調査区名
-	第7次Ⅰ区宅地横	-	第7次A区
第6次Ⅳ区	-	第8次C区	(第8次C区)
-	第7次Ⅰ区西		第7次C区
-	第7次Ⅰ区東	第9次D区	第7次D区
-	第7次Ⅰ区東	第10次K区	第7次K区
-	第7次Ⅱ区	第9次F区	第7次F区

第4表 第6～10次調査の調査区名対比表

まず、調査グリッドは、平成3年度(第1次調査)着手段階に調査対象範囲の南西端を起点として、平面直角座標第Ⅶ系(日本測地系)を用いて全城を網羅する10m方眼単位の正方形グリッドを設定した。そして、グリッドを画する基準杭(交点)に、南方向から北方向に向けてA～Uまでのアルファベット番号を、また西方向から東方向に向けてアラビア数字1～52を付した。その交差杭および杭南東側の10m方眼グリッドの関係は、例えば「K-29杭」「K-29区」の関係として第5図に示した。国家座標上の位置は、A-6杭がX座標+77,750・Y座標-39,240、K-29杭がX座標+75,850・Y座標-39,010となる。調査区は、前述のとおり、調査時も機能を維持する必要があった既存の道路や農道等により区切られる範囲を単位に付与している。第7次調査については、大きく2ヶ所の範囲を対象に実施し、西側の調査区をⅠ区、約80m東側の調査区をⅡ区と呼称している。続く、第8次調査において、第7次調査Ⅰ区を細分しながら下位の生活面の調査を実施する計画になったことから、県道高松津幡線以東の調査区(地区)に対して、新たにAから始まるアルファベット番号を付与している。本書では、混乱を避けるため、第8次調査以降に新たに採用した調査区名で報告を行う。第6～10次調査における調査区名の対比は、第4表のとおりであり、現地調査時のⅠ区をA・C・D・K区として、またⅡ区をF区として報告する。

調査面については、昭和62(1987)年度、平成元(1989)年度に建設省北陸地方局金沢工事事務所(当時)の依頼により、石川県立埋蔵文化財センター(当時)が実施した分布調査(主に重機による壱掘り)の結果(2面の調査面:奈良・平安時代、古墳時代)を受けて、現地調査に着手している。第7次調査においては、上層(奈良・平安時代)調査時に、下層を確認するトレンチ調査を実施したところ、その下位に複数の新たな生活面の存在が明らかとなり、途中で調査面の呼称を上層・下層からアラビア数字に切り替えている。上層は「第1面」となり、下位層まで調査を進めたA区(現地調査時のⅠ区宅地横)は、第1面に加えて、上位面から順に第2～5面と各調査面を呼称している。結果として、遺構の記録及び出土遺物の取上げについては、調査次・地区名・調査面名・グリッド区名・遺構番号を組み合わせた呼称を基本としている。また、本書では、調査区名をⅠ・Ⅱ区からA・C・D・K・F区に変更したため、例えば、現地調査時の「7次Ⅰ区上層O-26区SD124」は「7次A区第1面O-26区SD124」といった記述に統一している。

調査の方法 現地調査では、表土、盛土及び各調査面間に流入・堆積している無遺物層については、

作業の効率化を図るため重機を用いて除去作業を実施した。その後、人力により遺物包含層の掘削作業と、遺構検出面の精査および遺構検出作業を行った。

遺構番号は、各調査区で現地調査時に推定した遺構の性格を反映した略記号SK(土坑)、SD(溝)、P(ピット)等と、主に遺物が出土した遺構を対象として、各調査面で検出順に1番から連続する通し番号を付与

調査面	主な時期	遺構番号1 (現地調査付与)	遺構番号2 (整理段階付与)
第1面	古代以降	1～	SB1111～、SA1111～
第2面	古墳前期	201～	
第3面	発生後期～古墳初期	301～	
第4面	発生後期	401～	
第5面	発生中期後半	501～、601～	SI501
遺物	出土遺物遺物観察表に「7A1」、「7B1」等を付与。		

第5表 第7次調査の遺構番号一覧表

している(第5表)。この遺構番号は、各遺構の固有番号として、出土遺物の取り上げ、土層等の記録、遺物整理作業、出土遺物の管理に使用している。なお、報告書作成に際して調査時及び整理時の所見を踏まえ、第5面で平地建物(SI)に復元した遺構群等については新たに3桁の番号を付した(各柱穴番号は現地調査時の遺構番号のまま記載)。

検出した各遺構は、各区・各面で遺構概略図(縮尺1/100)を作成し、位置や遺構番号、遺構覆土などに関する所見を記録しながら、その主軸を基準に半截または土層観察用の畔を残して作業員による人力での掘り下げ作業を行った。その後、各遺構について土層を観察のうえ、必要に応じて土層断面図・立面図の作成と写真撮影(主に35mmカラーネガ、カラーリバーサル、白黒の各フィルム)で記録作業を実施した。遺構図面は縮尺1/20を基本とし、遺物の出土状況等の微細な表現が必要な場合は縮尺1/10の図化作業を行った。また、各調査面の遺構完掘後、遺構平面図(縮尺1/20)を効率的に作成するため、ラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量図化作業をセントラル航業(株)に委託して実施している。

本書の記載は、建物跡(SB・SI)、土坑(SK)については、基本的に平面図および断面図を組み合わせて説明するものとし、単独の小穴(P)、溝(SD)等の平面図は遺構全体の分割図(縮尺1/100)および必要に応じて断面図を用いて説明を加える。また、遺物が多出した遺構については出土状況図を示した。なお、出土遺物観察表については、他調査区との混同を防ぐため、調査次・区名・調査面名(例えば、7次A区第1面は「7A1」、A区第3面は「7A3」)を遺構名の前に付している。

第2節 基本層序

津幡北バイパス事業地については、第1節のとおり、上下2つの調査面を前提とした発掘調査が計画された。しかしながら、調査が進捗するにつれ、舟橋川によって小谷(幅約150m)に形成された沖積地は複雑な土壌堆積を呈するとともに、縄文時代中期後半以降の生活面(第10次調査で最大6面)が存在することが次第に明らかとなっている。第7次調査についても、当初は間層を挟んだ上下2面を想定して着手したが、もっとも古い生活面まで調査を完了したA区で、弥生時代中期後半～古墳時代前期の調査面を4面(第2～5面)、奈良・平安時代を1面(第1面)という都合5回の調査面を設定することとなった。

第7次調査区の調査着手前は、大規模な盛土を伴う耕地整理による水田が整然と並ぶ景観であった。調査前の水田標高は、A区が6.35～6.40m、C・D・K区が5.95～6.10mと、両調査区を区切る農業排水路を挟んで高低差をもち、農業排水路および西側に向けて、緩やかに標高を減ずる。耕地整理前の旧耕作土は一部で残存し、第7図土層断面fで標高約5.00m、同図土層断面gで標高5.30～5.36mを、

それぞれ測る。第1面の遺構検出面の標高は、A区では最北端が5.20m、南西端が5.08m、北東端が5.49m、南東端が5.39mを、C・D・K区では北東端が5.54m、南東端が5.46m、北西端が5.25m、南西端が5.21mを、それぞれ測る。最も高いD区O-31区付近が5.65m、最も低いA区O-25区付近が5.08mを測り、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減する地勢が復元できる。

調査区の基本層序は、上位層から調査着手前の水田耕作土、耕地整理盛土、第1面遺物包含層、第1面ベース土と続き、以下、第5面ベース土まで谷部特有の複雑な土壌堆積を示す。A・C・D・K区の調査壁8ヶ所における堆積状況を、第6・7図、第6表で示した。調査着手前の水田面～第1面ベース面までは厚さ0.36～1.15mと、耕地整理の切り盛りを反映して不均等である。一方、第1面ベース土～第5面ベース土までの厚さは0.42～0.66mと比較的薄く、逐次流入・堆積した粘質土を基調とした土壌がほぼ水平に堆積する。

第1面 遺物包含層は褐灰・暗褐灰～黒褐色粘質土、ベース土は浅黄橙～浅橙色粘質土を基調とする。後世の耕作および耕地整理の削平で、遺物包含層が存在しない箇所(土層断面d～f)や、異なる土壌をベース面とする箇所(土層断面a・b・e)が存在する。

第2面 ベース土は浅黄灰色粘質土を基調とし、灰白色粘質土(土層断面a・c)、暗灰色粘質土(同e)となる箇所も存在する。ベース土の標高は、5.06～5.63cmを測る。

第3面 ベース土は、土層断面a～c・hが褐灰色粘質土であるのに対して、土層断面dが浅黄色粘質土、同eが淡灰色粘質土、また、同f・gが存在しないように、土層断面d～gで不安定な様相を示す。ベース土の標高は、4.90～5.52mを測る。なお、第3面ベース土の下位層に灰白～黄灰白色粘質土が広範に存在する。

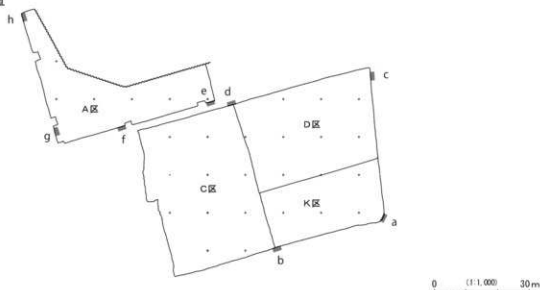
第4面 ベース土は、炭化物が多く混ざる黒褐～暗灰色粘質土で、ベース土の高さは4.60～5.34mを測る。

第5面 ベース土は青灰～灰色粘質土で、標高4.52～5.12mを測る。なお、第6表に第5次調査B区土層断面m～m'を示した。第5次調査B区では、第7次調査で確認できた第3面ベース土が欠落する他、第5面は集落域から外れていたと判断できる。

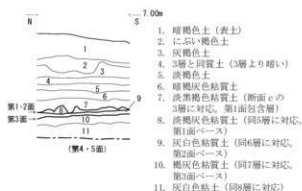
調査区 断面	調査 深さ	第1面			第2面		第3面		間層	第4面		第5面	
		包含層	ベース土	標高	ベース土	標高	ベース土	標高		ベース土	標高	ベース土	標高
土層断面a	6.60m	7層: 浅黄褐色粘質土	8層: 褐灰色粘質土	5.66m	9層: 灰白色粘質土	5.46m	10層: 褐灰色粘質土	5.40m	11層: 灰白色粘土	-	-	-	-
土層断面b	6.14m	4層: 黄褐色粘質土	(第3面と同じ)	5.36m	(第3面と同じ)	5.36m	5層: 褐灰色粘質土	5.36m	6・7層: 浅黄褐色～灰白色粘質土	9層: 浅黄褐色粘質土	4.90m	12層: 黄灰色砂質土	4.82m
土層断面c	6.14m	3層: 褐灰色粘質土	4・5層: 浅黄褐色粘質土	5.78m	6層: 灰白色粘質土	5.63m	7層: 褐灰色粘質土	5.52m	8層: 灰白色粘質土	10層: 浅黄褐色粘質土	5.34m	11層: 黄灰色砂質土	5.18m
土層断面d	6.08m	(面平か)	6層: 浅黄色粘質土	5.02m	7層: 黄褐色粘質土	5.46m	8層: 浅黄色粘質土	5.26m	9層: 灰白色粘質土	10層: 浅黄褐色粘質土	5.14m	11層: 黄灰色砂質土	5.02m
土層断面e	6.02m	(面平か)	9層: 黄白色粘質土	5.58m	10層: 暗灰色粘質土	5.50m	11層: 淡灰色粘質土	5.46m	12層: 黄白色粘質土	13層: 黄褐色粘質土	5.28m	14層: 灰白色粘質土	5.12m
土層断面f	6.02m	(面平か)	6層: 浅黄褐色粘質土	5.36m	7層: 浅黄灰色粘質土	5.28m	(9層: 黄白色粘質土)	5.08m	9層: 黄白色粘質土	10層: 暗灰色粘質土	4.80m	-	-
土層断面g	6.33m	5層: 褐灰色粘質土	6層: 浅黄褐色粘質土	5.18m	7層: 浅黄灰色粘質土	5.06m	(8層: 黄白色粘質土)	4.90m	8層: 黄白色粘質土	15層: 黄褐色粘質土	4.60m	16層: 灰白色粘質土	4.52m
土層断面h	6.26m	3層: 褐灰色粘質土	4層: 黄褐色粘質土	5.38m	5層: 灰褐色粘質土	5.32m	13層: 灰褐色粘質土・20層: 浅黄褐色粘質土	5.20m	未確認	(21・22層: 褐灰色粘質土か)	5.14m	(23層: 黄灰色粘質土)	4.96m
第5次調査 B区土層断面 m～m'	-	4層: 浅黄褐色粘質土	14層: 浅黄褐色粘質土	-	(7層: ベース土) 10層: 浅黄褐色粘質土	-	-	-	未確認	(13層: 黄白色粘質土) 16層: 黄褐色粘質土	-	17層: 浅黄褐色粘質土	-

第6表 各調査面のベース土一覧表

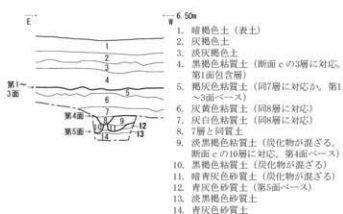
土層断面図の位置



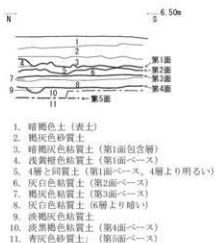
土層断面a



土層断面b



土層断面c

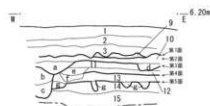


土層断面d



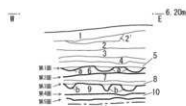
第6図 A・C・D・K区の土層層序1 (S=1/1,000、1/60)

土層断面e



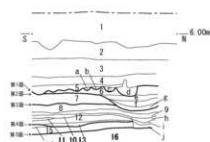
1. 暗褐色土 (表土)
2. 暗褐色砂質土 (盛土)
3. 灰黄色砂 (盛土)
9. 黄白色粘質土 (第1面ベース)
10. 暗灰色粘質土 (第2面ベース、炭化物が多く混ざる)
11. 淡灰色粘質土 (第3面ベース)
12. 黄白色粘質土
13. 黒褐色粘質土 (第4面ベース、炭化物が非常に多く混ざる)
14. 灰白色粘質土 (第5面ベース)
15. にぶい淡灰色粘質土
- a. にぶい灰黄色粘質土 (肥灰色粘質土粒、炭化物少量混ざる)
- b. 灰粘質土 (暗褐色粘質土粒が混ざる)
- c. 肥灰色粘質土
- d. 黄灰色粘質土
- e. 黄灰色粘質土
- f. 浅黄色粘質土
- g. 13層と同質土

土層断面f



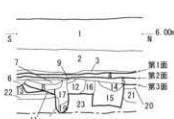
1. 暗褐色土 (表土)
- 2'. 暗褐色砂質土 (盛土、灰白色砂が混ざる)
2. 暗褐色砂質土 (盛土)
3. 灰黄色砂 (盛土)
4. にぶい灰褐色粘質土 (旧耕土)
5. 淡灰色粘質土 (床土小)
6. 浅黄褐色粘質土 (第1面ベース)
7. 浅黄灰色粘質土 (第2面ベース)
8. 淡黄褐色粘質土 (炭化物が少量混ざる)
9. 黄白色粘質土 (第3面ベース)
10. 暗灰色粘質土 (第4面ベース、炭化物が多く混ざる)
11. 淡灰色粘質土 (第5面ベース小)

土層断面g



1. 明黄褐色土
2. 青黒色土
3. 暗褐色土
4. 淡灰褐色粘質土 (旧耕作土)
5. 肥灰色粘質土
6. 浅黄褐色粘質土 (第1面ベース)
7. 浅黄灰色粘質土 (第2面ベース)
8. 黄白色粘質土 (第3面ベース)
9. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
10. 黄白色粘質土
11. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
12. 灰粘質土 (炭化物混ざる。)
13. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
14. 灰粘質土 (第4面ベース)
15. 黒褐色粘質土 (第4面ベース、炭化物が非常に多く混ざる)
16. 灰白色粘質土 (第5面ベース)
- a. 肥灰色粘質土
- b. 肥灰色粘質土
- c. にぶい黄褐色粘質土
- d. にぶい褐色粘質土
- e. 明褐色粘質土 (炭化物少量混ざる)
- f. 肥灰色粘質土 (炭化物少量混ざる)
- g. 灰白色粘質土
- h. 灰白色粘質土
- i. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
- j. 灰粘質土

土層断面h



1. 明黄褐色土
2. 暗褐色土
3. 肥灰色粘質土
4. 黄褐色粘質土 (第1面ベース)
5. 灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる、第2面ベース)
6. 灰褐色粘質土 (5層より暗い、炭化物が混ざる)
7. にぶい黄褐色粘質土
8. 暗褐色粘質土
9. 暗褐色粘質土
10. 淡黒褐色粘質土
11. 肥灰色粘質土
12. にぶい褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
13. 灰褐色粘質土 (第3面ベース)
14. 淡黒褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
15. 灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
16. にぶい褐色粘質土
17. 淡黒褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
18. 灰粘質土
19. 青灰色粘質土 (炭化物が混ざる)
20. 淡黄褐色粘質土 (第5面ベース、炭化物が混ざる)
21. 肥灰色粘質土 (炭化物が混ざる)
22. 暗灰色粘質土
23. 青灰色粘質土 (第5面ベース小)



第7図 A・C・D・K区の土層層序2 (S=1/60)

第4章 A区の遺構と遺物

第1節 調査の概要

第7次調査A区は、第3章で記したとおり、現地調査時は「第1区宅地横」と称した調査区であり、東側は第9次調査E区に、また西側は主要地方道高松津幡線を挟んで第5次調査C区にそれぞれ接する。調査対象面積は約1,000㎡(第4面は500㎡)を測り、調査グリッドでいえばN-25区、O・P-24～29区、Q-24・25区、R-24区にあたる(第9図)。各遺構検出面の地勢は、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる。

調査の結果、上面から順に、第1面(9世紀後葉～10世紀前葉)、第2面(古墳時代前期)、第3・4面(弥生時代後期～古墳時代前期初頭)、第5面(弥生時代中期後半)の都合5回の生活面を確認した。このうち、第2面～第5面は、第3章で記したとおり、谷部に逐次流入・堆積した粘質土をそれぞれ遺構検出面とする。

第1面は、第1～6次調査区と一体をなす平安時代前期の集落跡、耕作地である。調査区中央を蛇行する自然流路(7A1SD66-91)が埋没した後、2つのエリアで建物群が展開、北西側の建物群は近接または重複しながら建て替える。掘立柱建物4棟を復元した他、遺物量は第1～6次調査に比して比較的少ない。また、10世紀初頭に位置付けられる土坑(7A1SK07)から漆紙文書1点(第22図25)が出土、「公〇万呂」 「天長九年本〇」 「承和貳」 「石一斗」の文字が判読できる。建物群が廃絶する10世紀前葉以降は、耕作地に転じ、耕作に伴う小溝群多数を検出している。

第2面は、第5次調査C区下層SD5501とつながる自然流路(7A2SD202)の他、並走する溝3条、少数のピットを検出した。蛇行しながら西側に流下する自然流路は、土層断面から大きく4回の流路を復元でき、周辺の集落域から流れ込んだ大量の弥生土器、土師器や木器・木製品、自然木、石製品が出土している。

(白山市教委 2013より作成)

時期区分	想定年代	備考	暦年代	印明人 (2012)	出越茂和 (1997a・b)	望月精司 (2008・10)
I期	6世紀末～7世紀中頃	飛鳥Ⅰ・Ⅱ	750	Ⅲ期 (新)		4A期～Ⅲ期新
Ⅱ期	7世紀中葉後半	飛鳥Ⅲ		Ⅳ期	上飛塵1期 (Ⅳ・古期)	4B期～Ⅳ期(古)
Ⅲ期	7世紀末	飛鳥Ⅳ	800	Ⅳ期(古)	上飛塵2期 (Ⅳ・期(古))	5A期 (Ⅳ・期(新))
Ⅳ期	8世紀初頭	平城Ⅰ		Ⅳ期(新)	上飛塵3期 (Ⅳ・期(新))	5B期 (Ⅳ・期)
Ⅴ期	8世紀前葉	平城Ⅱ	850	V期	I-1期 (Ⅴ・期)	5C期 (Ⅴ・期)
Ⅵ期	8世紀中頃			V期	I-2-3期 (Ⅴ・期)	6A期 (Ⅴ・期)
Ⅶ(古)期	8世紀後葉		900	Ⅵ期	I-3-4期 (Ⅵ・期)	6B期 (Ⅵ・期)
Ⅶ(新)期	8世紀末～9世紀初頭	長岡京		Ⅵ期	Ⅱ-1期 (Ⅵ・期)	
VⅠ期	9世紀前葉		950	Ⅵ期	Ⅱ-1期 (Ⅵ・期)	6C期 (Ⅵ・期)
VⅡ期	9世紀中頃			Ⅵ期	Ⅱ-2古期 (Ⅵ・期)	
VⅢ期	9世紀後葉	K-90	1000	Ⅶ期	Ⅱ-2新-3期 (Ⅶ・期(古))	7A期 (Ⅶ・期)
VⅣ期	9世紀末～10世紀初頭			Ⅶ期(古)		7B期 (Ⅶ・期(古))
VⅤ期	10世紀前葉	O-53	1050	Ⅶ期(新)	Ⅲ-1-2期 (Ⅶ・期(新))	7C期 (Ⅶ・期(新))
VⅥ(古)期	10世紀中葉			中世Ⅰ-1期	Ⅳ-1期 (中世Ⅰ-1期)	8A期 (中世Ⅰ-1期)
VⅥ(新)期	11世紀前葉				8B	

第7表 加賀・能登の土器編年と暦年代対比表

第3面は、北東方向から南西方向に重複しながら流下する自然流路約10条の他、少数の土坑、ピットを検出し、自然流路を主体とした集落縁部の様相を呈する。自然流路から比較的多くの弥生土器、古墳時代前期初頭の土師器が出土している。

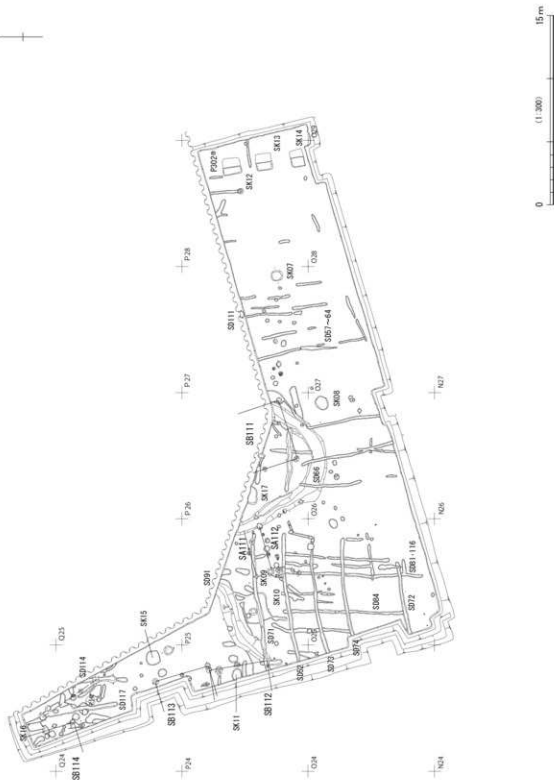
第4面は、土坑とした落ち込み5基、溝15条等を検出した。遺構密度は比較的低く、集落縁部の様相を呈する。弥生時代中期後半の土器、石器が出土したが、その量は多くない。第5面は、一連の調査で初めて確認した弥生時代中期後半の集落域で、この集落域は第8・9次調査区に展開する。ほぼ同一地点で数次の建て替えを行う周溝を伴った平地建物1棟(7A5SI501)を復元した他、土坑22基、溝約20条、ピット約300基を検出した。遺物は比較的多く、弥生土器に加えて、平地建物の柱根・枕木を含む木製品、玉作りの剥片を含む石器・石製品が出土している。なお、本書の奈良・平安時代の時期表示は、田嶋明人氏による北陸地方の古代土器編年¹⁾により記述しており、暦年代との対比に関しては第7表を参照されたい。

第2節 第1面の遺構と遺物

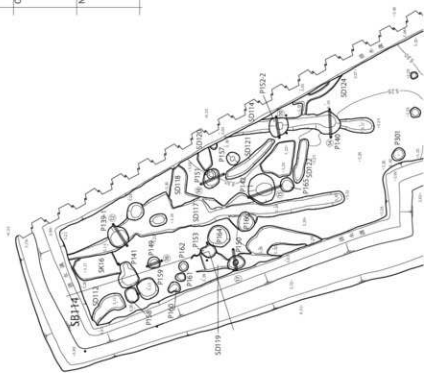
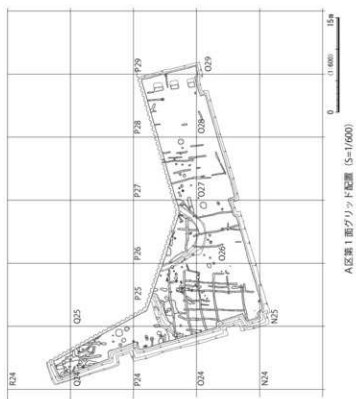
第1面は、第1～6次調査と一体をなす平安時代前期(9世紀後葉～10世紀前葉、VI₁～VI₃期)を中心とした集落跡、耕作地である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区東北端(P-28区)が5.50mを、最も低い調査区西南端(O-25区)が5.08mを、調査区北端(R-24区)が5.20mをそれぞれ測り、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる地勢となる。旧耕作土直下で一部残存した遺物包含層は暗褐色～黒褐色を呈する粘質土(第6図土層断面a第7層、同b第4層、同c第3層等)を、ベース土は淡褐色～浅黄褐色粘質土(第6図土層断面a第8層、同b第5層、同c第4・5層等)を、それぞれ基調とする。

調査の結果、掘立柱建物4棟(7A1SB111～114)、櫓2列(7A1SA111・112)、土坑11基(7A1SK07～17)、柱穴を含むピット約100基、自然流路2条(7A1SD66・91)、溝68条を検出し、溝の多くは耕作に伴う小溝群となる(第8～14図)。遺構は、調査区西半に偏在する傾向を示しており、遺構の切り合い状況等から、①蛇行する自然流路(7A1SD66・91、第2面7A1SD202の最終埋没段階の可能性あり)、②北西側の建物・ピット群(Q・R-24区7A1SB114、周辺ピット群)、③小規模な建物2群(7A1SB111と7A1SB112・113)、④溝主軸方位が南北方向を指向する耕作地、⑤溝主軸方位が東西方向を指向する耕作地、⑥櫓(7A1SA111・112)・7A1SK10の順に6小期の変遷が復元できる。このうち、②小期の建物・柱穴群は、調査区外北側に延びており、判然としなものの比較的多くの棟数を数える一つの建物域として、本遺跡の盛衰を考えるうえで重要と考えられる。建物群存続期の定点として、②小期の7A1SD114・③小期の7A1SB113からVI₂期の遺物が、また耕作地の存続期を考える資料として、VI₃期～VII₁期の土師器(SD84: 第24図33、遺物包含層: 第25図95)がある。

遺物は、「平」「福」等の墨書土器を含む、主に9世紀後葉～10世紀初頭(VI₁期～VI₂期)の須恵器、ロクロ土師器の他、本来第2～5面に属する遺物や鉄滓、中世陶磁器片が出土した。奈良・平安時代に属する遺物の数量は、主要地方道高松津幡線西側の調査区に比して少なく、時期的にも新しい。このうち、大型土坑(7A1SK07)から、9世紀末～10世紀初頭(VI₂期)に位置付けられる土器とともに漆紙文書1点が出土、第7章で詳述するが「公□万呂□」「天長九年本□」「承和貳」「石一斗」といった文字が判読できる。以下、主要な遺構について記すが、遺構番号冒頭に付した「7A1」は省略する。

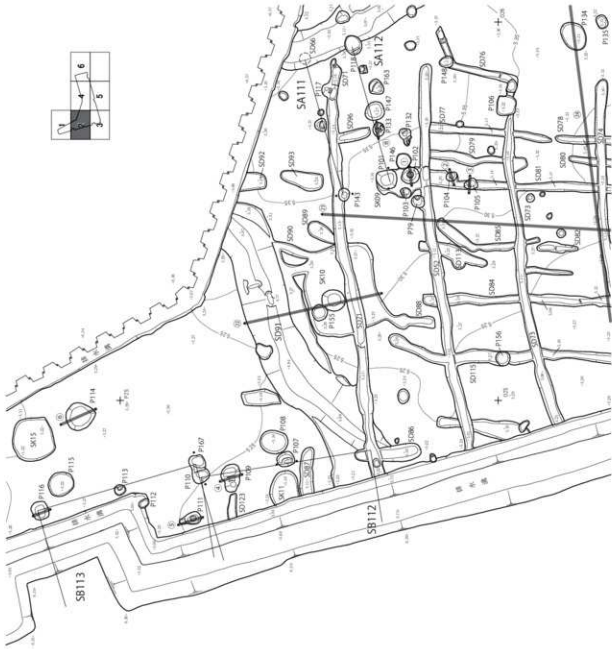


第8図 A区第1面主要遺構配置図(S=1/300)



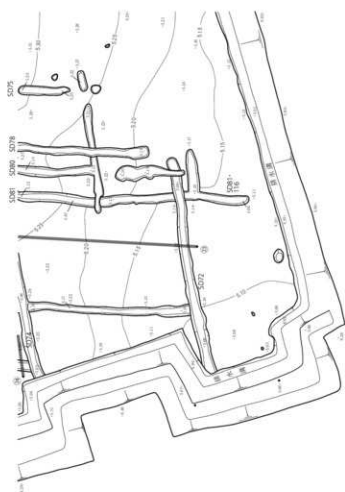
第9図 A区第1面遺構平面図1、グリッド配置図 (S=1/100・1/600)

0 1:100 5 m
※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。



第10図 A区第1面遺構平面図2 (S=1/100)

0 1:100 5m
 ※丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。

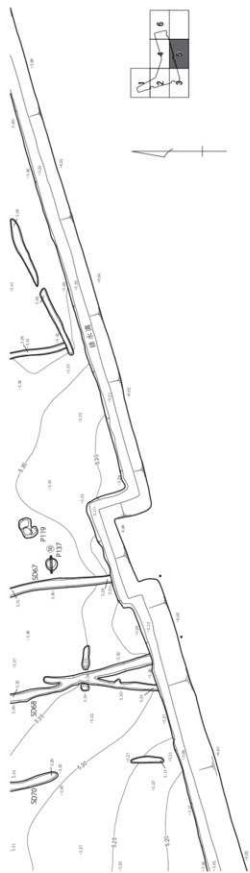


0 1:100 5m
 ※丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。

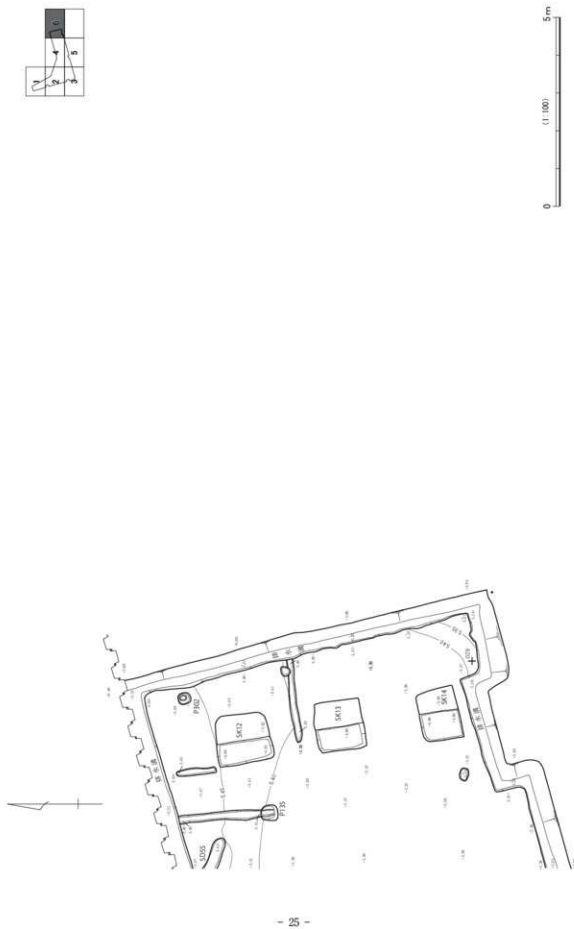
第11図 A区第1面遺構平面図3 (S=1/100)



第12図 A区第1面遺構平面図4 (S=1/100)



第13図 A区第1面遺構平面図5 (S=1/100)

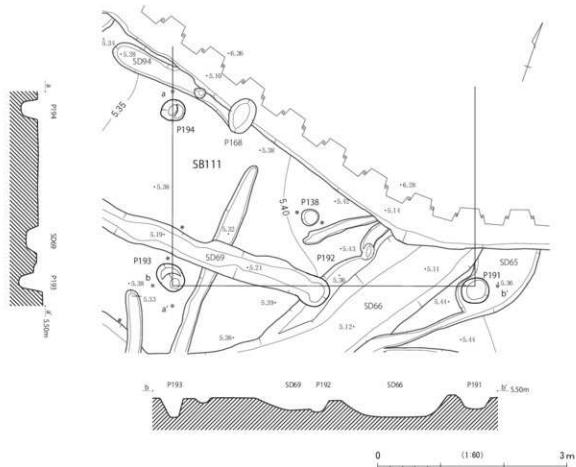


第14図 A区第1面遺構平面図6 (S=1/100)

※ 柱間寸法は北端から南端柱穴、または北端から西端柱穴の間に計測。

遺構名	図No.	グリッド名	建物構造	柱配置(間)	床面積(m ²)	南行長(m)	北行柱間寸法(m)	東行長(m)	東側柱間寸法(m)	主軸方位	柱穴の平面形状	柱穴の規模(φ)	柱礎の有無	備考
7A1 SB111	第15図	P-26	倉柱	1~X2間	-	2.85~	+2.85	4.80	[東側] 2.40~2.40	N-19° W	楕円形 不整形円形	34~48	なし	本館にのびる、SD66より新。SD69より古。並土遺物なし
7A1 SB112	第16図	P-24	倉柱か	2×7間	-	4.60	[東側] 2.30+2.30	-	-	N-9° W	不整形円形	30~48	なし	柱礎(径約10~14cm)あり。SB113(P167)より新。SD71より古
7A1 SB113	第16図	P-Q-24	倉柱か	2×7間	-	4.40	[東側] 2.20+2.20	-	-	N-10° W	不整形方形 楕円形	26~48	なし	柱礎あり(径約10cm)。SB112(P110)より古
7A1 SB114	第17図	Q-R-24	倉柱か	2~X7間	-	2.20~	[東側] +2.20	-	-	N-19° W	楕円形 不整形円形	36~66	なし	柱礎あり(径約10cm)あり。SD119より古
7A1 SA111	第17図	P-25	-	2間か	-	3.70	1.80? +1.90	-	-	N-76° E (N-14° W)	楕円形 不整形円形	28~34	なし	SA112と並行。SD71より新
7A1 SA112	第17図	P-25	-	2間	-	3.70	1.80+1.90	-	-	N-76° E (N-14° W)	楕円形 不整形円形	44~54	なし	SA111と並行。SD66より新

第8表 A区第1面SB、SA規模等一覧表



第15図 A区第1面SB111平面図・土層断面図(S=1/60)

1 掘立柱建物・柵列(遺構：第15~17図、第8表、遺物：第21図、第13表)

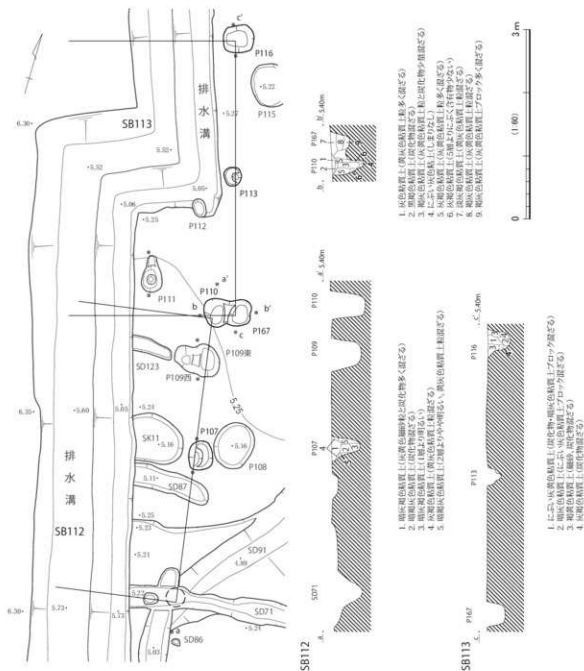
掘立柱建物4棟(SB111~114)、柵2列(SA111・112)を報告段階で復元したが、掘立柱建物はいずれも調査区外に延びるため建物プランを確定できない。分布状況からみれば、P-24区の建物群(SB112-113)、Q-R-24区の建物群(SB114)、P-26区の建物群(SB111)、P-25区の柵列(SA111・112)に分かれ、3つの建物群が耕作に伴う小溝群に前出する一方、柵列は耕作に伴う小溝群に後出する。また、Q-R-24区の建物群周辺に建物柱穴と考えられるピットが一定数点在することから、存在した掘立柱建物数はさらに多くなるものと推定する。なお、SB111~114、P191~194は、報告段階で新たに遺構番号を付与している。

SB111 (遺構：第15図)

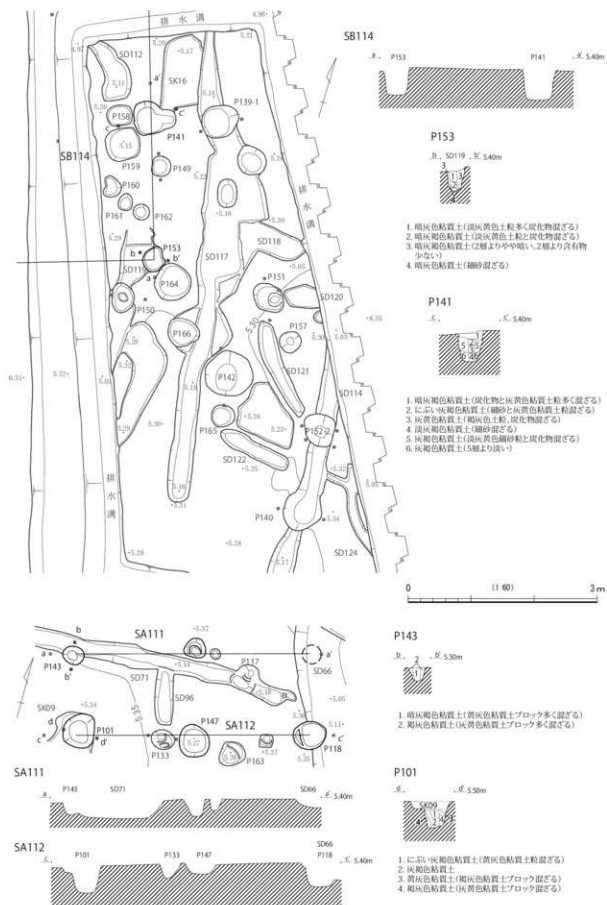
P-26区で復元した側柱構造の掘立柱建物で、調査区外北側に延びる。建物主軸方位はN-19°Wを示し、桁行1間以上(2.85m)、梁間2間(4.80m)を測る。梁間の柱間寸法は2.40m等間であり、柱筋の通りはよい。柱穴の平面形態は、略円形を主体とし、P191が長径42cm、短径40cm、深さ20cmを、P193が長径48cm、短径38cm、深さ20cmを測るとおり、比較的小振りの柱穴となる。柱穴覆土は柱拔取埋土であり、灰褐～暗灰褐色粘質土を基本とする。柱根、柱根痕跡とも確認できず、遺構の切り合い関係からSD66より新しく、SD69より古く位置付けられる。遺物は出土していない。

SB112 (遺構：第16図、遺物：第21図)

P-24区で復元した桁行2間(2.30m等間)の小規模な建物で、建物主軸方位はN-9°Wを示す。柱穴



第16図 A区第1面SB112・113平面図・土層断面図(S=1/60)



第17図 A区第1面SB114, SA111・112平面図・土層断面図(S=1/60)

の平面形態は不整形形を呈し、P107が長径46cm、短径38cm、深さ46cmを、P110が長径36cm、短径30cm、深さ50cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取埋土であり、炭化物が混ざる暗灰褐色粘質土を基調とする。柱根は遺存せず、径10~14cmの柱根痕跡が残る柱穴も存在する。建物敷地はSB113と一部重複し、P110・P167の切り合い関係からSB113より新しく位置付けられる。遺物は、P107から出土した第21図1~3を図示した。須恵器有台坏片1・2はⅤ₁期に位置付けられ、2は台部を内寄りに貼り付ける。3は摩滅したロクロ土師器塼である。また、P110から土器片が出土した。

SB113 (遺構：第16図、遺物：第21図)

P・Q-24区で復元した桁行2間(2.20m等間)の小規模建物で、建物主軸方位はN-15°Wを示す。柱穴の平面形態は不整形形を基調とし、小振りなP113が径約26cm、深さ20cmを、P116が長径48cm、短径44cm、深さ36cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取り後、灰黄~暗灰色粘質土で埋め戻す。柱根は遺存せず、P116に径12cmの柱根痕跡が残る。建物敷地はSB112と一部重複し、P110・P167の切り合い関係からSB112より古く位置付けられる。遺物は、第21図4・5の須恵器を図示した。P113出土の瓶4は口縁端部を上方にのぼし、正位で焼成される。P116出土の有台坏5はⅤ₂期に位置付けられる。他に須恵器片が出土した。

SB114 (遺構：第17図、遺物：第21図)

Q・R-24区で復元した建物で、調査区外に大部分が延びる。建物主軸方位はN-19°Wを示し、P141・153間の柱間寸法は2.20mを測る。柱穴の平面形態は隅丸方形または不整形形を呈し、P141が長径66cm、短径53cm、深さ50cmを、P153が長径42cm、短径36cm、深さ40cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取埋土であり、ベース土(淡灰黄色土)、炭化物が混ざる灰褐~暗灰褐色粘質土を基調とする。柱根は遺存せず、径約10cmの柱根痕跡が残る。遺構の切り合い関係から、SD119より古く位置付けられる。遺物は、P141出土の第21図6~9を図示した。須恵器有台坏6は口径11.8cm、器高4.7cmを測り、体部は内湾気味にたちあがる。内黒のロクロ土師器無台塼7は口径12.6cm、器高3.9cmを測り、体部外面下端~底面にケズリを加える。ともにⅤ₂期に位置付けられる。ロクロ土師器小甕8は摩滅が著しく、凝灰岩裂の中砥石9は、3面を鎌等の研ぎに用いる。他にP153から須恵器片が出土した。

SA111・112 (遺構：第17図)

P-25区で復元した2間の櫛列で、幅1.25mを隔てて並列する。柱間寸法は、東から1.80m、1.90mを測り、主軸方位はN-76°Eを示す。柱穴の平面形態は略円形または不整形形を呈し、SA111柱穴が径約30cm、深さ20cm強を測るのに対して、SA112柱穴は径約44~54cm、深さ28~42cmと一回り大きい。覆土は、ベース土が混ざる灰褐~褐色粘質土を基調とし、柱抜き取り痕が残る。遺構の切り合い関係は、SA111がSD71より新しい。また、SA112がSD66より新しく、SK09より古く位置付けられる。遺物は、P101、P118、P147、P142から須恵器・土師器小片が出土した。

2 ビット (遺構：第18・19図、第9・10表、遺物：第21図、第13表)

ビット(第3面P301・302含む)は約100基を検出し、第18・19図に土層断面図を、第9・10表に規模等をそれぞれ示した。分布状況からみれば、調査区北半(P~R区)に偏在しており、特に調査区北隅(Q・R-24)には土層断面図等から掘立柱建物または櫛列の柱穴と推測できるビットが多い傾向を示す。P136に柱根が残存した他、柱穴と考えられるビットとして、P79、P102、P104、P109西、P111、P125、P133、P135、P137、P138、P139-2、P143、P149~152-2、P156、P157-2があげられる。以下、出土遺物を図示したビットについて記す。P109出土の第21図10は須恵器有台坏で、台部がしっかりと外展する。P142は平面略円形を呈し、径70~76cm、深さ32cmを測る。覆土第3層から柱抜き取

P-25区 P102



1. 褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
2. 褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
3. 褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
4. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

P-25区 P104



1. 暗灰色粘質土(灰黄色粘質土少量混ざる)
2. 灰褐色粘質土
3. 1層と同質土(中々暗い)
4. 暗灰黄色粘質土

P-25区 P105



1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土(炭化物と黄灰色粘質土粒混ざる。3層との間に炭化物層入る)
3. 暗灰褐色粘質土(灰白色細砂混ざる)

P-24区 P109 西



1. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
2. 灰褐色粘質土(灰黄色粘質土粒と炭化物混ざる)
3. 灰褐色粘質土(炭灰黄色細砂を層状に混ざる)
4. 暗灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
5. 濃い灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロックと炭化物混ざる)
6. 濃い灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粒と炭化物混ざる)

P-24区 P111



1. 暗褐色土
2. 灰黄色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
3. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
4. 暗灰褐色粘質土
5. 炭灰黄色粘質土(炭化物混ざる)
6. 炭灰褐色粘質土(1層より明るい、炭化物混ざる)

Q-24区 P114



1. 灰褐色土(炭化物と褐色粘質土ブロック混ざる)
2. 暗褐色粘質土(灰黄色粘質土粒混ざる)

P-27区 P126



1. 炭灰黄色粘質土(炭化物混ざる)
2. 暗灰褐色土(炭化物混ざる)
3. 1層と同質土(2層がハッチ状に多く混ざる)
4. 暗灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
5. 黄灰色粘質土(暗灰色粘質土粒混ざる)

P-25区 P133



1. 灰褐色粘質土(灰黄色粘質土ブロック混ざる)
2. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
3. 黄灰色粘質土(ブロック層暗灰色粘質土混ざる)
4. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

P-27区 P136



1. 灰褐色土(しりなし)
2. 暗褐色粘質土
3. 濃い灰褐色粘質土(炭化物少量混ざる)

O-26区 P137



1. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多い、炭化物混ざる)
2. 濃い暗褐色粘質土(黄灰色粘質土粒と炭化物混ざる)
3. 黄灰色粘質土

P-26区 P138



1. 炭灰黄色粘質土
2. 暗褐色粘質土(灰白色粘質土粒と炭化物少量混ざる)
3. 黄灰色粘質土(暗灰褐色粘質土ブロック混ざる)
4. 灰黄色粘質土

R-24区 P139-1



1. 暗褐色粘質土(炭化物、黄灰色粘質土粒、細砂混ざる)
2. 暗灰褐色粘質土(炭灰黄色粘質土ブロックが多く混ざる)
3. 暗灰褐色粘質土(炭灰黄色粘質土ブロック少量混ざる)
4. 濃い灰褐色粘質土(2-3層がブロック状に混ざる)

P-26区 P139-2



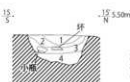
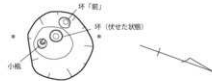
1. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロックが層状に混ざる)
2. 炭灰黄色粘質土(灰黄色粘質土がハッチ状に混ざる)以下、記述なし

Q-24区 P140

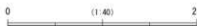


1. 褐色土(炭化物、土層、黄灰色粘質土ブロック混ざる)
2. 濃い灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)

Q-24区 P142 遺物出土状況 (S=1/40)

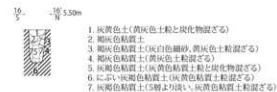


1. 暗褐色土(多くの砂と炭化物混ざる)
2. 暗灰色土(黄灰色粘質土がハッチ状に多く混ざる)
3. 1層と同質土
4. 暗褐色土(黄灰色粘質土がハッチ状に多く混ざる)

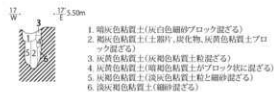


第18図 A区第1面ビット平面図・土層断面図1 (S=1/40・1/60)

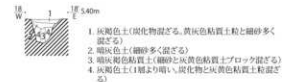
Q-R-24区 P149



Q-24区 P150



Q-24区 P151



R-24区 P152-2



第19図 A区第1面ピット平面図・土層断面図2(S=1/60)

※ 斜線は、深さ30cm以上のピットを示す。

遺構名	グリッド	平面形	規模(m)			土色	備考
			長軸	短軸	深さ		
7A1SB101 (P191)	P-26	略円形	42	40	20	灰褐色粘質土	報告段階に付存
7A1SB101 (P192)	P-26	略円形か	48	約40	22	灰褐色粘質土	。SD66より新。SD69より古
7A1SB101 (P193)	P-26	略楕円形	48	38	20	暗灰褐色粘質土	。
7A1SB101 (P194)	P-26	不整形	38	34	26	暗灰褐色粘質土	。
7A1SB112 (P107)	P-24	不整形	46	38	46	第16図	柱根痕(径14cm)あり
7A1SB112 (P110)	P-24	不整形	36	30	50	第16図	柱根痕(径10cm)あり。SB113 (P167)より新
7A1SB113 (P113)	Q-24/P-24	略円形	28	26	20	灰褐色粘質土	柱根痕あり
7A1SB113 (P116)	Q-24	不整形	48	44	36	第16図	柱根痕(径約12cm)あり
7A1SB113 (P167)	P-24	不整形	44	32	30	第16図	SB112 (P110)より古
7A1SB114 (P141)	R-24	風丸方形	66	53	50	第17図	柱根痕(径約10cm)あり
7A1SB114 (P153)	Q-24	不整形	42	36	40	第17図	柱根痕(径約10cm)あり。SD119より古
7A1SA111 (P143)	P-25	略円形	34	28	22	第17図	柱根痕(径約10cm)あり。SD71より新
7A1SA112 (P101)	P-25	不整形	54	50	42	第17図	柱根痕抜き取り。SK09より古。SD66より新
7A1SA112 (P147)	P-25	略円形	52	46	8	灰褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	
7A1SA112 (P118)	P-25	略円形	54	44	28	褐色粘質土	SD66より新
7A1P79	P-25	不整形	34	30	48	褐色粘質土	柱根痕あり
7A1P102	P-25	略円形	48	42	48	第18図1	柱根痕(径10cm)あり。SK09より古
7A1P103	P-25	不整形	28	28	33	褐色粘質土	
7A1P104	P-25	不整形	30	22	38	第18図2	柱根痕抜き取り。SD81より古
7A1P105	P-25	不整形	35	28	45	第18図3	SD81より古
7A1P106	Q-25	不整形	52	50	11	褐色粘質土	
7A1P108	P-24	略楕円形	74	62	10	暗灰色粘質土	
7A1P109西	P-24	不整形	38	28	63	第18図4	柱根痕(径15cm)あり
7A1P109東	P-24	不整形	52	32	46	褐色粘質土	
7A1P111	P-24	不整形	58	33	38	第18図5	柱根痕(径12cm)あり
7A1P112	P-24	略楕円形	28	20	14	ぶい(灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる))	
7A1P114	Q-24	不整形	78	72	28	第18図6	
7A1P115	Q-24	不整形	68	60	5	ぶい(灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる))	
7A1P117	P-25	略円形	30	22	34	暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	
7A1P119	O-26	不整形	54	40	40	褐色粘質土	3つのピット重複
7A1P120	O-27	不整形	24	20	21	褐色粘質土	
7A1P121	P-26	不整形	28	24	20	褐色粘質土	
7A1P122	P-26	不整形	28	20	35	褐色粘質土	SD66と重複

第9表 A区第1面ピット規模等一覧表1

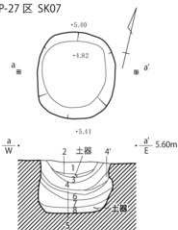
※ 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7A1P123	P-27	不整形円形	40	38	7	暗褐色粘質土	
7A1P124	P-27	不整形方形	33	28	16	暗褐色粘質土(淡灰黄色粘質土粒混ざる)	
7A1P125	P-27	楕円形	26	23	24	褐色粘質土	柱根痕あり
7A1P126	P-27	不整形円形	44	38	28	第18図7	
7A1P127	P-27	不整形円形	34	32	26	褐色粘質土	
7A1P128	P-27	不整形円形	54	38	9	褐色粘質土	
7A1P129	P-27	不整形円形	36	30	28	褐色粘質土	
7A1P130	P-27	不整形方形	32	28	30	褐色粘質土	
7A1P131	P-27	不整形円形	28	26	45	褐色粘質土	
7A1P132	P-25	不整形円形	32	28	49	暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	
7A1P133	P-25	不整形円形	38	30	23	第18図8	柱根痕(径8cm)あり
7A1P134	Q-25	楕円形	82	62	2	褐色粘質土	
7A1P135	Q-25-26	不整形円形	36	28	17	灰黄色粘質土	
7A1P135	P-28	圓丸方形	44	42	18	褐色粘質土	板根痕あり
7A1P136	P-27	不整形方角形	54	34~	18	第18図9	柱根(径14cm)痕あり
7A1P137	Q-26	不整形円形	34	30	42	第18図10	板根痕(径約10cm)あり
7A1P138	P-26	楕円形	26	26	30	第18図11	板根痕(径約10cm)あり
7A1P139-1	R-24	圓丸方形	58	52	46	第18図12	SD117より古。柱巻報告段階に付与
7A1P139-2	P-26	楕円形	34	30	26	第18図13	柱抜き取り。SD66より新。柱巻報告段階に付与
7A1P140	Q-24	楕円形	60	約60	22	第18図14	
7A1P142	Q-24	楕円形	76	70	32	第18図15	須臾器坪・小皿埋納
7A1P144	Q-26	不整形円形	48	42	26	褐色粘質土	柱根痕あり
7A1P146	P-25	不整形円形	42	40	6	褐色粘質土	
7A1P148	P-25	不整形円形	38	28	24	褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	SD76より新
7A1P149	Q-R-24	不整形円形	53	48	52	第19図16	柱根痕(径約10cm)あり
7A1P150	Q-24	不整形円形	56	34	65	第19図17	柱根痕(径約12cm)あり。SD119より古
7A1P151	Q-24	不整形方形	46	44	36	第19図18	柱根痕あり
7A1P152-2	Q-24	不整形円形	50	50	61	第19図19	柱根痕(径約12cm)あり。SD114より古。柱巻報告段階に付与
7A1P154	P-26	楕円形か	約30	約30	25	褐色粘質土	SD66より新
7A1P155	P-25	円形	60	56	28	褐色粘質土	7A1SK10の一部
7A1P156	Q-P-25	円形	28	28	47	褐色粘質土	
7A1P157-2	Q-24	楕円形	34	32	50	褐色粘質土	柱巻報告段階に付与
7A1P158	R-24	圓丸長方形	40	32	5	褐色粘質土	
7A1P159	R-24,Q-24	圓丸方形	54	48	7	褐色粘質土	
7A1P160	Q-24	不整形形	53	40	11	褐色粘質土	
7A1P161	Q-24	不整形円形	26	22	4	褐色粘質土	
7A1P162	Q-24	楕円形	26	24	21	褐色粘質土(炭化物・黄色粘質土粒混ざる)	
7A1P163	P-25	不整形円形	44	38	9	褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	
7A1P164	Q-24	楕円形	58	58	10	褐色粘質土	
7A1P165	Q-24	楕円形	37	34	14	褐色粘質土	
7A1P166	Q-24	不整形円形	50	44	20	褐色粘質土	
7A1P168	P-26	不整形円形	56	40	-	暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	
7A3P301	P-26	不整形円形	35~	32~	33	暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	第3面で検出
7A3P302	Q-24	不整形円形	34~	28~	41	暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる)	。

第10表 A区第1面ピット規模等一覧表2

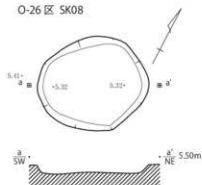
り後に埋納した須臾器が出土している(第18図)。第21図11はロクロひだが目立つ有台坏で、体部は大きく外傾する。12~14は完形に近い無台坏である。正位で出土した12は口縁端部が内側で肥厚する。底部外面に「前」と墨書する。能美窯跡群産と考えられる13は口径13.0cm、器高3.3cmを測り、底部外面に記された墨書は判読できない。倒位で出土した14は口径12.8cm、器高3.0cmを測り、底部は台状を呈する。ほぼ正位で出土した小型の瓶15は、口縁部を意図的に粗く割った可能性をもつ。11~14はⅤ₂期に位置付けられる。P136から板状の柱根が出土(第47図420)、スギ材を用いる。P149出土の

P-27区 SK07

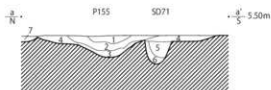
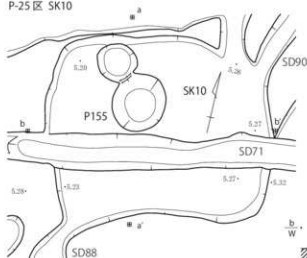


1. 黒褐色粘質土(下部に灰層、黄灰色砂質土を層状に混ざる)
2. 赤褐色砂質土(焼土層)
3. 黄灰色砂質土
4. 灰色粘質土(黄灰色砂質土がブロック状に混ざる、4は色調明るく下に灰層)
5. 黒色砂質土(灰層、4層類似層、4層が層状に混ざる)
6. 灰色粘質土(炭化物混ざる)
7. 甲灰色粘質土(灰白色粘土ブロック混ざる)
8. 甲灰色粘質土

O-26区 SK08

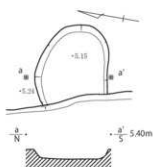


P-25区 SK10

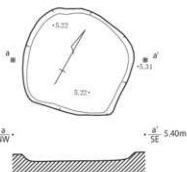


1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土(炭化物と淡灰黄色細砂混ざる)
3. 淡灰黄色細砂(暗褐色粘質土粒混ざる)
4. 灰褐色粘質土(炭化物少量混ざる)
5. 暗褐色粘質土(炭化物と灰黄色土ブロック混ざる)
6. 淡灰黄色細砂(5層がブロック状に混ざる)
7. 暗灰褐色粘質土(炭化物混ざる)

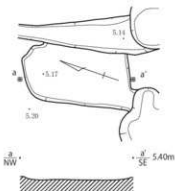
P-24区 SK11



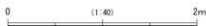
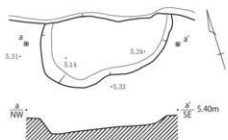
Q-24区 SK15



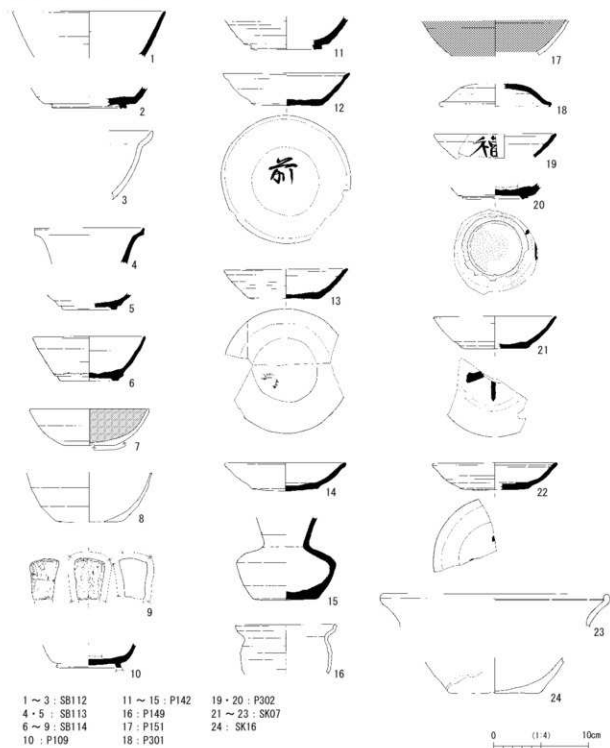
R-24区 SK16



P-26区 SK17



第20図 A区第1面土坑平面図・土層断面図(S=1/40)



第21図 A区第1面出土遺物実測図1 (S=1/4)

ロクロ土師器小甕16は口径10.6cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。P151出土の17は、両面を黒色処理したロクロ土師器有台碗と考えられる。第3面で検出したP301出土の須恵器坏蓋18は口径11.6cmを測り、VI₁期と考えられる。須恵器19・20は、第3面P302から出土した。無台坏19は、体部外面に正位で「福」と墨書し、VI₂期に位置付けられる。有台坏20は、外面に煤が付着する。

3 土坑(遺構:第20図、第11表、遺物:第21-22図、第13表)

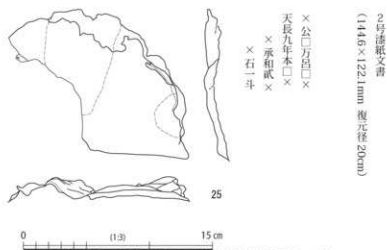
土坑は11基を検出した。平面隅丸方形を呈する深い土坑(SK07)、不整長方形を呈する大型土坑

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7A1SK07	P-27	隅丸方形	92	82	58	第20回	漆紙文書出土
7A1SK08	O-26	不整形内形	118	100	9~10	灰褐色粘質土	
7A1SK09	P-25	不整形長方形	118~	60~80	7~12	灰褐色粘質土	SDB1の一部か。P101・102より新
7A1SK10	P-25	不整形長方形	242	188	10~23	第20回	SD71・91より新
7A1SK11	P-24	不整形内形か	75~	76	10	灰褐色粘質土	
7A1SK12	P-28	方形	142	132	60	灰褐色粘質土	近代以降
7A1SK13	P-28	方形	132	128	69	灰褐色粘質土	近代以降
7A1SK14	P-28	方形	136	106	72	灰褐色粘質土	近代以降
7A1SK15	Q-24	不整形長方形	114	110	6~9	にぶい灰色粘質土(黄色粘質土程混ざる)	
7A1SK16	R-24	不整形長方形	112	60~	2~4	灰褐色粘質土	
7A1SK17	P-26	不整形内形か	138	75~	10~17	灰褐色粘質土	

第11表 A区第1面土坑規模等一覧表

(SK10)、近代以降と考えられる大型坑(SK12~14)以外は、総じて深さ10cm未満の浅い落ち込み様を呈する。第11表に規模、他遺構との切り合い関係等を示しており、以下では主な土坑について記す。

SK07 P-27区で検出した平面隅丸方形を呈する土坑で、一辺82~92cm、深さ58cmを測る。底面は平坦で、壁は地山の崩落に伴い胴張りとなる。覆土は、下位層から順に明灰色粘質土、灰層や炭化物が混ざる灰~黒色



第22図 A区第1面SK07出土漆紙文書実測図(S=1/3)

土、黄灰色砂質土、焼土層(赤褐色砂質土)、黒色灰層、黄灰色砂質土が層状に混ざる黒褐色粘質土となり、灰層、焼土層の存在から埋没中途での数次の焼成が復元できる。他遺構との切り合い関係はなく、出土遺物のうち第21図21~23・第22図25を図示した。須恵器無台坏片21がVI期、22がVII期にそれぞれ位置付けられ、ともに底部外面に墨書を記すが判読できない。21は口径12.8cm、器高3.5cmを測り、台状の底部から内湾気味に体部がたちあがる。22は口径13.2cm、器高2.9cmを測り、扁平な印象を受ける。23はクロコ土器器身小片で、口縁端部を丸く仕上げる。第22図25は覆土4~6層出土の漆紙文書であり、径約20cmに復元できる。「天長九年」(832年)、「承和貳」(835年)の文字が判読できる。第7章で詳述する。

SK10 P-25区で検出した平面不整形長方形を呈する大型土坑である。長軸242cm、短軸188cm、深さ10~23cmを測り、底面は中央付近(P155)で緩やかに深くなる。覆土は、下位層から順に灰褐色粘質土、淡灰黄色細砂、暗褐色~褐灰色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係からSD71・91より新しく、須恵器小片が出土したにとどまる。

SK12~14 P-28区で主軸方位をそろえた平面方形の土坑で、近代以降に位置付けられる。

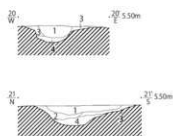
SK16 R-24区で検出した浅い落ち込み(深さ2~4cm)で、第21図24の摩滅した弥生土器壺底部片が出土した。24の外面には、深く刺さったヘラ状工具痕が残る。

4 溝(遺構:第23図、第12表、遺物:第24図、第13-14表)

A区全体で70条の溝(第2面SD208含む)を検出し、自然流路2条(SD66-91)、耕作に伴う小溝42条、その他不明の小規模な溝・溝状遺構16条に分かれる。自然流路2条は、位置的に重複する第2面SD202の最終埋没段階を別個の遺構と認識した可能性が高く、遺構の切り合い関係は他の遺構より明らかに前出する。溝の規模等は第12表に記載しており、以下、自然流路、耕作に伴う小溝について述べる。

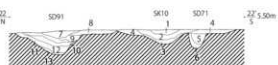
SD66 P-25・26区、O-26区で検出し、蛇行しながら東方向から西方向に流下する自然流路である。

SD66



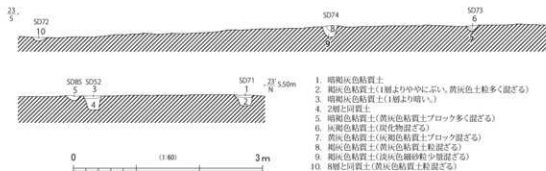
1. 暗灰色粘質土(炭化物混ざる)
2. 暗灰色粘質土(炭化物混ざる)
3. 暗灰色粘質土(暗灰色粘質土ブロック、細砂混ざる)
4. 淡灰色粘質土(細砂混ざる)

SD71-91



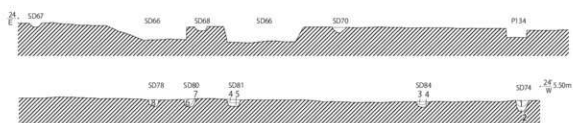
1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土(炭化物と淡黄色細砂混ざる)
3. 淡黄色細砂(暗灰色粘質土粘着する)
4. 灰褐色粘質土(炭化物が少量混ざる)
5. 暗灰色粘質土(炭化物と灰黄色土ブロック混ざる)
6. 淡黄色細砂(5層がブロック状に混ざる)
7. 暗灰色粘質土
8. 暗灰色粘質土(炭化物混ざる)
9. 暗灰色粘質土(5層よりやや暗い、黄灰色粘質土ブロック、炭化物混ざる)
10. 8層と同質土
11. 暗灰色粘質土(炭化物、灰黄色粘質土粘着する)
12. 淡灰色粘質土(暗灰色粘質土ブロック混ざる)
13. 淡黄色粘質土(少量の暗灰色粘質土ブロックと細砂混ざる)

SD52・71～74-85



1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土(1層よりやや暗い、黄灰色粘質土粘着する)
3. 暗灰色粘質土(1層より暗い)
4. 2層と同質土
5. 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
6. 灰褐色粘質土(炭化物混ざる)
7. 黄褐色粘質土(灰褐色粘質土ブロック混ざる)
8. 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土粘着する)
9. 暗灰色粘質土(淡黄色細砂少量混ざる)
10. 8層と同質土(黄灰色粘質土粘着する)

SD66～68-70-74-78-80-81-84



1. 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土粘着する)
2. 暗灰色粘質土(淡黄色細砂少量混ざる)
3. 灰黄色粘質土(暗灰色粘質土ブロック混ざる)
4. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粘着する)
5. 暗灰色粘質土(炭化物と黄灰色粘質土粘着する)
6. 暗灰色粘質土(5層より暗い、黄灰色粘質土粘着する)
7. 暗灰色粘質土(5層より暗い)
8. 暗灰色粘質土(5層と同じ)

SD69

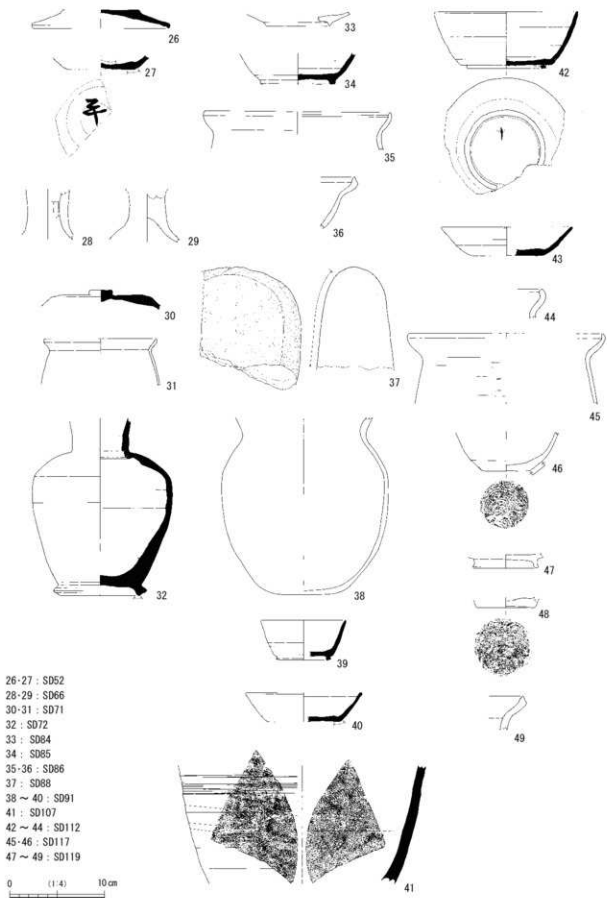


1. 灰褐色粘質土(灰白色細砂が層状に混ざる)
2. 暗灰色粘質土(灰褐色粘質土ブロック混ざる)
3. 1層と同質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

第23図 A区第1面満土層断面図(S=1/60)

遺構名	グリッド	規模 (cm)			主軸方位	土色	性格	備考
		長さ	幅	深さ				
7A1SD52	P-24-25	1030~	24~36	16~24	N-79~87° E	第23図23	耕作小溝	SD77-79-81-84-113より新
7A1SD55	P-28	140~	32~48	4~8	N-55° W	暗褐色粘質土	不明	屈曲
7A1SD56	P-28	90	20~22	4	N-8° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD57	O-P-27	204	16~22	2~4	N-8° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD58	P-27	178	18~26	2~4	N-8° W	褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)	耕作小溝	
7A1SD59	O-P-27	284	18~30	4~9	N-8° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD60	P-27	66	24~32	4~6	N-0°	褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD61-111	P-27	270~	16~20	2~6	N-0°、N-14° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD62	P-27	281	24~28	2~4	N-13° W	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)	耕作小溝	
7A1SD63	P-27	348~	18~24	4~5	N-16° W	灰褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD64	O-P-27	290	9~36	2~3	N-0°	灰褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD65	P-26-27	350~	10~92	5~10	N-約46° E	暗褐色粘質土	自然流路か	SD66と重複
7A1SD66	P-25-26、 O-26	1450~	96~172	26~33	-	第23図20	自然流路	奥池、西方向に流下。SB111、P118-139-2-154、SD67~70より古
7A1SD67	O-P-26	586~	18~26	3~6	N-10° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	SD66より新
7A1SD68	O-P-26	748~	18~28	4~8	N-13° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	SD66より新
7A1SD69	P-26	511	26~48	11~20	N-86° W	第23図25	耕作小溝	SD66より新
7A1SD70	O-P-26	494	18~24	3~9	N-8° W~7° E	第23図24	耕作小溝	SD66より新
7A1SD71	P-24-25	1090~	24~36	7~30	N-83° E	第23図22-23	耕作小溝	SK10、SD86-89より新
7A1SD72	O-25	575~	24~38	7~9	N-80° E	第23図23	耕作小溝	SD81-116、SD84より新
7A1SD73	O-24-25	830~	20~36	12~18	N-74~84° E	第23図23	耕作小溝	SD77-79-81-84-85-115より新
7A1SD74	O-25	770~	22~32	14~22	N-80~87° E	第23図23-24	耕作小溝	SD78-80-81-84-115より新
7A1SD75	O-25	138	20~24	5~7	N-0°	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD76	O-P-25	約270	18~20	6~14	N-13° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	屈曲。P148より古
7A1SD77	O-P-25	324	18~28	9~20	N-6° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	SD72より古
7A1SD78	O-25	496	18~28	4~14	N-1° E	第23図24	耕作小溝	SD74より古
7A1SD79	O-P-25	256	16~30	6~10	N-4° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	SD72より古
7A1SD80	O-25	約320	18~26	9~13	N-4° E	第23図24	耕作小溝	SD74より古
7A1SD81-116	O-P-25	約1240	22~44	3~18	N-1° E	第23図24	耕作小溝	P104、SD52-72~74より古
7A1SD82	O-25	108	16~26	10~18	N-1° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD83	P-26-27	240~	50~57	3~6	N-77° E	淡灰褐色粘質土	不明	SD65と重複
7A1SD84	O-P-25	960	18~34	5~20	N-0°	第23図24	耕作小溝	SD52-72~74-80より古
7A1SD85	O-P-25	約310	12~32	7~9	N-1° W、N-37° E	第23図23	耕作小溝	屈曲
7A1SD86	P-24	176	32~46	10~21	N-7° W	暗褐色粘質土	耕作小溝か	SD91より新
7A1SD87	P-24	124~	34~46	8~13	N-2° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD88	P-25	約125	24~40	11	N-4° E	暗褐色粘質土	不明	北側でSK10と接続
7A1SD89	P-25	82~	26~42	4	N-約24° E	暗褐色粘質土	不明	SD71より古
7A1SD90	P-25	80~	20~28	8	N-約20° E	暗褐色粘質土	不明	
7A1SD91	P-24-25	約750	132~165	29~40	N-36~71° E	第23図22	自然流路	屈曲。北東方向に流下。SK10、SD96より古
7A1SD92	P-25	60~	40~48	9	N-2° W	暗褐色粘質土	耕作小溝か	
7A1SD93	P-25	114	32~50	7	N-約10° E	暗褐色粘質土	耕作小溝か	
7A1SD94	P-26	約220	40	6~8	N-83° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD95	O-28	152	20~22	3~5	N-23° E	褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD96	P-25	約90	24~28	11~30	N-13° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD102	R-24	95~	26~48	9	N-約40° W	暗褐色粘質土	不明	
7A1SD113	P-25	188	24~40	6~9	N-13° E	暗褐色粘質土	耕作小溝か	
7A1SD114	Q-24	320	24~	3~22	N-0°	暗褐色粘質土	耕作小溝	P152より新
7A1SD115	O-P-25	625	20~36	8~20	N-0°、N-25° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	SD52-73-74より古
7A1SD117	Q-R-24	730~	33~106	8~16	N-8~11° W	暗褐色粘質土	耕作小溝	P139-1より新
7A1SD118	Q-24	110~	38~44	3~6	N-86° W	暗褐色粘質土	不明	SD117に接続
7A1SD119	Q-24	175~	34	3~8	N-0°	暗褐色粘質土	耕作小溝か	P153より新
7A1SD120	Q-24	54~	32~38	22~25	-	暗褐色粘質土	不明	
7A1SD121	Q-24	164	18~30	2~6	N-42° W	暗褐色粘質土	不明	
7A1SD122	Q-24	118	24~30	8~10	N-60° W	暗褐色粘質土	不明	
7A1SD123	P-24	64~	18~24	5	N-2° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	
7A1SD124	Q-24	145~	15~18	4~6	N-12~42° W	暗褐色粘質土	不明	屈曲
7A2SD308	O-25	275~	24~30	7~19	N-85° E	暗褐色粘質土	耕作小溝	第2面で検出

第12表 A区第1面満規模一覧表



第24図 A区第1面出土遺物実測図2(S=1/4)

幅96~172cm、深さ26~33cmを測り、炭化物や細砂が混ざる淡灰褐~暗褐色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係は、SB111、P118、P139-2及び耕作に伴う小溝SD67~70より古く位置付けられる。また、流路東側に重複するSD65は、SD66の流れの一部とも考えられる。出土遺物のうち第24図28・29を図示した。弥生時代後期の器台28、古墳時代前期の土師器高坏29とも摩滅が著しい。

SD91 P-24・25区で検出した自然流路で、蛇行しながら西方向から東方向に流下する。幅132~165cm、深さ29~40cmを測り、下位層から順に細砂が混ざる淡灰黄色粘質土、淡灰褐色土、炭化物が混ざる暗灰~暗褐色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係は、SK10、耕作に伴う小溝SD86より古く位置付けられる。出土遺物のうち、第24図の土師器甕38、須恵器39・40を図化した。須恵器は混ざり込みと理解している。古墳時代後期の甕38は平底風を呈し、摩滅が著しい。有台坏39は口径8.9cm、器高4.3cmを測り、体部は直線的にのびる。薄手・軟質の無台坏40は口径12.2cm、器高3.1cmを測り、口縁端部が肥厚する。39がⅤ₂期、40がⅥ₁期に位置付けられる。

耕作に伴う小溝群 分布状況、主軸方位等から、溝主軸方位が南北方向を指向する小溝群(以下、a群)、溝主軸方位が東西方向を指向する小溝群(同b群)、Q-R-24区の小溝群(同c群)に大別できる。遺構の切り合い関係では、重複するピットからc群、a群からb群、a・b群からSA111・112及びSK10という変遷が復元できる。a群は、地勢に応じて若干屈曲しながら直線的に掘られ、もっとも長いSD81・116が約12.4mを測る。分布状況から、O・P-24・25区に分布するSD77~81・84・85・115・116等(a-1群)、O・P-26区に分布するSD67・68・70等(a-2群)、O・P-27区に分布するSD57~64・111等(a-3群)、P-28区に分布する群(a-4群)に分かれ、各群間に4~6mの空開域をもつ。また、各溝間隔は、a-1群、a-3群が約1.5m前後を基本とするのに対して、a-3群は1.7~2.5mと一定ではない。東西方向を指向するb群は、SD52・71~74、第3面SD308、SD69等が属し、もっとも長いSD71が11m以上を測る。単独的に立地するSD69以外は、一体的に経営された耕作地と判断でき、各溝間隔は約2.3mを基本とする。c群は、SD114・117・119等が属し、判然としないがb群よりも西偏する傾向を示す。

出土遺物のうち、第24図26・27、30~37、41~49を図示した。須恵器26・27は、SD52から出土した。無紐の坏蓋26は口径14.4cm、器高1.9cmを測り、平坦な天井部は台状を呈する。無台坏27は、底部外面に「平」と墨書する。26がⅤ₂期、27がⅥ₁期に位置付けられる。30・31は、SD71から出土した。須恵器坏蓋30は扁平なボタン状の紐を貼り付け、Ⅵ₁期に位置付けられる。ロクロ土師器小甕31は口径11.7cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。須恵器長頸瓶32は風船技法で製作され、台部はしっかりと外展する。ロクロ土師器有台皿33は摩滅が著しい。小振りな断面三角形の台部からⅥ₁期に位置付けられる。SD85出土の須恵器有台坏34は、体部が直線的に外傾する。ロクロ土師器35・36はSD86から出土した。甕35は、口縁端部を内傾気味に仕上げる。摩滅した埴小片36は、口縁端部が直立する。SD88出土の台石37は、被熱のため変色する。SD107出土の須恵器瓶胴部片41は、外面を板状工具で整形する。42~44は、SD112から出土した。須恵器有台坏42は口径15.0cm、器高6.0cmを測り、体部は内湾しながら立ちあがる。底部外面に薄い墨痕を残すが判読できない。須恵器無台坏43は、煮炊き容器に転用したため、内面にヨゴレ、外面全体に煤が付着する。ともにⅥ₁期に位置付けられる。ロクロ土師器45・46は、SD117から出土した。甕45は口径20.4cmを測り、口縁端部は内湾する。小甕46は、底部外面に回転糸切り痕が残る。ロクロ土師器47~49は、SD119から出土した。内黒の有台坏47は摩滅が著しい。48は小坏と考えられる。底部外面は、回転糸切りで、外縁部に線状のヘラ痕が残る。49は、摩滅した埴口縁部小片である。

5 包含層等出土遺物(第25～28図、第14～20表)

包含層等から出土した奈良・平安時代の遺物は、主要地方道高松津幡線西側の調査区と異なり、出土量が少ない点に特徴をもつ。特にⅣ期以前の遺物は限られ、調査区周辺の土地利用を反映したものである。

第25図50～第26図124は、遺構検出時に出土した遺物である。50～52は弥生時代後期後半～終末の甕である。大型の50は口径約26cmを測り、摩滅が著しい。52は口径19.9cmを測り、口縁部が短く直立する。古墳時代前期の土師器甕53は口径15.4cmを測り、口縁部は短く外傾する。弥生時代終末の高坏54は、内面にわずかに赤彩痕を残すことから、両面に赤彩を施した可能性をもつ。55は古墳時代初頭の高坏脚部、56は土師器把手である。

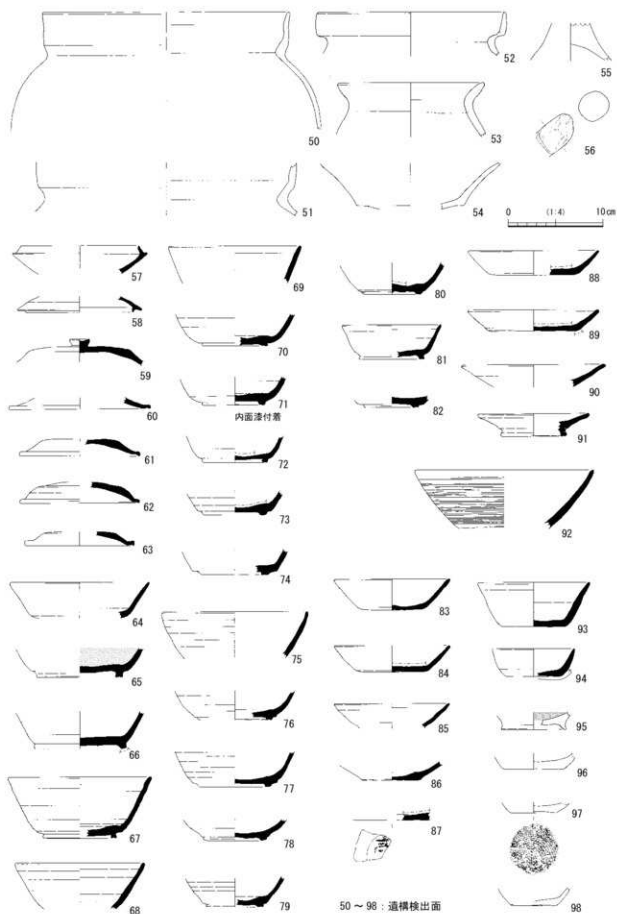
57～94は須恵器で、57、58、64～66以外はⅤ～Ⅵ₂期に位置付けられる。57はⅠ期の坏H身で、胎土は南加賀窯跡群産の特徴を示す。坏蓋58の胎土は、高松・押水窯跡群産の特徴をもつ。59～63はⅥ₁期の坏蓋で、天井部外面のナデ調整や口縁端部を丸く仕上げる点で共通する。64～82は有台坏である。扁平な64は口径14.6cmを測り、Ⅳ_{1(高)}期に位置付けられる。65・66は、Ⅳ₂期に位置付けられる。65は底部内面が使用に伴い摩耗し、66は胎土の特徴から鳥屋窯跡群産と考えられる。67～73はⅥ₁期、74～80はⅥ₂期に位置付けられる。67は口径14.8cm、器高6.5cmを測り、ロクロひだが目立つ。産地は不明で、胎土中に微細な砂粒が多く混ざる。68・69は口径13.5cm強を測り、68は生焼けに近い。70は内外面とも煤が付着、71は内面全体に茶褐色の漆が付着した漆容器である。72・74は、内屈気味の台部を貼り付ける。75は口径15.4cmを測り、口縁端部は内傾気味となる。76～79は扁平な台部が外展する。Ⅴ₁期の81は口径10.4cm、器高3.7cmを測り、断面方形の台部がしっかりと外展する。82は底部外面を含めて自然釉が熔着する。

83～87はⅥ₁期の無台坏である。83・84は体部が大きく外傾する。83は口径12.2cm、器高3.3cmを測り、底部外面中央に漆状の茶色付着物が残る。84は、口径12.2cm、器高2.8cmを測る。86は皿形に近く、87の外面に記された墨書は判読できない。無台盤88・89は口径13.8cm、器高2.5cm前後を測り、外傾する体部が長くのびる。90・91は皿である。90は口径14.8cmを測り、生焼けに近い。有台皿91は口径11.6cm、器高2.4cmを測る。口径がかなり縮小しているが、Ⅵ₂期と考えたい。鉢92は口径18.9cmを測り、外面をカキメで加飾する。深身の小坏93は、口径11.8cm、器高4.7cmを測る。小坏94は口径8.6cm、器高3.0cmを測り、倒位で焼成される。95～98はロクロ成形の土師器である。内黒有台碗95は台部が先細り、耕作地に転じたⅥ₃期以降の遺物となる。96～98は摩滅した小甕底部で、97に回転糸切り痕が残る。

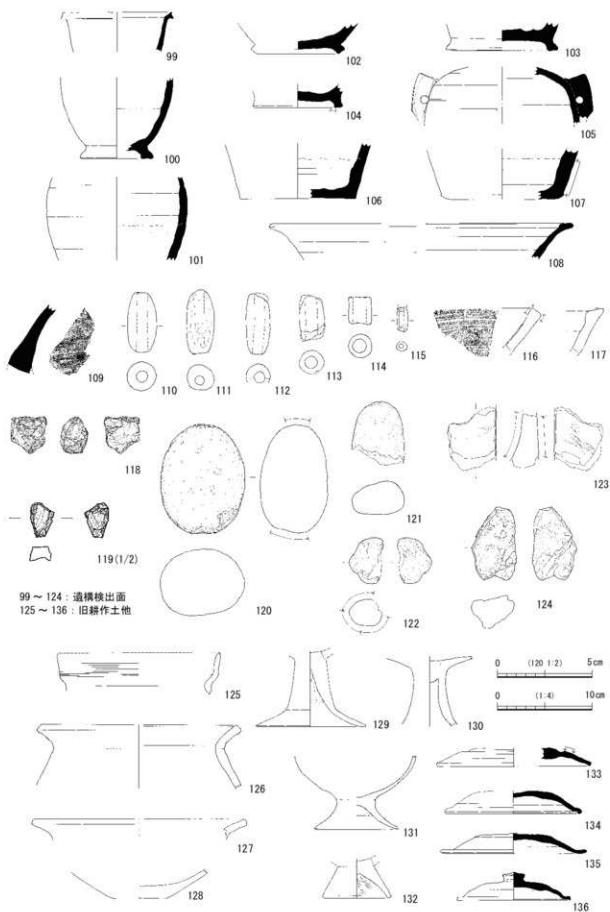
第26図99～107は須恵器壺・瓶類、108・109は甕である。瓶99は口径約11.5cmを測り、口縁端部を端正に仕上げる。細身の瓶100は厚手の台部が外展・接地し、内面は紫灰色を呈する。102～104は、断面方形の台部が外展する。102は、混和剤が少ない緻密・粘質な胎土を用いる。105は正位で焼成された双耳瓶で、肩部を沈線で加飾する。甕108は口径約32cmを測り、口縁端部が内側に肥厚する。109は、胴部との接合部で剥離する。110～115は土師器土鉢で、110・111が残存重量50g前後、円柱形の114が11.9gをそれぞれ量る。小型の115は混和剤が多く混ざり、残存重量3gを量る。珠洲焼鉢片116・117は摩滅が目立つ。

石器・石製品の多くは、本来第4・5面に属する。石核118、剥片119の石質は鉄石英で、118は重さ48.3gを量る。安山岩製の敲石120は、重さ932.9gを量り、2ヶ所に顕著な敲打痕を残す。花崗岩と考えられる121は、敲石の可能性が高い。軽石凝灰岩製の砥石122は、ほぼ全面を研ぎに用いる。浅黄褐色を呈する凝灰岩製砥石123は、第1面に属する遺物である。鎌等の中砥石に使用、1側面に刃物痕を残す。鉄滓124は、重さ約177gを量る。

第26図125～第28図210は、旧耕作土、調査区排水溝、表土等から出土した遺物をまとめたものである。125～132は、本来第2面以下に属する遺物である。弥生時代後期後半の甕125は口径約17cmを測り、

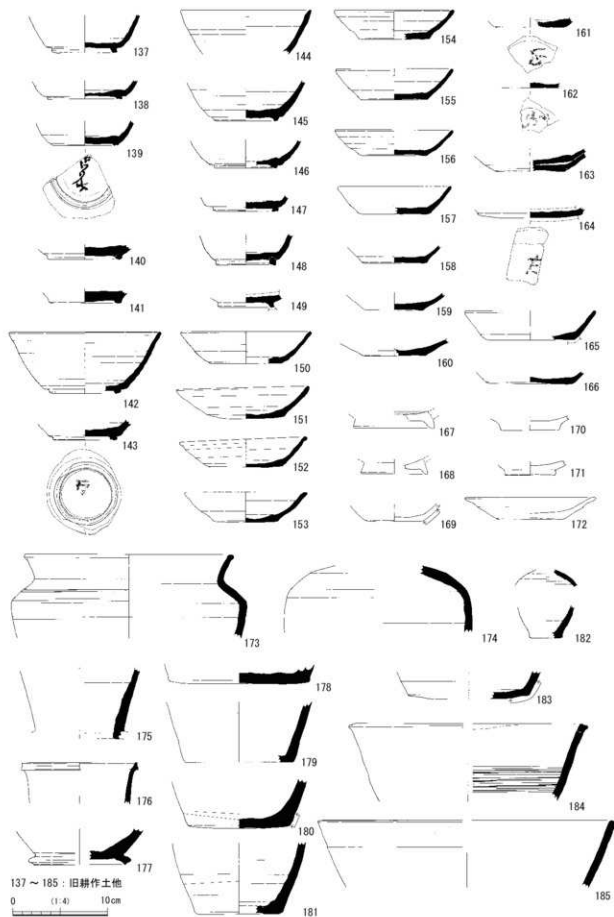


第25図 A区第1面出土遺物実測図3 (S=1/4)

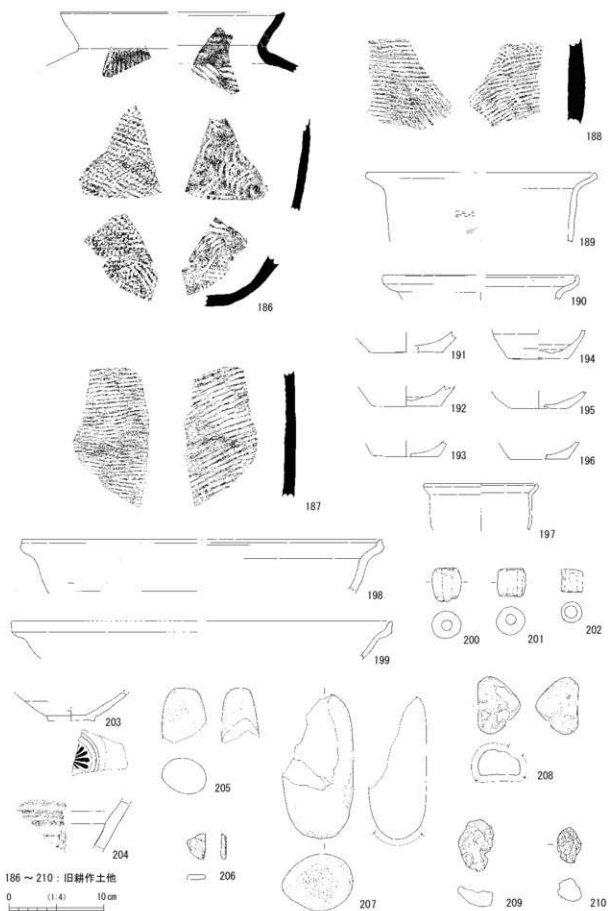


99 ~ 124 : 遺構検出面
125 ~ 136 : 旧跡作土他

第26図 A区第1面出土遺物実測図4 (S=1/2・1/4)



第27図 A区第1面出土遺物実測図5 (S=1/4)



第28図 A区第1面出土遺物実測図6(S=1/4)

摩滅が著しい。土師器壺126・127は、口縁端部を平坦に仕上げる。土師器壺底部128は摩滅が著しい。129・130は弥生時代終末の高坏で、129は脚裾部が大きく外展する。弥生時代終末の台付壺131は剥離が目立つ。132は、古墳時代初頭の東海系の製塩土器台部と考えられ、外面に煤が付着する。

第26図133～166は須恵器で、133～136が坏蓋となる。Ⅳ期の133は口径16.2cmを測り、天井部が肥厚する。無鈕の134・135はⅤ₂期に位置付けられ、134が口径14.1cm、器高2.4cmを、135が口径15.6cm、器高2.1cmを測る。134は口縁端部を折り曲げるのに対して、135は簡略に長くひきのばす他、135は重ね焼き痕から身とセットで焼成したと考えられる。136は内面に薄い墨痕が残し、転用碗の可能性をもつ。

第27図137～149は有台坏で、142・143、145～147、149がⅤ₁期に位置付けられる。137は製作時のドベ(ヌタ)が目立つ。139は、外寄りに扁平な台部を貼り付け、底部外面に記された墨書は「女」以外には判読できない。胎土は南加賀窯跡群の特徴を示し、Ⅴ₁期に位置付けられる。140は生焼けで、141は摩滅が著しい。142は口径16.0cm、器高6.5cmを測り、体部はロクロひだが目立つ。143は破片化後に被熱する。145の台部は、坏部と異なる粘土を用いる。147の胎土は鳥屋窯跡群産の特徴を示し、148は生焼けのため摩滅する。149は台部を内寄りに張り付け、使用に伴い摩耗する。

150～163は無台坏で、150～152がⅤ₁期、153～160がⅤ₂期に位置付けられる。150～152は生焼けに近い。151は口縁端部が内湾気味であるのに対して、152は口縁端部を丸く仕上げる。151が口径13.9cm、器高3.4cmを、152が口径13.3cm、器高3.3cmを測る。153・154は口径約12.8cm、器高3cm強を測り、153には混和剤として8mm大の石英が混ざる。155は口径12.3cm、器高3.3cmを測り、摩滅が著しい。156・157は、器高の低下に伴い扁平な印象を受ける。底部片158～160のうち、159・160は体部が大きく外傾するため、塊形に近い。161の底部外面の墨書は「正」の可能性が高く、本遺跡で多出する「正月」を記したと考えられる。162の墨書は、判読できない。163は無台杯2個体の溶着片である。甕等の置き台に転用した破片と考えられ、甕等に溶着したまま、本遺跡に持ち込まれた可能性が高い。164～166は、Ⅴ₂～Ⅴ₁期の無台盤である。164は内外面とも使用に伴い平滑で、底部外面に記された墨書は判読できない。165は口径13.8cm、器高3.1cmを測る。166は生焼けで、摩滅が著しい。

167～172はロクロ土師器である。内黒の有台碗167は、太い台部が外展する。有台碗168は、被熱のため変色する。無台碗169は体部下端にケズリ調整を加え、170・171は底部台状を呈する。無台皿172は口径13.8cm、器高2.4cmを測り、底部外面は摩滅が著しい。173～183は須恵器壺・瓶類である。短頸壺173は口径21.6cmを測り、肩部を沈線で加飾する。胎土は、双耳瓶174とともに金沢末窯跡群産の特徴を示す。瓶174・175は、自然軸が溶着する。瓶176は口径12.1cmを測り、小片のため傾きに不安を残す。古相の177は、断面方形の台部が大きく外展する。178は底部内面全体に自然軸が付着する。瓶179～181は、外面を板状工具で整形する。小型瓶182は底径3.6cmを測り、底部外面に糸切り痕を残す。183とともに胎土に砂粒がほとんど混ざらない。184・185は鉢で、184が口径約24cm、185が同約30cmを測る。

第28図186～188は須恵器壺で、186が口径約23cmを測る。胴部片187・188は、内外面とも平行タタキの原体を用いて整形する。189～199はロクロ成形の土師器で、189・190が甕、191～197が小甕となる。189の胴部は寸胴形を呈し、190の口縁端部は内湾する。小甕191～196は底径6～8cm弱を測り、底部を回転糸切りで切り離す。小甕197は口径11.8cmを測り、摩滅が目立つ。埴198・199は口径40cm前後を測り、口縁端部を上方にひきのばす。199は焼成がよく、硬質な質感をもつ。200～202は土師器土錘で、201・202は円柱形を呈する。完形の202は孔径が大きく、上下端を水平に切断する。15世紀代の瀬戸灰軸平埴203は、底部外面に放射状の墨書を行う。204は珠洲焼鉢片である。205は弥生時代の両刃石斧基部で、硬質の砂岩を用いる。剥片206は硬質の暗緑色凝灰岩、敲石207は火山礫凝灰岩を、それぞれ用いる。砥石208は軽石凝灰岩製で、1ヶ所に刃物痕が残る。鉄滓片209・210は、重さ約47g、約27gをそれぞれ量る。

※ []は取得品番号を示す。

発掘調査 区画番号	出土遺構	構造部	構造部 種別	口縁 径(φ)	底径 (φ)	高さ (φ)	内面塗色	外面塗色	胎土分類	粒度	内面遺物	外面遺物	遺存品	備考	時期	写真 番号
21	7A15B112 (P107)	遺構	有母坑	16.0	-	(5.0) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-347
21	7A15B112 (P107)	遺構	有母坑	8.0	-	(1.6) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径1306	外黒酸化	Ⅴa	D-126
21	7A15B112 (P107)	ロクロ土器	土器	-	-	(7.4) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	灰	灰	小片	全体黒酸化	-	D-066
21	7A15B113 (P113)	遺構	有母坑	11.6	-	(3.0) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴ・Ⅵ	D-154
21	7A15B113 (P116)	遺構	有母坑	5.8	-	(2.8) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径142	外黒酸化	Ⅴa	D-125
21	7A15B114 (P141)	ロクロ土器	土器	11.8	6.2	4.7 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-082
21	7A15B114 (P141)	ロクロ土器	土器	12.6	5.4	3.9 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-003
21	7A15B114 (P141)	遺構	有母坑	7.0	-	(5.3) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-001
21	7A15B114 (P141)	遺構	有母坑	7.0	-	(2.6) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-081
21	7A15B114 (P141)	遺構	有母坑	7.6	-	(3.5) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-123
21	7A15B142	遺構	有母坑	13.2	7.0	3.9 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-204
21	7A15B142	遺構	有母坑	13.0	6.8	3.3 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-008
21	7A15B142	遺構	有母坑	12.8	7.0	3.0 底	灰	灰	A-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-009
21	7A15B142	遺構	有母坑	6.9	-	(6.6) 底	灰	灰	F-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-004
21	7A15B149	遺構	有母坑	10.6	-	(5.2) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-005
21	7A15B151	遺構	有母坑	11.6	-	(3.7) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-068
21	7A15P301 (遺1遺2)	遺構	有母坑	11.6	-	(2.4) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-225
21	7A15P302	遺構	有母坑	12.8	-	(2.6) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-015
21	7A15P302	遺構	有母坑	7.1	-	(1.7) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-060
21	7A15P307	遺構	有母坑	12.8	7.2	3.9 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-006
21	7A15P307	遺構	有母坑	13.2	7.4	2.9 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-064
21	7A15P307	遺構	有母坑	23.8	-	(3.4) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-104
22	7A15P307	遺構	有母坑	(14.46)	(12.21)	-	-	-	-	-	-	-	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-104
21	7A15P316	遺構	有母坑	9.6	-	(3.0) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-055
24	7A15D52	遺構	有母坑	14.4	-	(1.9) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-044
24	7A15D52	遺構	有母坑	7.0	-	(1.5) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-044
24	7A15D56	遺構	有母坑	-	-	(5.2) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-000
24	7A15D56	遺構	有母坑	-	-	(3.1) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-019
24	7A15D71	遺構	有母坑	11.7	-	(2.7) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-048
24	7A15D71	遺構	有母坑	11.7	-	(5.0) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-348
24	7A15D72	遺構	有母坑	8.6	-	(1.6) 底	灰	灰	D-b	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-049
24	7A15D84	遺構	有母坑	6.8	-	(1.5) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-211
24	7A15D85	遺構	有母坑	7.8	-	(3.3) 底	灰	灰	S-M-L	濃緑	ロクロナ子	ロクロナ子	口径306	外黒酸化	Ⅴa	D-131

第13表 A区1面出土土器調査表

○ () には検出位置を示す。

検出 層番号	検出 層	出土遺構	種類	形状	口径 (cm)	深さ (cm)	内底色	外底色	土質の強	構成	内面装飾	外面装飾	遺存率	備考	時期	位置
24 35	7A15D06	口口土器	甕	約196	-	(40)	こい色	こい色	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	全体装飾不明	Ⅴ	D-102
24 36	7A15D06	土器	土器	-	(35)	浅黄	浅黄	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	全体装飾不明	Ⅴ	D-103	
24 38	7A15D091	土器	甕	-	約9	(18)	こい色	こい色	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口30	縁部装飾	Ⅴ	D-100
24 39	7A15D01	土器	有底杯	89	5.8	4.3	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	縁部装飾	Ⅴ	D-100
24 40	7A15D091	土器	有底杯	122	7.8	3.1	灰白	灰黄	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-101
24 41	7A15D017、黄土	土器	甕	-	(12.6)	黄	黄	D-b	濃	カキム、ナナ	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-208
24 42	7A15D012	土器	有底杯	150	8.4	6.0	灰白	黄	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧	Ⅴ	群-034
24 43	7A15D012	土器	有底杯	139	7.6	3.1	灰白	灰	D-b	濃	口口ナナ子、ナナ	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	口縁部内底面化粧、外底面化粧(群集型)	Ⅴ	群-034
24 44	7A15D012	土器	甕	-	(3.1)	こい色	黄	B-M	良	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	内面ヨコに付飾	Ⅴ	D-148	
24 45	7A15D017	土器	甕	204	-	(8.6)	浅黄	浅黄	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	外底面化粧、縁部装飾	Ⅴ	D-149
24 46	7A15D017	土器	小甕	-	5.0	(4.2)	こい色	黄	S-M-L	良	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	内面ヨコに、外底面化粧	Ⅴ	D-099
24 47	7A15D019	土器	有底杯	-	7.0	(1.5)	黄	こい色	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	内底面化粧、縁部装飾	Ⅴ	D-183
24 48	7A15D019	土器	小杯	-	6.4	(1.1)	こい色	こい色	S-M-L	良	装飾不明	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧(群集型)	Ⅴ	D-183
24 49	7A15D019	土器	甕	-	(2.9)	こい色	こい色	S-M-L	良	口口ナナ子、ハケ	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-185
25 50	検出層	土器	甕	約26	-	(12.3)	黄	黄	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	縁部装飾	Ⅴ	C-021
25 52	第1層	土器	甕	199	-	(4.7)	黄	黄	S-M-L	良	装飾不明	装飾不明	口口36	内底面化粧あり、縁部装飾	Ⅴ	C-016
25 53	第1層	土器	甕	154	-	(5.6)	灰白	こい色	S-M-L	良	口口ナ子、ナナ子	口口ナ子	口口36	縁部装飾	Ⅴ	C-017
25 54	検出層	土器	高杯	-	-	(4.8)	こい色	こい色	S-M-L	良	装飾不明	口口ナ子	口口36	縁部装飾	Ⅴ	C-023
25 55	検出層	土器	高杯	-	-	(4.0)	こい色	こい色	S-M-L	良	装飾不明	口口ナ子	口口36	縁部装飾	Ⅴ	C-024
25 56	検出層	土器	把	長3(4.2)	幅2.9	-	-	-	S-M-L	良	-	ナナ	-	一部に黄、縁部装飾	-	D-136
25 57	検出層	土器	片身	12.6	-	(3.0)	灰白	灰白	A-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-060
25 58	検出層	土器	片身	13.2	-	(1.7)	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	口縁部化粧	Ⅴ	D-304
25 59	検出層	土器	片身	-	幅約2.2	(2.6)	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	縁部装飾不明	Ⅴ	D-135
25 60	検出層	土器	片身	14.8	-	(1.3)	灰白	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	口縁部化粧	Ⅴ	D-301
25 61	遺構出土層	土器	片身	12.6	-	(1.8)	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	口縁部化粧	Ⅴ	D-308
25 62	検出層	土器	片身	12.6	-	(2.2)	灰白	灰白	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	口縁部化粧	Ⅴ	D-159
25 63	検出層	土器	片身	11.4	-	(2.0)	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-305
25 64	検出層	土器	有底杯	14.6	-	(3.6)	灰白	灰	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-302
25 65	検出層	土器	有底杯	-	9.0	(3.1)	灰	灰	D-b	濃	口口ナナ子、ナナ	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	内面ナナ子、縁部で黄、外底面化粧	Ⅴ	D-189
25 66	検出層	土器	有底杯	-	9.8	(3.9)	灰	黄	F-b	濃	口口ナナ子、ナナ	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧、外底に黄、口縁で黄	Ⅴ	D-309
25 67	検出層	土器	有底杯	14.8	7.8	6.8	灰	灰	X-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子、口縁へう切り	口口36	外底面化粧、縁部で黄	Ⅴ	D-344
25 68	検出層	土器	有底杯	13.6	-	(4.9)	灰白	灰白	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	縁部化粧	Ⅴ	D-341
25 69	検出層	土器	有底杯	13.8	-	(3.9)	灰	黄	D-b	濃	口口ナナ子	口口ナナ子	口口36	外底面化粧	Ⅴ	D-306

第14表 A区第1層出土器類表

○ () 内は付属品を示す。

出土位置	出土層	種 類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径色調	外径色調	胎土分類	形状	内面装飾	外面装飾	遺存数	備 考	時期	調査番号
25 70	棟出	須弥座	有台座	-	6.8 (3.4)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒17/36	内面に横溝	Ⅴ	D-056
25 71	棟出	須弥座	有台座	-	6.4 (3.0)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	外周縁に黒褐色条状(遺存品)	Ⅴ	D-113
25 72	棟出	須弥座	有台座	-	6.6 (3.7)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒18/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-304
25 73	棟出	須弥座	有台座	-	6.6 (2.5)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒14/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-305
25 74	棟出	須弥座	有台座	-	7.0 (2.8)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒13/36	台座の胎土異なる、外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-307
25 75	棟出	須弥座	有台座	15.4	-	(4.9)	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒17/36		Ⅴ	D-197
25 76	棟出	須弥座	有台座	-	7.8 (3.1)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒14/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-307
25 77	棟出	須弥座	有台座	-	7.6 (3.7)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-196
25 78	棟出	須弥座	有台座	-	6.6 (2.2)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒13/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-305
25 79	棟出	須弥座	有台座	-	6.0 (3.2)	黄灰	黄灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒15/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-305
25 80	棟出	須弥座	有台座	-	6.0 (3.4)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-199
25 81	棟出	須弥座	有台座	10.4	7.0 (3.7)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-141
25 82	棟出	須弥座	有台座	-	5.6 (1.3)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒27/36	外周縁を赤く外周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-195
25 83	棟出	須弥座	無台座	12.2	7.4 (3.3)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒12/36	口縁部黒化、外縁に赤褐色條(遺存品)	Ⅴ	D-653
25 84	棟出	須弥座	無台座	12.0	7.6 (2.8)	灰白	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒12/36	口縁部黒化	Ⅴ	D-143
25 85	棟出	須弥座	無台座	12.0	-	(3.6)	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒12/36	口縁部黒化	Ⅴ	D-300
25 86	棟出	須弥座	無台座	-	6.4 (2.0)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒30/36	内部に黒褐色条状	Ⅴ	D-190
25 87	棟出	須弥座	無台座	-	-	(0.6)	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒30/36	内部に黒褐色条状	Ⅴ	遺-013
25 88	上層部	須弥座	無台座	13.8	9.0 (2.3)	灰白	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-110
25 89	棟出	須弥座	無台座	13.8	9.0 (2.6)	灰白	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-145
25 90	上層部	須弥座	有台座	14.8	-	(3.3)	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-303
25 91	上層部	須弥座	無台座	11.6	7.0 (2.4)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-303
25 92	棟出	須弥座	鉢少	18.9	-	(6.2)	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-162
25 93	棟出	須弥座	小鉢	11.8	6.8 (4.7)	灰黄	灰黄	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-078
25 94	棟出	須弥座	小鉢	8.6	6.0 (3.0)	灰	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒19/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-187
25 95	棟出	須弥座	有台座	-	7.0 (1.9)	黄	灰白	S-M-L	球状	不明	不明	黒30/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-128
25 96	棟出	須弥座	小鉢	-	6.6 (1.6)	黄	黄	S-M-L	球状	不明	不明	黒30/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-100
25 97	棟出	須弥座	小鉢	-	5.0 (1.4)	こい	こい	S-M-L	球状	不明	不明	黒30/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-185
25 98	棟出	須弥座	小鉢	-	5.0 (2.0)	こい	こい	S-M-L	球状	不明	不明	黒30/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-309
26 99	上層部	須弥座	皿	約11.5	-	(4.2)	灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒10/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-100
26 100	棟出	須弥座	須弥座	皿	-	7.5 (6.6)	黄灰	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒10/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-309
26 101	棟出	須弥座	須弥座	皿	-	(6.8)	灰白	D-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒10/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-144
26 102	棟出	須弥座	須弥座	皿	-	10.0 (3.3)	灰	X-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒10/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-144
26 103	第1層部	須弥座	須弥座	皿	-	11.9 (3.0)	黄灰	F-b	球状	白クワ子	白クワ子	黒20/36	胎土異なる、内周縁に黒褐色条状	Ⅴ	D-074

第15表 A区第1層出土品観察表3

※ () には付属品を示す。

発掘調査 番号	出土遺構	種類	面積 (㎡)	口内 (㎡)	遺構 (㎡)	高さ (m)	内張り色	外張り色	土質	構成	内張り型	外張り型	遺存品	備考	時期	位置
26 104	柱出座	礎石	9.6	0.25	灰	(2.5)	灰	灰	D-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-147
26 105	柱出座	礎石	12.4	0.7	明瓦葺	(2.1)	明瓦葺	灰	D-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-107
26 106	柱出座	礎石	12.4	0.9	板葺	(2.4)	板葺	灰	D-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-075
26 107	柱出座	礎石	13.2	0.4	灰	(1.1)	灰	灰	D-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-142
26 108	柱出座	礎石	約2.5	約2.5	灰	(4.1)	灰	灰	A-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-068
26 109	柱出座	礎石	約2.5	約2.5	灰	(7.3)	灰	灰	D-b	漆喰	白クワ子	白クワ子	遺石30	内張り	-	D-068
26 110	柱出座	礎石	6.4	3.1	板葺	0.5	板葺	灰	S-M-L	灰	ナシ	ナシ	遺石50%、灰質土	内張り	-	D-127
26 111	柱出座	礎石	6.5	2.9	灰	0.5	灰	灰	S-M-L	灰	ナシ	ナシ	遺石約1%、灰質土	内張り	-	D-071
26 112	柱出座	礎石	6.4	2.6	灰	1.1	灰	灰	S-M	灰	ナシ	ナシ	遺石約21%	内張り	-	D-067
26 113	柱出座	礎石	4.6	2.7	灰	1.5	灰	灰	S-M-L	灰	ナシ	ナシ	遺石約20%、一部灰質	内張り	-	D-059
26 114	柱出座	礎石	6.5	2.9	灰	1.5	灰	灰	S-M-L	灰	ナシ	ナシ	遺石約1%、遺石311g	内張り	-	D-072
26 115	柱出座	礎石	6.8	1.2	灰	0.4	灰	灰	S-M-L	灰	ナシ	ナシ	一部灰質、灰質土約30%	内張り	-	D-058
26 116	柱出座	礎石	約17	約17	灰	(4.6)	灰	灰	-	漆喰	白クワ子	白クワ子	小片	内張り	-	D-069
26 117	柱出座	礎石	約17	約17	灰	(4.4)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	小片	内張り	-	D-070
26 120	調査区間	外張り	約20.5	約20.5	灰	(6.8)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%、灰質土	内張り	-	C-011
26 126	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-175
26 127	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-084
26 128	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-366
26 129	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 130	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 131	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 132	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 133	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 134	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 135	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 136	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 137	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 138	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 139	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 140	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 141	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 142	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 143	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004
26 144	調査区間	外張り	約22	約22	灰	(2.2)	灰	灰	S-M-L	灰	白クワ子	白クワ子	遺石約5%	内張り	-	D-004

第16表 A区第1面出土器類表

第2節 第1面の遺構・遺物

※ 1) 口内残存品を示す。

調査 番号	遺構 番号	出土遺構	種 類	口内 残存 品	遺構 高 (cm)	積高 (cm)	内庭色調	外庭色調	土粒子 組成	形状	内庭遺構	外庭遺構	遺存品	備 考	調査 番号	
27	145	溝渠区間溝	溝渠跡	有砂状	-	6.2 (4.3)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒17/30	上部の粘土質になる。外庭酸化	Ⅷ、 D-165	
27	146	旧井戸土	溝渠跡	有砂状	-	6.0 (3.0)	灰白	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒18/30		Ⅷ、 D-200	
27	147	旧井戸土	溝渠跡	有砂状	-	7.0 (1.7)	靑灰	靑灰	F-b	溝渠	ロクロ土子、ナシ	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	焼色重みあり、外庭酸化	Ⅷ、 D-201	
27	148	旧井戸土	溝渠跡	有砂状	-	6.4 (3.2)	灰白	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	土粒粗い、外庭やや酸化、酸化腐蝕	V-VI、 D-203	
27	149	旧井戸土	溝渠跡	有砂状	-	6.0 (1.4)	灰白	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒34/30	使用に伴う層理目立つ、外庭酸化	Ⅷ、 D-178	
27	150	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	13.7	7.3	3.4	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30 黒35/30	土粒粗い	Ⅷ、 D-111	
27	151	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	13.9	8.4	3.4	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30 黒35/30	土粒粗い	Ⅷ、 D-115	
27	152	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	13.3	7.9	3.5	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30 黒35/30	土粒粗い、内外庭酸化	Ⅷ、 D-086	
27	153	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	12.8	7.0	3.2	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、ナシ	口内3/30 黒27/30	口内酸化、最大10cmの石灰質を有	Ⅷ、 D-081	
27	154	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	12.6	7.6	3.1	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30	口内酸化に似	Ⅷ、 D-088	
27	155	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	12.3	7.3	3.5	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30	修復で酸化腐蝕	Ⅷ、 D-159	
27	156	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	12.4	7.3	2.8	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30	口内酸化腐蝕	Ⅷ、 D-087	
27	157	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	12.0	7.8	3.0	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	一部を黒汁に似、口内酸化	Ⅷ、 D-080	
27	158	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	7.0 (1.9)	灰白	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒36/30		Ⅷ、 D-181	
27	159	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	6.3 (1.6)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒27/30		Ⅷ、 D-182	
27	160	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	6.8 (1.6)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	内庭酸化、焼色重みあり	Ⅷ、 D-180	
27	161	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	-	7.6 (1.1)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	外庭酸化(口内含む)、酸化腐蝕	Ⅷ、 D-011	
27	162	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	-	6.6 (1.1)	靑	靑	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	外庭酸化、相違点あり	Ⅷ、 黒010	
27	163	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	7.2 (2.5)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	土質重なり、外庭酸化、土質重なり、土質重なり	Ⅷ、 D-161	
27	164	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	11.2 (1.1)	靑灰	靑灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	黒30/30	内外庭やや、外庭酸化、相違点あり	V-VI、 黒029	
27	165	溝渠区間溝	溝渠跡	無砂状	13.8	9.3	3.1	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子、図柄へう切り	口内3/30	外庭酸化	V-VI、 D-167	
27	166	旧井戸土	溝渠跡	無砂状	-	9.4 (1.3)	靑	靑	D-b	溝渠	黒腐	黒腐不明	黒30/30	酸化腐蝕	V-VI、 D-121	
27	167	溝渠区間溝	ロクロ土子	有砂状	-	8.4 (1.8)	こがれ S、M、L	こがれ S、M、L	黒3 S、M、L	黒腐	ロクロ土子	黒腐不明	黒30/30	内外庭色相違、酸化腐蝕	Ⅷ、 D-189	
27	168	旧井戸土	溝渠跡	有砂状	-	6.9 (1.6)	こがれ S、M、L	こがれ S、M、L	黒3 S、M、L	ロクロ土子	ロクロ土子	図柄強化(図柄なし)	黒30/30	焼色の土が変色、保存層	Ⅷ、 D-157	
27	169	溝渠区間溝	ロクロ土子	有砂状	-	6.1 (1.9)	こがれ S、M、L	こがれ S、M、L	黒3 S、M、L	黒腐不明	ロクロ土子、ケエリ	ロクロ土子	黒35/30	外庭酸化、内庭、外庭酸化	Ⅷ、 D-116	
27	170	溝渠区間溝	ロクロ土子	無砂状	-	6.2 (1.5)	こがれ S、M、L	こがれ S、M、L	黒3 S、M、L	黒腐不明	黒腐不明	黒腐不明	黒30/30	酸化腐蝕	Ⅷ、 D-170	
27	171	赤土	土粒層	無砂状	-	5.1 (1.5)	赤褐色	赤褐色	S	黒腐不明	黒腐不明	黒腐不明	黒35/30	酸化腐蝕	Ⅷ、 D-109	
27	172	溝渠区間溝	ロクロ土子	無砂状	13.8	7.4	2.4	こがれ S	こがれ S	黒腐不明	ロクロ土子	ロクロ土子	口内3/30	黒腐不明	Ⅷ、 D-082	
27	173	溝渠区間溝	土粒層	短層状	21.6	-	黒9/10 灰	こがれ S	黒3 S	黒腐不明	ロクロ土子	ロクロ土子	口内3/30	黒腐不明	黒腐不明	V-VI 黒019
27	174	赤土	溝渠跡	短層状	-	-	(7.1) 灰白	灰白	C-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子	黒30/30	内外庭色相違、外庭酸化、外庭酸化	V-VI D-210	
27	175	赤土	溝渠跡	短層状	-	-	(7.6) 灰白	灰白	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子	黒30/30	内外庭色相違、外庭酸化、外庭酸化	V-VI D-210	
27	176	旧井戸土	溝渠跡	短層状	12.1	-	(4.4) 靑灰	靑灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子	口内3/30	正位腐蝕、酸化腐蝕、外庭酸化、外庭酸化	V-VI D-077	
27	177	赤土	溝渠跡	短層状	-	9.8 (3.6)	灰	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子	ロクロ土子	黒30/30	内外庭、外庭酸化	Ⅷ、 D-159	
27	178	赤土	溝渠跡	短層状	-	15.0 (2.1)	灰白	灰	D-b	溝渠	ロクロ土子、ナシ	ロクロ土子、ナシ	黒30/30	内外庭色相違	V-VI D-153	

第17表 A区第1堀出土土器観察表5

※ 1) 出展位置を指示。

調査 番号	遺構 名称	出土遺構	種類	規格	口径 (cm)	高さ (cm)	器底 (cm)	内底色調	外底色調	胎土分類	胎底	内底形状	外底形状	外底調整	遺存率	備	時期	調査 位置
27 179	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約116	116	64	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-166	
27 180	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約110	110	62	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-166	
27 181	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約94	94	75	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-162	
27 182	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約36	36	55	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-166	
27 183	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約130	130	62	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-172	
27 184	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-164	
27 185	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約30	30	42	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-079	
28 186	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 187	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約22	22	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 188	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約20	20	30	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 189	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 190	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約20	20	30	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 191	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 192	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 193	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約20	20	30	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 194	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 195	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 196	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約20	20	30	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 197	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 198	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 199	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 200	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 201	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 202	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 203	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	
28 204	埋藏窯	埋藏窯	瓦	約24	24	33	反	灰	灰	D-b	遺構	ロクロノズリ、ナズ	ロクロノズリ、ナズ	遺構	外底調整	～W	D-206	

第18表 A区新1面出土器類表6

※()は残存量を示す。

検出 番号	遺物 番号	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
21	8	7A1SD114 (P141)	砥石	(4.4)	3.2	3.1	(62.7)	凝灰岩	灰白色。3側面を研ぎに使用	石22
24	37	7A1SD88	台石	(13.0)	(10.7)	(8.3)	(1543.0)	花崗岩か	灰白色。一部研ぎで変色	石11
26	118	検出面	石核	3.9	3.8	2.9	48.3	鉄石英	深赤色	石13
26	119	検出面	剥片	1.9	1.3	1.1	2.6	鉄石英	深赤色	石12
26	120	検出面	砥石	11.6	9.0	7.2	932.9	安山岩	完形。灰白色。2ヶ所に顕著な 敲打痕	石14
26	121	検出面	砥石	(6.8)	(5.6)	(3.6)	(181.4)	花崗岩か		石16
26	122	検出面	砥石	4.9	3.7	2.9	8.0	軽石凝灰岩	完形。灰白色。1面を除き平淺	石21
26	123	検出面	砥石	(6.7)	(5.2)	(2.9)	(99.7)	凝灰岩	浅黄褐色。諱用。残存3側面を 研ぎに使用。1面に刀物痕	石15
28	205	黄土	陶瓦石片	(5.9)	(4.7)	(3.7)	(147.5)	硬質砂岩	明緑灰色。器面平淺	石10
28	206	田耕作土	剥片	2.6	2.0	0.5	3.8	緑色凝灰岩	暗緑色。硬質	石23
28	207	調査区側溝	砥石	(15.2)	(7.5)	(6.1)	(668.8)	火山輝岩	淡緑灰色	石07
28	208	調査区側溝	砥石	6.1	4.6	2.8	15.4	軽石凝灰岩	完形。灰白色。ほぼ全面を研ぎ に使用。刀物痕1ヶ所	石08

第19表 A区第1面出土石器・石製品観察表

※()は残存量を示す。

検出 番号	遺物 番号	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考	実測 番号
26	124	検出面	鉄滓	7.8	4.8	3.7	177.1		金属2
28	209	田耕作土	鉄滓	5.5	3.7	2.1	47.3		金属3
28	210	田耕作土	鉄滓	3.8	2.6	2.4	27.1		金属1

第20表 A区第1面出土金属製品観察表

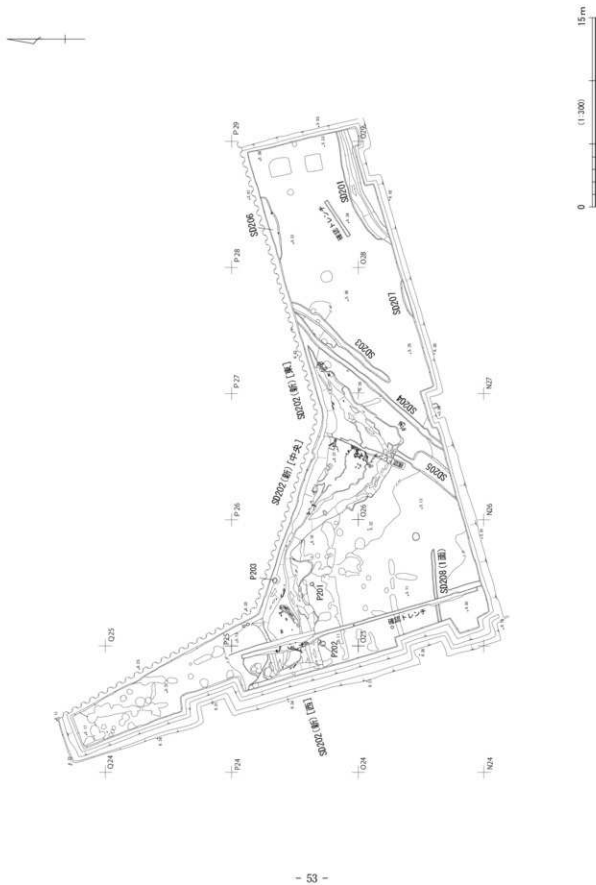
第3節 第2面の遺構と遺物

第2面は、古墳時代前期を下限とした集落縁辺域と考えられる。遺構検出面の標高は、最も高い調査区東北端(P-28区)が5.36mを、最も低い調査区西南端(O-25区)が4.92mを、調査区北端(R-24区)が5.17mをそれぞれ測り、第1面から3～16cm標高が下がる。北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる地勢は、第1面と同様である。遺物包含層は、第1面ベース土の淡褐灰～浅黄褐色土(第7区土層断面e第10層、同g第6層等)を、ベース土は淡黄灰・灰黄～明黄褐色粘質土(同区土層断面e第10層、同g第7層等)を基調とする。また、遺構番号は、200番台を付している。

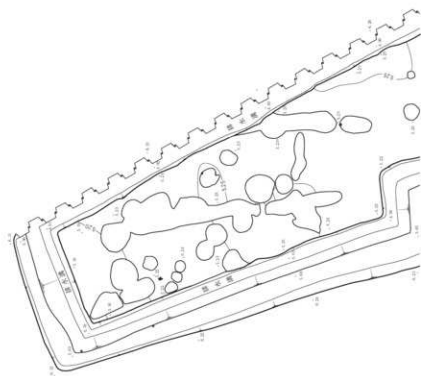
調査の結果、第5次調査C区下層SD5501とつながる自然流路(7A2SD202)、並走する溝(7A2SD203～205)等の溝7条、ピット3基を検出した(第29～35区)。蛇行しながら西側に流下する自然流路(以下、SD202(新))は、土層断面から大きく4回の流路に復元可能で、集落域から流れ込んだ大量の弥生土器、土師器、木器・木製品、自然木等が出土した。またSD202(新)とSD203～205は一部で重複し、SD202(新)とSD205の切りあい関係はSD202が新しく位置付けられる。第4節で述べる第3面出土遺物が古墳時代前期を下限とすることから、第3面から第2面への移行、第2面の廃絶(SD202(新)の記蓋)は比較的短期間のうちに進んだようだ。なお、SD208は、第1面に属する耕作に伴う小溝である。以下、遺構番号冒頭に付した「7A2」は省略する。

1 ピット (遺構: 第31-36区)

P-25区SD202(新)に近接して点在する3基のピットを検出した。いずれも径25～40cm、深さ15cm



第29図 A区第2面主要遺構配置図(S=1/300)



第30図 A区第2面遺構平面図1 (S=1/100)



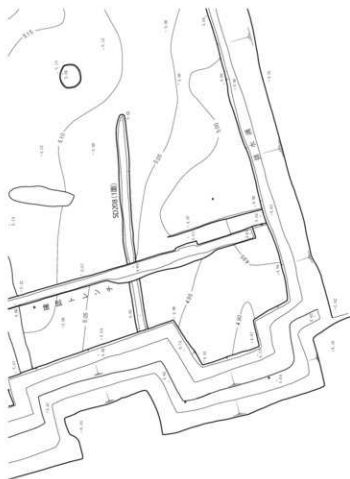


第31図 A区第2面遺構平面図2 (S=1/100)

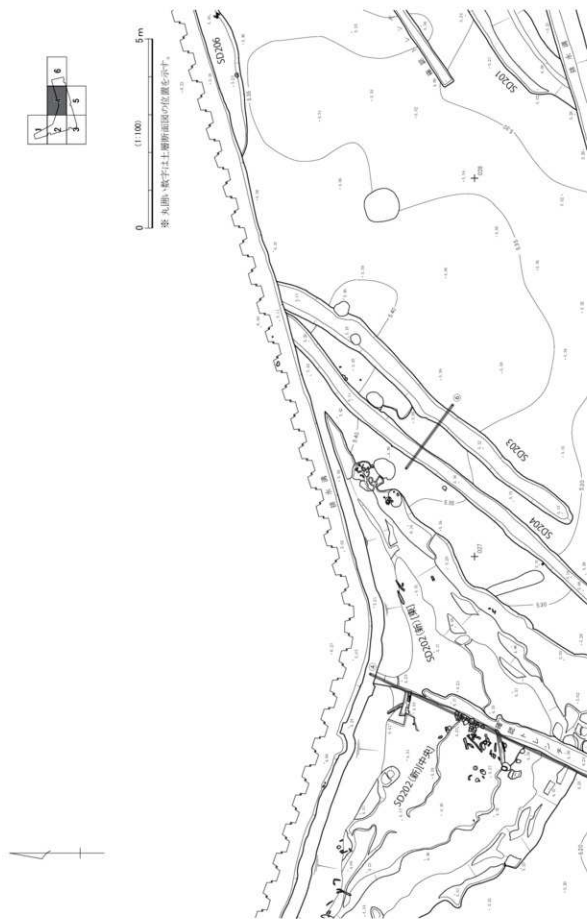


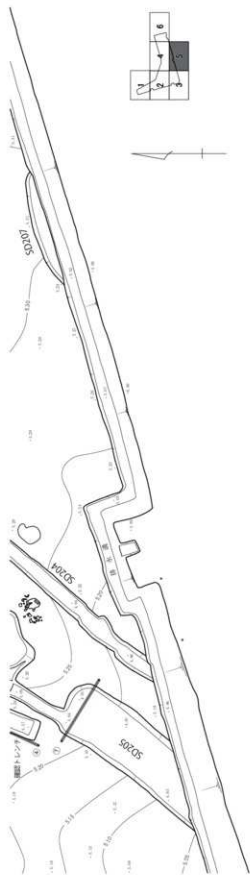
0 1:100 5m

※丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。



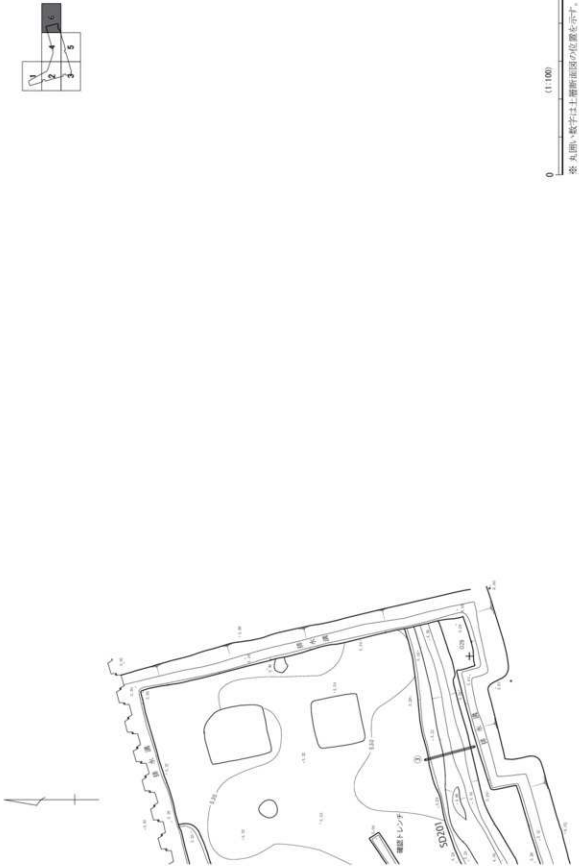
第32図 A区第2面遺構平面図3 (S=1/100)





第34図 A区第2面遺構平面図5 (S=1/100)

0 (1:100) 5m
 ※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。



前後を測り、覆土は暗褐～暗灰褐色土を基調とする。明確な建物柱穴となりうるピットはなく、少量の遺物が出土したにとどまる。遺構の切り合い関係からP203は、SD202(新)より新しく位置付けられる。

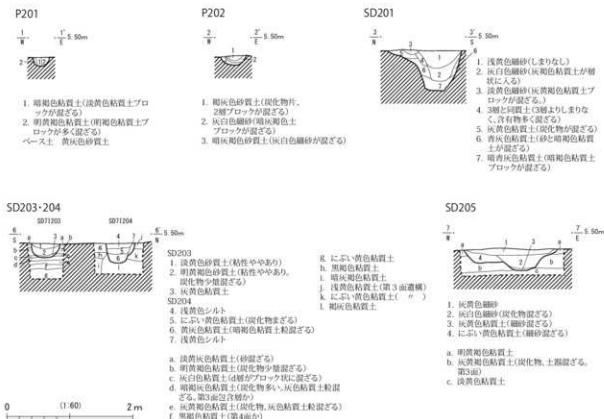
2 溝(遺構:36～38図、第21表、遺物:第39～61図、第22～40表)

地勢に応じて東方向から西方向に流下する自然流路(SD202(新)、SD201・207、SD206)と、直線的に並走する溝群(SD203～205)に分かれる。各溝の規模等は、第21表に記しており、SD208は第1面に属する。**SD201** O・P-28・29区で検出した自然流路で、屈曲しながら南西方向に流下する。上幅93～130cm、深さ62～78cmを測り、断面形状は比較的しっかりとした略逆台形を呈する。覆土は暗青灰色～灰黄色粘質土が北方向から流入した後、水流に伴い淡黄～灰白色を基調とする細砂が堆積する。他遺構との切り合い関係はなく、SD207が同一溝の可能性を残す。少量の遺物が出土した。

SD202(新) O-26・27区、P-24～26区を蛇行する自然流路で、第5次調査C区下層SD5501につながる。現地調査時は、東・中央・西の3エリアに分割して、記録・遺物取り上げ作業を実施している(第29・38図)。累積した溝の最終的な規模は、上幅3.9m以上、深さ86～126cmを測る。流路は、土層断面図(第37図)のとおり、短期間に土砂堆積・流出を繰り返す流路1～4に細分可能である。各流路の層位は、ともに上位層から①上層:灰～浅黄色を基調とする細砂、②下層:明茶灰色を基調とする砂(腐植層がラミナ状に混ざる)、③最下層:暗黄灰色を基調とする粗砂に分けられる。また、遺物は、下層で木製品、未加工の自然木が、最下層で土器、木製品が多く出土する傾向を示し、4回の流路出土遺物の下限時期には大きな差をみだしにくく、比較的短期間で変遷したと考えられる。各層位で、特に土器が集中する箇所と取り上げ時の注記を第38図に示した。なお、後述する第3面現地調査では同一地点で重複して検出した自然流路を「第3面SD202」「SD202(第2面)」とするが、本報告ではSD202(古)に統一している。

遺物は、弥生時代中期、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、木器・木製品、石器・石製品、未加工の流木が多量に出土、弥生時代終末～古墳時代前期初頭の遺物が主体を占める(第39～60図)。また、縄文土器片が数点出土している。遺物取り上げ時の層位(上層、中層、下層、最下層)が、前述4回の流路に対応すると理解し、以下では上位層から順に種別・器種ごとに述べる。

第39図211～第43図334は、上層から出土した。211～271は甕で、もっとも新しい271は古墳時代前期後半と考えられる。くの字口縁の211・212は口径約16cmを測り、弥生時代後期前半に位置付けられる。擬凹線をもつ有段口縁の213～241は、おおむね弥生時代終末に位置付けられ、214～219は口縁部の外傾具合が比較的弱い。213・216が彫りの深い擬凹線を施し、217～219は摩滅が目立つ。220～241は、口縁端部で大きく外傾する。222は、口縁帯下半のみに擬凹線を施す。223は口径18.8cmを測り、彫りの深い擬凹線を施す。228は口径17.5cmを測り、胴部の張りが弱い。229～231は摩滅が目立つ。232は口径16.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。233～236は摩滅が目立ち、235の擬凹線はほとんどみえない。238は口径14.8cm、器高17.6cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。240は擬凹線が乱れる。無文有段口縁の242～254は、242が弥生時代後期後半、243～250がおおむね弥生時代終末、251～254が古墳時代前期初頭に位置付けられる。242は口径18.0cmを測り、口縁部は緩やかに外傾する。243は口径16.0cm、器高26.7cmを測り、口縁部は剝離のため器厚を減ずる。245の胴部内面は、ハケ調整の後にケズリ調整を加える。248の胴部外面は、ヘラ状工具の接触痕を残し、煤の付着具合で2条のカゴ目痕(幅約0.5cm)が確認できる(写真図版17)。ゆがみをもつ249は、口径17.9cm、器高25.9cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。251は、口縁部内面の屈曲が弱い。252は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。253は口径14.2cmを測り、254は各部の調整が雑である。255～259はタタキ整形の甕で、胴部内面をナデ調整で仕上げる。タタキ整形の甕については、本遺跡が北加賀でも北側に位置することから古墳時代前期初頭に位置付けた。255は口径16.7cmを測り、



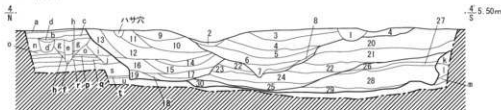
第36図 A区第2面遺構土層断面図1 (S=1/60)

遺構名	グリッド	規模 (cm)		主軸方位	土色	性格	備考
		長さ	幅				
7A2SD201	O-P-28-29	960~	93~130	62~78	N-50~70° E	第36図土層3	自然発露
7A2SD202 (新)	O-26-27, P-24~26	-	390~	86~126	-	第37図	自然発露 蛇行し西側に流下
7A2SD203	O-P-27	990~	44~78	15~24	N-約40° E	第36図土層6	区画溝か SD204・205と並行
7A2SD204	O-26-27, P-27	1560~	38~64	19~30	N-約40° E	第36図土層6	区画溝か SD203・205と並行
7A2SD205	O-26	525~	140~152	15~34	N-約40° E	第36図土層7	区画溝か SD203・204と並行、SD202と接続か
7A2SD206	P-28	518~	78~	10~44	-	浅黄褐色粘質土	不明 調査区外北側に延びる
7A2SD207	O-27	315~	42~	12~15	-	浅黄褐色粘質土	不明 調査区外南側に延びる
7A2SD208	O-25	275~	24~30	7~19	N-65° E	暗褐色粘質土	耕作溝 第1面遺構

第21表 A区第2面遺構概一覽表

口縁部が直線的に外傾する。257・258は、球胴形を呈する。257は口縁端部を丸く仕上げ、258は煮炊き痕を良好に残す。259は底部台状を呈する。くの字口縁の260~271は、古墳時代前期に位置付けられる。260・261は口縁端部を平坦に仕上げ、煮炊き痕を良好に残す。260は、胎土中に砂粒が多く混ざる。261は、胴部外面のナデ調整に板状工具を用いる。大型の262は口径25.4cmを測り、器内は比較的薄い。263~265は、頸部で明瞭に屈曲する。263の胴部は、球形を呈する。266は口径16.6cmを測り、頸部~口縁部はなだらかに移行する。268は、胴部外面に粗いハケ調整が残る。269は、胴部外面下半に上半とは異なるハケ原体を用いる。丸底の271は口径14.7cm、器高24.7cmを測り、整形時のゆがみが目立つ。272~277は口径11cm以下の小甕で、272が弥生時代後期、その他が古墳時代前期に位置付けられる。272は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。有段口縁・平底の273は、口径10.0cm、器高9.8cmを測る。有段口縁の274は、

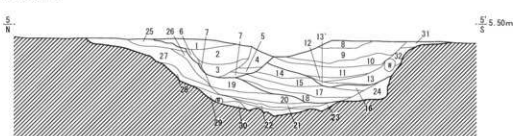
SD202(新東)



1. 灰白色細砂(淡灰色粘質土ブロック状になる)
 2. 灰白色細砂(同灰色粘質土がパッチ状に混ざる)
 - 【遺跡1】(3-6層:上層,16層:下層,18層:最下層)
 3. 浅黄色粘質土(粗砂多く混ざる)
 4. 浅黄色細砂(灰白色細砂が層状に入る)
 5. 灰白色細砂(1層より薄い,灰色細砂が層状に入る,炭化物混ざる)
 6. 灰色細砂(多くの炭化物や,灰褐色粘質土層が薄い層状に入る)
 7. 灰オリーブ色粘質土(粗砂,少量の炭化物が混ざる)
 8. 暗灰色細砂(灰白色細砂が層状に入る)
 - 【遺跡2】(9-15層:上層,16-17層:下層,18層:最下層)
 9. 1層と同色土(暗褐色粘質土ブロックと細砂が混ざる)
 10. 2層と同色同質土(灰白色細砂が薄い層状に入る)
 11. 灰白色細砂(1層より薄い,黄白色シルトが混ざる)
 12. 5層と同色同質土(白色細砂と少量の炭化物が混ざる)
 13. 11層と同色シルト(白色細砂が薄い層状に少量入る)
 14. 炭灰シルト(白色細砂が混ざる)
 15. 暗灰色粘質土(層状の灰オリーブ細砂,少量の炭化物が層状に入る)
 16. 青灰色砂と暗灰色シルトの互層(麻織土,木片,炭化物が混ざる)
 17. 16層と同色同質土(16層より木片多く,砂粗い)
 18. 青灰色粘質土(17層より粗い,木片多く混ざる)
 19. 灰色粘質土(灰オリーブ砂が層状に入る)
 - 【遺跡3】(20-23層:上層,24層:下層,25層:最下層)
 20. 浅黄色細砂(白色細砂が層状に入る)
 21. 灰白色細砂(5層と同色・同質土,5層よりやや砂粗い)
 22. 灰色細砂(6層より粗い,白色細砂と炭化物少量混ざる)
 23. 青灰色細砂(暗灰色シルト,木片,炭化物が混ざる)
 24. 灰オリーブ色砂と木片・炭化物が混ざる暗灰色シルトの互層(木片多く,粗砂が混ざる)
 25. 暗緑灰色粗砂(非常に多くの木片が混ざる)
 - 【遺跡4】(26層:上層,27-28層:下層,29-30層:最下層)
 26. 22層と同色・同質土(22層より炭化物多く混ざる)
 27. 灰オリーブ色砂(暗灰色シルトが層状に入る)
 28. 暗褐色細砂(木片と青灰色砂が混ざる)
 29. 暗緑灰色粗砂(25層より粗い,非常に多い土器片・木片が混ざる)
 30. 黒灰色粘土(淡青灰色粘土と炭化物が混ざる)
- ベース
- a. 灰黄色粘質土(炭化物と砂が混ざる)
 - b. 灰白色砂質土
 - c. 灰色粘質土(砂と炭化物が混ざる)
 - d. 浅黄色砂質土
 - e. 淡灰色粘質土(しまりやや粗い)
 - f. 暗灰色粘質土(浅黄色粘質土ブロックと炭化物が混ざる)
 - g. 細かい黄灰色粘質土(浅黄色粘質土ブロックと白色細砂が少量混ざる)
 - h. 灰色粘質土
 - i. 浅黄色細砂(淡青灰色砂質土ブロックが混ざる)
 - j. 灰白色細砂
 - k. 灰色粘質土(白色砂と炭化物が少量混ざる)
 - l. 暗灰色細砂(木片が混ざる)
 - m. 暗褐色細砂(木片が多く混ざる)
 - n. 細かい灰黄色粘質土(炭化物が混ざる)
 - o. 細かい灰色粘質土(炭化物が混ざる)
 - p. 暗灰色粘質土(炭化物が多く混ざる)
 - q. 細かい暗灰色粘質土(灰黄色粘質土が混ざる)
 - r. 粗い同色・同質土
 - s. 黒灰色粘質土(炭化物が混ざる)
 - t. 黒褐色粘質土(層がパッチ状に多く混ざる)
 - u. 淡緑灰色粘質土

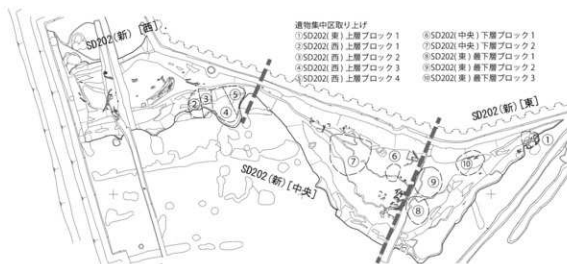
0 (1:60) 3m

SD202(新西)



1. 浅黄色粘質土(東セク3層に対応)
2. 浅黄色細砂(東セク4層に対応)
3. 灰白色細砂(白色細砂が層状に入る)
4. 浅黄色細砂
5. 灰白色細砂(東セク5層に対応,やや黄色がかる)
6. 灰白色細砂(暗褐色粘質土がブロック状に混ざる)
7. 灰色細砂(東セク6層に対応,炭化物が若干少ない)
- 【遺跡2】
8. 浅黄色粘質土(灰白色細砂が混ざる)
9. 浅黄色細砂(東セク10層に対応,より粘性強い)
10. 灰白色細砂(東セク11層に対応)
11. 灰白色細砂(東セク12層に対応)
12. 暗灰色粘質土(東セク15層に対応)
13. 青灰色砂と暗灰色シルトの互層(東セク16層に対応)
14. 青灰色砂と暗灰色シルトの互層(東セク17層に対応)
- 【遺跡3】
15. 灰色粘質土(東セク22層に対応,より白色砂が層状)
16. 青灰色細砂(東セク23層に対応)
17. 灰オリーブ色砂と木片・炭化物が混ざる暗灰色シルトの交互層(東セク24層に対応)
18. 暗緑灰色粗砂(東セク25層に対応,より粗砂が混ざる)
- 【遺跡4】
19. 灰オリーブ色砂(東セク27層に対応)
20. 青灰色砂(木片が多量に混ざる)
21. 青灰色砂(20層より粗い,多くの木片,粗砂,土器混ざる)
22. 暗褐色細砂(木片,炭化物,土器が混ざる)
23. 暗青灰色粗砂(木片,炭化物,土器が非常に多く混ざる,黄灰色粘質土と青灰色砂が混ざる)
24. 青灰色細砂(暗灰色シルト,麻織土が少量混ざる)
25. 暗黄色細砂(炭化物,土器が混ざる)
26. 暗褐色粘質土(炭化物,土器,灰白色細砂が混ざる)
27. 暗褐色粘質土(炭化物,土器,白色細砂が混ざる)
28. 灰白色細砂(暗褐色粘質土が混ざる)
29. 暗緑灰色粗砂(非常に多くの木片,土器が混ざる)
30. 暗褐色粘質土(粗砂が混ざる)
31. 黄褐色粘質土
32. 暗褐色粘質土(砂と少量の炭化物が混ざる)

第37図 A区第2面遺構土層断面図2(S=1/60)

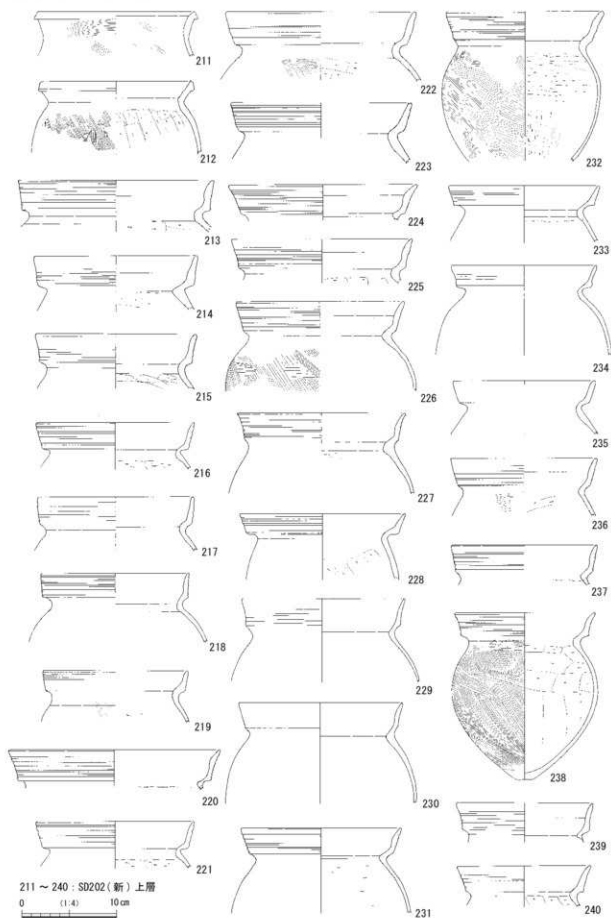


第38図 A区第2面SD202(新)遺物集中箇所取り上げ位置図(S=1/200)

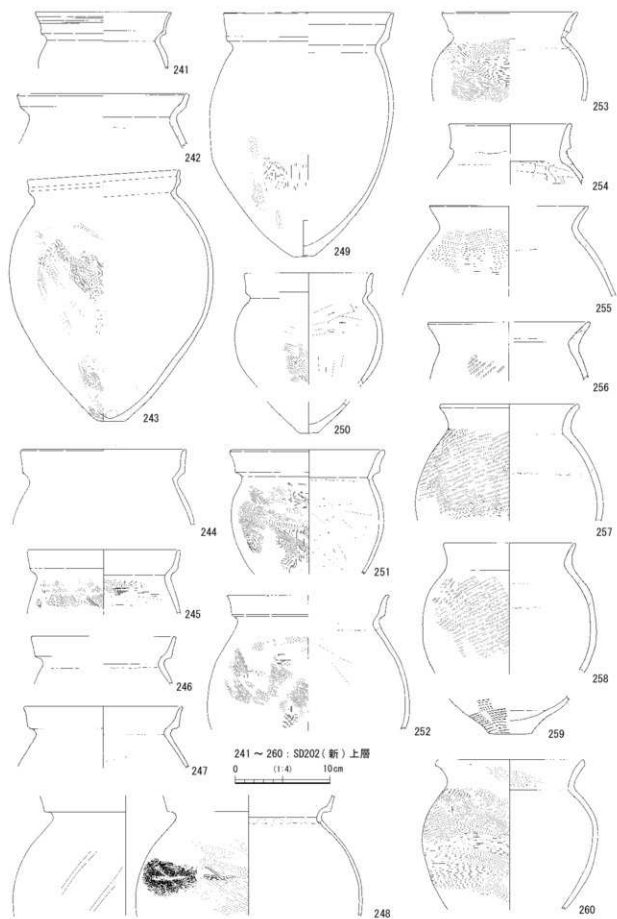
煮炊き痕を良好に残す。275・276は平底で、276の底部は台状を呈する。277は、口縁部が短く外傾する。

第41図278～第42図292は、壺類である。厚い底部片278が弥生時代中期後半に、279～284が弥生時代後期に位置付けられる。直口壺279の口縁部は、先細りながら小さく外反する。短頸の281は、口径15.7cmを測る。282・283は、台付細頸壺である。282は口径8.8cm、器高22.7cmを測り、摩滅のため調整は判然としない。外面赤彩の283は、胴部中に隆帯を貼り付ける。有段口縁の284は弥生時代終末、285～288は古墳時代前期初頭に位置付けられる。二重口縁の285は口径13.2cmを測り、内面にミガキ調整を施す。286・287は、胎土の類似性から同一個体と考えられる。286は口径11.5cmを測り、口縁部が長く立ちあがる。球形の288は、胴部両面にハケ調整を施した後、外面に粗いミガキ調整を加える。小型台付壺289～292は、弥生時代終末頃に位置付けられる。289が口径9.4cm、290が口径9.9cm、器高15.2cmを測る。

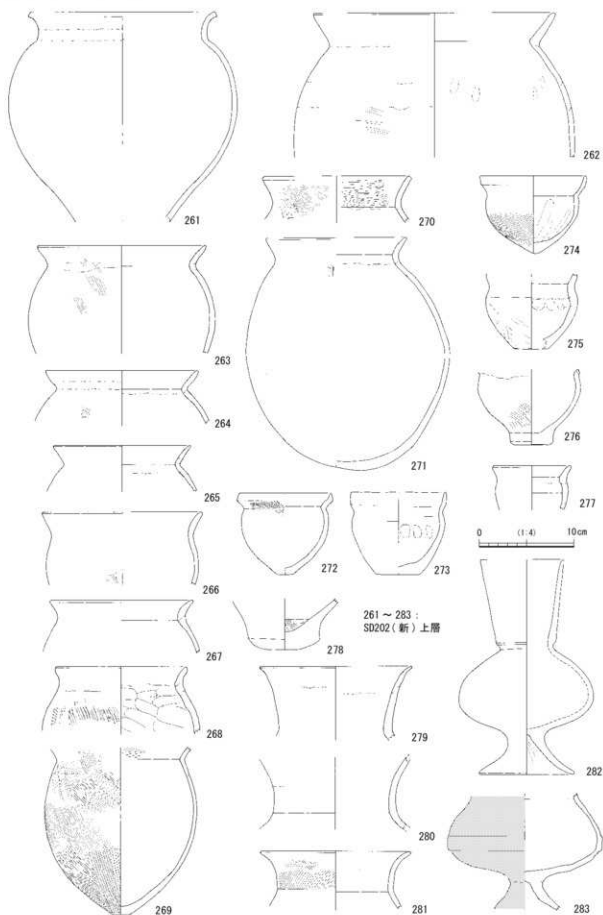
第42図293～304は高坏で、293・294が弥生時代後期後半、295・296・298～300が終末、297・301～304が古墳時代前期初頭に位置付けられる。293・294は外面を赤彩、293が刺突文を施した突帯と2孔一對の透かし孔で、294が4条の沈線文と透かし孔で、それぞれ加飾する。295は、内外面ともミガキ調整が残る。296は口径14.6cmを測り、外反する口縁部は被熱する。東海系の297は口径19.8cmを測り、内面中央を突出気味に仕上げる。摩滅のため、調整は判然としない。298は煤の付着状況から、蓋に転用したと考えられる。300は坏型高坏の脚で、脚裾部が大きくひろがる。301は摩滅が顕著であり、303は器肉が厚い。304は、裾端部を内湾気味に仕上げる。器台305～316は、弥生時代後期後半の305～314と、古墳時代前期初頭の小型器台315・316に大別できる。305は口径23.8cm、器高16.2cmを測り、焼成時の黒斑が残る。306・307は器肉が厚いのに対して、308・309は器肉が薄い。310～312は口径約21cmを測る。310は彫りの深い擬凹線で口縁部を加飾し、312は外面に煤が付着する。赤彩の313は、脚裾端部を平坦に仕上げる。小型器台315は、受部内面に煤が付着する。316は、内湾する脚部4ヶ所に円孔を穿つ。両面赤彩の装飾器台317は、涙状の透かし孔を12ヶ所に穿つ。鉢類318～322は、弥生時代終末に位置付けられる。大型の318は口径24.1cmを測り、両面にミガキ調整を施す。319は、口縁部を彫り幅のひろい擬凹線に加飾する他、外面に煤が付着する。320～322の口縁部は、大きく外反しながら長くのびる。320は低い台部を貼り付け、外面が被熱する。丸底の321は、322とともに器面の剥離が著しい。古墳時代前期初頭の323は碗形を呈し、両面ミガキ調整と考えられる。324～327は、有孔鉢である。324は内面にハケ調整を施し、上端部分は約3cm幅で接合部分から剥離する。325は口径16.4cm、器高10.2cmを測り、内面をナデ調整で仕上げる。326・327は、両面にハケ調整が残る。328～330は蓋で、外面赤彩の328が古墳時代前期初頭



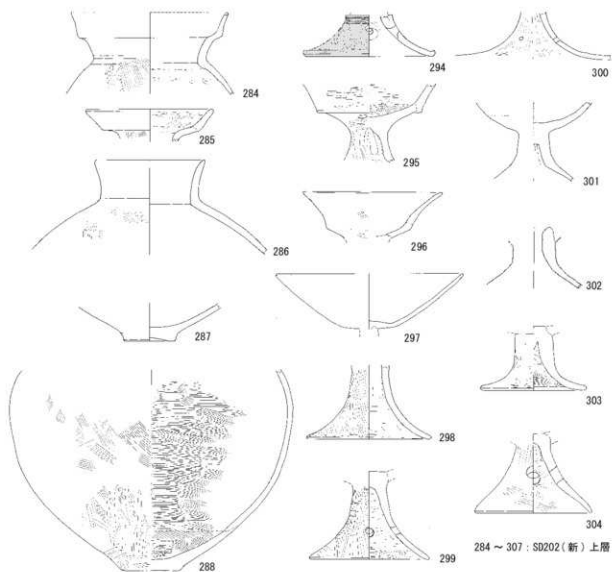
第39図 A区第2面出土遺物実測図1 (S-1/4)



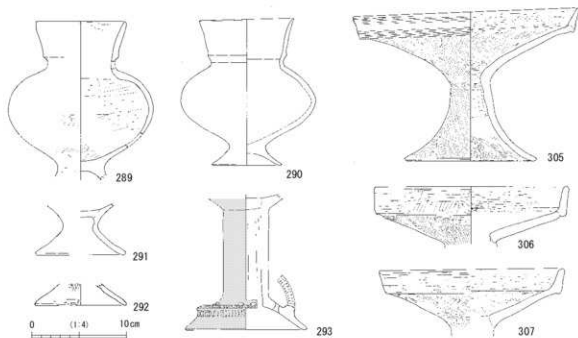
第40図 A区第2面出土遺物実測図2 (S=1/4)



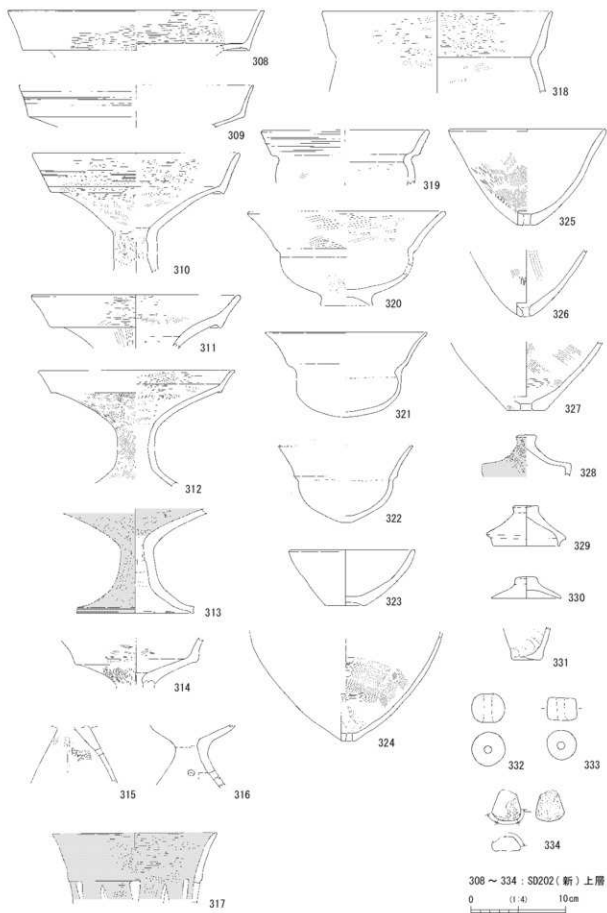
第41図 A区第2面出土遺物実測図3(S=1/4)



284 ~ 307: S0202(新) 上層



第42図 A区第2面出土遺物実測図4 (S=1/4)



第43図 A区第2面出土遺物実測図5(S=1/4)

の可能性をもつ。329は胎土の練りが不十分で、摩滅が著しい。扁平な小型品330は口径7.5cm、器高2.3cmを測る。手づくね土器331は、コップ形を呈する。332・333は、土師質の土錘である。重さは、球形の332が30.1g、円柱形の333が22.8gを量る。軽石凝灰岩製の砥石334で、研ぎのため一部が平滑となる。

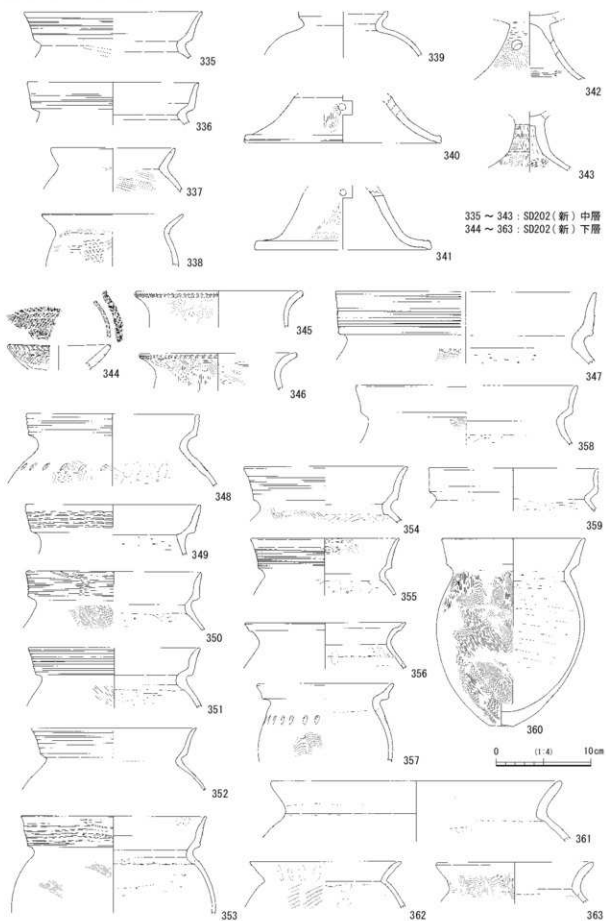
第44図335～343は、中層出土遺物である。有段口縁の甕335・336は弥生時代終末に、くの字口縁の甕337・338は古墳時代前期初頭に位置付けられる。335は口径17.7cmを測り、擬凹線はかすれ気味である。337は口縁部が内湾気味に立ちあがり、胴部両面にハケ調整を施す。338は口径14.8cmを測り、胴部外面はハケ調整の後にタタキを加える。土師器壺339は、胎土中に多くの海綿骨針が混ざる。340・341は、弥生時代後期の高坏と考えられる。340は脚裾端部に1条の沈線を施し、341は内面に煤が付着する。342・343は、古墳時代前期の土師器高坏である。脚部は、342が大きく外展するのに対して、343は途中で屈曲する。

第44図344～第48図439は、下層から出土した。受口状口縁の甕344は、外面をLR縄文後に沈線で、口縁部を綾杉状の刻みでそれぞれ加飾する。東北系の天王山式と考えられる。弥生時代中期後半の甕345・346は、口縁部下端に刻みを施す。擬凹線を施す有段口縁の甕347～355は、弥生時代後期後半の348以外が弥生時代終末に位置付けられる。347は口径約27cmを測る大型品で、外面に煤が付着する。348は胴部外面の連続的なハケ原体の動きが、刺突文様にみえる。349～351は、口径約18cmを測る。352が丁寧な擬凹線を施すのに対して、353の擬凹線は乱れる。354は、煮炊き痕を良好に残す。357～360は無文有段口縁の甕で、弥生時代後期後半の357は、胴部外面の刺突文がかろうじて確認できる。358は、口縁部内面に炭化物が付着する。360は口径14.8cm、器高19.9cmを測り、口縁部内面の屈曲が弱い。356・361～369は、古墳時代前期初頭を中心とした土師器甕である。356は口径16.6cmを測り、胴部内面をナデ調整で仕上げる。大型の361は口径30.4cmを測り、粘土紐の積み上げ痕を残す。胴部タタキ整形の362は、口縁部の仕上げが粗い。363は、内外面とも煤が付着する。364は口径21.3cm、器高32.8cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。365～367は口径16cm前後を測り、胴部内面をハケ調整またはナデ調整で仕上げる。368は口径14.0cmを測り、外面は摩滅が著しい。369は口径15.0cmを測り、口縁部を短く外傾させる。370～374は小甕で、373・374が古墳時代前期に属する。370は口径13.0cmを測り、口縁部を平坦に仕上げる。有段口縁の371は、煮炊き痕を良好に残す。373は口径11.7cm、器高9.7cmを測り、厚い底部をもつ。374は口径11.4cmを測り、胴部球形を呈する。

壺類375～396は、375・376が弥生時代中期後半、377・378・393が後期後半、379・392・394・395が終末、380～391・396が古墳時代前期初頭に位置付けられる。375は第3面963(第80図)と同一個体の壺であり、外面をハケ調整の後に上方から鋸歯文、直線文、綾杉文、突帯2条で加飾する。376は両面ハケ調整を施し、底部外面中央が窪む。直口壺377は口径14.4cm、378は口径12.6cmを測る。有段口縁の379は口径20.6cmを測る大型品である。380・381は有段口縁様の口縁部を呈し、摩滅が著しい。382は口径13.2cmを測り、焼成はよくない。383は口径14.6cmを測り、口縁部が大きく外傾する。384・385は、東海系の広口壺である。384は、口縁部を綾杉文と、刻みを施した3本一対の棒状浮文で加飾する。385は口径25.8cmを測り、口縁部を波状文と3本一対の棒状浮文(剝離)で加飾する。386～391は、二重口縁の壺である。386は円形浮文を密に貼り付け、浮文中央に竹管文を施す。387・388は、胎土の特徴から同一個体となる。387・389が口径18.4cm、390が同17.0cmを測り、389・390は煤が付着する。391は口径14.6cmを測り、口縁部を丁寧に仕上げる。有段口縁の392は、外面にミガキ調整が残る。細口壺393は、胴部中央に隆帯を貼り付けた後、赤彩を施す。394は、有段口縁の小型壺と考えられる。396は、内面を雑に仕上げる。

第46図397・399～405は高坏で、404・405が古墳時代前期に属する。397の口縁部は、大きく外反しながら長くのびる。脚部400は蓋に転用したため、裾端部に炭化物、内面上部に煤が付着する。404は脚裾

第3節 第2面の遺構と遺物



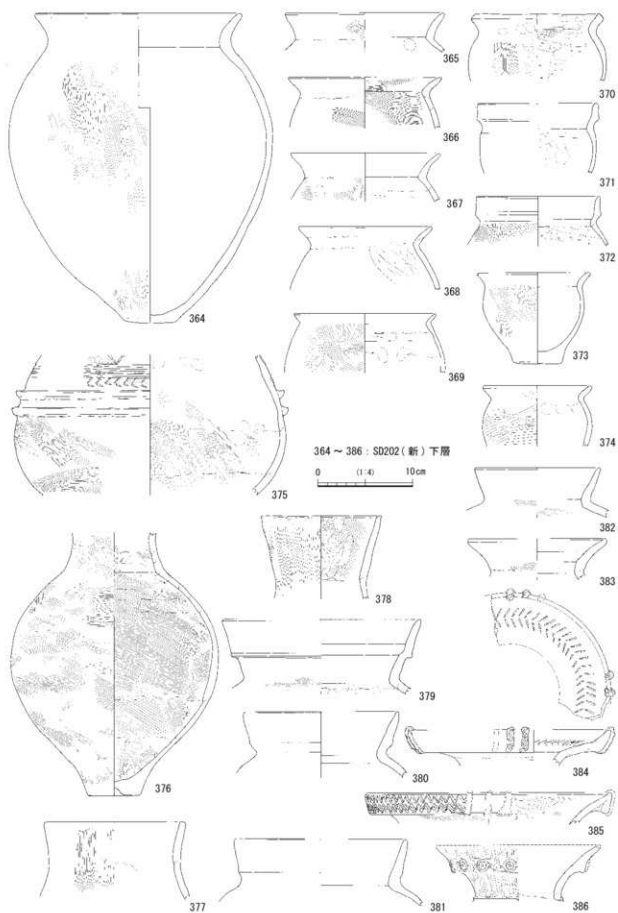
第44図 A区第2面出土遺物実測図6(S=1/4)

部が大きく外展し、煤の付着から蓋に転用したと考えられる。405は、直線的な脚部をヨコナデ調整で仕上げる。器台398・406～410は、409・410が古墳時代前期初頭に属する。脚小片398は、外面に赤彩を施す。弥生時代後期後半の406・407は、丁寧なミガキ調整で仕上げる。408は、摩滅が著しい。410は、脚部が直線的にのび、内外面とも煤が付着することから蓋に転用したと考えられる。411～413は、弥生時代後期～終末の鉢類である。両面赤彩の411は口径18.5cmを測る。412は口径11.4cm、器高6.9cmを測る小型品で、断面方形を呈した小振りな台部を貼り付ける。413は、器肉が比較的厚い。414・415は、土師器手づくね土器である。底部上げ底風の414が口径6.9cm、器高4.5cmを、扁平・平底の415が口径6.3cm、器高3.5cmを測る。416～418は有孔鉢で、416が弥生時代中期後半、418が古墳時代前期初頭に位置付けられる。416は口径16.7cm、器高16.1cmを測り、外面に煤が付着する。418は外面にタタキ調整痕が残る。砂岩製の磨石419は重さ約1227gを量る。

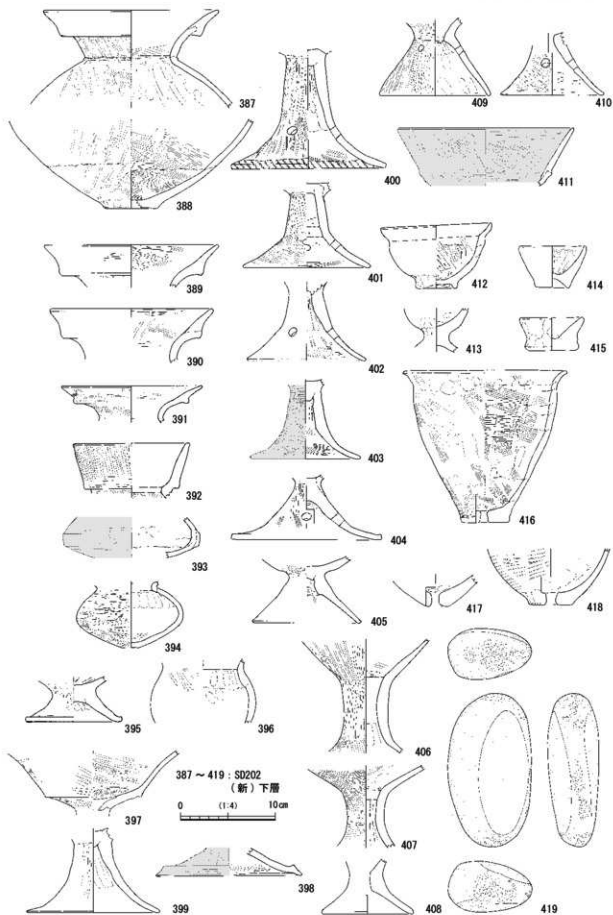
第47図421～第48図439は、木器・木製品である。農耕具421～423は、全てコナラ属アカガシ亜属の材を用いる。421は泥除と考えられ、肥厚部分に柄孔が一部残存する。422は鋤または鍬の身であり、側面の一部に加工痕が残る。423は、横長の平面隅丸台形を呈する泥除で、柄孔は長径4cm以上、短径2.9cmを測る。スギ材を用いた桶側板424は高さ25.4cmを測り、底板を受けるため内面下部を肥厚させる。ケヤキ材の槽425は平面隅丸長方形を呈し、長軸49.0cm、高さ9.8～11.2cmを測る。底部外面を長軸方向に削り込み、底外縁四方に台部をつくる。また、長軸方向に割れたことに起因して、底面2ヶ所に方形孔を穿ち、皮紐で綴じる補修が行われる。スギ材を用いた棒状木製品426は、2ヶ所に円孔を穿つ。薄い板状木製品427～429は、両面に縄物圧着痕を残す。427・428の樹種はスギである。430は側面を加工し、有頭状に仕上げる栓か。2ヶ所に大きさの異なる方形孔を穿ち、一部が炭化する。樹種は、コナラ属アカガシ亜属である。棒状木製品431は、ツバキ属の材を用いる。板状木製品432、棒状木製品433～435は、スギ材を用いる。ツバキ属の材を用いる杭436は長さ58.9cmを測り、節部分が有頭状を呈する。側面は未加工である。部材と考えられる437は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いる。全面が黒色に変色し、被熱した可能性を残す。438は、スギの棒状木製品である。439は、ツバキ属の芯持丸木を加工したもので、腐食が著しい。

第49図440～第57図710、第59図737～第60図754は、最下層から出土した遺物である。440は縄文末～弥生初頭の鉢片で口径約14cmを測る。内面に条痕文、外面に網代文が残る。441は、弥生時代中期前半の沈線文系の壺であり、外面を刺突文、半截竹管を用いた直線文・弧状文で加飾する。全体に摩滅が進む他、一部は被熱する。442～444は、弥生時代中期後半の甕である。口縁部を、443は3列の綾杉文と刻み、444は刻みで加飾する。445は、同時期の無頸壺と考えられ、外面に煤が付着する。

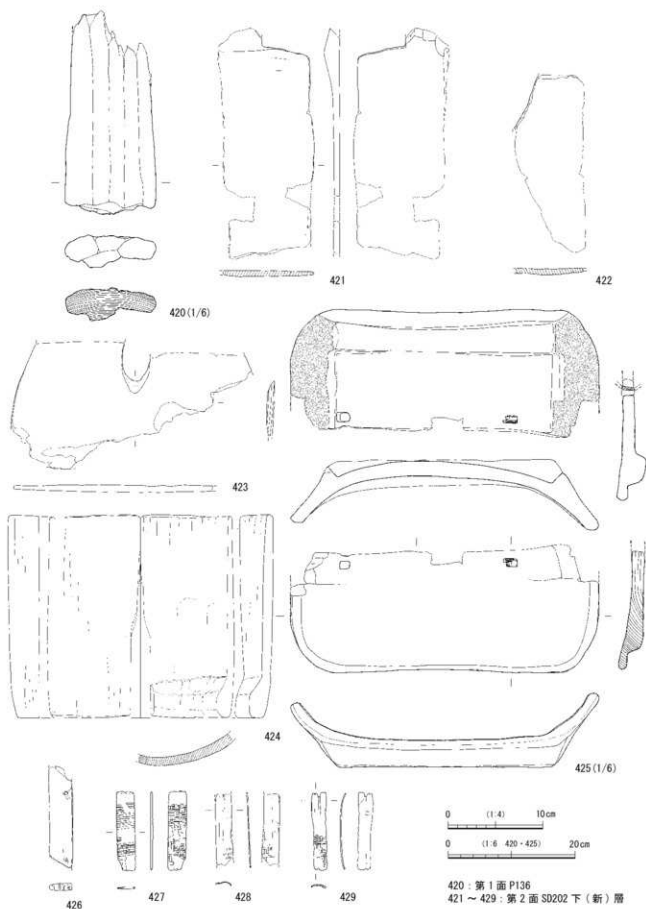
446～544は甕である。弥生時代後期後半に属する446～450は、胴部内面をケズリ調整、外面をハケ調整で仕上げ、448以外は外面に煤が付着する。擬凹線をもつ有段口縁の甕451～486・502・508は、453～455が弥生時代後期後半、451・452・456～483・502・508が弥生時代終末、484～486が古墳時代前期初頭に位置付けられる。大型の451は口径約31cmを測り、擬凹線を丁寧に施す。大型の452は口径30.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。454・455は口縁部が直立し、454は口縁部内面に指頭圧痕が、455は良好な煮炊き痕が、それぞれ認められる。457は口径21.2cmを測り、頸部より上部は異なる特徴をもった胎土を用いる。458・459は、胎土の特徴から同一個体と考えられる。底部459は、意図的に内面中央をくぼませる。462・464は、口縁部内面に指頭圧痕が残る。466は口径15.2cmを測り、口縁部が直立する。467は口縁部内面にヨゴレが付着する。469・470は口径16.8cmを測る。471は外面にかすかの擬凹線が残る。472は口径17.7cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。473は、深い擬凹線を密に施す。傾きに不安を残す474も同様である。475は口径16.2cmを測り、口縁部内面の屈曲はなだらかである。476は、外面に厚い煤が付着する。477～482は、口径15cm前後を測る。478は丁寧な擬凹線を施し、479は煮炊き痕を良好に残す。厚手



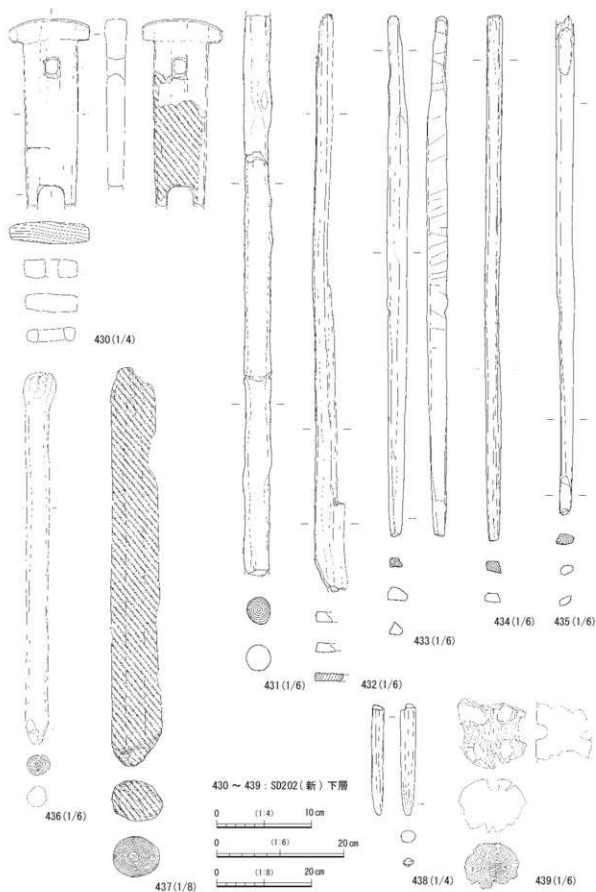
第45図 A区第2面出土遺物実測図7(S-1/4)



第46図 A区第2面出土遺物実測図8 (S=1/4)

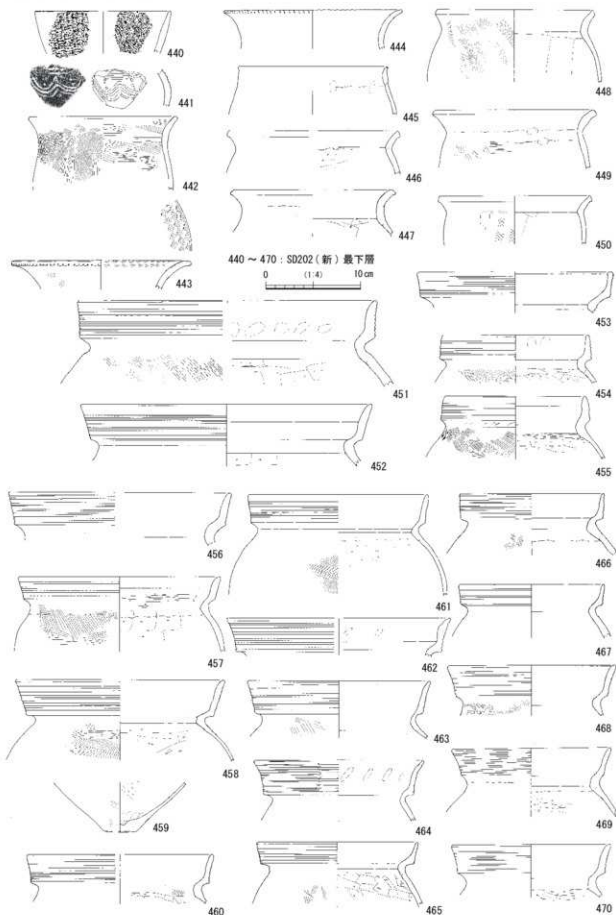


第47図 A区第2面出土遺物実測図9(S=1/4・1/6)



第48図 A区第2面出土遺物実測図10(S=1/4・1/6・1/8)

第3節 第2面の遺構と遺物

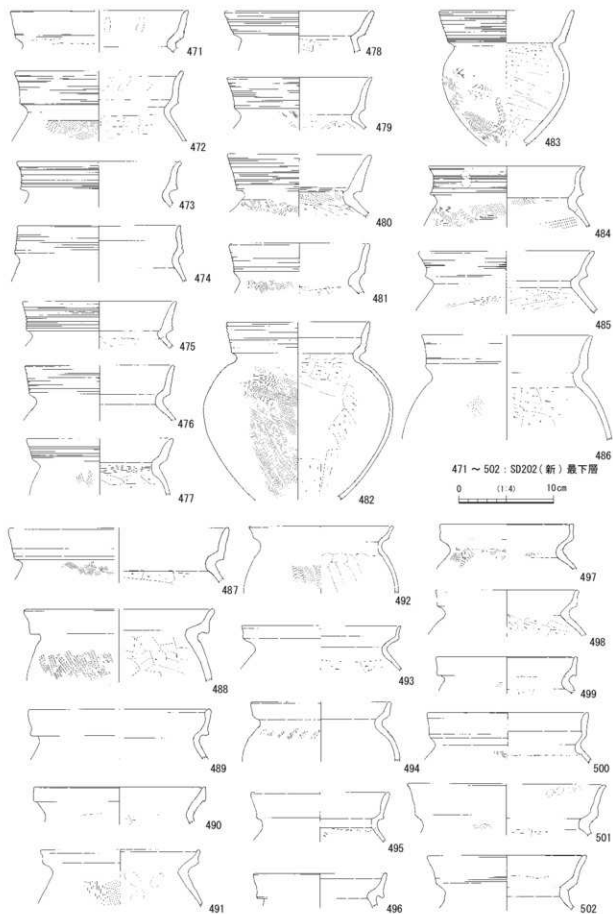


第49図 A区第2面出土遺物実測図11 (S=1/4)

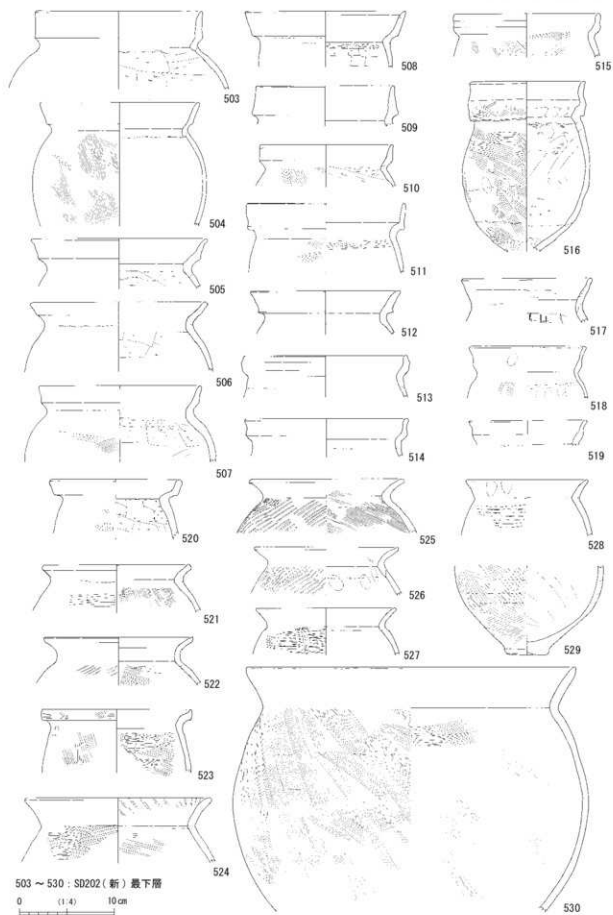
の480が擬凹線を密に施すのに対して、481は間隔の空いた擬凹線を雑に施す。482・483は口径14cm強を測り、ともに煮炊き痕を良好に残す。484は口縁端部が小さく外反し、胴部内面をハケ調整で仕上げる。485は口径18.4cmを測り、擬凹線がかなり乱れる。486は擬凹線がかすかに残り、胴部は球形に近い。

487～501・503～515は無文有段口縁の甕であり、488～499が弥生時代後期後半、487・500・501・508が弥生時代終末、503～507・509～515が古墳時代前期初頭におおむね位置付けられる。487は口径約23cmを測り、488とともに器内が厚い。古相の490は口径18.0cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。491は、口縁部が短く立ち上がる。492は口径15.2cm、493は口径16.8cmを測る。494は、肩部を刺突文で加飾する。495～499は口径14cm前後を測る。496は摩滅が目立ち、498は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。500は、煮炊き痕を良好に残す。501は口径20.6cmを測り、口縁部内面に密な指頭痕が残る。503は口径17.4cmを測り、胴部球形を呈する。504は口縁部内面の屈曲が弱く、胴部内面をナデ調整で仕上げる。505の口縁部も同様である。506は口径18.2cmを測り、口縁部は有段状を呈する。外面に厚く煤が付着し、古墳時代前期前葉の可能性をもつ。厚手の507は、胴部球形を呈する。508は口縁部が外傾するのに対して、509は口縁部が直立する。510は口径14.0cmを測り、各部の調整は雑である。511は、胴部内面をハケ調整後にナデ調整を加える。513～515の口縁部は、有段の屈曲が緩やかとなる。小甕516～520は、520以外が古墳時代前期初頭と考えられる。516は口径11.6cmを測り、いびつな有段口縁と雑な仕上げを特徴とする。また、胴部内面には、固形物に由来するゴマ状の炭化物が付着する。517～519の口縁部は、有段状を呈する。518は口径12.0cmを測り、倒位で乾燥したため口縁端部が平坦に変形する。520は口径13.6cmを測り、弥生時代後期後半に位置付けられる。521～523は、弥生時代中期後半の近江系の甕と考えられる。521が胴部両面をハケ調整で、522が内面をハケ調整、外面をタタキ調整で、それぞれ仕上げる。523は口径15.6cmを測り、口縁端部は外側に平坦面をもつ。524～529・531・532は、古墳時代前期初頭の胴部タタキ整形の甕である。524は口径19.8cmを測り、口縁部内面にはハケ原体のアタリ痕がわずかに残る。525は胴部内面をハケ調整で、526～528はナデ調整でそれぞれ仕上げる。529は、胴部外面にハケ調整を施し、下半にタタキ調整を加える。532は口径10.2cmを測る小型品である。530・533～544は、古墳時代前期のくの字口縁の甕である。大型の530は口径34.6cmを測り、胴部内面はハケ調整後にナデ調整を加える。533・535は、口縁端部を平坦に仕上げる。胴部球形を呈する536は、口径20.6cmを測り、口縁部は直線的に外傾する。537は、ゆがみが目立つ。厚手の540は、胴部内面に粘土継接合痕を残す。542は口径15.6cmを測り、口縁部は直線的に長くのびる。544は口径14.5cmを測り、口縁部を短く折り曲げる。小甕545～552は、545・546が弥生時代後期、551が弥生時代終末、他は古墳時代前期初頭～前葉に位置付けられる。545は口径13.6cmを測り、胴部内面をハケ調整で仕上げる。546は口径12.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。547～549は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。550は口径10.6cm、器高14.8cmを測り、胴部は両面ともハケ調整の後、下半にケズリ調整を施す。551は口径7.8cmを、552は口径9.8cmを測る小型品である。摩滅が進んだ甕底部553は弥生時代後期前半、554は古墳時代前期に位置付けられる。小さな平底をもつ554は、胴部両面ナデ調整で仕上げる。

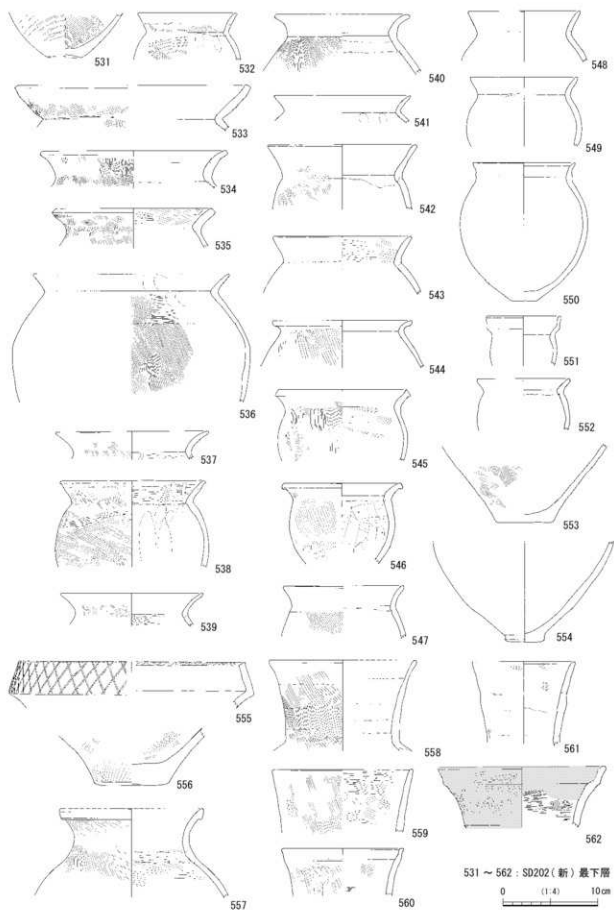
第52図555～第54図615、第55図646は壺類である。555・556が弥生時代中期後半、557・558が同後期前半、559～570・572～578・609～612・646が同後期後半、571・592～594・600・613が同終末、579～591・595～599・601～604・614・615が古墳時代前期初頭～前半に位置付けられる。受口状口縁の大型壺555は口径約25cmを測り、外面を格子状刻み、内傾する口縁端部を綾杉文で加飾する。556は、底部内面に指頭痕が目立つ。短頸の557は口径15.0cmを測り、口縁端部を外側に肥厚させる。558～561・567は直口壺である。558は古相を呈し、559は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。560は口縁端部を平坦に仕上げ、561は摩滅が著しい。短頸の567は、口径12.5cmを測る。562～566は有段口縁の壺である。562は口径17.4cmを測り、



第50図 A区第2面出土遺物実測図12(S=1/4)



第51図 A区第2面出土遺物実測図13 (S-1/4)

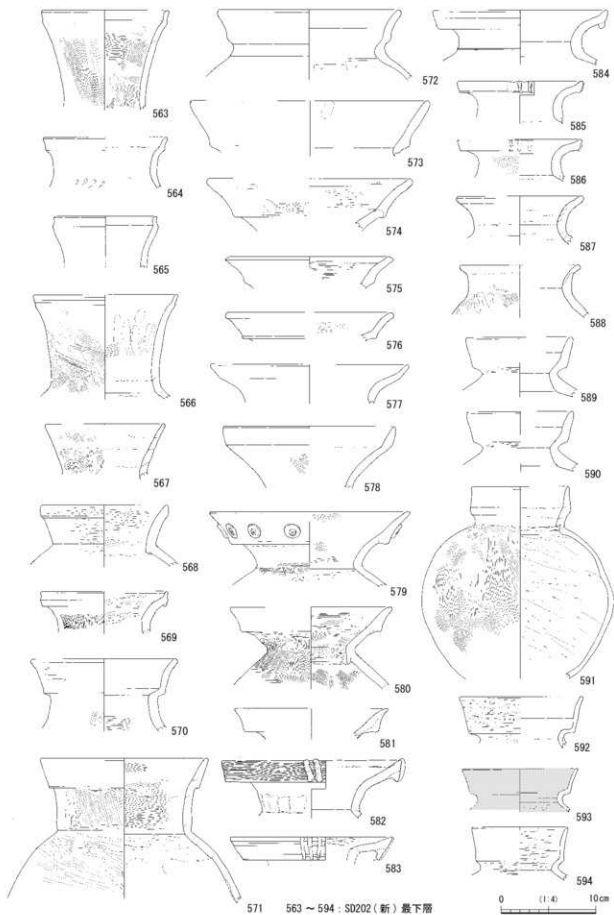


第52図 A区第2面出土遺物実測図14(S=1/4)

外面に赤彩を施す。564は、肩部に粗い刺突文を雑に施す。566は口径15.1cmを測り、口縁部を凹線文で加飾する。また、内外でハケ原体が異なり、外面にはハケ原体のアタリ痕が残る。568・569は短頸壺である。569は口径13.4cmを測り、口縁端部を上下に引きのばして口縁帯をつくる。570～578は有段口縁の壺である。570は口径15.2cmを測り、口縁部が緩やかに外反する。571は口径17.7を測り、口縁部を外側に肥厚させて広い口縁帯をつくる。広口短頸の572は口径19.0cmを測り、摩滅が目立つ。大型の573は口径約25cmを測り、外面に煤が付着する。574は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。575・576は口径17cm前後を測り、外反する口縁端部を平坦に仕上げる。577・578は口縁部が外傾しながら長くのびる他、摩滅が著しい。579～581は二重口縁の壺である。579は口径21.1cmを測り、竹管文で施文した円形浮文と、頸部の小さな突帯で加飾する。580は口径17.0cmを測り、口縁部内面に粗いミガキ調整を施す。582～586は、東海系の広口壺である。582・583は口縁部に擬凹線を施した後、棒状浮文を貼り付ける。582は斜方向に棒状浮文であり、583の棒状浮文は全て剥離する。584は口径18.3cmを測り、頸部に小振りの突帯を巡らす。585・586は口径約13cmを測り、口縁部に3本一対の棒状浮文を貼り付ける。短頸の587・588は口径13cm前後を測り、口縁端部を丸く仕上げる。589～594は有段口縁の小型壺である。589は器内が厚く、590は口縁部外面にハケ調整が残る。591は口径10.1cmを測り、胴部は球形を呈する。592～594は丁寧にミガキ調整を施し、593には赤彩が残る。595～604は、胴部が球形を呈する壺で、口径は595が15.7cm、596が13.8cm、597が12.8cmを測る。597は、外面にかすかに赤彩痕が残る。ナア肩の598は摩滅が著しく、600は外面にミガキ調整を施す。大型壺601は、胴部最大径約44cmを測る。602とともに底部外面中央をくぼませて、上げ底風を呈する。603は両面ハケ調整の後に外面下半に粗いミガキ調整を加え、604は内外面とも板状工具を用いたナア調整で仕上げる。605～608は、底部が台状を呈する。605は外面中央をくぼませ、輪状高台風となる。606は両面ミガキ調整が残ることから鉢の可能性をもつ。609～612は、細頸壺である。609は口径8.9cmを測り、胴部中程に隆帯、棒状浮文を貼り付ける。内面は摩滅のため、赤彩かどうか判断できない。610は口径9.8cmを測り、傾きに不安を残す。611・612は外面を赤彩する。小型の無頸壺613は口径8.6cmを測り、肥厚した口縁部が内傾する。614・615は古墳時代前期の壺脚部と考えられ、614の端部は断面方形を呈する。615は外面に煤が付着する。

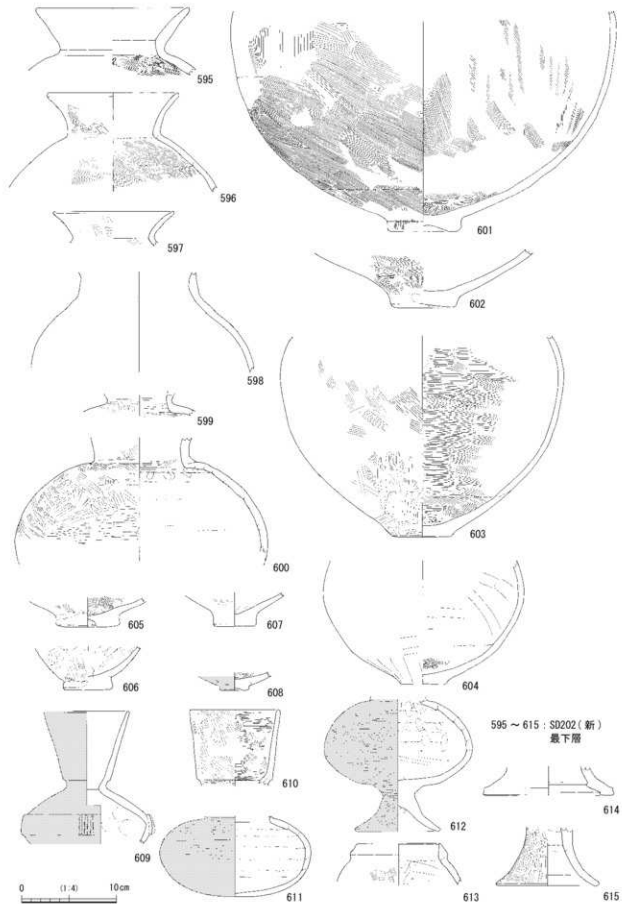
高坏は、616が弥生時代後期前半、617～623が同後期後半、624～641・647・649が同終末、642～645・648・650が古墳時代前期に位置付けられ、645・650が同後期後半の器形を呈する。碗形を呈する616は口径14.3cmを測り、両面にミガキ調整を施す。617は口径約25cmを測り、肥厚した口縁端部を丸く仕上げる。618の脚は背が高い印象を受ける。脚裾部の仕上げは、平坦な619、肥厚する620・621、肥厚し跳ね上がる622と多様である。623は、内面に煤が付着する。口縁部が長くのびる坏部624～628は、坏底部の器形から624～626・630・631と627～629に大別できる。いずれもハケ調整の後に丁寧なミガキ調整を施す。脚部632～641は、背の高い632～638と背の低い639～641に大別できる。634は、煤の付着や被熱状況から蓋に転用したと考えられる。642は脚裾部が大きく外展する。643は口径17.0cm、器高6.6cmを測り、坏部内面に同心円的にミガキ調整を施す。644は摩滅のため、調整が判然としない。645は口径15.9cmを測り、内面ナア調整、外面粗いミガキ調整と考えられる。小型の脚部647は3ヶ所に、648は4ヶ所に、それぞれ透かし孔を穿つ。649は坏部との接合のため、板状工具を用いて起伏をつけた痕跡が明瞭に残る。650は脚裾部が内湾気味のび、内面全体に煤が付着する。

器台は、651・652・655が弥生時代後期後半、654が同終末、656～664が古墳時代前期初頭～前葉に位置付けられる。有段の受部をもつ651・652は、口縁部を擬凹線で加飾する。両面赤彩の652は、内面底部に炭化物が付着し、蓋に転用したと考えられる。653は裾端部の突帯が剥離、654は摩滅が目立つ。655は、1ヶ所だけに円孔を穿つ。656・657は、外展する脚端部3ヶ所に円孔を穿つ。小型器台658は口径11.6cmを

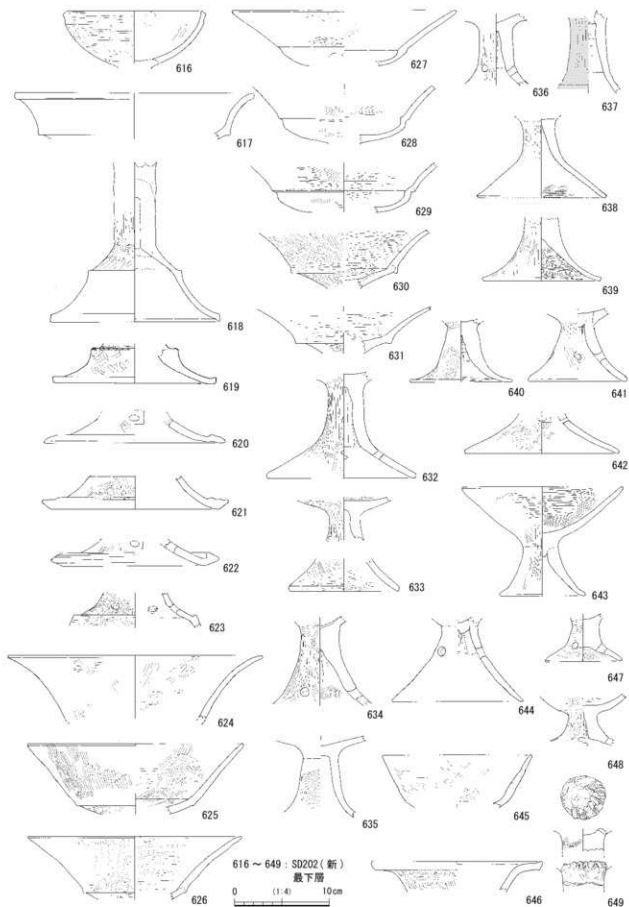


571 563 ~ 594 : S0202 (新) 最下層

第53図 A区第2面出土遺物実測図15(S=1/4)



第54図 A区第2面出土遺物実測図16(S=1/4)



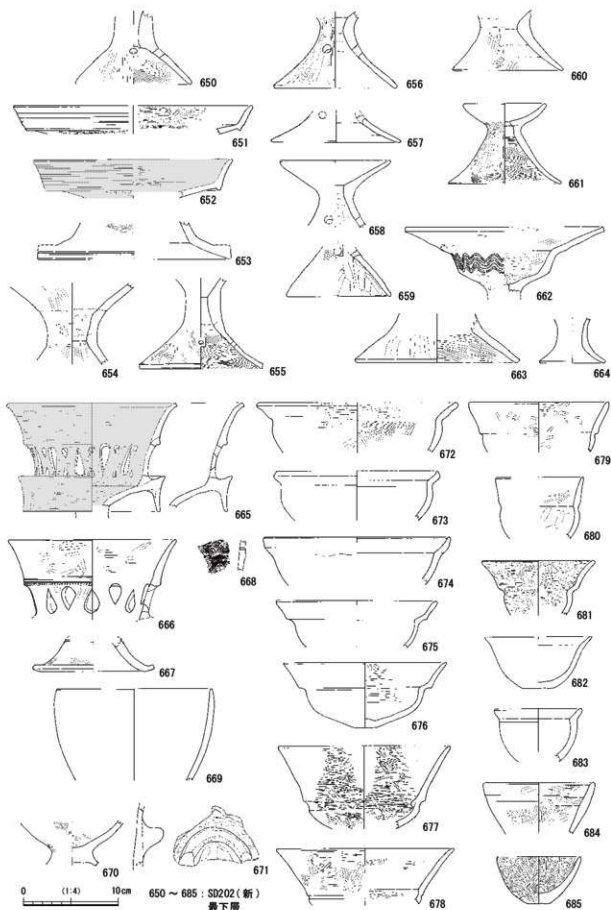
第55図 A区第2面出土遺物実測図17(S=1/4)

測り、受部が直線的にのびる。内湾気味の脚部659は、内外面ともナデ調整で仕上げる。660の脚部は、先細りながら外展する。661は口径8.5cm、器高8.5cmを測り、脚部が大きく外展する。662は口径20.8cmを測り、受部が途中で明瞭に屈曲する。両面ミガキ調整の後、外面を波状文で加飾する。663・664は、器台の脚部と考えた。663は内面にハケ調整を施し、664は脚部径7.1cmを測る小型品となる。

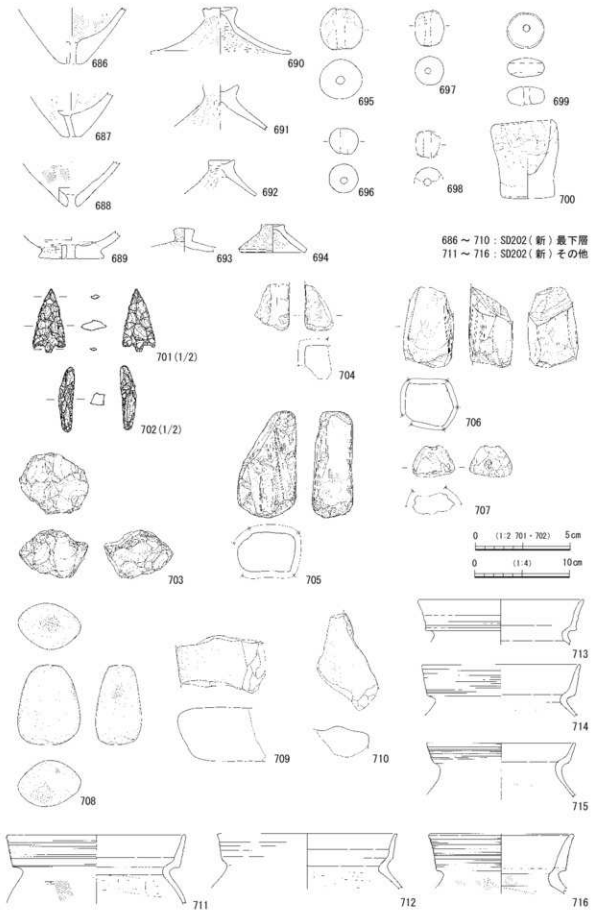
665～668は、弥生時代終末の装飾器台である。両面赤彩の665は口径17.5cmを測り、14ヶ所の涙滴状透かし孔を交互に配し、その間により小さな上下2段の透かしを穿つ。摩滅が進んだ666も両面赤彩の可能性が高い。口径17.8cmを測り、涙滴状透かし孔16ヶ所を交互に配し、その上部を沈線3条と刻み1条で加飾する。667は、胎土の類似性から666脚部の可能性をもつ。668は、2列配したS字状スタンプ文の各渦巻中心に穿孔を行う。669～685は鉢類で、古墳時代前期初頭の682、683以外は、弥生時代後期～終末に属する。古相を呈する669は口径16.4cmを測り、両面とも丁寧なミガキ調整を施す。小型脚付鉢670は、両面にミガキ調整が残る。671は、弥生時代終末の大型の有段口縁鉢把手と考えられる。672は口径20.9cmを測り、口縁部を有段状に仕上げる。673は口縁端部を上方につまみあげたのに対して、674は外傾しながら短くのびる。身の浅い676は口径17.3cm、器高6.9cmを測る。677・678は身が深く、口縁部は長くのびる。679は、破損後に被熱する。小型の680は、口径9.2cmを測る。681は胎土中に砂粒がほとんど混ざらず、口縁部外面に水平に煤が付着する。平底の682は口径11.2cm、器高5.5cmを測り、底部内面に板状工具痕を良好に残す。683は口径9.2cmを測り、口縁端部が短く外傾する。684は体部が直線的にのび、碗状の685は口径8.7cm、器高5.0cmを測る。第57図686～688は、有孔鉢底部片である。底部が厚い686・687のうち、687の穿孔は雑な印象を受ける。底部台状の689は、外面にタタキ整形痕を残し、土師器小型壺の可能性が高い。690～694は、蓋である。690が口径14.9cm、器高4.9cmを、694が口径6.8cm、器高3.0cmを測り、ともに丁寧なミガキ調整で仕上げる。693はボタン状の鈕をもち、破損後に煤が付着する。695～698は土師質の土錘で、重さは大型の695が73.5g、696が20.8g、697が37.0gを量る。土製紡錘車699は高さ2.1cm、径3.9cmを測り、精良な胎土を用いる。重さ24.3gを量る。

701～710は石器・石製品である。有茎の石鎌701は黒色ガラス質安山岩を用い、重さ2.16gを量る。702は同質の石材を加工した鎌と考えられる。緑色凝灰岩の石核703は、重さ約167gを量る。砥石の石質は、704が砂岩、705・706が細粒凝灰岩、707が軽石凝灰岩となる。705・706に刃物痕が確認できる他、707は被熱・変色する。完形の敲石708は、図下面に特に顕著な敲打痕が残る。火山礫凝灰岩製の709は、その形状から台石の可能性をもつ。砂岩製の710は遺存面に溝状のくぼみがあり、置き砥石と考えられる。

第59図737～758は、木製品である。スギ材の737は、長軸46.6cm、残存幅20.7cm、厚さ2.1cmを測る。4ヶ所に不規則な方形孔を穿つ他、中央に半月状の腐食部分と長楕円形の変色部分が確認できる。方形孔の位置関係から、より大きな板材を不整無花果形に再整形した可能性が高い。738は、ツバキ材を用いた木錘である。両端の加工は粗い印象を受け、顕著な使用痕は確認できない。平面半月形を呈する739はサクラ属、棒状木製品740はスギ材を用いる。741・742は、建築部材と考えられる。741はエノキ属の材を用い、全体が炭化する。742はケヤキの材を用い、枝の切断が雑である。ケヤキ材のクサビ743は長さ22.2cm、幅5.0cmを測る。744は、コナラ属アカガシ亜属の分割材で、先端を扁平に先細らせる。745～747は、スギ材を用いる。ヘラ状木製品746は、先端が丸くなり、細身の柄は折損する。747は、頭部を両面から段状に加工する。板状木製品748の樹種はムクノキ、749はスギとなる。棒状木製品750は残存長96.4cmを測り、樹種はクリである。ツバキ属の杭751は、先端を1方向から切断して尖らす。752～754は、先端を加工した棒状木製品で、752がスギ、753・754がムクノキである。スギ材を用いた梯子755は、4段が残存する。残存長120.7cm、幅19.0cm、厚さ8.5cm、段の高さ3.6～4.2cm、段先端幅7.2～9.8cmを測り、左側面10ヶ所に不規則な抉りが残る。有頭状の棒状木製品756は長さ57.9cm、径約3.6cmを測り、先端を粗く



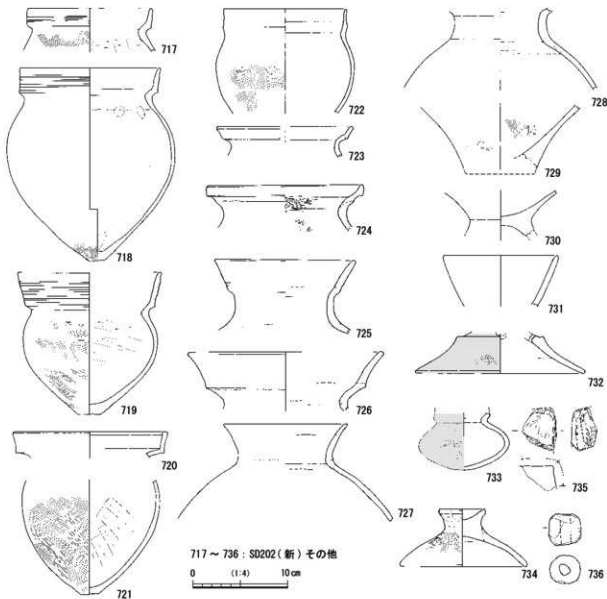
第56図 A区第2面出土遺物実測図18(S=1/4)



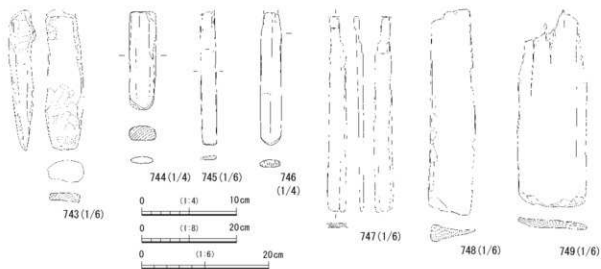
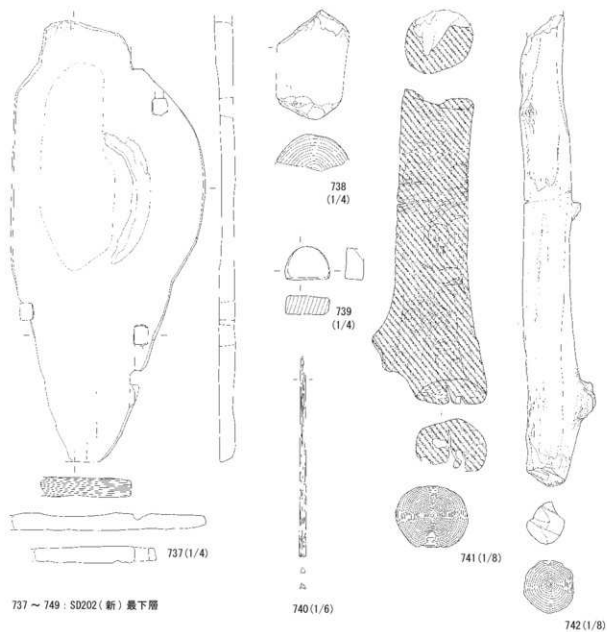
第57図 A区第2面出土遺物実測図19 (S=1/2・1/4)

切断する。樹種はスギである。平面剣形に近い757は、他材と組み合わせるため先端の側面・裏面を加工する他、頭部を薄く仕上げる。樹種は、コナラ属アカガシ亜属である。柱根758はスダジイ材を用い、一部が炭化する。

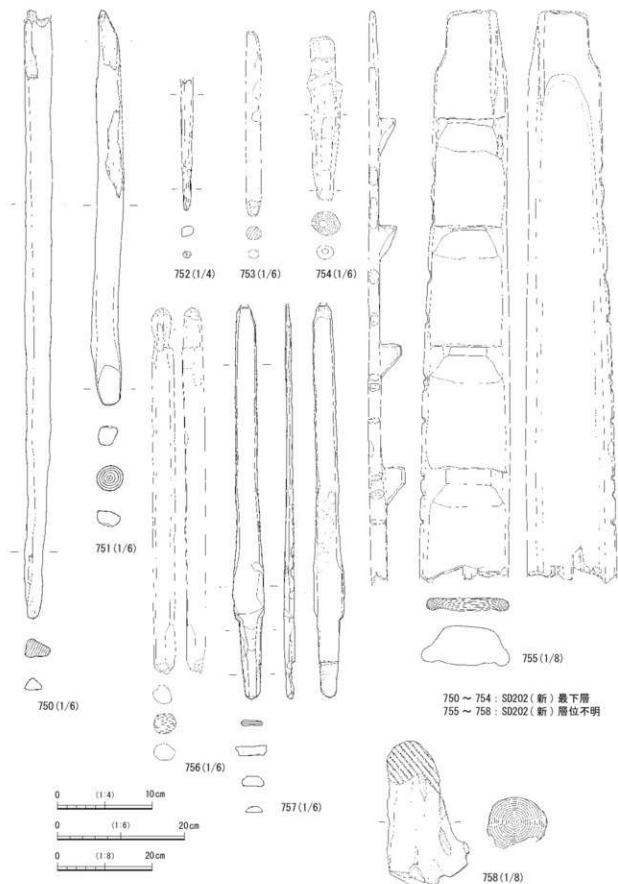
第57図711～第58図736は、出土層位が判然としない遺物である。甕711～723のうち、711～719・721は弥生時代終末の有段口縁の甕である。718が口径14.8cm、器高20.5cmで、719が口径15.0cm、器高15.1cmを測る。また、713・716は彫りの深い擬凹線で加飾する他、717・719は煮炊き痕を良好に残す。弥生時代後期後半の720は、口径16.0cmを測る。古墳時代前期初頭の722は摩滅が進み、東海系の723は焼成があまりよくない。壺724～731は、724～726が弥生時代後期後半、その他が古墳時代前期に位置付けられる。724は口縁部を上下に肥厚させ、破損後に被熱する。有段口縁の725・726は、外面に煤が付着する。くの字口縁の727は口径12.9cmを測り、摩滅が著しい。728・729は胎土の特徴から同一個体であり、さらに728は頸部に堦に胎土の特徴が異なる。730は摩滅が著しい。731は口径11.7cmを測り、口縁部が内湾気味に立ち上がる。外面赤彩の器台732は、小型壺733とともに弥生時代終末に位置付けられる。蓋734



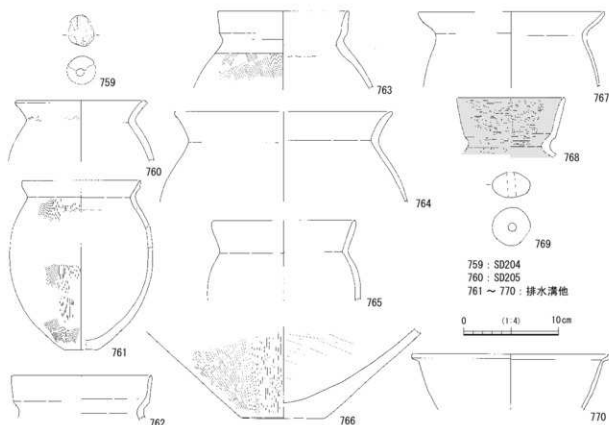
第58図 A区第2面出土遺物実測図20(S=1/4)



第59図 A区第2面出土遺物実測図21 (S=1/4・1/6・1/8)



第60図 A区第2面出土遺物実測図22(S=1/4・1/6・1/8)



第61図 A区第2面出土遺物実測図23(S=1/4)

は口径13.2cm、器高6.1cmを測り、大型の紐を丁寧に仕上げる。円筒形の土錘736は、残存重量30.5gを量る。砂岩製の砥石735は、残存面全てが研ぎに用いる。

SD203~205 O・P-26・27区で検出した、ほぼ並走する位置関係をもつ溝群で、何らかの区画を示す可能性をもつ(第29・36図)。主軸方位はN-約40°Eを測り、溝底面の標高は北東側より南西側が低い。各溝の規模は、SD203が上幅44~78cm、深さ15~24cm、SD204が上幅38~64cm、深さ19~30cm、SD205が上幅140~152cm、深さ15~34cmを、それぞれ測る。覆土は、SD203・204が灰黄~黄灰色を基調とする粘質土が堆積した後に、浅黄色~明黄褐色を呈する砂質土・シルトが堆積する。SD205は、にぶい黄色粘質土の上位層に、SD201に近い色調をもつ細砂が堆積する。遺物は比較的少なく、SD204出土の土錘第61図759、SD205出土の土師器甕760を図示した。厚手の760は口径13.3cmを測り、古墳時代初頭に位置付けられる。

3 包含層等出土遺物 (第61図、第38表)

第61図761・769・770が包含層、その他が排水溝等から出土した遺物である。有段口縁の甕761は弥生時代後期後半、摩滅した762は同終末に位置付けられる。763~765・767は古墳時代前期の甕である。厚手の763は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。764は口径約23cmを測り、摩滅が著しい。765は口径15.0cmを測り、胴部は球形を呈する。剥離・摩滅が進んだ767は、口縁部が内湾気味に立ちあがる。弥生時代終末の大型壺766は、整形痕が比較的良好に残る。弥生時代終末の壺768は、丁寧にミガキ調整の後に、両面赤彩を施す。土師質の土錘769は扁平な形状を呈する。770は平安時代のロクロ土師器鉢で、口径20.8cmを測る。

※ () には残存品数を示す。

発掘調査 年度	遺構番号	出土土構	種別	部 種	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 度 (cm)	内 径 (cm)	外 径 (cm)	形状	出土の層	土質	組成	内 径 量	外 径 量	注 記	通 用 号	備 考	発掘 年度		
39	211	74252002(中)上層16	弥生土器	甕	16.0	-	(4.7)	底直徑	にぶい黄褐色	B-1	黄	黄	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径3.96	外周直1.74程度	C-766		
39	212	74252002(中)上層16	弥生土器	甕	16.0	-	(7.8)	にぶい黄褐色	B-1	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径7.36	外周直1.74程度	C-600		
39	213	74252002(中)上層21	弥生土器	甕	20.5	-	(5.5)	にぶい黄褐色	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径4.36	底周直(4.5×1単位)	C-160			
39	214	74252002(中)上層12	弥生土器	甕	16.9	-	(5.8)	にぶい黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径2.36	底周直(7.5×1単位)	外周直1.74程度	C-156		
39	215	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	16.0	-	(5.7)	にぶい黄褐色	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径5.36	底周直(4.5×1単位)	外周直1.74程度	C-170		
39	216	74252002(中)上層	弥生土器	甕	16.5	-	(5.0)	灰青褐色	B-4	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径8.36	底周直(4.5×1単位)	外周直1.74程度	C-097		
39	217	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	16.5	-	(5.8)	黄褐色	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径7.36	底周直(3.5×1単位)	口径直徑1.74程度	C-168		
39	218	74252002(中)上層17	弥生土器	甕	15.6	-	(7.3)	にぶい黄褐色	B-1	黄	黄	ヨコナチ	ヨコナチ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径34.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-136		
39	219	74252002(中)上層18	弥生土器	甕	15.1	-	(5.5)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径9.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-141		
39	220	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	22.2	-	(4.1)	黄褐色	M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径9.36	底周直(7.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-171		
39	221	74252002(中)上層5	弥生土器	甕	-	-	(6.5)	黄褐色	M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	-	底周直(5.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-155		
39	222	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	20.0	-	(7.4)	にぶい黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径25.36	底周直(4.5×1単位)	外周直1.74程度	C-093		
39	223	74252002(中)上層4	弥生土器	甕	18.8	-	(6.5)	底直徑	底直徑	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径3.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-154	
39	224	74252002(中)上層17	弥生土器	甕	19.8	-	(3.8)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径9.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-135		
39	225	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	19.0	-	(4.7)	にぶい黄褐色	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径7.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-126		
39	226	74252002(中)上層17	弥生土器	甕	17.8	-	(9.5)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径34.36	底周直(7.5×1単位)	外周直1.74程度	C-037		
39	227	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	17.6	-	(8.6)	底直徑	底直徑	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径9.36	底周直(7.5×1単位)	外周直1.74程度	C-095	
39	228	74252002(中)上層	弥生土器	甕	17.5	-	(7.0)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径8.36	底周直(5.5×1単位)	外周直1.74程度	C-140		
39	229	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	17.2	-	(8.7)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径33.36	底周直(6.5×1単位)	外周直1.74程度	C-068		
39	230	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	17.2	-	(10.7)	黄褐色	B-3	黄	黄	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	C-096	
39	231	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	16.8	-	(9.0)	底直徑	底直徑	M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径10.36	底周直(5.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-084	
39	232	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	16.4	-	(15.9)	底直徑	底直徑	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径36.36	底周直(4.5×1単位)	内周直1.74程度	外周直1.74程度	C-101
39	233	74252002(中)上層	弥生土器	甕	16.8	-	(5.8)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ	ヨコナチ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径8.36	底周直(4.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-125		
39	234	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	15.2	-	(9.5)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径12.36	底周直(4.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-117		
39	235	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	15.0	-	(5.7)	底直徑	底直徑	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	C-111
39	236	74252002(中)上層18	弥生土器	甕	15.3	-	(6.1)	黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ, ハケ	口径9.36	底周直(5.5×1単位)	底直徑1.74程度	C-139		
39	237	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	15.0	-	(4.3)	黄褐色	S-M-L	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	底直徑不明	C-172	
39	238	74252002(中)上層17	弥生土器	甕	14.8	1.6	17.6	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	B-3	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ハケ, ナチ	ヨコナチ, ハケ, ナチ	口径10.36	底周直(7.5×1単位)	内周直1.74程度	外周直1.74程度	C-036
39	239	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	14.4	-	(4.2)	底直徑	底直徑	S-M	黄	黄	ヨコナチ	ヨコナチ	ヨコナチ	ヨコナチ	口径36.36	底周直(5.5×1単位)	底直徑1.74程度	底直徑1.74程度	C-115
39	240	74252002(中)上層7のフタ	弥生土器	甕	14.0	-	(4.4)	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	S-M	黄	黄	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ	ヨコナチ	口径32.36	底周直(6.5×1単位)	底直徑1.74程度	底直徑1.74程度	C-129

第22表 A区第2面の出土器類表(1)

※ 1は現存遺構を示す。

調査番号	遺構番号	出土遺構	種別	階層	位置	面積	内面形状	外面形状	跡土分類	構成	内面構築	外面構築	遺存部	備考
40	241	742S02002(中)土層16	佛生土層	壁	約14.3	- (6.0)	壁	壁	B-3, S-M	真	ヨコナガ、ケズリガ	ヨコナガ、ハナサ	約7.26	朝鮮産タタキに由来する
40	242	742S02002(東)	佛生土層	壁	16.0	- (5.8)	内面形状にのみ残存	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ	約3.96	一部残存のみ
40	243	742S02002(中)土層7ロツク4	佛生土層	壁	16.0	2.6	内面形状にのみ残存	壁	B-3, M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ、ハナ	約15.36	一部残存のみ、外面全体に傾付
40	244	742S02002(中)土層17	佛生土層	壁	17.3	- (6.0)	壁	壁	M-L	真	不明	不明	約12.36	外面に葉形、葉形並行
40	245	742S02002(中)土層7ロツク4	佛生土層	壁	15.9	- (6.8)	内面形状にのみ残存	壁	B-3, S-M	真	ヨコナガ、ハナサ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約6.36	内面ヨコナガ、外面傾付
40	246	742S02002(中)土層18	佛生土層	壁	15.0	- (5.1)	壁	壁	S-M	真	ヨコナガ	ヨコナガ	約14.36	朝鮮産葉形並行
40	247	742S02002(中)土層16	佛生土層	壁	16.8	- (6.0)	壁	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ、ケズリ	ヨコナガ	約8.36	朝鮮産葉形並行
40	248	742S02002(中)土層7ロツク3	佛生土層	壁	-	- (12.7)	遺構不詳	壁	M-L	真	ヨコナガ	ヨコナガ	-	不明
40	249	742S02002(中)土層16	佛生土層	壁	17.9	2.4	25.9	壁	B-4, S-M	真	ヨコナガ、ケズリガ	ヨコナガ、ハナ、ナギ	約25.36	朝鮮産葉形並行、傾付あり
40	250	742S02002(中)土層17	佛生土層	壁	13.4	2.0	約17	壁	S-M, L	真	ヨコナガ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約5.36	外面傾付、壁面直立
40	251	742S02002(中)土層23	土器層	壁	16.8	- (13.2)	内面形状にのみ残存	壁	B-3, M-L	真	ヨコナガ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約18.36	内面ヨコナガ、外面傾付
40	252	742S02002(中)土層16	土器層	壁	16.0	- (14.3)	内面形状にのみ残存	壁	S-M, L	真	ヨコナガ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約26.36	葉形並行、外面傾付
40	253	742S02002(中)土層20	土器層	壁	14.2	- (9.5)	内面形状にのみ残存	壁	B-4, M-L	真	ヨコナガ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約9.36	内面ヨコナガ、外面傾付
40	254	742S02002(中)土層16	土器層	壁	12.8	- (6.4)	傾付	壁	S-M, L	真	ヨコナガ、ケズリ	ヨコナガ、ハナ	約6.36	内面ヨコナガ、外面傾付
40	255	742S02002(中)土層7ロツク1	土器層	壁	16.7	- (9.6)	傾付	壁	B-3, M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ	約5.96	外面傾付
40	256	742S02002(中)土層16	土器層	壁	約16	- (6.3)	傾付	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ	約3.96	口縁部傾付
40	257	742S02002(中)土層14	土器層	壁	14.5	- (12.5)	内面形状にのみ残存	壁	B-3, M-L	真	ヨコナガ、傾付工具ナギ	ヨコナガ、ハナサ、ナギ	約11.36	外面傾付
40	258	742S02002(中)土層16	土器層	壁	13.9	- (13.8)	内面形状にのみ残存	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ	約10.36	内面下半ヨコナガ、外面傾付
40	259	742S02002(中)土層16	土器層	壁	-	- 4.6	(4.1)	内面形状にのみ残存	B-3, S-M	真	ナギ	ナギ	遺36.36	外面傾付
40	260	742S02002(中)土層16	土器層	壁	15.5	- (15.9)	内面形状にのみ残存	壁	S-M, L	真	ハナサ、ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ハナ	約23.36	Mナギ、ナギ並行、内面傾付、傾付並行
41	261	742S02002(中)土層15	土器層	壁	19.4	- (22.2)	壁	壁	B-3, M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ	約10.36	内面下半ヨコナガ、外面傾付
41	262	742S02002(中)土層16	土器層	壁	25.4	- (15.3)	内面形状にのみ残存	壁	S-M	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ハナ、ナギ	約10.36	葉形、外面傾付
41	263	742S02002(中)土層16	土器層	壁	17.8	- (11.5)	遺構不詳	壁	M-L	真	ヨコナガ、ハナ	ヨコナガ、ハナ	約7.96	外面傾付
41	264	742S02002(中)土層16	土器層	壁	16.0	- (5.4)	遺構不詳	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ハナ	約7.96	外面傾付
41	265	742S02002(中)土層7ロツク1	土器層	壁	14.2	- (4.9)	壁	壁	B-4, M-L	真	遺構不明	遺構不明	約3.96	葉形並行
41	266	742S02002(中)土層16	土器層	壁	16.6	- (7.8)	内面形状にのみ残存	壁	S-M	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ハナ	約7.96	内面ヨコナガ、外面傾付
41	267	742S02002(中)土層16	土器層	壁	15.1	- (5.6)	壁	壁	B-4, M-L	真	遺構不明	遺構不明	約8.96	外面傾付
41	268	742S02002(中)土層16	土器層	壁	13.7	- (7.2)	傾付	壁	M-L	真	ヨコナガ、ナギ	ヨコナガ、ナギ、ハナ	約2.36	傾付
41	269	742S02002(中)土層17、7ロツク3	土器層	壁	-	- 1.8	(17.7)	内面形状にのみ残存	B-3, M-L	真	ハナ、ナギ	ハナ、ナギ	遺36.36	外面全体に傾付、外面傾付による傾付
41	270	742S02002(中)土層16	土器層	壁	約15	- (4.9)	壁	壁	M-L	真	ヨコナガ、ハナ、ナギ	ヨコナガ、ハナ	約5.36	外面に葉形

第23表 A区第2面出土器類表2

※ [] には残存品を記す。

調査番号	遺構番号	出土土構	種別	部種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径 (cm)	外径 (cm)	土質	加工	内面装	外面装	透孔	備	参考
41	271	74252002(中)土層10	土器類	壺	14.7	-	24.7	にのみ	にのみ	S-M	無	無装束	ハケ	口18/36 底36/36	中のみあり、外面に黒漆。底面黒漆	C-300
41	272	74252002(中)土層10	佛土器	小壺	9.7	1.9	8.7	にのみ	にのみ	S-M-L	無	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口16/36 底36/36	赤色顔化粧なし。外面黒漆	C-078
41	273	74252002(中)土層7	土器類	小壺	10.0	4.7	9.8	黄灰	黄灰	S-M-L	無	無装束	ヨコナギ、ナギ	口13/36	口縁部にのみ。外面黒漆	C-120
41	274	74252002(中)土層7	土器類	小壺	11.0	-	8.2	にのみ	にのみ	S-M	無	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ、ナギ	口12/36	外面に黒漆。唇部黒	C-069
41	275	74252002(中)土層7	土器類	小壺	-	3.7	(8.0)	にのみ	にのみ	S-M-L	無	ナギ	ヨコナギ、ナギ	底6/36	外面に黒漆	C-119
41	276	74252002(中)土層25	土器類	小壺	-	4.5	(8.0)	にのみ	にのみ	S-M	無	ナギ	ハケ、ナギ	底36/36	外面に黒漆。唇部黒	C-062
41	277	74252002(中)土層	佛土器	壺	8.0	-	(5.0)	黄	黄	M-L	無	ヨコナギ、ナギ	ハケ、ナギ	口10/36		C-057
41	279	74252002(中)土層6	佛土器	壺口香	15.8	-	(7.8)	黄青	黄青	S-M-L	無	ナギ、ハケ	ハケ、ナギ	底36/36		C-091
41	280	74252002(中)土層(南側土)	佛土器	壺口香	-	-	(7.7)	黄	黄	S-M-L	無	無装束	無装束	口2/36		C-153
41	281	74252002(中)土層13	佛土器	壺口香	15.7	-	5.9	にのみ	にのみ	M-L	無	無装束	無装束	-		C-173
41	282	74252002(中)土層17	佛土器	鉢付細壺	8.8	9.8	22.7	黄	黄	S-M	無	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口9/36 底14/36 底19/36	底面黒。赤色顔化粧なし 内面に黒漆。前面外側に黒漆(幅 1.5cm)見附	C-068
42	284	74252002(中)土層7	佛土器	鉢付細壺	-	-	(12.4)	にのみ	にのみ	M-L	無	無装束	ヨコナギ	口27/36	外面に黒漆	C-041
42	285	74252002(中)土層7	土器類	壺	15.2	-	(7.2)	黄	黄	S-M	無	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	ヨコナギ	口2/36	外面に黒漆	C-127
42	286	74252002(中)土層7	土器類	壺	13.2	-	(3.5)	にのみ	にのみ	M-L	無	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	口24/36		C-054
42	287	74252002(中)土層7	土器類	壺	11.5	-	(10.1)	にのみ	にのみ	M-L	無	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ、ナギ	口6/36	底面黒。287と同一部群	C-051-1
42	288	74252002(中)土層7	土器類	壺	-	5.6	(4.1)	にのみ	にのみ	M-L	無	ナギ	ナギ	底36/36	底面黒。286と同一部群	C-051-2
42	289	74252002(中)土層7	土器類	壺	新16.5	-	(8.7)	黄	黄	S-M	無	ハケ	ハケ、ナギ	-	底面、脚部黒	C-112
42	289	74252002(中)土層7	佛土器	鉢付香	9.4	-	(16.8)	にのみ	にのみ	M-L	無	ナギ、ナギ、ナギ、ナギ、ナギ、ナギ、ナギ	ナギ	口12/36	底面黒	C-100
42	290	74252002(中)土層24	佛土器	鉢付香	9.9	7.2	15.6	黄	黄	S-M	無	無装束	無装束	口27/36	口縁部黒	C-054
42	291	74252002(中)土層9	佛土器	鉢付香	-	9.2	(5.5)	黄	黄	S-M	無	無装束	無装束	底24/36	底面黒	C-050
42	292	74252002(中)土層10	佛土器	鉢付香	-	9.4	(3.3)	黄	黄	M-L	無	ナギ	ナギ	底14/36	一部黒	C-157
42	293	74252002(中)土層20	佛土器	壺口香	-	-	(14.3)	にのみ	にのみ	S-M-L	無	ナギ	ナギ	底1/36	外面に黒漆。唇部、底面、脚部、口 文に黒。口縁部文に黒。底面黒	C-065
42	294	74252002(中)土層20	佛土器	壺口香	-	13.3	(4.4)	黄灰	黄灰	S-M	無	ナギ、ナギ、ヨコナギ	ナギ	底10/36	外面に黒漆。底面、底から孔(4.7×孔 径0.5cm)	C-034
42	295	74252002(中)土層19	佛土器	壺口香	-	-	(8.2)	にのみ	にのみ	S-M-L	無	ナギ	ナギ	-	外面に黒漆	C-003
42	296	74252002(中)土層7	佛土器	壺口香	14.6	-	(5.0)	にのみ	にのみ	M-L	無	無装束	無装束	口23/36	口縁部黒。底面、底面、脚部黒	C-121
42	296	74252002(中)土層20	佛土器	壺口香	19.8	-	(5.8)	黄	黄	S-L	無	無装束	無装束	口6/36	中のみあり	C-030
42	298	74252002(中)土層7	佛土器	壺口香	-	13.2	(7.8)	にのみ	にのみ	S-M	無	ナギ、ナギ、ハケ	ナギ	底36/36	内面にシヤリ。内面に黒漆(底面のみ)	C-107
42	299	74252002(中)土層7	佛土器	壺口香	-	12.7	(9.4)	黄	黄	S-M	無	ナギ、ナギ、ハケ	ナギ	底36/36	底面、脚部(底面)	C-110
42	300	74252002(中)土層8	佛土器	壺口香	-	(4.9)	黄青	黄青	S-M	無	ナギ	ナギ	ナギ	-	内面にシヤリ。底面、底から孔(4.7×孔 径0.4)	C-131

第24表 A区第2面出土器観表3

※()は現存位置を示す。

調査 番号	調査 位置	出土遺構	種類	部 構	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内面形状	外面形状	胎土分類	焼成	内面装飾	外面装飾	遺存部	備 考
42-301	74252002(中)上層	土師器	部片		-	(8.4)	底	直筒型	直筒型	伊-4 M-L	不灰	ナテ	不明	-	内面にシボ付
42-302	74252002(中)上層16	土師器	高片か		-	(6.4)	唇	に凸凹	に凸凹	伊-4 M-L	不灰	ナテ	不明	-	不明
42-303	74252002(中)上層7	土師器	部片		11.2	(8.8)	に凸凹	に凸凹	に凸凹	伊-4 M-L	不灰	ナテ, ハテ	不明	底13.36	外面に黒装
42-304	74252002(中)上層7	土師器	部片		12.4	(8.4)	に凸凹	に凸凹	に凸凹	伊-4 M-L	不灰	ナテ, ハテ	不明	底6.26	外面に黒装 外壁にシボ付
42-305	74252002(中)上層21	赤土器	部片		23.8	13.6	唇2	に凸凹	に凸凹	伊-1 S-M	不灰	ミガキ, ナテ, ハテ	不明	口21.736 底24.736	外壁にシボ付
42-306	74252002(中)上層16	赤土器	部片		24.0	-	(6.1)	直筒型	直筒型	伊-4 S-M	不灰	ミガキ	不明	口26.236	不明
42-307	74252002(中)上層7	赤土器	部片		19.4	-	(6.2)	に凸凹	に凸凹	伊-3 S-M	不灰	ミガキ	不明	口13.26	不明
43-306	74252002(中)上層7	赤土器	部片		26.6	-	(4.3)	に凸凹	に凸凹	伊-4 S-M	不灰	ミガキ	不明	口22.06	縁口縁わずかに残る。黒装。黒装部。底870.0cm一級部か
43-309	74252002(中)上層16	赤土器	部片		19.25	-	(4.5)	直筒型	直筒型	伊-4 S-M	不灰	ミガキ	不明	口17.26	縁口縁(3条1単位)。内面シボ付
43-310	74252002(中)上層7	赤土器	部片		21.7	-	(12.4)	に凸凹	に凸凹	伊-4 S-M	不灰	ミガキ, ナテ	不明	口22.06	不明
43-311	74252002(中)上層3	赤土器	部片		21.8	-	(5.6)	に凸凹	に凸凹	伊-4 S-M	不灰	ミガキ, ナテ	不明	口6.26	外装黒装。裏いぼ付
43-312	74252002(中)上層3	赤土器	部片		20.7	-	(20.0)	直筒型	直筒型	伊-3 S-M	不灰	ミガキ, ナテ	不明	底20.26	内外黒装
43-313	74252002(中)上層19・プロテクタ	赤土器	部片		12.2	(11.1)	に凸凹	唇部	唇部	伊-3 S-M	不灰	ミガキ, ナテ, ヨコナテ	不明	-	不明
43-314	74252002(中)上層22	赤土器	部片		17.2	-	(5.0)	唇	唇	伊-2 S-M	不灰	ミガキ	不明	-	不明
43-315	74252002(中)上層	土師器	部片		-	-	(6.7)	に凸凹	に凸凹	伊-3 S-M	不灰	ミガキ	不明	-	遺か孔。数字不明。孔径0.7mm。外面一部僅かに黒装
43-316	74252002(中)上層	土師器	部片		-	-	(5.8)	に凸凹	に凸凹	伊-3 S-M	不灰	ミガキ	不明	-	遺か孔。4.5cm。孔径0.6cm。外面に黒装
43-317	74252002(中)上層22	赤土器	部片		17.2	-	(7.5)	唇	唇	伊-1 S-M	不灰	ミガキ	不明	口7.26	両面黒装。遺か孔径12.7cm
43-318	74252002(中)上層7	赤土器	部片		24.1	-	(6.5)	直筒型	直筒型	伊-7 S-M	不灰	ミガキ	不明	口12.26	黒装。黒装部
43-319	74252002(中)上層	赤土器	部片		19.17	-	(5.9)	に凸凹	に凸凹	伊-7 S-M	不灰	ミガキ	不明	口4.26	縁口縁(5条1単位)。外面黒装
43-320	74252002(中)上層20	赤土器	部片		20.2	5.5	唇10	に凸凹	反	伊-7 S-M	不灰	ミガキ	不明	口2.26	外装黒装。唇付
43-321	74252002(中)上層7	赤土器	部片		17.0	-	9.0	唇	唇	伊-4 S-M	不灰	不明	不明	口14.26	黒装。黒装部
43-322	74252002(中)上層7	赤土器	部片		14.0	1.1	8.2	反	反	伊-5 S-M	不灰	不明	不明	口2.26	黒装。黒装部
43-323	74252002(中)上層17	土師器	部片		12.7	4.2	5.9	に凸凹	に凸凹	伊-3 S-M	不灰	ミガキ	不明	口4.26	唇付(ホタテ)
43-324	74252002(中)上層3	赤土器	部片		-	1.2	(11.0)	唇	唇	伊-4 S-M	不灰	ハテ, ナテ	不明	底36.26	縁口縁(数字不明。孔径0.6cm)
43-325	74252002(中)上層7	赤土器	部片		16.4	1.9	10.2	唇	唇	伊-3 S-M	不灰	ナテ, ハテ	不明	口8.26	縁口縁(数字不明。孔径0.6cm)。外面に黒装。
43-326	74252002(中)上層17	赤土器	部片		-	1.1	(7.1)	唇	唇	伊-3 S-M	不灰	ハテ	不明	底26.26	縁口縁(数字不明。孔径0.7cm)。黒装部
43-327	74252002(中)上層19・黒装部	赤土器	部片		4.2	(7.8)	唇	に凸凹	唇	伊-3 S-M	不灰	ハテ	不明	底20.26	縁口縁(数字不明。孔径1.1cm)。外面に黒装
43-328	74252002(中)上層22	赤土器	部片		2.2	2.1	(4.4)	に凸凹	唇	伊-5 S-M	不灰	ミガキ	不明	-	外装黒装
43-329	74252002(中)上層	赤土器	部片		-	2.2	(4.3)	唇	唇	伊-5 S-M	不灰	不明	不明	口6.26	縁口縁
43-330	74252002(中)上層7	赤土器	部片		7.5	2.7	2.3	に凸凹	に凸凹	伊-5 S-M	不灰	不明	不明	口19.26	縁口縁

第25表 A区第2面出土器類表4

※ () には残存品を示す。

調査 番号	遺構 番号	出土構 番号	種 別	材 質	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	内面形状	外面形状	土質 分類	土質 記号	内面装飾	外面装飾	形状	通存 番号	備 考	写真 番号
43	331	74250002(中)上層10	土師器	土師器	2.6	(3.5)	-	2.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
43	332	74250002(中)上層	佛土師器	土師器	高さ 3.1	底径 3.7	高さ 5.0	2.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
43	333	74250002(中)上層	佛土師器	土師器	2.5	3.5	2.5	2.5	にのみ丸唇	にのみ丸唇	S-M	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	335	74250002(中)中層	佛土師器	土師器	17.7	-	(4.3)	17.7	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	336	74250002(中)中層	佛土師器	土師器	16.5	-	(4.7)	16.5	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	337	74250002(中)中層	土師器	土師器	13.0	-	(4.7)	13.0	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	338	74250002(中)中層	土師器	土師器	14.6	-	(5.6)	14.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	339	74250002(中)中層	土師器	土師器	-	-	(4.8)	-	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	340	74250002(中)中層	佛土師器	土師器	-	20.6	(5.1)	20.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	341	74250002(中)中層	佛土師器	土師器	-	約16	(6.1)	-	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	342	74250002(中)中層	佛土師器	土師器	-	-	(6.8)	-	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	343	74250002(中)中層	土師器	土師器	-	-	(5.3)	-	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	344	74250002(中)下層	土師器	土師器	10.8	-	(2.6)	10.8	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	345	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	17.5	-	(3.9)	17.5	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	346	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	16.6	-	(4.0)	16.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	347	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	約27	-	(7.5)	約27	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-0	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	348	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	18.0	-	(7.7)	18.0	にのみ丸唇	にのみ丸唇	M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	349	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	18.2	-	(5.3)	18.2	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-0	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	350	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	18.4	-	(6.3)	18.4	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	351	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	18.0	-	(6.3)	18.0	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	352	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	17.6	-	(6.6)	17.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	S-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	353	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	17.5	-	(10.1)	17.5	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	354	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	19.3	-	(6.0)	19.3	にのみ丸唇	にのみ丸唇	M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	355	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	15.4	-	(6.1)	15.4	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-4	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	356	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	16.6	-	(4.9)	16.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-5 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	357	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	14.3	-	(6.3)	14.3	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-5 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	358	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	23.3	-	(6.3)	23.3	にのみ丸唇	にのみ丸唇	M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	359	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	17.8	-	(4.6)	17.8	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	360	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	14.6	2.4	19.9	14.6	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	
44	361	74250002(中)下層	佛土師器	土師器	30.4	-	(6.5)	30.4	にのみ丸唇	にのみ丸唇	B-3 S-M-L	土			口縁下縁に斜外	口縁下縁に斜外	A-042	

第26表 A区第2面出土土器調査表5

※1 土壌の層位を示す。

調査 番号	調査 位置	出土遺構	種別	跡目	位置 (m)	層位 (m)	内面形状	外周形状	出土品	焼成	内面装飾	外面装飾	遺存率	備考	
44	362	74252002(東)下層7ブロック	土器類	壺	15.7	- (50)	内面形状 にのみ片側	外周形状 にのみ片側	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-200	
44	363	74252002(東)下層7ブロック	土器類	壺	16.6	- (43)	底面	壺	B-4 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-002	
45	364	74252002(東)下層7ブロック1 層位(北4層)	土器類	壺	21.3	0.0	底面	壺	B-4 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-004	
45	365	74252002(東)下層7ブロック2	土器類	壺	16.6	- (42)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-005	
45	366	74252002(中)下層	土器類	壺	16.2	- (54)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 M-L	黒	ハナダナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-009	
45	367	74252002(中)下層	土器類	壺	15.9	- (52)	底面	底面	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-242	
45	368	74252002(東)下層	土器類	壺	14.0	- (67)	底面	底面	B-3 M-L	不明	不明	不明	不明	C-626	
45	369	74252002(中)下層	土器類	壺	15.0	- (63)	にのみ片側	にのみ片側	M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-607	
45	370	74252002(中)下層	赤土器類	小壺	13.0	- (71)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ハナダナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-206	
45	371	74252002(中)下層	赤土器類	小壺	12.4	- (74)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-223	
45	372	74252002(中)下層7ブロック2	赤土器類	小壺	12.9	- (53)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-214	
45	373	74252002(中)下層7ブロック2	赤土器類	小壺	11.7	5.2	9.7	不明	不明	不明	不明	不明	不明	C-203	
45	374	74252002(中)下層7ブロック1	土器類	小壺	11.4	- (64)	底面	底面	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-207	
45	375	74252002(東)下層	赤土器類	壺	-	- (148)	底面	底面	M-L	黒	ナギ、ナギ	ナギ、ナギ	-	C-601	
45	376	74252002(中)下層9、7ブロック2	赤土器類	壺	-	5.6	(279)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ハナ	ハナ	遺36/206 外面一部残存	C-187
45	377	74252002(中)下層7ブロック2	赤土器類	瓶口壺	14.4	- (83)	底面	底面	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-216	
45	378	74252002(東)下層	赤土器類	瓶口壺	12.6	- (88)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-622	
45	379	74252002(中)下層	赤土器類	壺	20.6	- (79)	にのみ片側	にのみ片側	M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-179	
45	380	74252002(中)下層7ブロック2	土器類	壺	16.4	- (70)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 S-M-L	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	C-200	
45	381	74252002(中)下層7ブロック2	土器類	壺	18.0	- (71)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 S-M-L	黒	不明	不明	不明	C-215	
45	382	74252002(中)下層7ブロック2	土器類	壺	13.2	- (53)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-221	
45	383	74252002(中)下層7ブロック1	土器類	壺	14.6	- (44)	底面	底面	B-5 S-M-L	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	C-204	
45	384	74252002(中)下層	土器類	壺	21.1	- (41)	にのみ片側	にのみ片側	B-5 S-M-L	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	C-204	
45	385	74252002(中)下層	土器類	壺	25.0	- (34)	底面	底面	M-L	黒	ハナダナギ	ハナダナギ	ハナダナギ	C-040	
45	386	74252002(中)下層7ブロック2	土器類	壺	19.7	- (59)	底面	底面	B-4 S-M-L	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	C-185-1	
46	387	74252002(東)下層7ブロック3	土器類	壺	18.4	- (104)	底面	底面	B-4 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-185-2	
46	388	74252002(東)下層7ブロック3	土器類	壺	-	5.4	(94)	底面	底面	B-4 S-M-L	黒	ハナダナギ	ハナダナギ	ハナダナギ	C-186-1
46	389	74252002(中)下層7ブロック2	土器類	壺	18.4	- (45)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 S-M-L	黒	ハナ	ハナ	ハナ	遺36/206 外面一部残存	C-217
46	390	74252002(中)下層	土器類	壺	17.0	- (58)	にのみ片側	にのみ片側	B-3 S-M-L	黒	ハナダナギ、ナギ	ハナダナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	C-610	
46	391	74252002(東)下層	土器類	壺	14.6	- (38)	にのみ片側	にのみ片側	B-4 M-L	黒	ミナギ	ハナ、ヨコナギ、ミナギ	ハナ、ヨコナギ、ミナギ	C-201	

第27表 A区第2面出土器類表6

※ () には埋存位置を示す。

発掘調査 番号	出土遺構	種 類	部 種	口径 (cm)	深目 (cm)	構造 (m)	内面状況	外周状況	出土位置	部 材	内面調査	外周調査	埋 葬 庫	備 考
46-392	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶	12.0	-	(58)	におひ貫通	におひ貫通	お3-M-L	貝	ヨコナガ, ナギ, ハケ	ヨコナガ, ミガキ	口12/36	C-199
46-393	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶口蓋	-	-	(43)	底貫	底貫	お2-M	貝	ナギ	ミガキ	小片	C-199
46-394	7A252002(中)下層	弥生土器	小型器	-	1.7	(70)	底貫	底貫	お3-M-L	貝	ヨコナガ, ナギ	ミガキ	底36/36	C-188
46-395	7A252002(中)下層	弥生土器	付付器	-	9.9	(48)	におひ貫	におひ貫	お3-M-L	貝	ナギ	ミガキ, ヨコナガ	底27/36	C-204
46-396	7A252002(中)下層	土師器	小型器	-	-	(67)	におひ貫	におひ貫	お4	貝	ナギナカ	ミガキナカ	-	C-605
46-397	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	-	(63)	におひ貫通	におひ貫通	お3-M-L	貝	ハケ横土ナギ	ミガキ	-	C-603
46-398	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	15.2	(29)	におひ貫通	におひ貫通	お3-M-L	貝	ヨコナガ, ナギ	ミガキ	底5/36	C-692
46-399	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	13.9	(59)	におひ貫	におひ貫	お3-M	貝	ナギ, ヨコナガ	ミガキ	底15/36	C-209
46-400	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	16.0	(126)	におひ貫通	におひ貫通	お4	貝	ナギ, ハケ, ヨコナガ	ミガキ, ヨコナガ	底9/36	C-177
46-401	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	13.0	(80)	におひ貫通	におひ貫通	お4-M	貝	ナギ, ハケ横ナギ, ヨコナガ	ミガキ	底13/36	C-183
46-402	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	13.0	(83)	におひ貫通	におひ貫通	お4-M	貝	ナギ, ハケ横ナギ	ミガキ	底30/36	C-180
46-403	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	11.4	(84)	におひ貫通	におひ貫通	お4-M	貝	ナギ, ハケ横ナギ, ヨコナガ	ミガキ	底1/36	C-195
46-404	7A252002(中)下層	土師器	瓶付	-	15.7	(69)	におひ貫	におひ貫	お3-M-L	貝	ヨコナガ, ナギ	ミガキ, ヨコナガ	底6/36	C-186
46-405	7A252002(中)下層	土師器	瓶付	-	11.1	(70)	におひ貫通	におひ貫通	お4-M-L	貝	ナギ, ヨコナガ	ハケ, ナギ, ヨコナガ	底5/36	C-176
46-406	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	-	(121)	底貫通	底貫通	お6	貝	ミガキ, ナギ	ミガキ	-	C-194
46-407	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	-	(86)	におひ貫通	におひ貫通	お4-M	貝	ミガキ, ナギ, ヨコナガ	ミガキ	-	C-192
46-408	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶付	-	9.6	(59)	におひ貫通	におひ貫通	お3-M-L	貝	不明	不明	底36/36	C-208
46-409	7A252002(中)下層	土師器	瓶付	-	10.9	(68)	底貫	底貫	お3-M	貝	ナギ, ハケ横ナギ	ミガキ	底13/36	C-222
46-410	7A252002(中)下層	土師器	瓶付	-	11.4	(82)	におひ貫	におひ貫	お4	貝	ミガキ, ナギ	ミガキ	底19/36	C-182
46-411	7A252002(中)下層	弥生土器	鉢	18.5	-	(62)	におひ貫通	におひ貫通	お3-M	貝	ミガキ	ミガキ	口18/36	C-241
46-412	7A252002(中)下層	弥生土器	小型付鉢	11.4	4.0	6.9	底貫	底貫	お3	蓋	ヨコナガ, ナギ	ヨコナガ, ナギ	口9/36	C-181
46-413	7A252002(中)下層	弥生土器	小型付鉢	-	-	(47)	底貫	底貫	お6	貝	ナギ	ナギ	-	C-197
46-414	7A252002(中)下層	土師器	土蓋くぼ	6.9	3.6	4.5	におひ貫通	におひ貫通	お1-L	貝	ハケ横ナギ	ナギ	口7/36	C-211
46-415	7A252002(中)下層	土師器	土蓋くぼ	6.3	5.0	3.5	におひ貫通	におひ貫通	お3-M-L	貝	ナギ	ナギ	口19/36	C-725
46-416	7A252002(中)下層	弥生土器	付付鉢	16.7	4.9	16.1	におひ貫通	におひ貫通	お3	蓋	ハケ横ナギ	ハケ横ナギ, ナギ	口1/36	A-002
46-417	7A252002(中)下層	弥生土器	付付鉢	-	-	(34)	におひ貫通	底貫	お4	蓋	ナギ	ナギ	底36/36	C-691
46-418	7A252002(中)下層	土師器	付付鉢	-	4.4	(60)	におひ貫通	におひ貫通	お4-L	蓋	横土ナギ	ナギ	底36/36	C-611
46-440	7A252002(中)下層	彌生土器	鉢	約14cm	-	(45)	におひ貫	におひ貫	お3-M	貝	横土ナギ	横土ナギ	小片	D-353
46-441	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶	-	-	(39)	底貫	底貫	お3-M	貝	ナギ, 竹葉文, 刺吹文	ナギ	小片	C-269
46-442	7A252002(中)下層	弥生土器	瓶	15.5	-	(78)	底貫	底貫	お3-M	貝	ヨコナガ, ハケ	ヨコナガ, ハケ	口16/36	C-330

第28表 A区第2層出土土器調査表7

※()は埋蔵位置を示す。

調査年度	調査位置	出土遺構	種別	図柄	注目 点	位置 座標	内面形状	外面形状	形成	内面調整	外面調整	遺存状態	備考
49-443	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	19.0	(3.1)	内面灰色 外赤黄褐色	胎土分銅 b-M	ヨコナギ, ハケ	並	縦溝有無		口内面短柱状突起, 外側凹込	A-050
49-444	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	18.0	(4.1)	内赤い 外赤い	b-M M-L	不明	並	縦溝有無		口縁部短柱状, 横付	A-044
49-445	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	15.0	(5.1)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-750
49-446	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	17.0	(4.6)	内赤い 外赤い	M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-704
49-447	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	16.0	(5.0)	通褐色 内赤い	b-M M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付, 横溝直立つ	C-272
49-448	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	16.4	(7.7)	赤黄 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-251
49-449	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	16.0	(6.3)	横赤黄 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-301
49-450	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	16.0	(5.1)	内赤い 外赤い	S-M M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-745
49-451	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	19.31	(9.2)	内赤い 外赤い	b-M M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-277
49-452	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	30.4	(6.6)	内赤い 外赤い	S-M M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付, 口縁部直立つ	C-347
49-453	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	20.6	(4.4)	通褐色 内赤い	b-M M-L	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付, 横溝直立つ	C-295
49-454	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	15.4	(5.1)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-747
49-455	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	14.0	(6.8)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-354
49-456	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	19.23	(5.7)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-252
49-457	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	21.2	(8.0)	横 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-049
49-458	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	21.8	(8.7)	黄褐色 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-049-1
49-459	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	-	3.2	(5.4)	黄褐色 内赤い	b-M S-M	並	ナギ		外面付付	C-049-2
49-460	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	19.20	(5.3)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-304
49-461	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	18.0	(10.8)	横 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-292
49-462	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	19.2	(4.1)	灰白 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-247
49-463	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	15.0	(6.1)	黄褐色 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-650
49-464	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	18.0	(6.5)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-286
49-465	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	17.0	(6.9)	赤黄 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-653
49-466	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	15.2	(6.3)	黄褐色 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-717
49-467	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	15.1	(5.7)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-657
49-468	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	17.9	(5.4)	灰 内赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-278
49-469	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	16.0	(7.3)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-284
49-470	74252002(中)遺構下層(相付層)	粘土土器	甕	16.0	(5.6)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-615
50-471	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	19.19	(4.5)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-301
50-472	74252002(中)遺構下層	粘土土器	甕	17.7	(7.5)	内赤い 外赤い	b-M S-M	ヨコナギ, ナギ	並	ヨコナギ, ナギ		外面付付	C-653

第29表 A区第2面出土器類表B

※ [] には埋存品を記す。

検出 場所	検出 時期	出土遺構	種別	部 種	口径 (cm)	深径 (cm)	高さ (cm)	内面形状	外面形状	出土位置	出土層	形状	内面装飾	外面装飾	伴出物	備 考	調査 番号
50 473	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	17.4	-	(4.9)	甕	直	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ナギ	口径7.90	器底面12段11単位。外面磨け行儀	C-305
50 474	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	17.2	-	(6.0)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径7.90	器底面14段11単位。外面磨け行儀、縁部に十字文様	C-770
50 475	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	16.2	-	(5.1)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径6.36	器底面9段11単位。外面二重底	C-762
50 476	7A2502002 (高)層下層	弥生土器	甕	15.6	-	(5.9)	に凸溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径4.36	器底面7段11単位。外面二重底	C-722
50 477	7A2502002 (家)群外れ4層下層	弥生土器	甕	15.3	-	(6.0)	に凸溝	に凸溝	直	5-M	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径9.36	器底面14段11単位。外面磨け行儀	C-349
50 478	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	15.6	-	(4.5)	に凸溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径6.36	器底面5段11単位。外面磨け行儀	C-281
50 479	7A2502002 (家)群外れ4層下層	弥生土器	甕	15.3	-	(5.6)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径13.36	器底面15段11単位。外面磨け行儀	C-201
50 480	7A2502002 (家)群外れ4層下層	弥生土器	甕	15.2	-	(6.6)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径9.36	器底面12段11単位。外面二重底	C-284
50 481	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.6	-	(5.4)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径7.36	器底面5段11単位。外面磨け行儀	C-275
50 482	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.2	-	(18.0)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径14.36	器底面15段11単位。内面直溝。外面磨け行儀	C-189
50 483	7A2502002 (家)群外れ4層下層	弥生土器	甕	14.6	-	(14.4)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径26.36	器底面12段11単位。外面直溝	C-276
50 484	7A2502002 (中)層下層	土師器	甕	16.4	-	(8.5)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径1.96	器底面11段11単位。内面直溝。外面直溝	C-253
50 485	7A2502002 (中)層下層	土師器	甕	18.4	-	(6.7)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径4.36	器底面は乱る	C-290
50 486	7A2502002 (中)層下層	土師器	甕	約18	-	(11.2)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径1.96	器底面、器口縁部	C-290
50 487	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	約23	-	(5.9)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径3.36	外面磨け行儀	C-306
50 488	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	約20	-	(7.8)	直	直	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径2.96	外面直溝磨け行儀	C-284
50 489	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	約19	-	(5.3)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径4.36	外口縁部、外面直溝	C-288
50 490	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	18.0	-	(4.0)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径5.96	外面磨け行儀	C-305
50 491	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	16.7	-	(6.1)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径5.36	外面磨け行儀	C-648
50 492	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	15.2	-	(7.1)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径4.96	外面磨け行儀	C-647
50 493	7A2502002 (高)層下層	弥生土器	甕	16.8	-	(4.7)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径4.36	外面磨け行儀	C-761
50 494	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.8	-	(6.4)	直溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径5.96	器底面二重底	C-663
50 495	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.4	-	(5.3)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径6.36	外面磨け行儀	C-760
50 496	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.1	-	(3.7)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径4.96	器底面直溝	C-768
50 497	7A2502002 (高)層下層	弥生土器	甕	13.6	-	(4.9)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径1.36	外面磨け行儀	C-723
50 498	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.6	-	(5.0)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径7.36	器底面直溝	C-254
50 499	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	14.8	-	(4.0)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径6.36	器底面直溝。外面直溝	C-282
50 500	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	17.0	-	(5.4)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径13.36	口縁部直溝。外面磨け行儀	C-734
50 501	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	20.6	-	(5.5)	直溝	直溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ハク	ヨコナギ、ハク	口径6.36	器底面直溝。器底面直溝	C-646
50 502	7A2502002 (中)層下層	弥生土器	甕	16.6	-	(5.9)	に凸溝	に凸溝	直	5-M-L	直	直	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口径6.36	外面磨け行儀	C-674

第30表 A区第2面出土土器観察表

※()内は存在しないを示す。

調査番号	出土木機	種別	図号	目録 頁数	位置 説明	内面形状	外面形状	断面形状	構成	内面調整	外面調整	埋存状態	備考
51 503	74252002(中)最下層	土器類	壁	17.4	- (83)	流線、傾斜流線	外側色黒	胎土分銅	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ	口8/200	外側一部残存、厚縁直立
51 504	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	16.8	- (131)	にのみい骨	にのみい骨	S-M	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口13/336	外側残存
51 505	74252002(中)最下層	土器類	壁	16.5	- (53)	反白	反白	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	ヨコナギ	口7/206	外側残存
51 506	74252002(中)最下層	土器類	壁	18.2	- (74)	縦	縦	M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ	口9/336	中のみ残存、外側縁くぼみ
51 507	74252002(東)東側4-4最下層	土器類	壁	17.1	- (81)	流線	縦	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口3/206	外側残存
51 508	74252002(中)最下層(相付付)	衛生土類	壁	17.0	- (59)	にのみい骨	にのみい骨	M-L	黒	ヨコナギ、ハケ、ケズリ	ヨコナギ	口3/206	外側残存
51 509	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	14.4	- (33)	流線	流線	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口5/206	口縁部内面留指痕、外側残存
51 510	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	14.0	- (45)	反白	流線	S-M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口8/206	外側残存
51 511	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	16.6	- (74)	にのみい骨	にのみい骨	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ハケ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口11/206	口縁部中のみあり、外側残存
51 512	74252002(中)最下層	土器類	壁	15.9	- (46)	反白	縦	M-L	黒	ヨコナギ	ヨコナギ、ナギ	口5/206	
51 513	74252002(中)最下層	土器類	壁	17.2	- (44)	にのみい骨	にのみい骨	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ	口5/206	外側残存
51 514	74252002(中)最下層	土器類	壁	17.0	- (41)	縦	縦	M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ	口5/206	赤色酸化石灰
51 515	74252002(中)最下層	土器類	壁	15.4	- (46)	流線、反	流線	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ハケ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口5/206	
51 516	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	小壁	11.6	- (180)	にのみい骨	にのみい骨	M-L	黒	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ、ケズリ	口27/206	口縁部中のみあり、赤色酸化石灰、内面留指痕
51 517	74252002(中)最下層	土器類	小壁	13.6	- (46)	反白	反白	B-4 S-M	黒	ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、ハケ	口5/206	内外側残存
51 518	74252002(中)最下層	土器類	小壁	12.0	- (55)	にのみい骨	にのみい骨	M-L	黒	ヨコナギ、ナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口7/206	単位で残存、外側残存
51 519	74252002(東)東側(相付付)	土器類	小壁	81.2	- (27)	にのみい骨	にのみい骨	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口4/206	内面ヨコシ、外側残存
51 520	74252002(中)最下層	衛生土類	壁	13.6	- (65)	縦	縦	M-L	黒	ヨコナギ、ケズリ	ヨコナギ、ハケ	口8/206	外側残存
51 521	74252002(高)最下層(相付付)	衛生土類	壁	15.4	- (51)	にのみい骨	にのみい骨	S-M-L	黒	ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、ハケ、ナギ	口7/200	外側残存
51 522	74252002(中)最下層	衛生土類	壁	15.8	- (51)	にのみい骨	にのみい骨	S-M-L	黒	ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、ハケ	口6/206	外側残存
51 523	74252002(中)最下層	衛生土類	壁	15.6	- (68)	反白	反白	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、ハケ	口5/206	外側残存
51 524	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	19.8	- (69)	反白	反白	S-M-L	黒	縦、反白、傾斜ヨコナギ	ヨコナギ、ナギ	口9/206	口縁部内面工具のツラリ、外側残存
51 525	74252002(高)最下層(相付付)	土器類	壁	16.0	- (58)	にのみい骨	にのみい骨	S-M-L	黒	ハケ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口4/206	外側残存
51 526	74252002(東)東側(相付付)	土器類	壁	15.2	- (51)	縦	にのみい骨	M-L	黒	ハケ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口4/206	外側口縁部残存
51 527	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	14.7	- (51)	反白	縦	B-2 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口7/206	内外側残存
51 528	74252002(中)最下層(相付付)	土器類	壁	12.8	- (60)	反白	傾斜	S-M	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口4/206	内外側残存
51 529	74252002(中)最下層(相付付)	衛生土類	壁	-	4.2	(95)	にのみい骨	S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ、横線工具ナギ	ハケ、ナギ	底30/206	外側残存
51 530	74252002(中)最下層(相付付)	衛生土類	壁	34.6	- (259)	にのみい骨	にのみい骨	S-M-L	黒	ヨコナギ、ハケ、ナギ	ヨコナギ、ハケ、ナギ	口7/206	外側残存
52 531	74252002(東)東側(相付付)	土器類	壁	-	3.5	(48)	縦	M-L	黒	ハケ	ナギ	底30/206	内側一部残存
52 532	74252002(東)東側(相付付)	土器類	小壁	10.2	- (50)	にのみい骨	にのみい骨	M-L	黒	ハケ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口6/206	外側残存

第31表 A区第2面出土器類解説表10

※ () には残存品数を示す。

体系番号	出土土塊	種別	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径 (cm)	外径 (cm)	出土土層	内径位置	外径位置	出土土層	加工	内径位置	外径位置	通身径	備	番号
52 533	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	約24	-	(4.9)	に小穴	に小穴	B-1 M-L	に小穴	に小穴	B-1 M-L	真	ヨコナ子	ヨコナ子	ヨコナ子, ハケ	外底厚付	C-273
52 534	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	19.6	-	(4.0)	に小穴	に小穴	B-1 M-L	に小穴	に小穴	B-1 M-L	真	ヨコナ子	ヨコナ子	ヨコナ子, ハケ	外底厚付	C-669
52 535	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	16.4	-	(4.2)	真	真	B-3 S-M	真	真	B-3 S-M	真	ハケ, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	外底厚付	C-662	
52 536	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	20.6	-	(13.7)	流紋層	流紋層	B-3 S-M	流紋層	流紋層	B-3 S-M	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ナズリ	内径目出し, 外底厚付	C-300	
52 537	74252002 (高) 最下層 (相付付)	土師器	壺	16.2	-	(3.0)	に小穴	に小穴	B-6 M-L	に小穴	に小穴	B-6 M-L	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	弁がみあり, 口縁部に黒灰	C-754	
52 538	74252002 (中) 最下層	土師器	壺	15.2	-	(8.1)	真	真	B-6 M-L	真	真	B-6 M-L	真	ハケ, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	外底厚付	C-245	
52 539	74252002 (高) 最下層 (相付付)	土師器	壺	15.0	-	(3.5)	に小穴	に小穴	B-3 M-L	に小穴	に小穴	B-3 M-L	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	内径土粒細く上げ残存	C-302	
52 540	74252002 (高) 最下層 (相付付)	土師器	壺	14.0	-	(6.5)	に小穴	に小穴	B-3 M-L	に小穴	に小穴	B-3 M-L	真	ハケ, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	口縁部に黒灰	C-300	
52 541	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	14.4	-	(2.9)	に小穴	に小穴	B-4 M-L	に小穴	に小穴	B-4 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	流紋層目立つ	C-763	
52 542	74252002 (高) 最下層 (相付付)	土師器	壺	15.6	-	(6.9)	真	真	B-3 M-L	真	真	B-3 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	外底厚付	C-716	
52 543	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	壺	14.6	-	(6.2)	に小穴	に小穴	B-3 M-L	に小穴	に小穴	B-3 M-L	真	ハケ, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	流紋層目立つ	C-316	
52 544	74252002 (中) 最下層	土師器	壺	約14.5	-	(5.0)	流紋層	真	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	外底厚付	C-769	
52 545	74252002 (高) 最下層 (相付付)	弥生土師	小壺	13.6	-	(7.6)	に小穴	に小穴	B-1 M-L	に小穴	に小穴	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	新部外底厚付, 外底厚付	C-613	
52 546	74252002 (高) 最下層 (相付付)	弥生土師	小壺	12.4	-	(6.6)	に小穴	流紋層	B-1 M-L	に小穴	流紋層	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ハケ	外底に黒灰	C-239	
52 547	74252002 (高) 最下層 2	土師器	小壺	12.6	-	(5.7)	真	真	B-3 M-L	真	真	B-3 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	外底に黒灰	C-719	
52 548	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	小壺	11.8	-	(5.4)	楕円	楕円	B-1 M-L	楕円	楕円	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ハケ, ナズリ	ヨコナ子	外底厚付, 縁目目立つ	C-667	
52 549	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	小壺	11.2	-	(7.4)	真	真	B-3 M-L	真	真	B-3 M-L	真	ヨコナ子, 楕円工具ナズリ	ヨコナ子, ハケ, ナズリ	内径厚付, 外底厚付	C-322	
52 550	74252002 (中) 最下層 (相付付)	土師器	小壺	10.6	2.6	14.8	真	真	B-3 S-M	真	真	B-3 S-M	真	ヨコナ子, ハケ, ナズリ	ヨコナ子, ハケ, ナズリ	内径厚付, 外底厚付	C-312	
52 551	74252002 (高) 最下層	弥生土師	小壺	7.8	-	(5.3)	に小穴	に小穴	B-1 M-L	に小穴	に小穴	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	外底厚付	C-759	
52 552	74252002 (高) 最下層 (相付付)	土師器	小壺	9.8	-	(5.5)	流紋層	真	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	外底厚付	C-724	
52 553	74252002 (中) 最下層 2	弥生土師	壺	-	5.6	(8.3)	に小穴	真	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	楕円	ハケ	底19.36	C-629	
52 554	74252002 (中) 最下層 2	土師器	壺	-	4.2	(10.8)	真	真	B-3 M-L	真	真	B-3 M-L	真	ハケ	底33.36	外底厚付	C-205	
52 555	74252002 (高) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	約25	-	(4.7)	真	真	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	ハケ	底14.36	内径厚付, 外底厚付, 口縁部黒灰	A-047	
52 556	74252002 (中) 最下層	弥生土師	壺	-	8.0	(6.1)	に小穴	に小穴	B-3 S-M	に小穴	に小穴	B-3 S-M	真	ハケ, ナズリ	ハケ, ナズリ	内径厚付目立つ, 外底厚付	C-302	
52 557	74252002 (中) 最下層 (相付付)	弥生土師	出流口	15.5	-	(9.5)	真	真	B-3 S-M	真	真	B-3 S-M	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	内径厚付目立つ, 外底厚付	C-270	
52 558	74252002 (中) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	15.0	-	(9.8)	に小穴	に小穴	B-4 M-L	に小穴	に小穴	B-4 M-L	真	ヨコナ子, ナズリ	ヨコナ子, ナズリ	口17.36	C-380	
52 559	74252002 (中) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	14.8	-	(6.7)	真	真	B-4 M-L	真	真	B-4 M-L	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	赤色化粧土	C-675	
52 560	74252002 (高) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	12.8	-	(5.1)	に小穴	に小穴	B-6 S-M	に小穴	に小穴	B-6 S-M	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	流紋層目立つ, 外底に黒灰	C-721	
52 561	74252002 (中) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	10.8	-	(8.9)	楕円	楕円	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	ハケ	底8.96	流紋層目立つ, 外底に黒灰	C-630	
52 562	74252002 (中) 最下層 (高) 最下層 (相付付)	弥生土師	壺	17.4	-	(6.5)	真	真	B-1 M-L	真	真	B-1 M-L	真	ヨコナ子, ハケ	ヨコナ子, ハケ	流紋層目立つ	C-300	

第32表 A区新2面の出土器類表11

⑥ ()は残存位置を示す。

調査番号	出土遺構	種別	階層	位置	内面形状	外面形状	胎土分類	内面装飾	外面装飾	透孔部	備考		
53 563	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	13.2 - (10.5)	におい(横)	におい(横)	B-4 S-M	黒	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ横一筋ナギ	ヨコナギ、ハウ横一筋ナギ	口内2/3 口内5/6	C-203
53 564	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	12.9 - (5.5)	横尻	横	S-M	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	口内5/6	C-319
53 565	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	10.7 - (5.4)	流肩	におい(横)	B-4 S-M	黒	横流肩	ヨコナギ、ミガキ	ヨコナギ、ミガキ	口内2/3	C-752
53 566	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	15.1 - (11.1)	におい(横)	におい(横)	S-M	黒	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内3/6	C-645
53 567	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	12.5 - (5.9)	流肩	流肩	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内3/6	C-628
53 568	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	13.2 - (6.5)	横	横	S-M-L	黒	ミガキ、ナギ	ミガキ	ミガキ	口内3/6	C-339
53 569	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	13.4 - (4.5)	流肩	流肩	B-4 M	黒	ヨコナギ、ミガキ	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内4/6	C-266
53 570	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	15.2 - (7.7)	におい(横)	におい(横)	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ミガキ	ヨコナギ、ミガキ	口内17/26	C-257
53 571	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	17.7 - (15.0)	におい(横)	におい(横)	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	口内1/6	C-265
53 572	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	19.0 - (7.5)	横	横	S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内19/26	C-341
53 573	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	19.25 - (5.8)	尻	におい(横)	B-3 M	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	口内2/6	C-612
53 574	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	21.2 - (5.6)	におい(横)	におい(横)	S-M-L	黒	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	口内2/6	C-617
53 575	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	16.9 - (3.4)	横	横	B-4 S-M	黒	ハウ横ミガキ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内5/6	C-656
53 576	7A252002 (中) 甕下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	17.1 - (3.1)	におい(横)	におい(横)	B-3 M-L	黒	ヨコナギ、ミガキ	ヨコナギ	ヨコナギ	口内3/6	C-751
53 577	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	20.6 - (4.2)	におい(横)	におい(横)	B-3 M-L	黒	横流肩	横流肩	横流肩	口内4/6	C-620
53 578	7A252002 (中) 甕下層	佛生土器	胎土器	18.2 - (6.6)	におい(横)	におい(横)	B-4 M-L	黒	横流肩	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内3/6	C-749
53 579	7A252002 (中) 下層	土器	二重口器	21.1 - (8.0)	におい(横)	流肩	B-4 S-M-L	不発	ハウ横ミガキ、ナギ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ、ハウ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ、ハウ	口内4/6	C-307
53 580	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	17.0 - (8.7)	におい(横)	におい(横)	S-M-L	黒	ハウ横ミガキ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内11/26	C-578
53 581	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	18.2 - (3.3)	横尻	横	B-3 S-M	黒	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	口内6/6	C-753
53 582	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	18.6 - (6.3)	尻	尻	S-M	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内20/26	C-196
53 583	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	17.2 - (2.4)	におい(横)	におい(横)	B-4 S-M-L	黒	ミガキ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内16/26	C-317
53 584	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	18.3 - (5.8)	流肩	流肩	S-M	黒	ミガキ、ハウ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内5/6	C-287
53 585	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	二重口器	13.0 - (4.5)	におい(横)	におい(横)	B-4 S-M	黒	ミガキ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内4/6	C-654
53 586	7A252002 (中) 下層	土器	二重口器	13.2 - (4.4)	におい(横)	におい(横)	S-M	黒	ミガキ	ヨコナギ、ハウ	ヨコナギ、ハウ	口内4/6	C-285
53 587	7A252002 (中) 下層	土器	胎土器	13.2 - (5.2)	流肩	流肩	B-4 M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内3/6	C-716
53 588	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	胎土器	12.4 - (5.6)	尻	尻	B-2 S	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	ヨコナギ、ハウ横ミガキ	口内3/6	C-318
53 589	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	胎土器	11.1 - (6.3)	におい(横)	におい(横)	B-2 S	黒	ミガキ、ナギ	ミガキ	ミガキ	口内3/6	C-303
53 590	7A252002 (中) 下層 (相付付)	土器	胎土器	10.2 - (5.7)	におい(横)	におい(横)	S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内3/6	C-243
53 591	7A252002 (中) 下層5	土器	胎土器	10.1 - (20.3)	におい(横)	におい(横)	B-3 S-M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内3/6	C-303
53 592	7A252002 (中) 下層 (相付付)	佛生土器	胎土器	13.0 - (5.5)	におい(横)	におい(横)	M-L	黒	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	口内19/26	C-243

第33表 A区第2面出土器類検索表 12

※ () には残存品を示す。

調査 番号	遺構 番号	出土遺構	種 類	口縁 径(φ)	底径 径(φ)	高さ (cm)	内径 径(φ)	外径 径(φ)	内径 径(φ)	外径 径(φ)	通体 径(φ)	備 考
53	593	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	12.0	-	(46)	にのみ内径	S-M	具	ミガキ、ヨコナリ	口径36	内面赤褐色
53	594	74252002(中)下層下層(相付付)	弥生土器 甕	10.1	-	(61)	にのみ内径	S-M	具	ミガキ、ヨコナリ	口径36	内面赤褐色
54	595	74252002(中)下層下層(東1下層2)	土師器 甕	15.7	-	(71)	にのみ内径	S-M,L	具	ヨコナリ、ナリ	口径43.36	内外赤褐色に付着
54	596	74252002(中)下層下層(東1下層3)	土師器 甕	13.8	-	(106)	通気、底溝	S-M	具	ヨコナリ、ハナ横ナリ	口径30.36	外周赤褐色に赤糸状
54	597	74252002(中)下層下層	土師器 甕	12.0	-	(37)	底溝	S-M	具	ハナ横ヨコナリ	口径36	外周赤褐色に赤糸状
54	598	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	-	(107)	にのみ内径	S-M,L	具	底溝不明	-	-
54	600	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	-	(22)	底溝	S-M,L	具	底溝不明	-	綜合考で判断
54	603	74252002(中)下層下層5	弥生土器 甕	-	-	(131)	底溝	S-M,L	具	ハナ横ミガキ	-	内面黒色付目立つ、外面付着層 黒褐色
54	601	74252002(中)下層下層(東1下層1)	土師器 甕	-	7.7	(23.3)	底溝	S-M	具	ハナ横一部ナリ	底径36.36	内面赤褐色に付着、外周赤褐色
54	602	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	7.0	(62)	にのみ内径	S-M	具	ナリ	底径36.36	外周に黒質
54	605	74252002(中)下層下層4	土師器 甕	-	6.3	(21.3)	底溝	S-M	具	ハナ横横ハミガキ	底径36.36	外周に黒質
54	604	74252002(中)下層下層4	土師器 甕	-	4.8	(132)	底溝	S-M,L	具	ナリ、ハナ	底径36.36	外周に黒質
54	606	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	6.7	(31)	底溝	S-M,L	具	ハナ横ナリ、ナリ	底径36.36	外周赤褐色、中央赤くぼた
54	607	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	5.3	(46)	にのみ内径	S-M	具	ハナ横ミガキ、ナリ	底径36.36	底面付着
54	608	74252002(中)下層下層(相付付)	土師器 甕	-	4.3	(36)	にのみ内径	S-M	具	ハナ横ナリ	底径36.36	底面付着、外周赤褐色、黒質付着
54	609	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	8.9	-	(141)	底溝	S-M	具	ハナ横ナリ	底径36.36	外周赤褐色
54	610	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	9.2	-	(82)	にのみ内径	S-M	具	底溝不明	口径36	底径36.36
54	611	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	-	-	(86)	底溝	S-M	具	ハナ	口径36	横糸に不規則
54	612	74252002(中)下層下層(相付付)	弥生土器 甕	-	8.4	(140)	底溝	S-M	具	ヨコナリ、ミガキ	底径36.36	外周赤褐色
54	613	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	8.6	-	(44)	にのみ内径	S-M	具	ハナ横ミガキ	底径6.36	外周赤褐色
54	614	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	13.8	(31)	にのみ内径	S-M,L	具	ナリ、ヨコナリ、ハナ	底径7.96	外周赤褐色
54	615	74252002(中)下層下層	土師器 甕	-	10.5	(62)	にのみ内径	S-M	具	ナリ、ヨコナリ	底径7.96	外周赤褐色
54	616	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	14.3	-	(55)	にのみ内径	S-M	具	ミガキ	口径36	外周赤褐色
55	618	74252002(中)下層下層(南1下層)	弥生土器 甕	前25	-	(49)	底溝	S-M,L	具	ナリ	口径36	外周赤褐色
55	619	74252002(中)下層下層(相付付)	弥生土器 甕	-	18.2	(168)	底溝	S-M,L	具	ナリ、ヨコナリ	底径6.36	外周赤褐色に付着
55	620	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	-	13.0	(32)	底溝	S-M	具	底溝不明	底径4.36	外周に付着、内面付着層
55	621	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	-	19.0	(26)	底溝	S-M,L	具	ヨコナリ	底径9.36	横糸に孔数不明
55	622	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	-	18.0	(35)	にのみ内径	S-M	具	ヨコナリ	底径17.36	-
55	623	74252002(中)下層下層	弥生土器 甕	-	18.0	(26)	にのみ内径	S-M	具	ヨコナリ	底径5.96	-

第34表 A区新之面出土器類表13

※ 1は既刊の調査を示す。

調査年度	調査区画	出土遺構	種別	階層	位置 (北緯・東経)	面積 (㎡)	内面形状	外周形状	断面形状	形成	内周調整	外周調整	遺存物	備考
55	023	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(33.7)	地肌層	円形	円形	土器	土器	土器	透かし丸孔3ヶ所(孔径0.8cm)、内底窪、底面化粧層	C-634
55	024	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	20.0	(6.7)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	小片	C-682
55	025	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	22.6	(7.5)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	口12.06	C-255
55	026	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	22.6	(6.7)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	口15.06	C-644
55	027	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	23.5	(5.9)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	口13.06	C-323
55	028	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(6.0)	明り溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-635
55	029	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(5.3)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	口3.06	C-687
55	030	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(6.3)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-637
55	031	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(4.9)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-638
55	032	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	15.7	(11.2)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	透かし丸4ヶ所(孔径0.7cm)、内底窪	C-267
55	033	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	11.6	(10)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	透かし丸3ヶ所(孔径0.7cm)、内底窪	C-642
55	034	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(9.4)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-773
55	035	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(8.6)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	透かし丸3ヶ所(孔径0.7cm)	C-643
55	036	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	-	(7.6)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-774
55	037	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	-	(8.8)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	-	C-779
55	038	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	13.7	(8.7)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-178
55	039	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	12.4	(6.7)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-293
55	040	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	10.6	(6.5)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-265
55	041	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	10.3	(7.7)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-251
55	042	74252002(中)最下層(相付層)	土器	磁片	16.2	(4.9)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-681
55	043	74252002(中)最下層(中)下層(中)下層(相付層)	土器	磁片	17.0	9.2	6.6	に凸み溝	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-260
55	044	74252002(中)最下層	土器	磁片	13.6	(8.7)	直筒	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-262
55	045	74252002(中)最下層(相付層)	土器	磁片	15.9	-	(5.6)	に凸み溝	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-684
55	046	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	18.0	-	(3.3)	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-674
55	047	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	8.0	(5.1)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-308
55	048	74252002(中)最下層(相付層)	土器	磁片	-	(5.5)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-252
55	049	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	-	(2.3)	-	-	-	土器	土器	土器	直筒	C-681
55	050	74252002(中)最下層	土器	磁片	12.2	(7.8)	に凸み溝	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-261
55	051	74252002(中)最下層	粘土土器	磁片	125	-	(3.1)	直筒	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-641
55	052	74252002(中)最下層(相付層)	粘土土器	磁片	21.0	-	(4.1)	に凸み溝	直筒	土器	土器	土器	直筒	C-346

第35表 A区第2面出土器物解説表14

※ () には残存品を示す。

調査 番号	調査 時期	出土遺構	種 類	口径 (cm)	深さ (cm)	位置 (測点)	内面形状	外周形状	出土位置	加工	外面形状	断面形状	通身形状	通身寸法	備 考
56 053	7A252002 (西) 扉下層 (相付付)	粘土土器 磨石	磨石	-	20.4	(4.0)	におみ	におみ	土-M	丸	ナデ	丸	口4.96	瓶底突き穿り磨石	C-688
56 054	7A252002 (西) 扉下層	粘土土器 磨石	磨石	-	-	(5.8)	におみ	におみ	B-4	丸	ミガキ、ハケ後ナデ	丸	-	瓶底突き穿り磨石	C-707
56 055	7A252002 (西) 扉下層	粘土土器 磨石	磨石	-	12.6	(9.6)	におみ	におみ	B-M	型	ハケ後ミガキ、ヨコナデ	型	底26.26	透かし孔φ1.9用孔蓋(0.6cm)、外面磨目付	C-375
56 056	7A252002 (東) 扉下層3	土器類 磨石	磨石	-	12.6	(8.1)	におみ	におみ	S-M	丸	ナデ	丸	底34.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-227
56 057	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	土器類 磨石	磨石	-	13.4	(3.0)	型	型	B-L	丸	磨滅不明	丸	底11.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-660
56 058	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	土器類 磨石	磨石	11.6	-	(7.1)	におみ	におみ	P-3	丸	研削痕、磨目付ナリ	丸	口30.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-309
56 059	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	土器類 磨石	磨石	-	11.0	(5.0)	裏面	裏面	S-M-L	丸	研削痕、ミガキナリ	丸	底19.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-664
56 060	7A252002 (中) 扉下層	土器類 磨石	磨石	-	11.8	(6.4)	におみ	におみ	P-3	丸	ナデ、ハケ後ナデ	丸	底10.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-284
56 061	7A252002 (西) 扉下層	土器類 磨石	磨石	8.5	12.0	(8.5)	におみ	におみ	S-M	丸	ハケ後ミガキ、ハケ	丸	底22.36	透かし孔φ3.9用孔蓋(0.9cm)	C-300
56 062	7A252002 (東) 扉下層	土器類 磨石	磨石	20.8	-	(7.1)	におみ	におみ	P-2	丸	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	丸	口22.36	外面に溝状(7条)溝彫り、磨目付立つ	A-003
56 063	7A252002 (中) 扉下層	土器類 磨石	磨石	-	17.0	(5.2)	におみ	におみ	M	丸	ハケ	丸	底5.36	外面磨目付立つ	C-683
56 064	7A252002 (中) 扉下層	土器類 磨石	磨石	-	7.1	(4.8)	裏面	裏面	P-4	丸	ヨコナデ	丸	底13.36	外面磨目付立つ	C-609
56 065	7A252002 (東) 扉下層 (相付付)	粘土土器 磨石	磨石	17.5	-	(11.5)	におみ	におみ	S-2	丸	ヨコナデ、ミガキ	丸	口8.36	ハケ後、磨目付立つ。透かし孔(環状×7条、直線×14条)あり。外面に溝状(7条)溝彫り、磨目付立つ	C-186
56 066	7A252002 (西) 扉下層 (相付付)	粘土土器 磨石	磨石	17.8	-	(8.8)	型	型	B-4	丸	ヨコナデ、ミガキ	丸	口8.36	内外面磨目付あり。外面に溝状(7条)溝彫り、磨目付立つ	C-342-1
56 067	7A252002 (東) 扉下層	粘土土器 磨石	磨石	-	11.2	(3.5)	型	型	M	丸	ヨコナデ、ナデ	丸	底28.26	北縁2条、696 2面同一個体ナリ	C-342-2
56 068	7A252002 (東) 扉下層	粘土土器 磨石	磨石	-	-	(3.2)	におみ	におみ	S-4	丸	ミガキナリ	丸	-	S字スタンプ×22粒、溝を中心に穿孔	D-222
56 069	7A252002 (西) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	16.4	-	(9.7)	におみ	におみ	S-M	丸	ミガキ	丸	口5.36	外面に裏面	C-696
56 070	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 磨石	磨石	-	-	(4.8)	におみ	におみ	B-3	丸	ハケ後ミガキナリ	丸	-	外面に裏面	C-744
56 071	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	-	-	(5.6)	におみ	におみ	S-M-L	丸	ナデ	丸	-	新製粘土粒磨目付。外面深く付蝕	C-655
56 072	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	20.9	-	(5.4)	におみ	におみ	B-3	丸	ヨコナデ、ハケ後ミガキ	丸	口5.06	赤色酸化鉄多い	C-255
56 073	7A252002 扉下層4.4 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	17.0	-	(5.3)	型	型	S-M-L	丸	ヨコナデ、ミガキ	丸	口5.36	外面に裏面	C-715
56 074	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	19.7	-	(5.1)	におみ	におみ	B-M-L	丸	ミガキナリ	丸	口3.96	磨目付立つ	C-677
56 075	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	16.8	-	(5.0)	型	型	S-M	丸	磨滅不明	丸	口6.36	磨目付立つ	C-714
56 076	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	粘土土器 鉢	鉢	17.3	2.8	(6.9)	型	型	S-4	丸	ミガキ	丸	口5.96	外面磨目付、一部付蝕	C-324
56 077	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	粘土土器 鉢	鉢	18.2	-	(6.8)	におみ	におみ	S-M-L	丸	ハケ後ミガキ	丸	口2.36	外面に裏面	C-264
56 078	7A252002 (中) 扉下層 (相付付)	粘土土器 鉢	鉢	18.8	-	(6.0)	型	型	B-1	丸	ハケ後ミガキ	丸	口4.36	磨目付立つ	C-660
56 079	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 鉢	鉢	14.0	-	(5.4)	におみ	におみ	S-M	丸	ミガキ	丸	口5.36	磨目付立つ。内外面付蝕	C-172
56 080	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 小形鉢	小形鉢	9.2	-	(6.5)	におみ	におみ	B-4	丸	ヨコナデ後ミガキ、ナデナリ	丸	口6.96	口縁部外面付蝕	C-746
56 081	7A252002 (中) 扉下層	粘土土器 小形鉢	小形鉢	11.8	-	(5.8)	型	型	S-4	丸	ナデ	丸	口6.36	口縁部外面付蝕	C-297
56 082	7A252002 (西) 扉下層 (相付付)	土器類 小形鉢	小形鉢	11.2	3.4	5.5)	におみ	におみ	P-2	型	ヨコナデ、ナデ	型	口20.36 底36.36	内径2.36器具痕あり。外面磨目付立つ	C-343

第36表 A区南2面出土器類調査15

⑥()は出現位置を示す。

調査 番号	調査 位置	出土遺構	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径色調	外径色調	胎土分類	形成	内径調整	外径調整	遺存率	備考
56	083	74252002(中)扉下層4	土師器	小型鉢	9.2	(5.6)	(5.6)	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 S	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	7/30	C-713
56	084	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	小型鉢	11.5	(5.5)	(5.5)	灰青	灰青	M	真	ハヤケ土、ミガキ	外壁に黄緑	口77/36	C-665
56	085	74252002(中)扉下層	弥生土器	小型鉢	8.7	2.1	5.0	黄灰	に赤い黄緑	胎土分類 B-4	黒	ミガキ	外壁に一色黒	口8/36 底36/36	C-271
57	086	74252002(中)扉下層	弥生土器	椀形鉢	-	2.7	(6.0)	灰青	灰青	M	真	ナギ	底面中央1.1×1.1(直径0.0cm)	C-652	
57	087	74252002(中)扉下層	弥生土器	椀形鉢	-	2.2	(4.7)	灰	黄灰	胎土分類 B-3 M-L	真	ナギ	縁部不明	底36/36	C-660
57	088	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	椀形鉢	-	1.1	(4.8)	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 S-M-L	真	ナギ	ハヤケナギ	底36/36	C-679
57	089	74252002(中)扉下層(相付層)	土師器	椀形蓋	-	6.6	(3.0)	灰青	灰青	胎土分類 B-4 M-L	黒	ナギ	外壁に黄緑	底36/36	C-279
57	090	74252002(中)扉下層4	弥生土器	蓋	14.9	7.5	4.9	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 S-M	真	ナギ	内面にヨコナギ付	口13/36	C-669
57	091	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	蓋	-	7.5	4.9	黄灰	に赤い黄	胎土分類 S-M	真	ナギ	ナギ、ミガキ	口35/36	C-315
57	092	74252002(高)扉下層	弥生土器	蓋	-	2.1	(2.6)	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 S-M-L	真	ナギ	外壁に黄緑	口37/36	C-757
57	093	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	蓋	-	1.2	(2.5)	黄緑	黄緑	胎土分類 B-3 M	真	ナギ	縁付色黒付付	口33/36	C-332
57	094	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	蓋	6.8	2.9	3.0	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 S-M	真	ナギ	ミガキ	口11/36	C-668
57	095	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	土師	高6.4 底4.4	4.5	0.8	灰青	に赤い黄緑	胎土分類 B-3 M-L	真	-	黄緑	底面73.5%、外壁に黄緑	C-237
57	096	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	土師	高6.6 底2.6	3.1	0.7	灰青	に赤い黄緑	胎土分類 S	真	-	黄緑	底面20.5%、外壁に黄緑	C-327
57	097	74252002(中)扉下層(相付層)	弥生土器	土師	高6.5 底3.1	3.1	0.6	灰青	に赤い黄緑	胎土分類 B-3 S-M	真	-	黄緑	底面37.0%、外壁に黄緑	C-310
57	098	74252002(高)扉下層(相付層)	弥生土器	土師	高6.2 底2.0	2.0	0.8	灰青	に赤い黄緑	胎土分類 S	真	-	黄緑	底面7.4%、一部黄緑	C-345
57	099	74252002(中)扉下層	弥生土器	土師	高6.2 底2.1	3.9	0.6	灰青	に赤い黄緑	胎土分類 B-3	真	-	黄緑	底面24.3%、一部黄緑	C-309
57	700	74252002(中)扉下層	土師器	土師	高6.0 底6.0	5.5	8.4	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 B-3 M	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	口11/36 底30/36	C-244
57	711	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	18.9	-	(5.0)	灰	黄	胎土分類 B-3 M	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	口2/36	C-145
57	712	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	18.9	-	(7.0)	に赤い黄	に赤い黄	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口2/36	C-144
57	713	74252002(高)5カ1本	弥生土器	蓋	17.3	-	(4.5)	黄	黄	胎土分類 B-3	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	口4/36	C-126
57	714	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	16.7	-	(5.4)	黄	黄	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	口8/36	C-699
57	715	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	15.5	-	(5.6)	に赤い黄	に赤い黄	胎土分類 B-3	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ	口7/36	C-147
57	716	74252002(高)	弥生土器	蓋	15.0	-	(6.4)	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口7/36	C-150
58	717	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	13.1	-	(4.5)	黄青	に赤い黄	胎土分類 B-3	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口27/36	C-067
58	718	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	14.7	1.6	20.5	に赤い黄	に赤い黄	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口36/36	C-074
58	719	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	15.0	2.3	15.1	黄赤	黄赤	胎土分類 B-3 S-M	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口34/36 底25/36	C-009
58	720	74252002(高)	弥生土器	蓋	16.0	-	(2.6)	に赤い黄	に赤い黄	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ	ヨコナギ	口7/36	C-767
58	721	74252002(中)7D17-2	弥生土器	蓋	-	2.0	(12.2)	に赤い黄緑	に赤い黄緑	胎土分類 B-3 M-L	真	ナギ	ハケ、ナギ	底36/36	C-143
58	722	74252002(中)7D17-2	土師器	蓋	12.8	-	(11.1)	黄	黄	胎土分類 M-L	真	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ハケ	口12/36	C-073

第37表 A区第2面出土土器調査表16

※()は残存遺構を示す。

検出位置	出土構	種別	部種	口径 (cm)	深径 (cm)	高さ (cm)	内径位置	外径位置	出土層	組成	内径位置	外径位置	通存層	備考	調査番号
56 723	7A250002(東)	土師器	甕	約14	-	(33)	黄灰	黄灰	S-M	土	ヨコナ子, ハヤカ	ヨコナ子	口7/36	内外面保存済	C-149
56 724	7A250002(東)	弥生土器	甕	16.0	-	(50)	にがい焼	灰青焼	S-M, M-L	土	ヨコナ子, ハヤカ	ヨコナ子, ナ子	口4/36	破り付着, 内外面保存済	C-151
56 725	7A250002(東)	弥生土器	甕	14.6	-	(78)	にがい焼	にがい焼	S-M, L	土	ヨコナ子カ	ヨコナ子	口35/36	外面保存済, 磨面目立つ	C-063
56 726	7A250002(東)	弥生土器	甕	20.4	-	(63)	にがい焼	にがい焼	M-L	土	磨滅不明	磨滅不明	口10/36	外面一部保存済	C-060
56 727	7A250002(東) [2]	土師器	甕	12.9	-	(164)	焼	焼	S-M	土	磨滅不明	磨滅不明	口18/36	外面保存済, 磨滅顯著	C-065
56 728	7A250002(東) [2]	土師器	甕	-	-	(86)	黄焼	黄焼	S-M, L	土	ヨコナ子, ナ子	ヨコナ子, ナ子	-	粘土質焼成, 上げ焼も強に出土層なるも, 729と同じ一層状	C-072-1
56 729	7A250002(東) [2]	土師器	甕	-	-	(66)	黄焼	黄焼	S-M, L	土	ナ子, ハヤカ	ナ子, ハヤカ	-	磨滅顯著目立つ, 底部包収, 728と同じ一層状	C-072-2
56 730	7A250002(東) [2]	土師器	甕	-	-	(48)	にがい焼	焼	S-M, L	土	ナ子カ	ナ子カ	底36/36	内面ヨコナ子付着, 磨滅顯著	C-071
56 731	7A250002(東)	弥生土器	甕	11.7	-	(54)	にがい焼	にがい焼	S-M, L	土	ヨコナ子, ハヤカ	ヨコナ子, ナ子	口16/36	内外面保存済, 磨滅顯著	C-146
56 732	7A250002(東)	弥生土器	甕	17.6	(42)	灰青	にがい焼	にがい焼	S-M, L	土	ナ子カ	ナ子カ	底36/36	外面保存済, 磨滅顯著	C-148
56 733	7A250002(東)	弥生土器	小型甕	-	2.3	(60)	焼	焼	S-M	土	ヨコナ子, ナ子	ヨコナ子, ナ子	底36/36	外面保存済, 磨滅顯著	C-070
56 734	7A250002(東)	弥生土器	小型甕	13.2	2.3	4.8	にがい焼	にがい焼	S-M, L	土	ナ子	ナ子	口6/36	傘があまり, 内面口縁部一部保存済	C-062
56 736	7A250002(東)	弥生土器	土埴	高3.4 底3.3	5.1	-	灰	にがい焼	S-L	土	-	-	ほぼ完形	外面に黄灰, 残存重量30.5g	C-061
61 769	7A250004	弥生土器	土埴	高3.5 底3.0	0.8	-	灰	にがい焼	S-L	土	-	-	-	残存重量11.2g	C-059
61 760	7A250005	土師器	甕	13.3	-	(64)	にがい焼	焼	S-M, L	土	ヨコナ子, ナ子	ヨコナ子, ハヤカ	口10/36	磨滅にハヤカ群体のアタリ付, 外面保存済	C-358
61 761	検出	弥生土器	甕	12.5	3.7	約19	黄灰	黄灰	S-M	土	ヨコナ子, ナ子, ケズリ	ヨコナ子, ハヤカ	口2/36	外面保存済, 磨面目立つ	C-361
61 762	東側排水溝	土師器	甕	14.7	-	(45)	黄焼	黄焼	S-M, L	土	磨滅不明	磨滅不明	口13/36	傘が十分に磨面, 磨滅顯著	C-363
61 763	溝底排水溝溝	土師器	甕	13.7	-	(81)	にがい焼	焼	S-M, L	土	ヨコナ子, ナ子カ	ヨコナ子, ハヤカ	口8/36	外面に黄灰	C-356
61 764	溝底排水溝溝	土師器	甕	約23	-	(97)	にがい焼	にがい焼	S-M, L	土	磨滅不明	磨滅不明	口12/36	磨滅顯著	C-357
61 765	中央排水溝	土師器	甕	15.0	-	(54)	にがい焼	焼	S-M, L	土	磨滅不明	磨滅不明	口7/36	赤色酸化, 強粘着付あり, 磨滅顯著	C-364
61 766	南北キボトレ	弥生土器	甕	-	6.9	(92)	粗灰青	にがい焼	S-M, L	土	ケズリ, ナ子	ミガサ	口14/36	内面磨面磨目立つ	C-365
61 767	東側排水溝	土師器	甕	19.7	-	(79)	焼	焼	S-M, L	土	磨滅不明	磨滅不明	口2/36	磨滅, 磨滅顯著	C-362
61 768	溝底排水溝(北東)	弥生土器	甕	11.2	-	(61)	焼	焼	S-M	土	ミガサ, ヨコナ子	ミガサ	口30/36	赤灰, 外面保存済目立つ	C-355
61 769	検出	弥生土器	土埴	高2.7 底4.1	0.9	-	灰青	-	S-M, L	土	-	-	-	残存重量39.4g	C-360
61 770	検出	土師器	甕	20.8	-	(60)	黄焼	黄焼	S-M, L	土	ヨコナ子	ヨコナ子	口4/36	底6.1のみ	D-224

第36表 A区第2面出土土器観録表 17

※()は残存量を示す。

検出番号	遺物番号	出土遺構	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	材質	石 材	備 考	調査番号
43	334	7A2S0202(西)上層	磁石	35.4	13.1	1.6	14.3	磁石凝灰岩		研ぎに使用、灰白色	B-27
46	419	7A2S0202(中)下層	磁石	16.2	9.0	5.4	1237.6	砂岩		笠形、緑灰色、側面に使用痕	B-28
47	701	7A2S0202(中)最下層	石礫	3.36	1.73	0.49	2.16	ガラス質安山岩か		笠形、黒色	B-28
57	702	7A2S0202(中)最下層	石礫か	3.45	0.82	0.73	2.36	ガラス質安山岩か		笠形、灰色	B-27
57	703	7A2S0202(中)最下層	石礫	5.15	7.29	6.48	166.99	緑色凝灰岩		笠形、明オリーブ灰色	B-46
57	704	7A2S0202(中)最下層(粗砂層)	磁石か	(4.9)	(2.6)	(3.6)	(51.2)	砂岩		灰白色、研ぎ平表面	B-48
57	705	7A2S0202(中)最下層	磁石	11.3	6.3	4.4	423.3	凝灰凝灰岩		笠形、灰白色、1箇面に刀物痕あり	B-49
57	706	7A2S0202(東)アゼ流れ4最下層	磁石	(8.5)	5.3	4.6	(262.3)	凝灰凝灰岩		笠形か、笠面を研ぎに使用、1箇面に刀物痕あり	B-25
57	707	7A2S0202(東)最下層(粗砂層)	磁石	3.4	4.5	2.8	4.6	緑石凝灰岩		笠形か、灰白色	B-29
57	708	7A2S0202(東)最下層(粗砂層)	磁石	8.5	6.7	4.9	382.1	花崗岩か		笠形、灰白色	B-31
57	709	7A2S0202(中)最下層	笠石か	(5.4)	(9.3)	5.7	(457.4)	火山噴出凝灰岩		灰白色	B-30
57	710	7A2S0202(西)最下層	磁石か	(10.3)	(5.5)	(3.5)	(162.5)	砂岩		灰白色、残存面に溝状にくぼみ、一部磨削痕	B-24
58	735	7A2S0202(東)	磁石	4.55	3.6	2.66	379.3	砂岩		灰白色、残存面を研ぎに使用	B-26

第39表 A区第2面出土石器・石製品観察表

※()は残存量を示す。

検出番号	遺物番号	出土遺構	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	水取り	材質	備 考	調査番号
47	421	7A2S0202(東)下層	定規か	(23.9)	(9.7)	1.7	磁石	コアラ属アカガシ属	上総形。柄孔一部残存か	B-76
47	422	7A2S0202(中)下層	銅または鉛筆	(16.6)	(7.2)	0.6	磁石	コアラ属アカガシ属	側面一部のみ残存	B-57
47	423	7A2S0202(中)下層ブロック②	定規	(13.5)	(25.4)	0.8	磁石	コアラ属アカガシ属	平面形は残存し彫刻痕あり。上部に長さ4cm以上の短直線2本の溝状痕あり	B-19
47	424	7A2S0202(西)下層	輪鋸	21.5	(10.3)	2.1	分銅材	スズ	円面下部磨削。長さ約27cm	B-35
47	425	7A2S0202(中)下層①	鏝	49.0	(20.3)	高8.9 9.8-11.2	分銅材	サヤキ	台座部より出し、鍍銀面に直線や彎曲(方孔)2ヶ所残存(1.5×1.5cm、1.7×1.2cm)あり。表面に浅く木片1枚残り。裏面に上下の溝に使用痕	特記-O4
47	426	7A2S0202(東)アゼ流れ4下層	棒状木製品	(10.0)	2.5	0.9	磁石	スズ	円孔2ヶ所(径約0.5cm)。調査	B-56
47	427	7A2S0202(中)下層	棒状木製品	(8.3)	2.0	0.3	磁石	スズ	両面に磨削痕あり	B-13
47	428	7A2S0202(中)下層	棒状木製品	(7.5)	1.8	0.1	磁石	スズ	+	B-12
47	429	7A2S0202(中)下層	棒状木製品	8.2	1.6	0.2	磁石	-	+	B-14
48	430	7A2S0202(東)下層	柱か	(19.8)	8.5	2.4	分銅材	コアラ属アカガシ属	有眼状。2ヶ所に方孔(径2×1.7cm、2.4×2.7cm)。表面下平削り	B-23
48	431	7A2S0202(中)下層ブロック②	棒状木製品	(88.9)	5.0	4.3	芯持丸木	ツバク属		B-62
48	432	7A2S0202(中)下層ブロック③	棒状木製品	(91.7)	(4.9)	1.6	磁石	スズ	先端部を斜方向に切断	B-02
48	433	7A2S0202(東)下層	棒状木製品	82.4	3.5	2.5	分銅材	スズ	断面方形。両端を加工し、先端をせり。調査	B-81
48	434	7A2S0202(西)下層	棒状木製品	85.3	2.5	1.9	分銅材	スズ	断面方形	B-82
48	435	7A2S0202(中)下層ブロック②	棒状木製品	(78.7)	3.0	1.9	分銅材	スズ	先端に加工痕	B-80
48	436	7A2S0202(中)下層ブロック②	杖	58.9	5.2	5.4	芯持丸木	ツバク属	断面は約のたか。有眼状。側面未加工。左端に方孔か加工	B-01
48	437	7A2S0202(東)下層	部材か	84.1	10.7	9.0	芯持丸木	コアラ属アカガシ属	表面が栗色に変色。輪状か。調査前	B-58
48	438	7A2S0202(中)下層ブロック②	棒状木製品	(11.8)	1.7	1.3	削出丸棒	スズ	断面円筒形。先端を尖らせる	B-66
48	439	7A2S0202(中)下層	加工材	10.2	10.6	8.8	芯持丸木	ツバク属	調査前	B-73
59	737	7A2S0202(西)最下層	加工材	46.6	(20.7)	2.1	磁石	スズ	中央に半円形の溝。長径円形の凹。方孔(径4×高4)あり(左端の方孔2.0×1.4cm、1.8×1.7cm)。側面再加工か	B-51
59	738	7A2S0202(東)最下層(粗砂層)	木線か	11.5	7.5	3.7	分銅材	ツバク属	平直。両端を鋭く削り、使用痕なし	B-63
59	739	7A2S0202(中)最下層	加工材	3.5	4.7	2.0	分銅材	サクラ属		B-71
59	740	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	31.8	1.0	1.1	分銅材	スズ	断面略三角形	B-55
59	741	7A2S0202(中)最下層	部材か	(66.5)	24.2	13.4	芯持丸木	エノキ属	断面に工具痕。調査	特記-11
59	742	7A2S0202(中)最下層	部材か	(90.4)	15.9	11.7	芯持丸木	サヤキ	調査目立つ	特記-10
59	743	7A2S0202(中)最下層	コシカケ	22.2	5.0	4.3	分銅材	サヤキ	調査目立つ	B-65
59	744	7A2S0202(中)最下層(粗砂層付)	棒状木製品	10.3	2.9	1.8	分銅材	コアラ属アカガシ属	先端を両手に加工	B-64
59	745	7A2S0202(中)最下層(粗砂層付)	棒状木製品	(21.0)	2.5	0.7	磁石	スズ		B-72
59	746	7A2S0202(中)最下層	ハタ木製品	(14.0)	2.2	0.8	磁石	スズ	先端鋭い。細い溝状分銅材	B-17
59	747	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	30.8	2.9	1.0	磁石	スズ	断面略円形。先端を尖らせる	B-70
59	748	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	32.6	7.2	2.6	ミシロ材	ムクノギ	断面略円形。加工。段差あり	B-67
59	749	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	(31.2)	10.9	2.1	分銅材	スズ		B-68
60	750	7A2S0202(中)最下層(粗砂層付)	棒状木製品	(90.4)	4.4	3.2	分銅材	クリ	調査目立つ	B-83
60	751	7A2S0202(中)最下層	杖	62.5	4.9	4.3	芯持丸木	ツバク属	先端を1方向から切断。断面調査	B-79
60	752	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	(13.7)	1.3	1.1	削出丸棒	スズ	断面略方形。先端を尖らせる	B-69
60	753	7A2S0202(中)下層 最下層	棒状木製品	29.3	2.5	2.1	削出丸棒	ムクノギ	断面円筒形。先端を鋭く加工	B-74
60	754	7A2S0202(中)最下層	棒状木製品	26.0	5.6	3.8	芯持丸木	ムクノギ	断面円筒形。先端を尖らせる	B-78
60	755	7A2S0202(東)	棒子	(120.7)	19.0	8.5	分銅材	スズ	径4×長残存(高さ3.6-4.2cm、先端幅7.2-9.0cm)。左側面10ヶ所に平削り痕あり	特記-O3
60	756	7A2S0202	棒状木製品	57.9	3.6	3.3	削出丸棒	スズ	有眼。先端を鋭く削り	B-61
60	757	7A2S0202(東)①	棒状木製品	(62.0)	5.0	1.9	磁石	コアラ属アカガシ属	先端部を両端から削り、断面調査する	B-33
60	758	7A2S0202(東)	柱	(30.9)	17.5	10.8	芯持丸木	スタジイ	断面平直。上部加工	B-25

第40表 A区第2面出土石器・木製品観察表

第4節 第3面の遺構と遺物

第3面は、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭を主体とする調査面である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が5.35m(第2面検出面とほぼ同じ)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.86m(第2面検出面から約10cm)を、調査区北端(R-24区)が5.09m(同約10cm)をそれぞれ測り、調査区西側に向けて検出面標高が次第に下がる地勢は第2面と同様である。遺物包含層は、O・P-27区トレンチ8で明黄白色または淡黄灰色を呈する粘質土(第70図土層1、2)、O～Q-24・25区トレンチ1・2北側で暗茶灰色粘質土(第72図土層29)として観察できる。また、第3面検出面(ベース土)は、O・P-27区トレンチ8では淡黄灰色粘質土(第70図土層a)と比較的安定しているのに対して、O～Q-24・25区トレンチ1・2では北側で濁灰黄色シルト(第72・73図土層98)、中央付近で暗茶粘質土(同図土層142)と、谷中央部に向けて傾斜をもつ地勢に応じて一様な堆積を示さない。

遺構番号は、現地調査時に遺物が出土した遺構に対して300番台を付した他、第2面SD202(新)と重複する自然流路に、SD202(古)またはSD202(2面)を付している(本報告ではSD202(古)に統一)。

調査の結果、調査区全体で溝約18条(7A3SD202(古)、7A3SD301～321)の他、土坑3基(7A3SK301～303、焼土面含む)、少数のピットを検出した。大部分の遺構は、西側に向けて流下する自然流路であり、集落縁辺部の様相を呈する(第62～68図)。遺物は、器面の摩滅や剥離が目立つ土器を中心に、石器・石製品、木製品が出土した。なお、現地調査直後は、第3面を弥生時代後期～終末の生活面と報告したが、現時点では第2面堆積直前まで連続した生活面と考える。

1 土坑・ピット(遺構:第62・69図、遺物:第74図、第42表)

SK301 O・P-26区でSD202(古)に南接して検出した不定形な浅い落ち込みである。長軸110cm以上、深さ約10cmを測り、SD202(古)より古く位置付けられる。図化した遺物はない。

SK302 O-26区SD309上で検出した焼土面である。長軸約120cm、厚さ2～10cmを測り、粘砂土の中心付近が最も被熱した焼土面をなす。出土遺物のうち、第74図771の土師器甕を図示した。古墳時代前期初頭の有段口縁の甕771は口径13.5cmを測り、頸部は肉厚である。

SK303 Q-24区で検出した焼成坑である。平面不整形を呈し、径110cm前後、深さ21cmを測る。平坦な底面と壁の一部に厚さ4～6cmを測る顕著な焼土層が確認できる。図化した遺物はない。

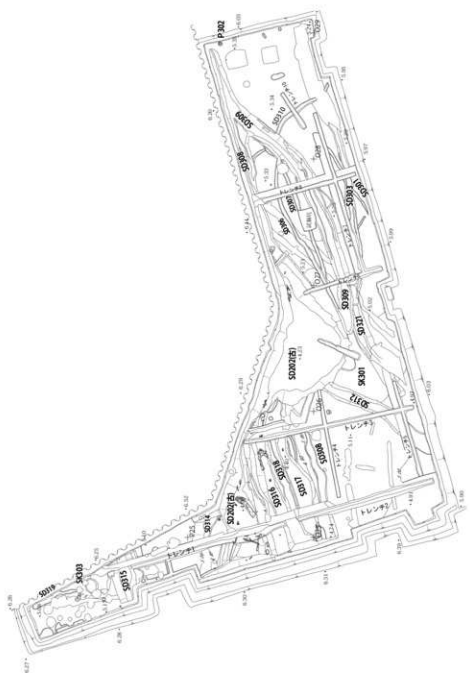
ピット 約10基の小ピットが点在、うち3基に遺構番号を付した(7A3P301～303)。Q-24区P301は、第1面に属する遺構である。P28区P302は、平面隅丸方形を呈し、柱穴の可能性が高い。一辺31～34cm、深さ32cmを測り、覆土は淡黄灰色粘質土である。図化した遺物はない。

2 溝(遺構:第70～73図、第41表、遺物:第74～80図、第42～47・49・50表)

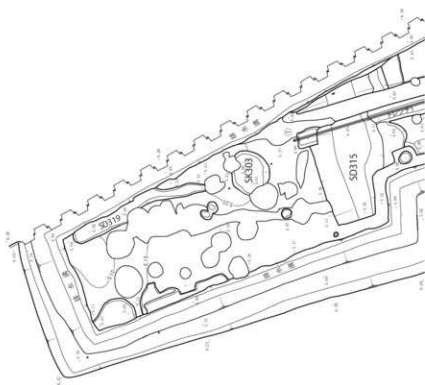
SD301 O・P-27、O-28で検出した浅い溝である。上幅18～24cm、深さ6～12cmを測り、断面形状は比較的しっかりとした略逆台形を呈する。覆土は明灰白色粘質土で、遺構の切り合い関係からSD303より古く位置付けられる。図化した遺物はない。

SD302 O-27区で検出した小規模な溝で、SD304より古い。図化した遺物はない。

SD303・304・313 O-26、O・P-27・28で検出した溝群で、連続した一つの流路と考えられる。上幅28～60cm、深さ7～21cmを測り、覆土は淡灰～灰色粘質土である。出土遺物のうち、第74図772の弥生時代後期後半の甕を図示した。772は口径17.8cmを測り、肩部は張りが弱い。



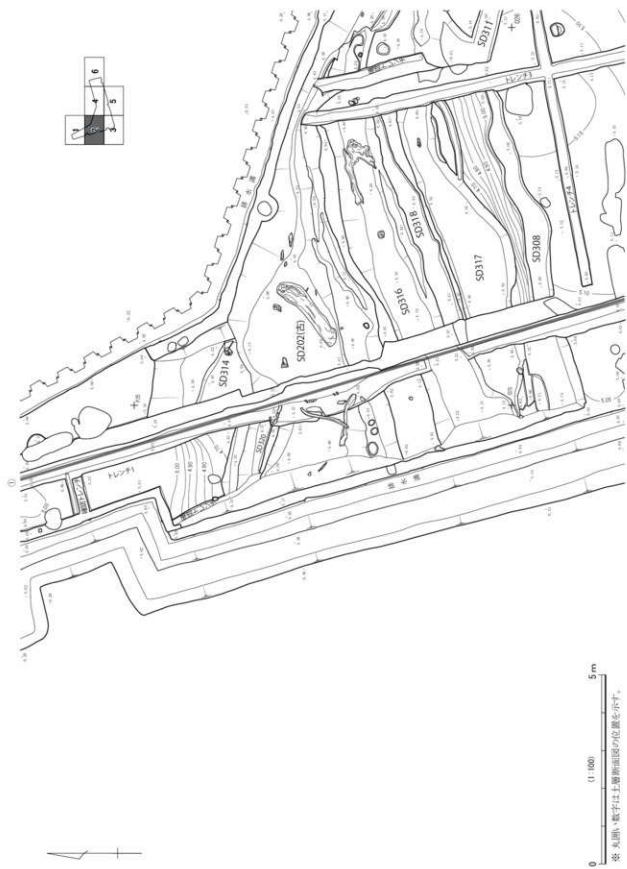
第62図 A区第3面主要遺構配置図(S=1/300)



第63図 A区第3面遺構平面図1 (S=1/100)

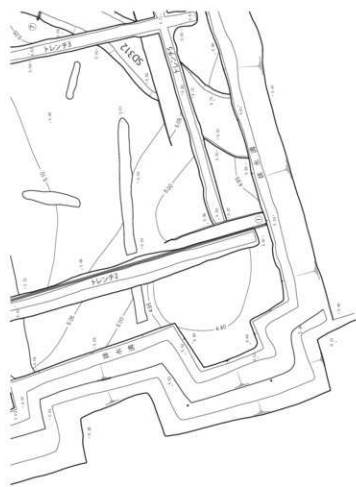
0 5m
(1:100)

※ 丸印の数字は上層面図の位置を示す。



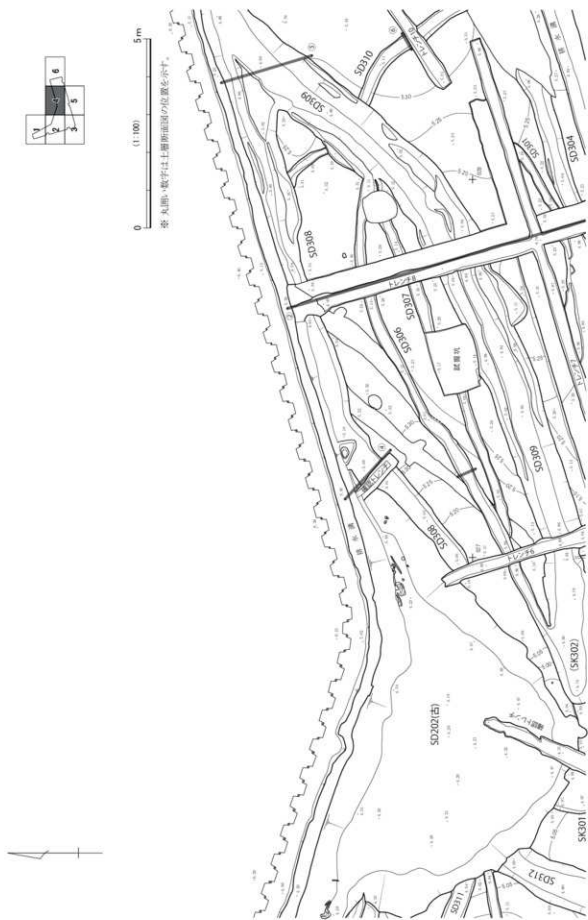
第64図 A区第3面遺構平面図2 (S=1/100)

※ 丸囲い、数字は土層断面図の位置を示す。

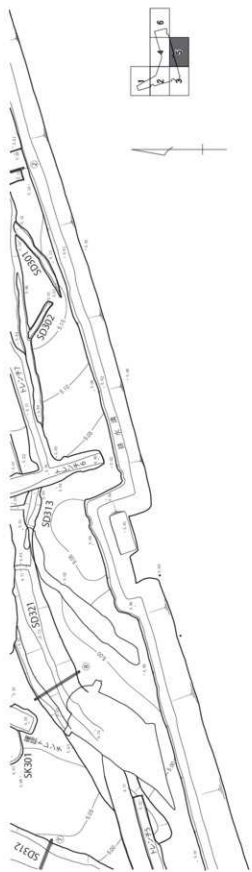


※丸囲み、数字は土層前面図の位置を示す。

第65図 A区第3面遺構平面図3 (S=1/100)

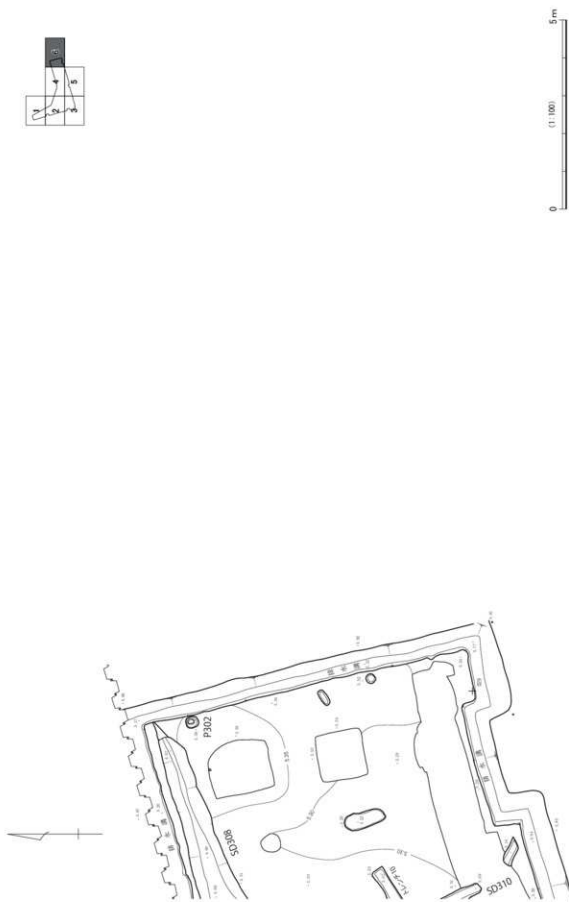


第66図 A区第3面遺構平面図4 (S=1/100)



0 5m
(1:100)
※ 丸囲い、底字は土層形成図の位置を示す。

第67図 A区第3面遺構平面図5 (S=1/100)



第66図 A区第3面遺構平面図6 (S=1/100)

SD305・306・310 O-26区、O・P-27・28区で検出した一つの小規模な流路である。東側で大きく南湾し、上幅20～46cm、深さ12～32cmを測る。覆土は、東側では浅黄白～浅黄灰色を、西側では暗灰～黒灰褐色をそれぞれ呈する粘質土である。遺構の切り合い関係からSD307・309に後出する。図化した遺物はない。

SD307 O・P-27区で検出した直線的な小溝である。上幅24～40cm、深さ11～22cmを測り、覆土はSD307と近似した粘質土である。遺構の切り合い関係からSD306より古く、図化した遺物はない。

SD308 SD202(古)を挟み、O・P-24・25区、P-27・28区で検出した。西側に流下する自然流路で、上幅94～120cm、深さ9～42cmを測る。覆土は、茶灰～灰褐色や暗灰色を呈したシルト、粘質土を基調とする(第70図土層15～17、第71図断面5土層1～4、第72・73図土層69～72)。他遺構との切り合い関係は、SD202(新)、SD317より古く、SD309より新しく位置付けられる。

比較的多く出土した遺物のうち、第74図773～第76図854を図示した。773～802は甕で、773～792・794・795・799～802が弥生時代後期～終末、793・796～798が古墳時代前期初頭～前葉にそれぞれ位置付けられる。弥生時代後期前半の773は口径15.0cmを測り、口縁部が短く外反する。774～776は、擬凹線を施した有段口縁の甕である。厚手の774は口径15.3cmを測り、短くのびる口縁部外面に彫りの浅い擬凹線を施す。775・776は口径16cmを測り、口縁端部で小さく外反する。774が後期後半、775・776が同終末に位置付けられる。777～792は無文有段口縁の甕で、777・779～783が弥生時代後期後半、778～792が同終末にそれぞれ位置付けられる。厚手の777は口径15.0cmを測り、胴部外面を刺突文で加飾する。778は口径24.2cmを測り、口縁帯下端は鋭く屈曲する。779・781は摩滅が著しい。780は口径19.0cmを測り、外面に煤が付着する。782は焼成不良で、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。783は、口縁部内面に指頭圧痕ががすかに残る。784～788は、摩滅が著しい。789は口径17.0cmを測り、外面全体に煤が付着する。790は胴部球形を呈し、器面の剥離に伴い薄い印象を受ける。791は口径15.4cmを測り、外面に煤が付着する。鉢形の792は口径14.1cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。有段口縁の土器器甕793は口径17.0cmを測り、直立する口縁部は先端で先細る。794・795は、弥生時代後期後半の小甕である。794は口径12.4cmを測り、摩滅が著しい。795は口径10.6cm、器高10.0cmを測り、胴部内面に板状工具を用いたナデ調整が残る。土器器甕796・797は胎土の近似性から同一個体と考えられる。球胴形を呈する796は口径16.9cmを測り、胴部内面にケズリ調整を施す。底部片797は、内面に黒色を呈したコゲが付着する。798は口径約25cmを測り、口縁端部が小さく外傾する。第75図799～802は甕底部片で、いずれも煮炊き痕を良好に残す。

第75図803～809は、弥生時代後期後半～終末の甕である。直口甕803～806は、口径13cm前後を測る。806の口縁部は直立すると考えられる。外面赤彩の台付細頸甕807は口径11.4cmを測り、口縁部は直線的にたちあがる。小型の短頸甕808は口径9.8cmを測り、口縁部外面をS字状スタンプ文で加飾する。有段口縁の809は口径11.0cmを測り、口縁部が直立する。器面の摩滅、剥離が著しい。

810～818・821は弥生時代の高坏で、810・811・821が後期後半に位置付けられる。810は口径26.3cmを測り、口縁端部は横方向にのびる。脚部811は摩滅が著しい。812は口径23.8cm、器高18.2cmを測り、口縁部は外反しながら長くのびる。813～815は、器面の摩滅、剥離が著しい。813は口径25.8cmを測り、口縁端部が肥厚する。816は、孔径約0.8cmの円孔を4ヶ所に穿つ。817は、脚裾部が緩やかにひろがる。818は摩滅が著しい。819は弥生時代終末の高坏または器台脚部と考えられる。2孔一対の円孔を3ヶ所に穿つ。821は脚裾部が肥厚する。820・822～825は弥生時代後期後半の器台である。820は、摩滅が著しい。822は口径20.2cm、器高16.3cmを測り、外面の一部にミガキ調整ががすかに残る。823は口径19.0cmを測り、両面ミガキ調整を施す。824は口径21.6cmを測り、口縁部は外反気味である。825は脚裾部に擬凹線を施す。第76図826は、古墳時代前期末頃の高坏と考えられる。口径31.0cmを

測る大型品で、内外面とも細かい単位へのハケ調整を施す。弥生時代終末の裝飾器台827・828は、受け部に無花果形の透かし孔が残る。827は摩滅顕著で、828は両面赤彩が残る。829～835は、弥生時代終末の鉢類である。829は口径13.9cmを測り、口縁部が内湾する。有段口縁の鉢830は口径14.8cmを測り、外面に煤が付着する。完形の831は口径15.8cm、器高7.3cmを測り、口縁部が長くのびる。大型の有段鉢832は口径26.8cmを測り、両面を赤彩する。摩滅が著しい。小型鉢833は底部台状を呈し、外面に煤が付着する。834・835は有孔鉢で、834内面にヨゴレの付着が認められる。836・837は蓋で、836は口径12.9cm、器高4.5cmを測る。837は摩滅が著しい。838～840は、土師質の土鍾である。扁平な838は、高さ2.3cm、径2.9cm、重さ14.3gである。手づくね土器841は口径3.3cm、器高4.0cmを測り、底部付近はゆがみが大きい。842は、富来産と考えられる黒色を呈したガラス質安山岩原石で、重さ56.0gを量る。緑色凝灰岩843は、管玉粗割り工程の形状をもつ。重さ4.1gを量る。

第76図844～854の破片は、SD317からも出土する。844～847は、弥生時代後期後半の甕である。844は口径14.4cmを測り、胴部内面にナデ調整を施す。845・846は胎土が共通し、同一個体と考えられる。845は口径15.3cmを測り、胴部外面を円形の刺突文で加飾する。847は口径17.8cmを測り、外面に煤が付着する。小甕848は口径12.9cmを測り、胴部の張りは弱い。直口壺849は口径13.4cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。850は、細頸壺胴部と考えられる。高坏851、小型鉢852は、弥生時代終末に位置付けられる。852は、口縁部内面にコゲ、外面に煤が付着し、煮炊き容器に転用される。853は土師質の土鍾である。土製円盤854は、外面に煤が付着した甕胴部片を加工したものである。重さ11.7gを量る。**SD309** O-26・27、P-27・28で検出し、緩やかに蛇行しながら調査区外東側から流下する。上幅110～165cm、深さ27～48cmを測り、覆土は粘質土を基調とする(第70図土層6～12、第71図断面5土層5～16)。他遺構との切り合い関係は、SD305・308より古く、SD321より新しく位置付けられる。出土遺物のうち、第77図856・857を図示した。弥生時代後期後半の有段口縁の甕856は口径15.4cmを測り、口縁部～外面に煤が付着する。摩滅した台付壺857は、外面が被熱する。弥生時代終末に位置付けられる。

SD311 P-25・26区で検出した浅い溝で、上幅50～98cm、深さ4～8cmを測る。他遺構との切り合い関係は、SD308より新しく、出土遺物のうち第77図858の弥生時代終末の有段口縁の甕を図示した。858は口径20.2cmを測り、内外面とも被熱し、煤が付着する。

SD312 O-25・26区、P-26区で検出した溝で、他の溝とは異なり屈曲しながら南西方向から北東方向に向けて流下した可能性をもつ。底面は比較的平坦で、上幅92～120cm、深さ24～36cmを測る。覆土は粘質土(第71図断面7)を基調とし、出土遺物のうち第77図859～861を図示した。古墳時代前期初頭の甕859は口径20.2cmを測り、口縁部は短く外傾する。胴部内外面ともナデ調整で仕上げる。860は、859と同一個体と考えられる。灰白色の軽石凝灰岩を用いた砥石861は、全面を研ぎに使用する他、刃物痕を残す。残存重量27.1gを量る。

SD314・20 トレンチ1・2を挟んでP-24・25区で検出した同一自然流路と考えられる。深さ40～71cmを測り、覆土は水流で堆積したシルトを基調とする(第72・73図土層98、104、125～129、132～137)。遺構の切り合い関係から、SD202(古)より古く位置付けられる。

出土遺物は、SD314出土の第76図855、第77図862～873、第82図992、SD320出土の第80図946～954、第82図993・996・997を図示した。SD314出土遺物が弥生時代後期後半～終末と時期が比較的まとまるのに対して、SD320出土遺物は弥生時代後期前半～古墳時代前期までの時期幅を示す。弥生時代終末の大型甕855は口径33.2cmを測り、調整は丁寧である。第77図862～868は甕である。862は口径14.6cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。855と同様に煮炊き痕を良好に残す。有段口縁の甕863～864は、口縁部が大きく外傾する。口径は、863が21.4cm、864が19.5cm、865が17.9cmを測る。

866は摩滅が目立つ。弥生時代後期後半の甕867・868は、煮炊き痕を明瞭に残す。867は口径13.8cmを測り、口縁部は外傾した平坦面をもつ。868は口径14.0cmを測り、口縁部は短く直立する。弥生時代後期後半の直口壺869は、外面に線刻が残る。線刻は、縦方向の線刻2条と、縦方向の線刻を基準として、その左側2ヶ所の横方向の線刻(上段は3条、下段は1条)よりなり、意匠は不明である。器台870は口径23.8cmを測り、赤彩を施した可能性をもつ。台付壺871は、台部がしっかりと外展する他、外面に煤が付着する。高坏872は口径27.0cmを測り、口縁端部で肥厚する。摩滅が進んでおり、外面のみにかすかに赤彩が残る。完形の磨石873は、使用に伴い器面は平滑である。重さ460.17gを量る。第82図992は、頭部を菱形様に加工した棒状木製品で、頭部は反りをもつ。残存長24.0cm、厚さ2.0cmを測り、樹種はウコギ属である。

SD320出土の第80図946～952は甕で、946が弥生時代後期後半、947～952は古墳時代前期初頭と考えられる。946は口径18.5cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。有段口縁の947は、口径18.6cmを測る。948は口径13.6cmを測り、胴部は内外面ともハケ調整で仕上げる。949は口径18.2cmを測り、胴部外面にはタタキ痕が残る。950は口径13.4cm、器高12.4cmを測り、口縁部は短く外傾する。胴部内面をナデ調整、外面をハケ調整で仕上げる。台付甕951は口径20.0cmを測り、煮炊き痕が明瞭に残る。952は口径13.4cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。土師器壺953は口径12.8cmを測り、摩滅が目立つ。954は弥生時代後期前半の高坏で、器内は厚い。第82図993は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いた平盪で、厚さ1.0cmを測る。加工材996は断面隅丸方形を呈し、先端が肥厚する。残存長58.5cm、最大幅4.8cm、厚さ3.0cmを測り、クマノミズキ類の材を用いる。997は機織りの刀杆と考えられ、カエデ属の材を用いる。残存幅23.8cm、高さ4.7cm、幅0.7cmを測り、上下面に目盛りの刻みと使用に伴う糸擦痕が密に残る。腐食が著しい。

SD315 Q-24区で検出した比較的大規模の大きい溝で、上幅170～185cm、深さ65～70cmを測る。覆土は、底面に黄灰～灰色を基調とするシルトが堆積した後に、粘質土により埋没する(第72-73図土層73～82、91)。

比較的多くの遺物が出土し、第77図874～第78図895を図示した。弥生時代中期後半の壺874は口径約15cmを測り、摩滅、剥離のため調整は判然としない。875～880は弥生時代後期後半の甕で、875～878は有段口縁の甕となる。875は口径約24cmを測り、876と同様に胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。877は口径17.6cmを測り、口縁部が短く直立する。878は口径13.8cmを測り、胎土は練りが不十分のためマーブル状を呈する。879・880は内面の摩滅が著しい。甕底部881は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。第78図882は古墳時代前期初頭の球胴の甕である。口径18.0cmを測り、口縁端部を丸く仕上げる。弥生時代後期後半の甕883は口径13.6cm、器高12.8cmを測る。胴部内面をナデ調整で仕上げ、良好に煮炊き痕を残す。884～886は弥生時代後期後半の壺である。有段口縁をもつ884は口径19.5cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。885は底部が厚く、外面下部に煤が付着する。886は外面に明瞭な煮炊き痕を残す。887・888は、古墳時代前期初頭の台付壺で、同一個体と考えられる。口径11.2cmを測り、胴部外面に「+」と線刻する。889・890は弥生時代後期後半の高坏である。889は、内面のシボリ痕を良好に残す。有段口縁の890は坏部が深く、比較的細身の脚部を付す。高坏891は古墳時代前期に位置付けられる。892・893は弥生時代後期後半の器台である。892は、2孔一対の円孔を4ヶ所に穿つ。893は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。土師質の土鍾894は扁平な球形、895は球形を呈する。895は重さ32.8gを量る。

SD316～318 O・P-24・25区で検出した自然流路で、SD317が最も新しい。SD317は上幅82～170cm、深さ59～72cmを測る。覆土は、SD316が暗茶灰～黒褐色を基調とする粘質土(第72-73図土層51～58)、SD317が暗褐色～黒褐色、黒灰色を呈する粘質土(同図土層44～50)となる。

比較的多くの遺物が出土し、SD316出土の第78図896～第79図933、SD317出土の第76図844～854 (SD308で記述)、第79図934～第80図943、第82図994-995、SD318出土の第80図944-945を图示した。

SD316出土の896-897は弥生時代中期後半の土器である。壺片896は、口縁部内面を2列の垂下線と3列の綾杉文、口縁端部をX字文で加飾する。甕897は口径19.6cmを測り、細く繊細な綾杉文を施す。898～924はおおむね弥生時代後期後半に位置付けられる。898は口径17.2cmを測り、口縁部が大きく外傾する。899は口縁端部をしっかりと面取りし、良好に煮炊き痕を残す。900は口縁部がゆがむ。901～910は有段口縁の甕である。901は口径17.9cmを測り、口縁部の擬凹線はほぼ摩滅する。902は口径16.0cmを測り、廃棄後に被熱する。903は口径14.7cmを測り、口縁部が若干外傾する。904は口縁部の屈曲が弱く、内面にハケ調整が残る。905は口径20.8cmを測り、口縁部下端を鋭く仕上げる。906-907は、口径15.8cmを測る。908は口縁部が外傾する他、胴部内面の粘土紐接合痕が目立つ。909は口径14.0cmを測り、摩滅が著しい。910は口縁部がゆがむ。911は底部外面に「×」と線刻する。912～916は甕である。直口壺912は口径11.3cmを測り、黒斑が残る。広口壺913は口径20.4cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。有段口縁の短頸壺914-915は摩滅が進み、調整は不明である。有段口縁の916は口径10.7cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。917～919-921は高坏である。917は口径約33cmを測り、口縁端部は肥厚部分が剥離した可能性が高い。口縁部内面をS字状スタンプ文で加飾する他、内面にわずかに赤彩が残る。深身の918は口径20.1cmを測り、摩滅が著しい。919は外面を赤彩する。921は脚端部の突帯を丁寧に仕上げる。また、脚端部は内外面とも被熱・煤付着し、蓋に転用したと考えられる。920-922～924は器台である。920は、焼成がよくない。922は突帯上に刺突文を施し、内面の煤付着から蓋に転用したと考えられる。赤彩の923は、口縁部に円形浮文を密に貼り付ける。924の擬凹線は乱れ、円孔を3ヶ所に穿つ。925-926は弥生時代終末頃の鉢である。平底を呈する925は口径13.4cm、器高6.6cmを測り、外面の一部にタタキ様の調整痕が残る。丸底の926は摩滅が目立つ。927～929は、土師質の土鍾である。いずれも球形を呈し、完形の928が34.3gを量る。手づくね土器930は平底を呈し、焼成がよくない。砂岩製の敲石931は破損後に被熱し、全面に煤が付着する。932-933は、SD316-318から出土した甕である。球胴の932は口径14.7cmを測り、口縁端部を短くつまみあげる。933は外面に煤が厚く付着し、弥生時代終末に位置付けられる。

SD317出土の934～936は、弥生時代後期の甕である。934は口径19.4cmを測り、摩滅が目立つ。935は器肉が厚く、外面に煤が付着する。936は口縁端部を上方につまみあげ、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。弥生時代後期後半の直口壺937は口径12.6cmを測り、内面をナデ調整で仕上げる。938は弥生時代後期、939は古墳時代前期初頭の壺底部である。厚底の938は、破損後に被熱する。底部台状を呈する939は、外面をタタキで整形する。弥生時代後期後半の高坏940は、脚裾径21.3cmを測る。比較的重いにもかかわらず、内面端部の厚い煤付着から、蓋に転用したと考えられる。土師器鉢類と考えられる914は細身で、摩滅が目立つ。土師質の土鍾942は円筒形を呈し、重さ58.0gを量る。石英製の磨石943は長径4.4cm、短径3.9cmを測り、かすかに擦痕が確認できる。重さ37.5gを量る。SD318出土の甕944-945は、弥生時代後期後半に位置付けられる。944が口径19.6cm、945が口径16.4cmを測り、いずれも外面に煤が付着する。第82図994は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いた直柄平楯である。最大厚約1cm、柄挿入孔径が5.3cm×4.6cm、方形の柄挿入孔台が高さ0.7cmを測り、腐食が著しい。棒状木製品995はスギの材を用いる。断面方形を呈し、残存長78.3cmを測る。

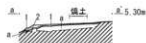
SD319 Q・R-24区で検出した小規模な溝で、上幅20cm以上、深さ5～7cmを測る。覆土は、炭化物が多く混ざる暗褐色砂質土である。図化した遺物はない。

SD321 O-26区で検出した溝で、上幅94～122cm、深さ21～27cmを測る。覆土は淡灰黄～灰色を呈

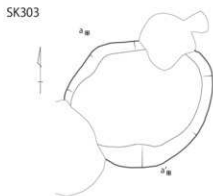
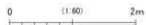
第4節 第3面の遺構と遺物

遺構名	グリッド	規模 (cm)			方位	土色等	備考
		延長	幅	深さ			
7A3SD02 (古)	P-24-25, O-P-26, P-27	-	580~	90前後	-	第71~73区	断行。SD308より古, SD314-20より新
7A3SD0301	O-P-27, O-28	350~	18~24	6~12	N-53° E	第70区	SD303より古。南西方向に流下
7A3SD0302	O-27	150~	18~24	8~10	N-33° W	暗灰色砂質土か	SD304より古
7A3SD0303-304	O-P-27-28	950~	48~60	7~21	N-80~84° E	第70区	SD313と接続か
7A3SD0305	P-28	130~	22~26	10~16	N-50~80° W	第71区	SD310と接続か。SD309より新
7A3SD0306	O-26, O-P-27, P-28	1300~	20~46	12~32	-(湾曲)	第70・71区	SD305-310と接続か。SD307-309より新
7A3SD0307	O-P-27	1000~	24~40	11~22	N-約68° E	第70区	SD306より古
7A3SD0308	O-P-24-25, P-27-28	4000~	94~120	9~42	N-約70° E	第70~73区	SD202(新)。SD317より古。SD309より新
7A3SD0309	O-26-27, P-27-28	2200~	110~165	27~48	N-45~80° E	第70・71区	断行。SD305-308より古。SD321より新
7A3SD0310	O-P-28	410~	28~40	22	-(湾曲)	第71区	SD305-306と接続か
7A3SD0311	P-25-26	635~	50~98	4~8	N-75° W	第71区	SD308より新
7A3SD0312	O-25-26, P-26	950~	92~120	24~36	N-30~40° E	第71区	北東方向に流下した可能性あり
7A3SD0313	O-26-27	120~	28~44	10	N-77° W	-	SD303-304と接続か。
7A3SD0314	P-24-25	-	290~	71	-	第72・73区	SD320と同流跡か。SD202(古)より古。
7A3SD0315	Q-24	400~	170~185	65~70	N-約75° E	第72・73区	
7A3SD0316	P-24-25	1100~	120~216	54~66	N-70前後° E	第72・73区	SD317より古
7A3SD0317	O-P-24-25	1100~	82~170	59~72	N-70前後° E	第72・73区	SD308-316より新
7A3SD0318	P-24-25	660~	50~	5~11	N-70前後° E	第72・73区	
7A3SD0319	Q-R-24	370~	20~	5~7	N-約22° W	暗褐色砂質土 (炭化物多い)	
7A3SD0320	P-24	200~	58	40	N-73° W	第72・73区	SD314と同流跡か。SD202(古)より古。
7A3SD0321	O-26	960~	94~122	21~27	-(湾曲)	第71区	SD309より古

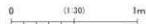
第41表 A区第3面溝規模等一覧表



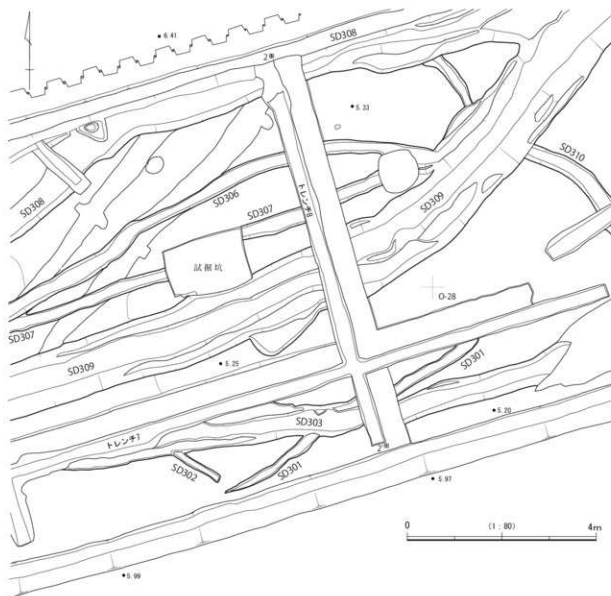
1. 灰黄褐色粘砂土(炭化物が非常に多く混ざる)
2. 炭化物層
- ベース
- a. 浅黄色粘質土(灰色粘質土,炭化物が混ざる,SD309)



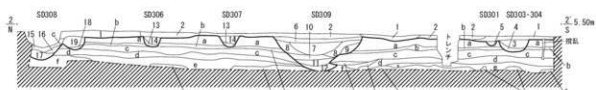
1. 淡黄茶灰色粘質土(炭化物が混ざる)
2. 淡灰色粘質土(炭化物, 焼土が混ざる。1層との間に炭化物, 焼土の薄い層あり)
3. 灰色粘質土(粘土ブロック, 焼土, 炭化物が混ざる)
4. 焼土層(黄色を引す。3層との間に炭化物粘層あり, 粘土ブロック, 焼土が混ざる)



第69図 A区第3面土坑平面図・土層断面図(S=1/30・1/60)



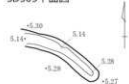
SD301・303・304・306～309 (トレンチ8)



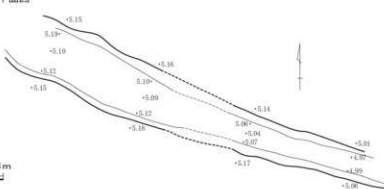
- | | | |
|--------------------------------|---|------------------------------|
| 1. 明黄色粘質土(第3面包含層) | 12. 灰白色粘質土(炭化物粘着層, SD300) | a. 淡黄色粘質土(第3面ベース土) |
| 2. 淡黄色粘質土(第3面包含層, 炭粘着層) | 13. 淡黄色粘質土(やや砂質, SD306) | b. 暗灰色粘質土(非常に多くの炭化物粘着層) |
| 3. 淡灰色粘質土(SD303) | 14. 淡黄色粘質土(白色砂粘着層, SD307) | c. 灰白色粘質土 |
| 4. 灰色粘質土(少量の炭化物粘着層, SD303) | 15. 暗灰色粘質土(0.5~1mm大炭化物粘着層, SD308) | d. 暗黒褐色粘質土(炭化物粘着層, 第4・5面包含層) |
| 5. 明灰白色粘質土(SD301) | 16. 灰褐色粘質土(炭化物粘(1~2mm大)粘着層, SD308) | e. 淡黒褐色粘質土(層が厚ざり, 白→Zf) |
| 6. 淡黄色粘質土(SD309) | 17. 暗灰色粘砂土(砂質, 炭化物粘(1~2mm大)が混ざる, SD308) | f. 黄白色粘質土 |
| 7. 黄灰色粘質土(炭化物粘着層, SD309) | 18. 灰褐色粘質土(炭化物粘着層) | g. 灰白色粘質土(層と同質土, 層状に炭化物粘着層) |
| 8. 暗灰色粘質土(SD309) | 19. 暗褐色粘質土(炭化物粘着層) | h. 灰白色粘質土(層と類似) |
| 9. 暗灰色粘質土(a層がブロック状に混ざる, SD309) | | |
| 10. 淡灰色粘質土(やや砂質, SD309) | | |
| 11. 淡灰色粘質土(10層より砂質, SD309) | | |

第70図 A区第3面溝平面図・土層断面図1(S=1/60・1/80)

SD305平面図



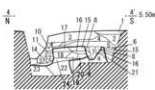
SD311平面図



SD306



SD308, SD202(古)



[SD308]

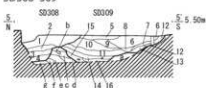
1. 茶灰色シルト(黄灰色シルトが少量混ざる)
2. 灰黄色粘質土(均質なシルト、微量の炭粒が混ざる)
3. 灰褐色シルト(少量の炭粒、灰白色シルトが混ざる)
4. 濃褐色粘土(湧生後湖相ベース土に類似)
5. 灰褐色粘質土(少量の暗灰色粘土、炭粒が混ざる)
6. 暗灰色粘質土(多くの暗灰色粘土、少量のシルト、炭粒が均質に混ざる)
7. 黒灰色粘質土
8. 濃褐色シルト(粘性あり、黒灰色粘質土がブロック状に混ざる)
9. 黒灰色粘質土(灰褐色粘質土が混ざる)
10. 濃褐色粘質土(灰褐色粘質土が多く混ざる)
11. 黒灰色粘質土(灰褐色粘質土が混ざる)
12. 黒灰色粘質土(灰褐色粘質土が混ざる。一部黄白色砂のミナリ層あり)
13. 灰黄色粘質土(微量の黒灰色粘質土が混ざる。少量の土器含む)
14. 灰褐色粘質土(12層が多く混ざる)

[第3層SD202(古)]

15. 黒灰色粘質土(濃褐色粘質土、微量の炭粒が混ざる)
16. 灰褐色シルト(粘性あり、少量の黒灰色粘質土が混ざる)
17. 灰黄色粘質土(多くの濃縮な炭粒、灰褐色粘質土が混ざる)
18. 濃褐色粘質土(多くの濃縮な炭粒、少量の黄白色シルトが混ざる)
19. 灰褐色粘質土(多くのシルトが混ざる)
20. 黄白色シルト(微量の灰褐色粘質土が混ざる)
21. 灰褐色シルト(粘性あり、多くの黄白色シルトが混ざる)
22. 濃褐色粘質土(ベース土に類似、ベース土よりシルト質強い)
23. 濃黄白色シルト(粘性あり、微量の暗灰色粘質土が混ざる)
24. 灰黄色粘質土(微量の黒灰色粘質土、少量の黄白色シルトが混ざる)

a. 黄白色シルト(ベース土、粘性あり、湧生中期か)

SD308-309



[SD308]

1. 灰褐色シルト(沈み沈着、少量の炭粒、暗灰色粘土が混ざる)
2. 灰褐色シルト(黒灰色粘質土ブロックが多く混ざる)
3. 暗灰色粘質土(少量のシルト含む)
4. 茶灰色粘土

[SD309]

5. 暗灰色シルト(少量の炭粒が混ざる。土器少量)
6. 灰黄色粘質土(多くの炭粒、均質なシルトが混ざる。土器少量)
7. 灰黄色粘質土(微量の炭粒、暗灰色粘土、均質なシルトが混ざる)
8. 灰黄色粘質土(微量の炭粒、灰白色シルトが混ざる)
9. 灰黄色粘質土(多くのシルト、少量の暗灰色粘土が混ざる)
10. 灰黄色粘質土(多くのシルト、少量の炭粒が混ざる)
11. 灰白色シルト(少量の灰黄色粘土混ざる。やや強い流れで形成)
12. 灰黄色粘質土(多くの暗灰色粘土が混ざる)
13. 黒灰色粘土(灰黄色粘質土、少量のシルトが混ざる)
14. 灰白色シルト(11層より粘質土多い、少量の炭粒が混ざる。やや強い流れ)
15. 暗灰色粘質土
16. 黒灰色粘質土(灰褐色粘質土が混ざる)

- a. 黄白色粘質土(ベース土、シルト均質に混ざる。2次堆積の地山で、湧生中期か)
- b. 黒灰色粘質土(少量の炭粒が混ざる)
- c. 暗灰色粘質土(少量のa層、少量の炭粒が混ざる)
- d. 暗灰色粘質土(少量の暗灰色粘質土、炭粒が混ざる)
- e. 濃褐色シルト(多くの暗灰色粘質土が混ざる)
- f. 灰黄色粘質土
- g. 黄白色シルト



SD310



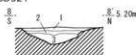
1. 灰褐色粘質土(多くの炭化物粒、黄白色砂粒が混ざる)
2. 暗灰色粘質土(炭化物粒、多くの黄白色ブロックが混ざる)
3. 暗灰色粘質土

SD312



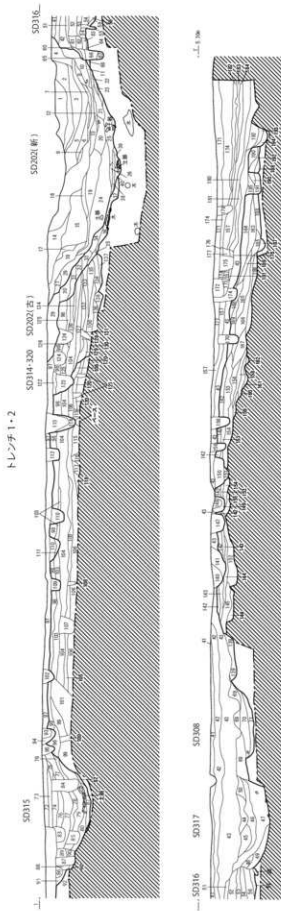
1. 黄灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土
3. 灰白色粘質土
4. 暗灰色粘質土(白色土が混ざる)

SD321



1. 深い灰黄色粘質土
2. 深い灰黄色粘質土(少量の暗灰色粘質土が混ざる)
3. 深い灰黄色粘質土(少量の砂が混ざる)

第71図 A区第3面平面図・土層断面図2(S=1/60)



第72図 A区第3面トレンチ1・2土層断面図1(S=1/60)

【第1土層】(土層1~28)

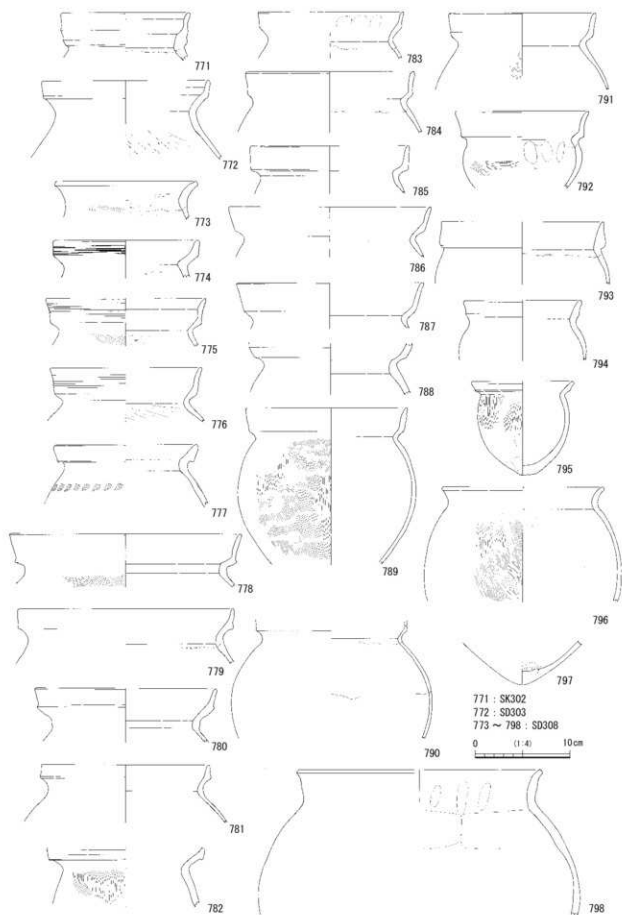
1. 黄灰色粘質土(多量のシルトと少量の炭酸が混入する)
2. 黄灰色シルト(定部の炭酸が混入する)
3. 灰白色シルト(定部の炭酸が混入する)
4. 黄灰色シルト(少量の炭酸が混入する)
5. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
6. 灰白色シルト(細粒多)
7. 灰褐色土
8. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
9. 灰白色シルト(多量の粘土が混入する)
10. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
11. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
12. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
13. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
14. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
15. 灰白色シルト(定部の炭酸が混入する)
16. 灰白色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
17. 土層との境界面
18. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
19. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
20. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)
21. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、少量の植物質混入が混入する)

【第2土層】(土層29~40)

22. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 23. 灰褐色シルト(粒径大きい、少量の植物質混入が混入する)
 24. 黄灰色シルト(ウミナシ状態、多量の植物質混入が混入する)
 25. 黄灰色シルト(少量の炭酸が混入する)
 26. 黄灰色粘質土(少量のシルト(粗粒)の混入、定部の土層が混入する)
 27. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 28. 黄灰色粘質土(少量の炭酸、シルトが混入する)
- 【第3土層】(土層41~43)
29. 黄灰色粘質土(少量のシルト、定部の炭酸が混入する)
 30. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 31. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 32. 黄灰色粘質土(多量の炭酸が混入する)
 33. 黄灰色粘質土(多量の炭酸が混入する)
 34. 灰白色シルト(多量の炭酸が混入する)
 35. 黄灰色シルト(細粒多、少量の炭酸が混入する)
 36. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 37. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 38. 黄灰色粘質土(少量のシルト、炭酸が混入する)
 39. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)
 40. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)

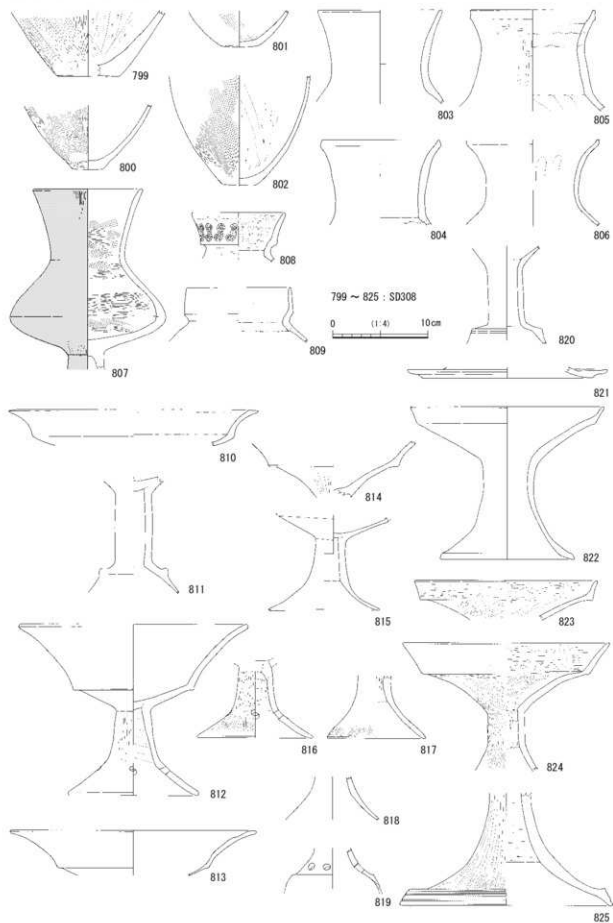
【第4土層】(土層44~50)

41. 黄灰色粘質土(少量のシルトと少量の炭酸が混入する)
 42. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 43. 灰白色シルト(少量の炭酸が混入する)
- 【第5土層】(土層51~58)
44. 黄灰色粘質土(少量のシルト、定部の炭酸、土層が混入する)
 45. 黄灰色粘質土(少量のシルト、定部の炭酸、土層が混入する)
 46. 黄灰色粘質土(少量のシルト、多量の炭酸が混入する)
 47. 黄灰色粘質土(多量の炭酸が混入する)
 48. 黄灰色粘質土(定部の炭酸が混入する)
 49. 黄灰色粘質土(定部の炭酸が混入する)
 50. 灰白色粘質土(定部の炭酸が混入する)
- 【第6土層】(土層59~60)
51. 黄灰色粘質土(少量のシルト、多量の炭酸が混入する)
 52. 黄灰色粘質土(定部の炭酸が混入する)
 53. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 54. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 55. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 56. 黄灰色粘質土(少量のシルト、多量の炭酸が混入する)
 57. 黄灰色粘質土(少量のシルト、少量の炭酸が混入する)
 58. 黄灰色粘質土(少量の炭酸が混入する)

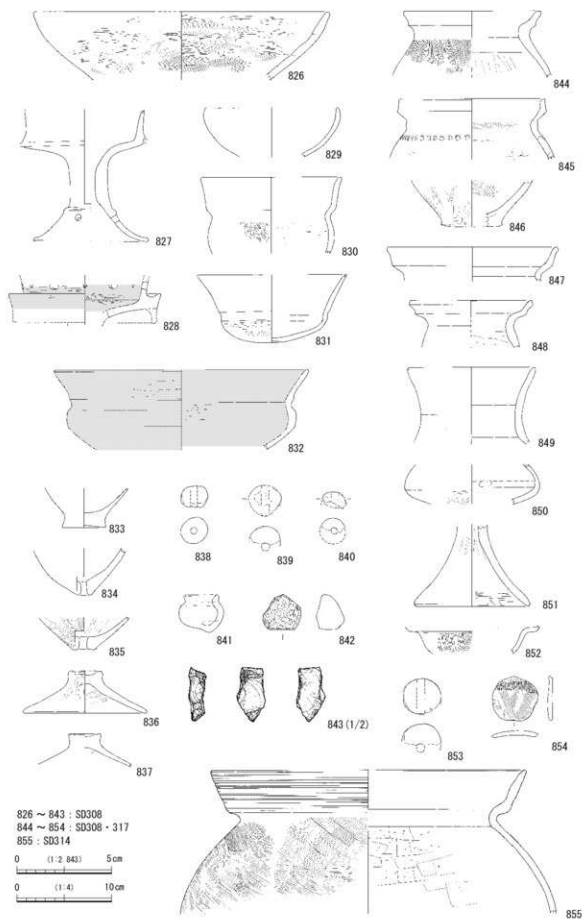


第74図 A区第3面出土遺物実測図1 (S=1/4)

第4節 第3面の遺構と遺物

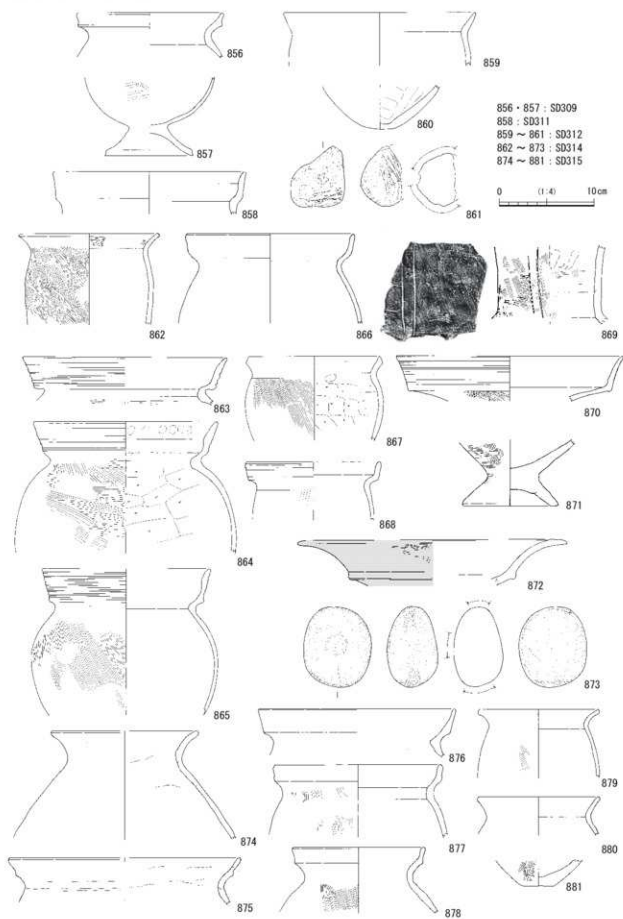


第75図 A区第3面出土遺物実測図2(S=1/4)

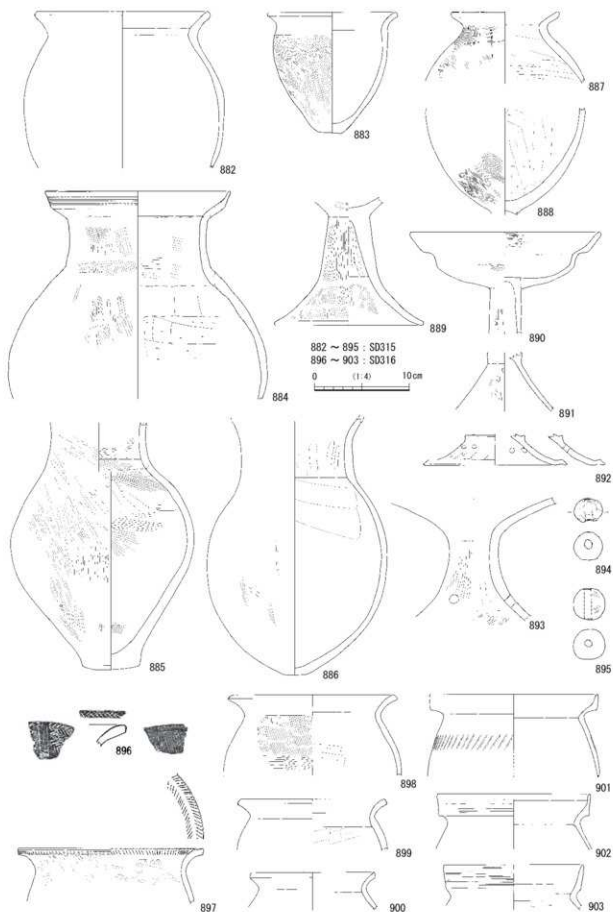


第76図 A区第3面出土遺物実測図3(S=1/2・1/4)

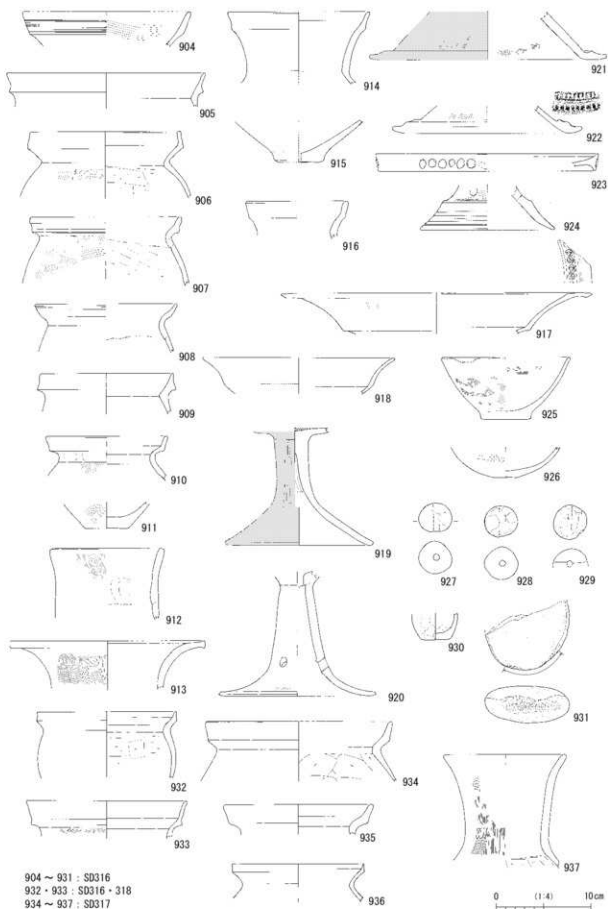
第4節 第3面の遺構と遺物



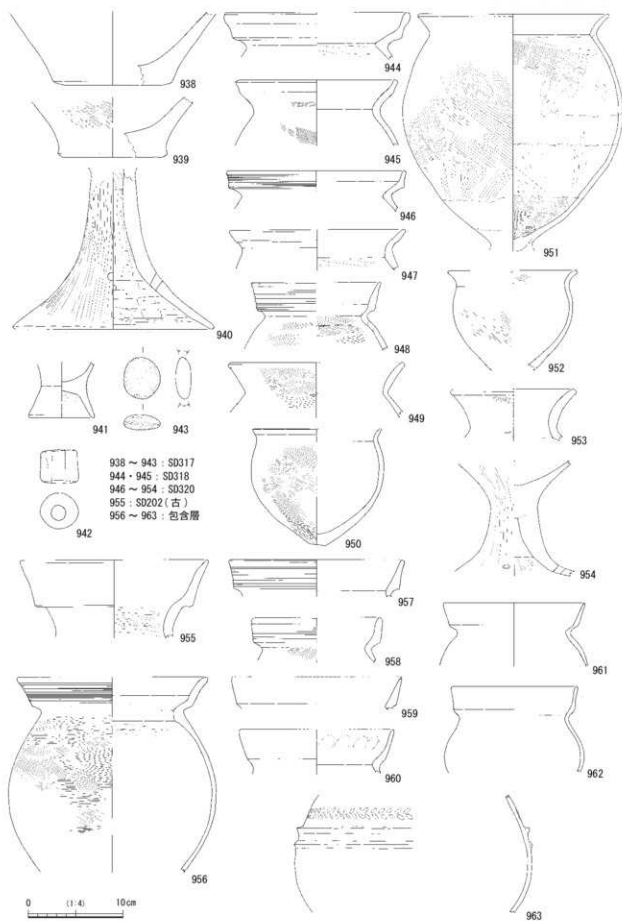
第77図 A区第3面出土遺物実測図4(S=1/4)



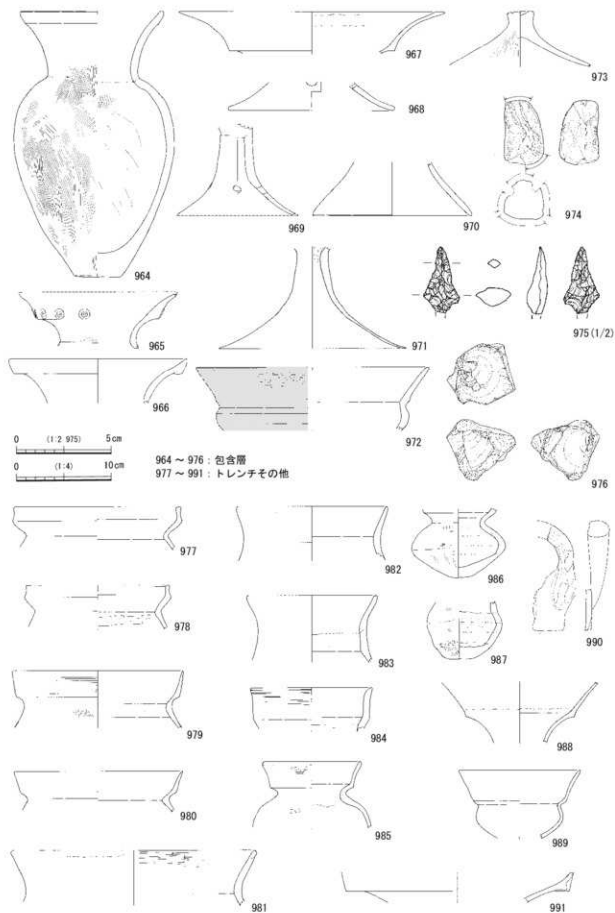
第78図 A区第3面出土遺物実測図5 (S=1/4)



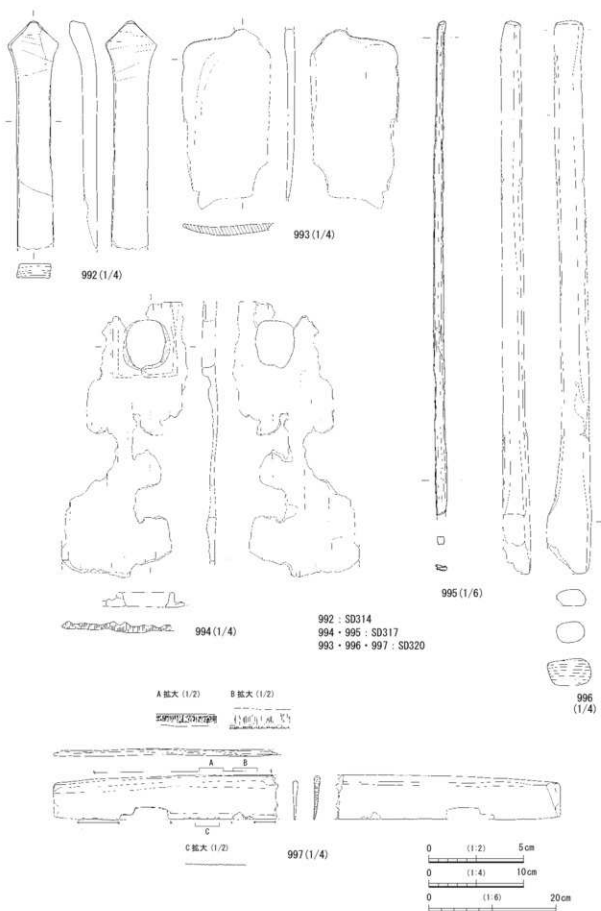
第79図 A区第3面出土遺物実測図6(S=1/4)



第80図 A区第3面出土遺物実測図7 (S=1/4)



第81図 A区第3面出土遺物実測図8(S=1/2・1/4)



第82図 A区第3面出土遺物実測図9(S=1/2・1/4・1/6)

する粘質土であり(第71図)、図化した遺物はない。

SD202(古) P-24・25、O・P-26、P-27で検出し、第2面SD202(新)と流路が重複する別流路である。SD202(新)により大部分が流出し、規模については深さ90cm前後を測ること以外は判然としない。シルトを主体とする堆積土の一部が、第71図断面4土層15~24、第72図土層30~40で確認できる。また、現地調査時の観察では、第72図土層41~43をSD202(古)堆積土と記しており、SD202(古)南側で多量の土砂堆積を伴う氾濫があったと推測できる。他遺構との切り合い関係から、SD314・320より新しく位置付けられる他、第72図土層41~43はSD308・316・317埋没後の堆積土となる。遺物は、第80図955を図示した。弥生時代終末の大型壺955は口径19.9cmを測り、口縁部が緩やかに外反する。

3 包含層等出土遺物 (第80・81図、第47~49表)

包含層及び遺構検出時に出土した遺物のうち、第80図956~第81図976を図示した。956~962は、弥生時代後期後半~古墳時代前期初頭の甕である。球胴を呈する956は口径19.9cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。957は口縁部内面の屈曲が弱い。958は口径13.2cmを測り、器肉は厚い。959は、口縁端部が先細る。960は摩滅し、口縁部内面にかすかに指頭圧痕が残る。961・962とも摩滅が著しい。962は口径13.2cmを測り、胴部はナデ肩を呈する。弥生時代中期後半の壺963は、第45図375と同一個体と考えられ、摩滅が目立つ。外面を綾杉文と2条の貼り付け突帯で加飾する。第81図964は、弥生時代後期後半の壺と考えられ、口径14.8cm、器高28.2cmを測る。口縁部が大きくひろがる他、底部が厚い印象を受ける。965・966は古墳時代前期の壺である。二重口縁の965は口径約17cmを測り、竹管文で施文した円形浮文を貼り付ける。966は口径19.0cmを測り、粘土紐を貼り付けて口縁部を肥厚させる。967~971は高坏で、970以外は弥生時代終末に位置付けられる。摩滅した967と968は同一個体と考えられ、967で口径28.2cmを測る。970は古墳時代前期前半に位置付けられる。971は両面とも摩滅、剥離が進み、器肉が薄くなる。脚裾部が大きく広がり、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。弥生時代終末の有段口縁の鉢972は、外面に赤彩を施す。蓋973は、鈕を丁寧に仕上げる。軽石凝灰岩製の砥石974は全面を研ぎに用い、被熱のため変色する。鉄石英製の石鎌975は、基部を折損する。緑色凝灰岩の石核976は明緑灰色を呈し、一部に加工痕が残る。重さ207.3gを量る。

977~991はトレンチ1、3、6等から出土した。977~981は、弥生時代後期後半~古墳時代前期前葉の甕である。977は口径17.7cmを測り、口縁端部が内傾する。978は外面に煤が付着する。979は内面の摩滅、剥離が著しい。980は口径17.9cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。土師器甕981は口径約25cmを測り、口縁部内面をハケ調整で仕上げる。982・983は弥生時代後期後半の壺である。いずれも摩滅し、982が口径15.8cm、983が口径13.5cmを測る。有段口縁の小型壺984~986は、弥生時代終末に位置付けられる。985・986は、外面にミガキ調整を施す。土師器小型壺987は底部が厚く、胴部外面下半にハケ調整痕が残る。988・989は、弥生時代終末に位置付けられる。器台988は、摩滅が著しい。有段口縁の小型鉢989は口径12.7cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。990は壺胴部に貼り付けた把手である。991は弥生時代終末の器台と考えられ、焼成はよくない。

また、写真図版48に掲載したおにぎり形を呈した石器は、幅2.9cm、高さ2.7cm、厚さ1.5cmを測る。器面が非常に平滑であり、指で持ちながら固体表面を平滑に仕上げる道具と考えられる。砂岩製で、重さ17.2gを量る。

⑨()は後行遺構を示す。

地区 番号	建物 番号	出土構	種 別	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高さ (cm)	内 径 (cm)	外 径 (cm)	出土 位置	出土 層	組成	内 面 装 装	外 面 装 装	遺 存 部	備 考	主 要 遺 物
74	771	74SS0002	土師器	13.5	-	(5.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口33/26	外底付片、厚底層	C-373
74	772	74SS0003(トロンチン片西側)	外底付片	17.8	-	(8.4)	流	流	S-M-L	Ⅱ	流	無装	無装	口11/26	外底付片、厚底層	C-705
74	773	74SS0006上層	外底付片	15.0	-	(4.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口5/26	口11/26	C-729
74	774	74SS0008	外底付片	15.3	-	(4.0)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口4/26	流(焼付跡7条1単位)片、外底付片	C-367
74	775	74SS0008	外底付片	16.8	-	(5.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口14/26	流(焼付跡7条1単位)片、厚底・流層目立つ	C-365
74	776	74SS0009上層①	外底付片	16.0	-	(5.8)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口12/26	流層、厚底層	C-365
74	777	74SS0009	外底付片	15.0	-	(6.6)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口9/26	厚底に斜交文、外底付片、厚底層	C-413
74	778	74SS0009上層	外底付片	24.2	-	(5.7)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口3/26	口12/26	C-421
74	779	74SS0006、第1層	外底付片	22.5	-	(5.9)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口12/26	厚底層	C-394
74	780	74SS0008	外底付片	19.0	-	(5.7)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口4/26	外底付片	C-452
74	781	74SS0008上層①	外底付片	17.8	-	(6.2)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口10/26	厚底層	C-380
74	782	74SS0008	外底付片	17.7	-	(6.4)	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	-	外底付片	C-414
74	783	74SS0008上層	外底付片	15.4	-	(5.0)	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口7/26	厚底層	C-727
74	784	74SS0009下層	外底付片	17.7	-	(6.5)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口9/26	厚底層	C-404
74	785	74SS0008上層②	外底付片	16.8	-	(5.1)	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口9/26	厚底層	C-732
74	786	74SS0009上層②	外底付片	21.4	-	(5.4)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口10/26	厚底層	C-384
74	787	74SS0008上層②	外底付片	19.6	-	(4.9)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口6/26	厚底層	C-733
74	788	74SS0008	外底付片	-	-	(5.5)	流	流	S-L	Ⅱ	片	無装	無装	厚底層	厚底層②、口縁部に斜線	C-423
74	789	74SS0008上層④	外底付片	17.0	-	(16.5)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口10/26	外底全体付片	C-391
74	790	74SS0009上層④	外底付片	-	-	(12.0)	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	-	外底に流	C-392-1
74	791	74SS0008上層(トロンチン片西側)	外底付片	15.4	-	(8.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口8/26	外底付片	C-712
74	792	74SS0008A、第1層付片層	外底付片	14.1	-	(8.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口32/26	口縁部が赤い、内面コガ、外底付片、口縁部が赤い、口縁部が赤い	C-390
74	793	74SS0008	土師器	17.0	-	(6.6)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口24/26	厚底層	C-419
74	794	74SS0009上層①	外底付片	12.4	-	(6.4)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口13/26	外底付片、厚底層	C-381
74	795	74SS0008上層①	外底付片	10.6	1.9	10.0	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口17/26 厚底層	口縁部が赤い、内面コガ、外底付片、口縁部が赤い	C-383
74	796	74SS0009上層①	土師器	16.9	-	(12.2)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口17/26	外底付片、797と同一流片	C-836-1
74	797	74SS0008上層①	土師器	-	-	(4.7)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	厚底層	内面コガ付片、796と同一流片	C-836-2
74	798	74SS0008、第1層	土師器	19.25	-	(15.4)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	口9/26	厚底層	C-395
75	799	74SS0008下層①	外底付片	-	6.3	(7.1)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	厚底層	厚底層	C-737
75	800	74SS0008上層①	外底付片	-	3.2	(6.9)	流	流	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	厚底層	外底付片、厚底層	C-392-2
75	801	74SS0008上層	外底付片	-	4.0	(3.8)	口	口	S-M-L	Ⅱ	片	無装	無装	厚底層	厚底層	C-728

第42表 A区第3層出土器類表1

第4節 第3面の遺構・遺物

※()内は埋没位置を示す。

調査番号	出土遺構	種類	跡 跡 跡	口徑 (cm)	深目 (cm)	位置	内面形状	外面形状	胎土分析	組成	内面調査	外面調査	遺存物	備 考
75 002	7A3S2D008	弥生土器 鉢	口縁部	13.0	-	(9.9)	内面平滑	黄灰	B-3, S-M	黄	ナズリ	ハケ、ナズリ	黒36/86	胎土の黄灰色化、磁化層
75 003	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	12.4	-	(9.0)	内面平滑	黄	B-3, S-M, L	黄	ヨコナナカ	ヨコナナカ	黒5/36	黄灰目立つ
75 004	7A3S2D008上層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	12.9	-	(10.8)	内面平滑	黄	B-3, S-M, L	黄	磁化不明	磁化不明	黒10/36	磁化層
75 005	7A3S2D008上層、トレンチ3	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	12.9	-	(10.8)	内面平滑	黄	B-3, S-M, L	黄	ヨコナナカ、ナズリ	ヨコナナカ、ナズリ	黒11/36	外底磁化層
75 006	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.4	-	(9.2)	内面平滑	黄	B-3, S-M, L	黄	磁化不明	磁化不明	-	磁化層
75 007	7A3S2D008上層、トレンチ3	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.4	-	(19.0)	内面平滑	黄	B-3, S-M, L	黄	ヨコナナカ、ハケ、ナズリ	ヨコナナカ、ナズリ	黒3/36	外底磁化層
75 008	7A3S2D008上層①	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	9.0	-	(5.2)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ	ナズリ	黒13/36	5字型スタンプ文、磁化層
75 009	7A3S2D008上層④	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.6	-	(5.8)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒25/36	磁化層
75 010	7A3S2D008上層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	26.3	-	(3.8)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒10/36	磁化層
75 011	7A3S2D008上層①	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.6	-	(12.3)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	-	磁化層
75 012	7A3S2D008上層①	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	23.8	-	13.6	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ	ナズリ	黒3/36	透かし孔(4ヶ所)(直径0.7mm)
75 013	7A3S2D008上層(トレンチ8高層)	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	25.8	-	(4.8)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒10/36	磁化層
75 014	7A3S2D008上層(トレンチ8高層)	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	-	-	(5.9)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒3/36	磁化層
75 015	7A3S2D008上層(トレンチ8高層)	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.6	-	(10.2)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒3/36	磁化層
75 016	7A3S2D008上層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	12.0	-	(8.3)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ	ナズリ	黒11/36	透かし孔(4ヶ所)(直径0.8mm)
75 017	7A3S2D008上層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	10.2	-	(6.6)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ	ナズリ	黒20/36	内面磁化層、内外面に黄灰、厚灰目立つ
75 018	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	-	-	(4.6)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	-	磁化層
75 019	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	-	-	(4.3)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	-	磁化層
75 020	7A3S2D008上層①	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	17.7	-	(10.3)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	-	磁化層
75 021	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	17.7	-	(11)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒6/36	磁化層
75 022	7A3S2D008	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	20.2	-	14.0	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒19/36	磁化層
75 023	7A3S2D008上層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	19.0	-	(4.2)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	磁化不明	磁化不明	黒10/36	外底に黄灰、磁化層
75 024	7A3S2D008上層④	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	21.6	-	(13.7)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ、ナズリ	ナズリ	黒5/36	磁化層
75 025	7A3S2D008上層①	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	22.2	-	(11.9)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ、ナズリ	ナズリ	黒11/36	内面にナズリ層
75 026	7A3S2D008上層①、トレンチ8高層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	31.0	-	(7.3)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ヨコナナカ、ハケ	ヨコナナカ、ハケ	黒11/36	製印(4番1番型)、外底に黄灰
75 027	7A3S2D008上層①、トレンチ8高層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	11.9	-	(14.0)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ、ナズリ	ナズリ	黒9/36	内面磁化層
75 028	7A3S2D008上層①、トレンチ8高層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	13.9	-	(6.0)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ、ハケ痕目跡	ナズリ	黒9/36	透かし孔(12ヶ所)
75 029	7A3S2D008上層①、トレンチ8高層	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	14.8	-	(8.1)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ、ナズリ	ナズリ	黒4/36	透かし孔(12ヶ所)
75 030	7A3S2D008上層(トレンチ8高層)	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	15.8	-	7.3	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ヨコナナカ、ナズリ	ヨコナナカ、ナズリ	黒5/36	透かし孔、磁化層
75 031	7A3S2D008上層③	弥生土器 鉢口蓋	口縁部	26.8	-	(8.5)	内面平滑	黄	B-3, S-M	黄	ナズリ	ナズリ	黒10/30	胎土磁化層、磁化層

第43表 A区第3掘出土器観察表2

※()は発見位置を示す。

体系番号	遺物番号	出土遺構	種別	跡跡	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	材質 (cm)	内面処理	外面処理	出土時期	形状	内面装型	外面装型	遺存率	備考	体系番号
76	833	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	小型鉢	-	4.6 (42)	-	灰	-	明赤色	S-M-L	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-409	
76	834	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	乳鉢	-	2.0	(50)	灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-409	
76	835	7AS3D008上層	弥生土器	乳鉢	-	2.0	(35)	灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-409	
76	836	7AS3D008上層	弥生土器	乳鉢	12.0	2.0	4.5	灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-409	
76	837	7AS3D008上層	弥生土器	乳鉢	2.0	2.0	3.0	灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-409	
76	838	7AS3D008上層(トレンチ南)	弥生土器	土鉢	高さ 2.0	2.0	0.7	灰	-	明赤色	S	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-369	
76	839	7AS3D008上層	弥生土器	土鉢	高さ 3.0	3.0	0.7	灰	-	明赤色	S	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-369	
76	840	7AS3D008上層	弥生土器	土鉢	高さ (1.8)	(2.0)	0.6	灰	-	明赤色	S	長	無装型	不明	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-422	
76	841	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	土器	つぼみ	3.3	-	4.0	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-407	
76	844	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	14.4	-	(70)	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-427	
76	845	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	15.3	-	(64)	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-403-1	
76	846	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	6.4	-	(50)	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-403-2	
76	847	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	17.8	-	(36)	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-459	
76	848	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	12.9	-	(50)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-707	
76	849	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	13.4	-	(62)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-425	
76	850	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	-	-	(43)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-706	
76	851	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	12.2	-	(68)	にのみ滑	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-420	
76	852	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	高さ 3.8	3.8	(40)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-710	
76	853	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	高さ 4.7-4.9	4.7-4.9	0.5	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-460	
76	854	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	33.2	-	(15.3)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-426	
76	855	7AS3D008上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	15.4	-	(48)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-225	
77	856	7AS3D009上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	20.2	-	(9.3)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-527	
77	857	7AS3D009上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	20.2	-	(45)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-450	
77	858	7AS3D009上層(トレンチ南西側)	弥生土器	土鉢	20.2	-	(57)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-450	
77	860	7AS3D012上層	弥生土器	土鉢	14.6	-	(97)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-448-1	
77	862	7AS3D014上層	弥生土器	土鉢	21.4	-	(51)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-442	
77	863	7AS3D014上層	弥生土器	土鉢	19.5	-	(100)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-441	
77	864	7AS3D014上層	弥生土器	土鉢	17.9	-	(156)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-445	
77	865	7AS3D014上層	弥生土器	土鉢	17.0	-	(95)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-443	
77	866	7AS3D014上層	弥生土器	土鉢	17.0	-	(95)	硬灰	にのみ滑	明赤色	S-M-L	長	ヨコナギ、ナギ	ヨコナギ、ナギ	底面形状、頸部隆起、外面付着	C-455	

第44表 A区第3面出土器類表3

※1) 出現の遺物を示す。

調査番号	調査位置	出土遺構	種類	跡形	口徑 (cm)	深さ (cm)	器底 (cm)	内面色	外面色	胎土分類	構成	内面遺物	外面遺物	遺存数	備考
77-087	7A3S0314		弥生土器 甕		13.8	-	(8.9)	にがみ色	にがみ色	B-3 S-M-L	黄	ヨコナ子、ナ子、ケスリ	ヨコナ子、ハケ	口10.36 口10.97	胴部の内面段状、外縁部付着 黒褐色(薄く)の厚膜、内面ヨコシ、外面 C-446 C-457
77-088	7A3S0314		弥生土器 甕		14.0	-	(8.2)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M-L	黄	ヨコナ子、ナ子	ヨコナ子、ハケ	-	ハケに上る黒膜 C-456
77-089	7A3S0314 (7A3S0302(舎))		弥生土器 甕口蓋		23.6	-	(4.8)	黒褐色	黒褐色	B-4 S-M-L	黄	ミガキナカ	ヨコナ子、ミガキ	口10.36	黒褐色(厚く)の厚膜、内面段状、外縁部、 内面ヨコシ、 C-444
77-091	7A3S0314 磁片		弥生土器 出付器		7.2	(5.3)	-	灰黄	灰黄	B-4 S-M-L	黄	ナ子	ナ子、ヨコナ子、ハケ	黒36.36	一面付着 C-447
77-092	7A3S0314		弥生土器 磁片		27.0	-	(4.8)	にがみ色	にがみ色	S-M	黄	黒褐色不明	ミガキ	口4.96	内面黒褐色、厚膜不明、外面赤色 C-445
77-094	7A3S0315上層①		弥生土器 甕		約15	-	(11.6)	黒褐色	黒褐色	B-4 S-M-L	黄	黒褐色不明	黒褐色不明	口4.96	厚膜、黒褐色 C-453
77-095	7A3S0315上層②		弥生土器 甕		約24	-	(5.0)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M-L	黄	黒褐色不明	黒褐色不明	口7.95	黒褐色(厚く)の厚膜、ミガキ組付着 C-453
77-096	7A3S0315		弥生土器 甕		20.8	-	(5.1)	黒	黒	B-4 S-M-L	黄	黒褐色不明	黒褐色不明	口11.58	赤褐色粒状土、厚膜付着 C-430
77-097	7A3S0315		弥生土器 甕		17.6	-	(7.7)	灰黄	灰黄	S-M	黄	ヨコナ子、ナ子、ケスリ	ヨコナ子、ハケ	口6.96	外縁部付着 C-429
77-098	7A3S0315上層②		弥生土器 甕		13.8	-	(7.0)	黒褐色	にがみ色	B-4 S-M-L	黄	ヨコナ子	ヨコナ子、ハケ	口16.38	外縁部付着、内面段状、黒褐色 C-433
77-099	7A3S0315		弥生土器 甕		13.7	-	(7.3)	にがみ色	黒褐色	B-4 S-M-L	黄	黒褐色不明	ヨコナ子、ハケ	口6.96	厚膜、黒褐色 C-437
77-080	7A3S0315		弥生土器 甕		12.8	-	(4.1)	黒	黒	B-3 S-M-L	黄	黒褐色不明	ヨコナ子、ハケ	口10.36	外縁一面付着 C-454-1
77-081	7A3S0315		弥生土器 甕		-	3.0	(2.8)	黒	黒	S-M	黄	黒褐色不明	ハケ、ナ子	黒29.26	赤褐色粒状土、外面一面付着 C-454-2
78-082	7A3S0315上層①、7A3S0315		土器 甕		18.0	-	(16.7)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M-L	黄	ヨコナ子、ナ子ナカ	ヨコナ子、ナ子ナカ	口13.26 口13.26	黒褐色 C-434
78-083	7A3S0315		弥生土器 甕		13.6	2.5	12.8	にがみ色	にがみ色	S-M	黄	ヨコナ子、ナ子	ヨコナ子、ハケ、ナ子	口16.26 黒31.26	内面口縁部ヨコシ、内面黒付着 C-571
78-084	7A3S0315		弥生土器 甕		19.5	-	(22.0)	灰黄、灰白	灰白	B-4 S-M	黄	ヨコナ子、ハケ、ナ子、ケスリ	ヨコナ子、ハケ、ナカ、ナ子	黒10.26 黒31.26	黒膜(4条)付着、赤褐色粒状土多い C-570
78-085	7A3S0315下層①		弥生土器 甕		-	6.0	(26.2)	灰白	灰白	S-M	黄	ミガキ、ハケ、ナ子	ハケ、ナカ、ナ子	黒36.36	外面下部付着 C-436
78-086	7A3S0315下層②		弥生土器 甕		-	2.4	(26.9)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M-L	黄	ヨコナ子、ナ子	ヨコナ子、ハケ、ナ子	黒19.26	内面段状ヨコシ付着、外面黒膜付着 C-436
78-087	7A3S0315		土器 甕		11.2	-	(11.2)	黒褐色	黒褐色	B-3 S-M-L	黄	ヨコナ子、ナ子、ケスリ	ヨコナ子、ハケ	口2.26	胴部赤褐色(厚く)付着、B88上同一層 C-472
78-088	7A3S0315		土器 甕		-	-	(11.3)	黒褐色	黒褐色	B-3 S-M-L	黄	ケスリ	ハケ、ナ子	口2.26	外縁一面付着、B87上同一層 C-472-2
78-089	7A3S0315上層①		弥生土器 磁片		15.9	-	(13.5)	にがみ色	にがみ色	S-M	黄	ナ子、ハケ	ミガキ、ヨコナ子	口13.36	内面シヨリ C-432
78-090	7A3S0315		弥生土器 磁片		20.1	-	(10.3)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M	黄	ミガキ	ハケ、ナカ、ナ子	口16.06	黒褐色付着、黒多量あり C-472
78-091	7A3S0315上層①		土器 甕		-	-	(6.3)	黒褐色	黒褐色	S-M-L	黄	ハケナカ	ハケナカ	-	厚膜、黒膜目立つ C-740
78-092	7A3S0315		弥生土器 甕		15.0	(3.3)	-	にがみ色	黒褐色	B-4 S-M	黄	ヨコナ子	ミガキ	黒3.06	2層一枚の高付(口径44cm)厚膜(0.6cm) C-440
78-093	7A3S0315上層②		弥生土器 磁片		高6 2.6 3.0	0.8	(12.6)	にがみ色	にがみ色	S-M	黄	ナ子、ハケ、ナカ、ナ子	ナ子	黒3.06	赤褐色粒状土、厚膜(22層) C-431
78-094	7A3S0315		弥生土器 土牌		高6 2.6 3.0	0.8	-	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M	黄	-	ほぼ球形	黒3.06	赤褐色粒状土、厚膜(22層) C-430
78-095	7A3S0315		弥生土器 土牌		高6 2.6 3.0	0.8	-	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M	黄	-	ほぼ球形	黒3.06	赤褐色粒状土、厚膜(22層) C-430
78-096	7A3S0316		弥生土器 甕		-	-	(2.3)	にがみ色	にがみ色	B-4 S-M	黄	ナ子	ハケ	分付	内面段状付着、黒多量あり、内面段状X 文字 D-184
78-097	7A3S0316		弥生土器 甕		19.6	-	(5.9)	にがみ色	にがみ色	S-M	黄	ヨコナ子、ハケ	ヨコナ子、ハケ	口9.96	黒褐色付着、黒多量あり、外縁部X 文字 A-008
78-098	7A3S0316		弥生土器 甕		17.2	-	(6.6)	黒黄	黒黄	B-3 S-M-L	黄	ヨコナ子、ケスリ	ヨコナ子、ハケ	口5.96	外縁部付着 C-497

第45表 A区第3面出土器類表

※()は埋存位置を示す。

発掘調査番号	出土構	種別	部 種	口縁径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径 (cm)	外径 (cm)	出土層	加工	内径調整	外径調整	埋存層	備 考	発掘調査番号
78 899	7A3S0316	外生土器	罌	15.3	-	(5.3)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	内底面化粧, 外底面付焼	C-503	
78 900	7A3S0316	外生土器	小壺	13.1	-	(3.7)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ヨコナチ	ヨコナチ	口縁部にのみ, 裏面付立つ	C-499	
78 901	7A3S0316	外生土器	罌	17.9	-	(6.8)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-5, M	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-569	
78 902	7A3S0316	外生土器	罌	16.0	-	(5.8)	黄褐色	黄褐色	B-5, M	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-513	
78 903	7A3S0316	外生土器	罌	14.7	-	(4.4)	黄褐色	黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	裏面が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-494	
79 904	7A3S0316	外生土器	罌	17.7	-	(3.8)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ハケ	ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 外底面付焼	C-509	
79 905	7A3S0316	外生土器	罌	20.8	-	(3.7)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ	ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 外底面付焼	C-512	
79 906	7A3S0316	外生土器	罌	15.8	-	(6.9)	黄褐色	黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	口縁部付焼	C-496	
79 907	7A3S0316	外生土器	罌	16.8	-	(7.3)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	裏面付立つ, 外底面付焼	C-526	
79 908	7A3S0316	外生土器	罌	14.8	-	(5.2)	黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ	ヨコナチ	外底面付焼, 粘土粒部全面付立つ	C-569	
79 909	7A3S0316	外生土器	罌	14.0	-	(4.1)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ	ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 外底面付焼	C-508	
79 910	7A3S0316	外生土器	小壺	12.7	-	(4.3)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ケズリ	ヨコナチ, ケズリ	口縁部が平らな底面を有し, 外底面付焼	C-498	
79 911	7A3S0316	外生土器	罌	-	4.6	(2.6)	黄褐色	黄褐色	B-3, M-L	具	ナチ	ナチ	口縁部が平らな底面を有し, 外底面付焼	C-741	
79 912	7A3S0316	外生土器	罌	11.3	-	(7.6)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ヨコナチ, ナチ	ヨコナチ, ナチ	口縁部に黄褐色	C-583	
79 913	7A3S0316	外生土器	罌	20.4	-	(5.0)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ヨコナチ, ナチ	ヨコナチ, ナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-511	
79 914	7A3S0316, トレンチ2層間埋藏	外生土器	罌	15.0	-	(7.5)	黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-504-1	
79 915	7A3S0316, トレンチ2層間埋藏	外生土器	罌	-	5.2	(4.3)	黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-504-2	
79 916	7A3S0316	外生土器	罌	10.7	-	(4.0)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4, M	具	ヨコナチ	ヨコナチ	赤色の化粧あり, 裏面に附立つ	C-558	
79 917	7A3S0316	外生土器	罌	前3.3	-	(4.4)	黄褐色	黄褐色	B-5, M	具	ヨコナチ, ミガキ	ヨコナチ, ミガキ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-502	
79 918	7A3S0316	外生土器	罌	20.1	-	(3.9)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-1, M	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-500	
79 919	7A3S0316	外生土器	罌	-	15.2	(12.5)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ナチ, ヨコナチ	ナチ, ヨコナチ	外底面が平ら, 内底面付焼	C-567	
79 920	7A3S0316	外生土器	罌	-	16.8	(13.2)	白	白	B-3, M	具	ナチ	ナチ	溝から30cm所(直径1.0cm), 裏面付焼	C-525	
79 921	7A3S0316	外生土器	罌	-	25.2	5.1	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ハケ付ナチ, ヨコナチ	ハケ付ナチ, ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-493	
79 922	7A3S0316 (中層下層埋藏)	外生土器	罌	-	20.2	(3.9)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4, M	具	ナチ, ヨコナチ	ナチ, ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	D-223	
79 923	7A3S0316 (中層下層埋藏)	外生土器	罌	23.3	-	(1.9)	黄褐色	黄褐色	B-5, M-L	具	ヨコナチ, ミガキ	ヨコナチ, ミガキ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-505	
79 924	7A3S0316	外生土器	罌	-	14.4	(4.7)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ヨコナチ	ヨコナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-510	
79 925	7A3S0316	外生土器	罌	13.4	5.4	6.6	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M-L	具	ヨコナチ, ハケ付ナチ	ヨコナチ, ハケ付ナチ	外底面に黄褐色, 裏面付焼	C-509	
79 926	7A3S0316	外生土器	罌	-	2.5	(3.2)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-529	
79 927	7A3S0316	外生土器	罌	前3.1	3.6	5.0	-	-	B-3, M-L	具	不明	不明	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-485	
79 928	7A3S0316	外生土器	罌	前3.3	3.6	0.6	-	-	B-4, M-L	具	ナチ	ナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-495	
79 929	7A3S0316	外生土器	罌	前3.7	3.7	(3.5)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3, M	具	ナチ	ナチ	口縁部が平らな底面を有し, 裏面に附立つ	C-493	

第46表 A区第3面出土器類表5

※()は現存遺量を示す。

調査 番号	調査 名称	出土遺構	種類	跡積 発掘位置	口徑 (cm)	原寸 (cm)	材質	内面形状	外面形状	胎土分級	形成	内面調整	外面調整	遺存非	備考
79 090	7A3S0016	土師器	土師器	発つぐら 土師	3.2	(2.8)	灰	内面平滑	外面平滑	B-3 S-M-L	土	土	土	-	C-476
79 092	7A3S0016, 7A3S0018	弥生土器	土師器	14.7	-	(7.1)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ	口4-36	外面厚縁調整	C-507
79 093	7A3S0016, 7A3S0018	弥生土器	土師器	16.4	-	(3.8)	流黄褐色	流黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ	ヨコナガ, ハケ	口2-36	外面厚縁調整	C-514
79 094	7A3S0017	弥生土器	土師器	19.4	-	(6.4)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ, ナズ	口10-36	外面に黒灰, 黒灰目立つ	C-564
79 095	7A3S0017	弥生土器	土師器	15.6	-	(3.2)	黒	黒	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ	口9-36	外面厚縁調整	C-481
79 096	7A3S0017	弥生土器	土師器	13.9	-	(3.7)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ	ヨコナガ	口6-36	赤褐色粒多し, 厚縁調整	C-480
79 097	7A3S0017	弥生土器	土師器	12.6	-	(11.5)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ, ハケ	口36-36	外面に黒灰	C-501
80 098	7A3S0017(トレンチ3東)	弥生土器	土師器	-	12.6	(7.6)	灰	内面平滑	外面平滑	B-3 S-M-L	土	土	底6-36	外面に黒灰, 縁外縁厚縁付	C-790
80 099	7A3S0017(トレンチ3東)	土師器	土師器	-	11.6	(5.9)	黄褐色	流黄褐色	B-4 S-M-L	土	土	底6-36	外面に黒灰	C-666	
80 940	7A3S0017	弥生土器	土師器	16.4	-	21.3	(16.7)	褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ケズリ(ケズリ, ヨコナガ)	底5-36	流黄褐色(胎土層厚0.1-1.0cm), 内面調整	C-563
80 941	7A3S0017(トレンチ3東)	土師器	土師器	19.6	-	7.0	(5.7)	流黄褐色	流黄褐色	B-3 S-M-L	土	土	底32-36	黒灰目立つ	C-477
80 942	7A3S0017	弥生土器	土師器	15.6	-	3.6	(3.5)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	土	底5-36	調整 55.0%, 一部黒灰	C-478
80 943	7A3S0018	弥生土器	土師器	19.6	-	(5.0)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ	口5-36	外面厚縁調整	C-524
80 945	7A3S0018	弥生土器	土師器	16.4	-	(6.9)	流黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ, ハケ	口9-36	外面厚縁調整	C-475
80 946	7A3S0020	弥生土器	土師器	18.5	-	(4.0)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ	口9-36	調整(7.5g)調整し, 赤褐色粒多し	C-474
80 947	7A3S0016, 7A3S0020	弥生土器	土師器	18.6	-	(4.3)	黒	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ	口9-36	外面厚縁調整	C-577
80 948	7A3S0020	土師器	土師器	13.6	-	(7.2)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ, ハケ	口9-36	調整(胎土層厚0.1-1.0cm), 調整時土層厚調整	C-574
80 950	7A3S0020, 7A3S0002(南)地下 層(東側部)	土師器	土師器	18.2	-	(5.9)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ, ハケ, ナズ	口9-36	外面厚縁調整	C-575
80 951	7A3S0020, 7A3S0002(中)地下 層	土師器	土師器	13.4	1.6	12-4	黒	黒	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ, ナズ	口19-36 底36-36	調整(胎土層厚0.1-1.0cm), 調整時土層厚調整	C-583
80 952	7A3S0020	土師器	土師器	20.0	-	(25.1)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ, ナズ	口9-36	調整(胎土層厚0.1-1.0cm), 調整時土層厚調整	C-268
80 953	7A3S0020	土師器	土師器	13.4	-	(10.6)	黒	黒	B-3 S-M-L	土	ハケ, ナズ	ヨコナガ, ハケ	口12-36	外面厚縁調整	C-565
80 954	7A3S0020	弥生土器	土師器	12.8	-	(5.5)	流黄褐色	流黄褐色	B-3 S-M-L	土	調整不明	ヨコナガ, ハケ	口9-36	外面厚縁調整	C-575
80 955	7A3S0002(南)吉	弥生土器	土師器	19.9	-	(8.3)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ, ナズ	-	通かられ(3.5g)調整(胎土層厚0.1-1.0cm), 調整時土層厚調整	C-566
80 956	検出品	土師器	土師器	19.9	-	(20.7)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ, ハケ	口12-36	調整目立つ	C-375
80 957	検出品	弥生土器	土師器	17.9	-	(3.9)	黒	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ	ヨコナガ	口3-36	調整(胎土層厚0.1-1.0cm), 外面厚縁調整	C-485
80 958	第3面出土	弥生土器	土師器	13.2	-	(4.8)	にのみ黄褐色	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ, ケズリ	ヨコナガ, ハケ	口9-36	調整(胎土層厚0.1-1.0cm)	C-374
80 959	検出品	弥生土器	土師器	19.10	-	(3.2)	黒	にのみ黄褐色	B-4 S-M-L	土	ヨコナガ	ヨコナガ	口5-36	外面厚縁調整, 厚縁調整	C-487
80 960	検出品	弥生土器	土師器	16.1	-	(4.7)	黒	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	調整不明	調整不明	口23-36	厚縁調整	C-482
80 961	検出品	弥生土器	土師器	14.9	-	(6.6)	灰	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	ヨコナガ, ナズ	ヨコナガ	口5-36	調整目立つ	C-481
80 962	検出品	土師器	土師器	13.2	-	(9.2)	黒	にのみ黄褐色	B-3 S-M-L	土	調整不明	調整不明	口11-36	厚縁調整	C-483

第47表 A区第3面出土土器調査表6

※〔 〕は残存の品目を示す。

発掘調査 番号	出土遺構	種類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内面形状	外面形状	断面形状	内面装飾	外面装飾	遺存者	備考
B0 993	第2部-3部陪埋	弥生土器 釜	-	-	(125)	概反	概	B-M-L	具	無装飾	-	外面に黒鉛文、底面2周で加飾、275と同一形状
B1 994	伴出	弥生土器 釜	14.8	5.0	28.2	におい青帯	におい青帯	S-M-L	具	無装飾	口1700 底300	C-369
B1 995	第2部-3部陪埋	土師器 釜	約17	-	(58)	におい青帯	におい青帯	S-M-L	具	無装飾	ヨコナテ、ハテ、ナテ	C-465
B1 996	第2-3部陪埋	土師器 釜	19.0	-	(47)	黄灰	黄灰	S-M-L	具	無装飾	凹形底文を斜め付け、無装飾	C-365
B1 997	伴出	弥生土器 加圧	26.2	-	(46)	概	概	S-M-L	具	無装飾	口506 底506	C-704
B1 998	伴出	弥生土器 加圧	-	17.5	(30)	概	概	S-M-L	具	無装飾	口506	C-164-1
B1 999	第2部-3部陪埋	土師器 加圧	-	約12.6	(96)	概	概	S-M-L	具	無装飾	底1006	C-164-2
B1 970	第2-3部陪埋(トレンチ7を参照)	土師器 加圧	-	16.8	(57)	におい青	におい青	S-M	具	無装飾	底1006 透かし孔、41-形(直径0.8mm)、無装飾	C-371
B1 971	第2-3部陪埋	弥生土器 加圧	-	20.0	(107)	反	反	B-3、S-M-L	具	無装飾	底606	C-370
B1 972	第2、3部陪埋(トレンチ6を参照)	弥生土器 鉢	約24	-	(67)	透青帯	におい青帯	S-M-L	具	無装飾	口1006	C-518
B1 973	第3部陪埋	弥生土器 鉢	-	25.6	(88)	におい青帯	におい青帯	S-M-L	具	無装飾	-	C-372
B1 977	トレンチ7	弥生土器 鉢	17.7	-	(43)	におい青帯	におい青帯	S-M-L	具	無装飾	口906	C-483
B1 978	トレンチ3	弥生土器 鉢	15.1	-	(44)	透青帯	透青帯	B-3、S-M-L	具	無装飾	口1006	C-480
B1 979	トレンチ1	弥生土器 鉢	17.9	-	(61)	概	概	S-M-L	具	無装飾	ヨコナテ	C-466
B1 980	トレンチ3	弥生土器 鉢	17.9	-	(41)	におい青	概	S-M-L	具	無装飾	ヨコナテ、ハテ	C-464
B1 981	埋藏庫	土師器 鉢	約25	-	(54)	透青帯	透青帯	S-M-L	具	ハテ、ヨコナテ、ケズリ	ヨコナテ、ナテ	C-472
B1 982	7ASS002内(中)埋藏庫	弥生土器 鉢	15.8	-	(58)	透青帯	透青帯	B-4、S-M-L	具	無装飾	口506	C-473
B1 983	トレンチ3	弥生土器 鉢	13.5	-	(68)	透青帯	透青帯	S-M-L	具	無装飾	口606	C-479
B1 984	トレンチ3	弥生土器 小型器	12.7	-	(44)	概	概	S-M-L	具	無装飾	口2106	C-492
B1 985	トレンチ3	弥生土器 小型器	10.3	-	(69)	概	概	S-M-L	具	無装飾	口206	C-491
B1 986	トレンチ3	弥生土器 小型器	-	(26)	(73)	透青	透青	S-M-L	具	ヨコナテ、ミガキ	底3006	C-489
B1 987	トレンチ3	土師器 小型器	-	3.6	(61)	概	概	S-M	具	ナテ	底3006	C-490
B1 988	埋藏庫	弥生土器 器台	-	-	(64)	概	概	B-4、S-M-L	具	無装飾	-	C-470
B1 989	トレンチ1	弥生土器 小型鉢	12.7	-	(72)	概	概	S-M-L	具	無装飾	口1606	C-469
B1 990	トレンチ1	弥生土器 器台	-	-	(44)	透青帯	透青帯	B-3、S-M-L	具	無装飾	-	C-487
B1 991	トレンチ6	弥生土器 器台	-	-	(32)	反	反	S-M-L	具	無装飾	-	C-482

第48表 A区第3部出土器類表7

第4節 第3面の遺構と遺物

※()は残存法量を示す。

検出 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
76	842	O-P-24-25	7A3SD308上層	磨石	3.7	4.1	3.1	56.0	ガラス質安山岩	黒色。加工痕なし	石43
76	843	P-25	7A3SD308下層	碧玉未成品	2.9	1.5	0.9	4.1	緑色凝灰岩	緑灰色。粗磨り工程	石47
77	861	O-26	7A3SD312	砥石	6.5	(5.8)	5.0	(27.1)	輝石凝灰岩	灰白色。全面研ぎに使用。一部刃物痕あり	石41
77	873	P-24-25	7A3SD314	磨石	8.6	7.2	5.4	460.2	花崗岩か	実形。灰白色。磨痕	石42
79	931	P-24-25	7A3SD316	砥石	(7.4)	(9.0)	3.9	(306.9)	砂岩	灰色。1側面加熱。全面煤付量	石45
80	943	O-P-24-25	7A3SD317	磨石か	4.4	3.9	1.6	37.5	石英	灰白色。かすかに磨痕あり	石34
81	974	Q-24	包含層	砥石	6.8	4.2	4.2	21.0	輝石凝灰岩	実形。灰白色。全面研ぎに使用。被熱	石40
81	975	Q-24	包含層	石鏝	(3.55)	1.92	0.99	(4.2)	鉄石英	暗赤色。基部欠損	石39
81	976	Q-24	包含層	石核	6.4	7.3	6.5	207.3	緑色凝灰岩	明緑灰色	石44

第49表 A区第3面出土石器・石製品観察表

※()は残存法量を示す。

検出 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	木取り	樹種	備 考	実測 番号
82	992	O-P-27-28	7A3SD314右岸	棒状木製品	(24.0)	5.3	2.0	板目	ウコギ属	断面を加工。腐食目立つ	木-77
82	993	P-24	7A3SD320	平鏝	(17.8)	(9.3)	1.0	板目	コナラ属アカガシ亜属		木-60
82	994	O-P-24-25	7A3SD317(中)	直柄平鏝	(29.1)	(13.3)	1.7	板目	コナラ属アカガシ亜属	柄挿入孔径5.3×4.6cm。角度不明。柄挿入孔台座0.7cm。身厚約1cm。腐食顕著	木-20
82	995	O-P-24-25	7A3SD317	棒状木製品	(78.3)	2.2	1.3	分削材	スギ	断面方形	木-27
82	996	P-24	7A3SD320	加工材	(58.5)	4.8	3.0	削出欠棒	クマノミズナ属	断面丸長方形。腐食目立つ	木-59
82	997	P-24	7A3SD320	刀棒	(23.8)	4.7	0.7	板目	カエデ属	上端肥厚。使用に伴う磨痕。腐食目立つ	特記-05

第50表 A区第3面出土木器・木製品観察表

第5節 第4面の遺構と遺物

第4面は、弥生時代後期後半を主体とする調査面である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が5.34m(第2・3面検出面とはほぼ同じ)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.56m(第3面検出面から約35cm)を、調査区北端(R-24区)が5.05m(同一約5cm)をそれぞれ測る。標高差は、調査区北東端(P-28区)と調査区南西端(O-25区)で約80cm、調査区北端(R-24区)と調査区南西端(O-25区)で約50cmとなり、調査区南西側(谷中央部)に向けて遺構検出面の標高が急激に下がる地勢となる。遺物包含層は、弥生時代後期後半までの間に堆積した、第3面ベース土を構成する白灰色粘質土(P-27区付近)または淡灰～浅黄橙色(O・P-27区付近)、暗茶灰～暗灰褐色(O・P-27区付近)を呈する粘質土である。また、第4面の遺構検出面(ベース土)は、第5面遺物包含層である黒褐～暗灰色粘質土であり、比較的多くの弥生時代中期後半の遺物が混ざる。

遺構番号は、現地調査時に400番台を付しており、調査の結果、土坑とした落ち込み5基(7A4SK401～405)、ピット約20基(うち18基に遺構番号7A4P401～418)、溝15条(うち14条に遺構番号7A4SD401～414)を検出し、遺構密度が比較的低い集落縁辺部の様相を呈する(第83図)。うち、SK405、SD407は、第5面掘り下げ時に検出しており、第4面遺構の中でも古く位置付けられる。また、弥生時代中期後半の遺物の他に、少量の弥生時代後期後半～終末の遺物が出土したが、弥生時代後期以降の遺物は第2・3面に属する混ざり込みと判断している。

なお、南側の隣接調査区との関係では、土坑、流路を検出した第8次調査B区第5面と、周溝・周堤をもつ竪穴建物(4本主柱)、溝、ピットを検出した第9次C区第5面が、連続した調査面となる。また、第8次調査B区第4面、第9次調査C区第4面で確認した水田遺構は、A区では明確な調査面として把握できなかった。ただし、検出した溝の一部が水田に伴う水路となる可能性をもち、第8・9次調査の正報告を待ちたい。

1 土坑・ピット(遺構:第83・84・89図、第51表)

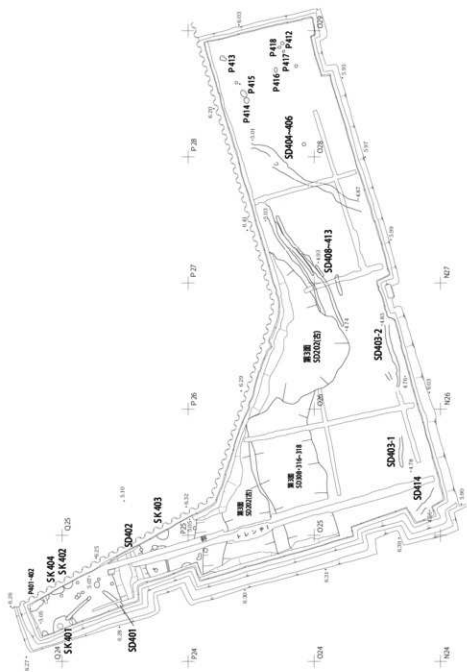
SK401～404 Q・R-24・25で検出した浅い落ち込み状の土坑で、いずれも調査区外にのびる。深さ5～17cmを測り、覆土は灰褐～褐色粘質土を基調とする(第51表)。それぞれ少量の遺物が出土した。

SK405 Q-24区で検出した平面不整隅丸方形を呈する土坑である(第89図)。長辺124cm、短辺97cm、深さ13～21cmを測り、覆土は淡灰褐色粘質土となる。前述のとおり、周辺の遺構より古く位置付けられる。

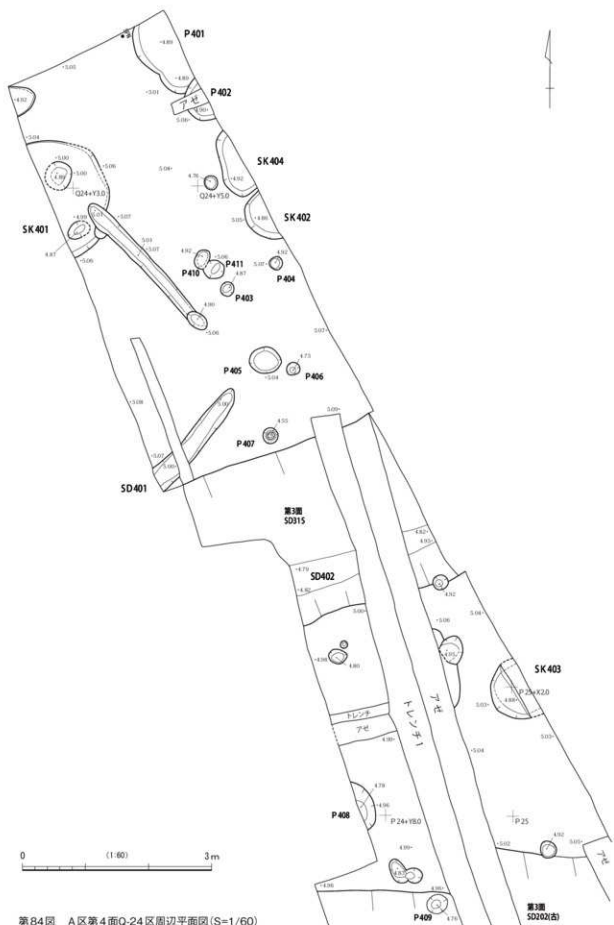
ピット Q・R-24区、P-28区で約20基のピットを検出、うち18基に遺構番号を付した(7A4P401～418)。Q・R-24区で検出したP401～411の規模等は、第51表のとおりであり、柱穴の可能性をもつP407が深さ52cmを、それ以外は深さ31cm未満を測る。覆土は、灰褐～褐色を呈する粘質土を基調とする。図化した遺物はない。また、P-28区で検出したピット(P412～418)は、現地調査時の遺構略図に記載されるのみで、明確なピットと判断しなかった可能性が高い。覆土は、炭化物が混ざる暗褐色粘質土である。

2 溝(遺構:第72・73・83～86・89・91図、第51表、遺物:第87図、第52・53表)

SD401 Q-24で検出した浅い溝で、延長190cm以上、上幅28～38cm、深さ5～7cmを測る。覆土は暗褐色粘質土で、第87図998の弥生時代終末の壺を図示した。有段口縁の998は口径15.8cmを測り、摩滅が著しい。なお、998の破片はSD402からも出土した。



第63図 A区第4面主要遺構配置図(S=1/300)



第84図 A区第4面Q-24区周辺平面図(S=1/60)

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色等	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7A4SK401	Q-R-24	略円形か	196	95～	5	褐灰色粘質土	ピット深さ15cm前後
7A4SK402	Q-24	不整形	84～	38～	5～9	灰褐色粘質土	
7A4SK403	Q-25	略円形か	95～	45～	17	褐灰色粘質土	
7A4SK404	Q-24	略円形か	106	42～	5～14	灰褐色粘質土	
7A4SK405	Q-24	不整隅丸方形	124	97	13～21	淡灰褐色粘質土	他遺構より古。平面図は第5面(第89図)
7A4P401	R-24	不整形	130～	70～	10～12	暗褐色粘質土	P401より古
7A4P402	R-24	略円形か	64	36～	11～16	灰褐色粘質土	P402より新
7A4P403	Q-24	略円形か	22	22	19	褐灰色粘質土	
7A4P404	Q-24	略円形か	22	20	15	褐灰色粘質土	
7A4P405	Q-24	不整形	50	40	-	褐灰色粘質土	掘りすぎあり
7A4P406	Q-24	略円形	22	20	31	暗褐色粘質土	
7A4P407	Q-24	円形	24	24	52	褐灰色粘質土	柱穴の可能性あり
7A4P408	Q-24	円形か	80～	26～	17	褐灰色粘質土	
7A4P409	P-24	略円形	34	28	13	褐灰色粘質土	
7A4P410	Q-24	略楕円形	32	20	8	褐灰色粘質土	
7A4P411	Q-24	略円形か	30	30	-	褐灰色粘質土	掘りすぎあり
7A4P412	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	略図に記載(未図化)
7A4P413	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	+
7A4P414	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	+
7A4P415	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	+
7A4P416	P-28	-	-	-	-	浅黄褐色粘質土	+
7A4P417	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	+
7A4P418	P-28	-	-	-	-	暗褐色粘質土 (炭化物混ざる)	+

遺構名	グリッド	主軸方位	規模 (cm)			土色等	備 考
			延長	幅	深さ		
7A4SD401	Q-24	N-約45° E	190～	28～38	5～7	暗褐色粘質土	
7A4SD402	Q-24	E-Wか	230～	90～	22～28	第72図	第3面SD315とはば重複
7A4SD403	O-25, 26	E-W	1140～	14～34	4～45	浅黄褐色粘質土か	
7A4SD404	O-P-27	N-約25° E	780～	30～84	16～32	濁灰緑色粘土	蛇行。南に流下。SD405・406に分岐
7A4SD405	P-27, 28	N-約14° E	50～	25～30	30	浅黄褐色粘質土	南西方向に流下。SD404より分岐
7A4SD406	P-27, 28	N-約22° E	190～	25～55	22～27	浅黄褐色粘質土	蛇行。SD404より分岐
7A4SD407	Q-R-24	N-約50° W	240～	60～	4～14	淡灰褐色粘質土	他遺構より古。平面図は第5面(第89図)
7A4SD408	O-26, 27	N-75° E	165	26～30	17～26	淡灰色粘質土	
7A4SD409	O-26, 27, P-27	N-約60° E	1020	15～34	11～21	淡灰色粘質土	南西側に流下。SD410・413より新
7A4SD410	O-27	N-55° E	105	18	5～8	淡灰色粘質土	SD409より古
7A4SD411	P-27	N-約60° E	525	16～46	6～14	淡灰色粘質土	南西側に流下。SD412より古
7A4SD412	O-26, P-26, 27	N-約60° E	1010～	16～44	6～14	淡灰色粘質土	南西側に流下。SD411より新
7A4SD413	P-27	N-約60° E	110～	36～	7～21	淡灰色粘質土	SD409より古
7A4SD414	O-25	N-約40° W	230～	45～50	21～27	淡灰色粘質土か	平面図は第5面(第91図)

第51表 A区第4面遺構規模等一覧表

SD402 Q-24区で検出した溝で、第3面SD315とほぼ重複する。覆土は、上位層から橙白色粘質土(第72・73図土層96)、橙～橙灰色シルト(同図土層99・101)が堆積する。出土遺物のうち、第87図998を図示した。

SD403 O-25・26で検出した蛇行気味の溝で、地勢に反して東側に向けて深くなる。延長11.4m以上、上幅14～34cm、深さ4～45cmを測り、覆土は浅黄橙色粘質土と考えられる。少量の遺物が出土した。

SD404～406 O-P-27・28区で検出した蛇行気味の流路で、分岐箇所以北をSD405・406としている。地勢に応じて南西側に流下し、上幅25～84cm、深さ16～32cmを測る。肩部は比較的しっかりしており、覆土は濁灰緑色粘土～浅黄橙色粘質土を基調とする。少量の出土遺物のうち、SD404出土の横刃形石器999を図示した。完形の999は、高さ9.5cm、幅13.0cm、厚さ3.4cmを測り、刃部両面を幅3～4cm程度磨いて鋭利に仕上げる。重さ384.3gを量り、一部に煤が付着する。

SD407 Q-R-24区で検出した直線的な浅い溝で、SK405と同じく周辺の遺構より古く位置付けられる(第89図)。深さ4～14cmを測り、覆土は淡灰褐色粘質土である。出土遺物のうち、第87図1000を図示した。弥生時代中期後半の壺片1000は、外面を斜行短線文で加飾する。

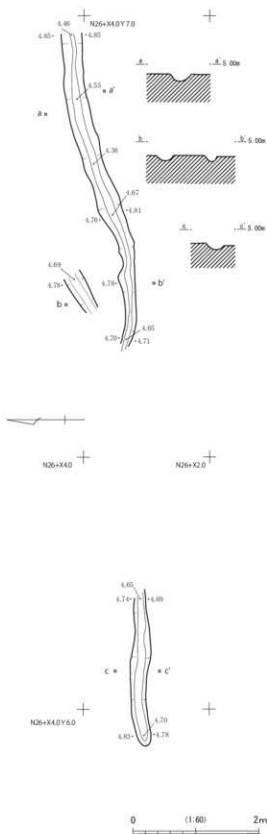
SD408～413 O-P-26・27で検出した蛇行気味の溝群で、一部重複しながら南西方向に流下する。最も長いSD409が延長10.2mを測る。また、各溝の規模は近似しており、上幅15～46cm、深さ5～26cmを測る。覆土は淡灰色粘質土で、出土遺物のうち、SD409出土の土師質土鉢片1001を図示した。球形の1001は、2次的に被熱し、器面はかなり脆い。

SD414 O-25区で検出した溝である(第91図)。上幅45～50cm、深さ21～27cmを測る。

3 包含層等出土遺物 (第87図、第52・53表)

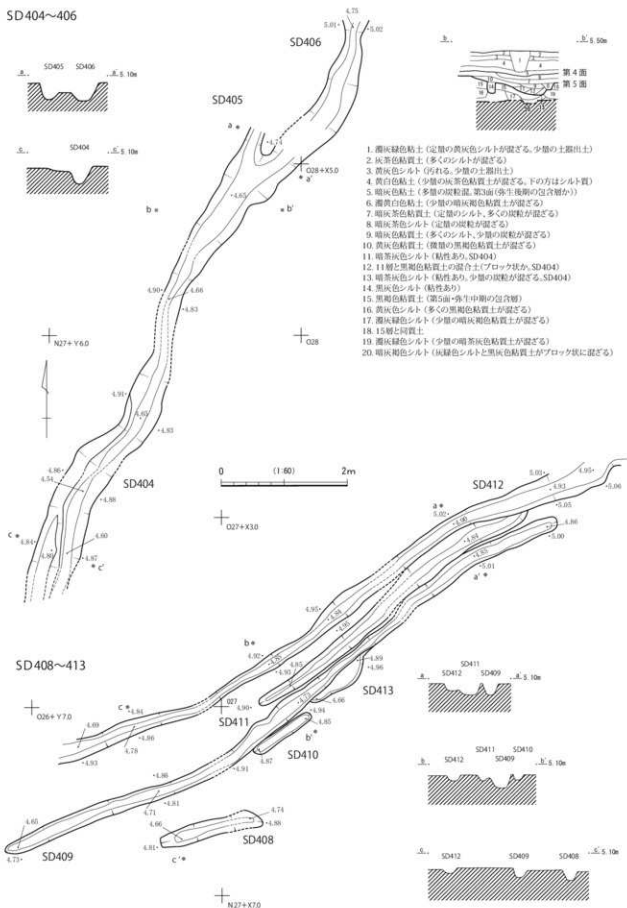
1002-03が第3・4層間層(白灰色粘質土)、1004～14が第3・4面間層(黒褐色粘質土)、1015～19がトレンチ2・3等から出土。一部に第2・3面に属する遺物が混ざる。1002-03は弥生時代後期に属する。有段口縁の壺1002は口径約22cmを測り、1003は器台脚部と考えられる。ともに胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。

1004～08は弥生時代中期後半に属し、1004～07は壺

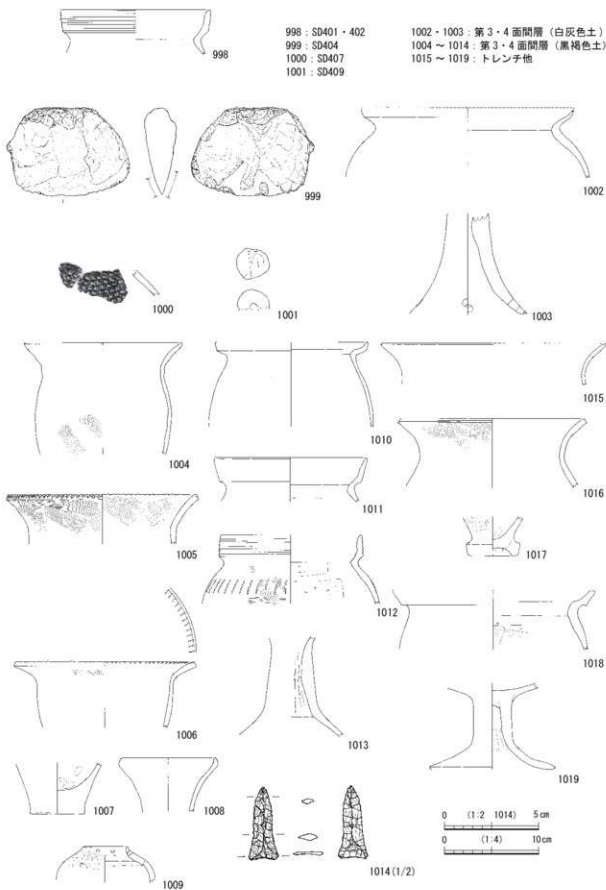


第85図 A区第4面SD403平面図・断面図(S=1/60)

SD404~406



第86図 A区第4面SD404~406, SD408~413平面図・土層断面図(S=1/60)



第87図 A区第4面出土遺物実測図 (S=1/2- 1/4)

※()は残存品を示す。

調査番号	グリッド	出土土器	種類	部 位	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内面図	外面図	胎土分類	焼成	内面調査	外面調査	遺存率	備 考
B7 1006 P-24	744SD-001-74402	灰生土器	甕	15.6	-	(4.8)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径5.36	C-503	黒印線(5条1単位)
B7 1000 O-R-24	744SD-007	灰生土器	甕	-	-	(2.7)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	-	D-227	斜行線紋6列
B7 1001 O-R-24	744SD-009	灰生土器	土鍋	口径 15.6 底径 9.5	高さ 10.3	(6.3)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径1.36	C-502	残存重量18.0g
B7 1003 P-27	白灰赤土層(黄褐色土層上部)	灰生土器	小形鉢か	約22	-	(7.3)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径1.06	C-500	赤色酸化鉄多量、線状調査
B7 1003 P-27	白灰赤土層(黄褐色土層上部)	灰生土器	鉢	約22	-	(10.8)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	-	C-501	口縁部1行が(径0.36cm)、直線調査
B7 1004 O-R-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	16.6	-	(11.9)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径0.96	C-532	外壁一部は付着、内面線状調査
B7 1005 P-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	19.6	-	(5.3)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径0.76	A-009	口縁部部に1列、外壁線状調査
B7 1006 O-R-24	第3-4遺跡層(140・143付近)	灰生土器	甕	19.0	-	(7.0)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径0.96	A-007	口縁部内面に1列、線状調査
B7 1007 P-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	-	5.6	(5.5)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	高さ30.36	D-214	線状調査
B7 1008 O-R-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	9.9	-	(5.7)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径21.06	C-534	線状調査
B7 1009 O-25	第3-4遺跡層(142・143付近) [トロンチオン・セグメント] 第3-4遺跡層(黄褐色土層(部))	灰生土器	小型甕	4.7	-	(3.9)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径20.36	C-516	口縁部5条1単位、口縁部外側に線状調査
B7 1010 O-R-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	16.2	-	(9.0)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径9.36	C-533	線状調査
B7 1011 P-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	16.1	-	(4.7)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径9.36	C-530	口縁部5条1単位、口縁部外側に線状調査
B7 1012 O-R-24	第3-4遺跡層	灰生土器	甕	14.9	-	(7.4)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径9.36	C-531	口縁部5条1単位、口縁部外側に線状調査
B7 1013 O-25	第3-4遺跡層	灰生土器	鉢	-	-	(10.7)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	-	C-515	内面5条1単位、線状調査
B7 1015 O-25	トロンチオン・セグメント	灰生土器	甕	23.0	-	(4.5)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径4.36	C-538	線状調査
B7 1016 O-R-24	トロンチオン・セグメント(黄褐色土層上部)	灰生土器	甕	19.7	-	(7.4)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径0.36	C-539	外壁線状調査
B7 1017 O-27	絆	灰生土器	小型鉢か	-	5.3	(4.2)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	高さ6.36	C-545	台部斜り付け
B7 1018 O-27	絆	灰生土器	甕	-	-	(6.5)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	-	C-540	赤色酸化鉄多量、外壁線状調査
B7 1019 P-25	トロンチオン・セグメント	灰生土器	高杯	-	13.0	(9.2)	内面図	内面図	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	高さ27.36	C-546	赤色酸化鉄多量、線状調査

第52表 A区第4面出土土器調査表

※()は残存品を示す。

調査番号	グリッド	出土土器	種類	部 位	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内面図	外面図	胎土分類	焼成	内面調査	外面調査	遺存率	備 考
B7 1006 O-24	744SD-004	横7列石碁	石碁	3.4	364.3	安山岩	石碁	石碁	胎土分類	灰	焼成不明	焼成不明	口径3.4	石碁	口縁部5条1単位、口縁部外側に線状調査
B7 1014 P-25	第3-4遺跡層	石碁	石碁	1.30	0.36	1.60	カラマツ山産	石碁	石碁	灰	焼成不明	焼成不明	高さ0.09	石碁	口縁部5条1単位、口縁部外側に線状調査

第53表 A区第4面出土土器・石碁調査表

である。1004は口径16.8cmを測り、口縁部は大きく外反する。1005は平坦に仕上げた口縁端部を刻みて加飾する他、胎土中に2mm大の砂粒が多く混ざる。鉢形に近い1006は口径19.0cmを測り、大きく外傾する口縁端部に刻みを施す。また、口縁部内面にヨゴレ、外面全体に煤が付着する。底部片1007は摩滅が目立つ。壺1008は口径9.9cmを測り、口縁端部は内傾する。摩滅が著しいため、調整は判然としない。小型の無頸壺1009は口径4.7cmを測り、外面にミガキ調整を施した後に、2孔一対の円孔(径0.3~0.4cm)を穿つ。1010~13は、本来、3面に属する遺物で、1010~12は有段口縁の甕である。1010は口径16.2cmを測り、口縁部が短く立ち上がる。1011は、口縁帯外面にかすかに擬凹線が観察できる。1012は口径14.9cmを測り、胴部外面を深い刺突文で加飾する。器台1013は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。黒色のガラス質安山岩製の石鏝1014は、重さ1.60gを量る。

トレンチ等出土の1015~17は弥生時代中期後半に、1018・19は同後期にそれぞれ位置付けられる。甕1015は口径23.8cmを測り、摩滅、剥離のため器厚はかなり薄くなる。甕1016は口径19.7cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げた後に1条の沈線を加える。1017は小型の鉢と考えられ、断面方形を呈するしつかりとした台部を貼り付ける。有段口縁の甕1018、高坏1019とも、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。

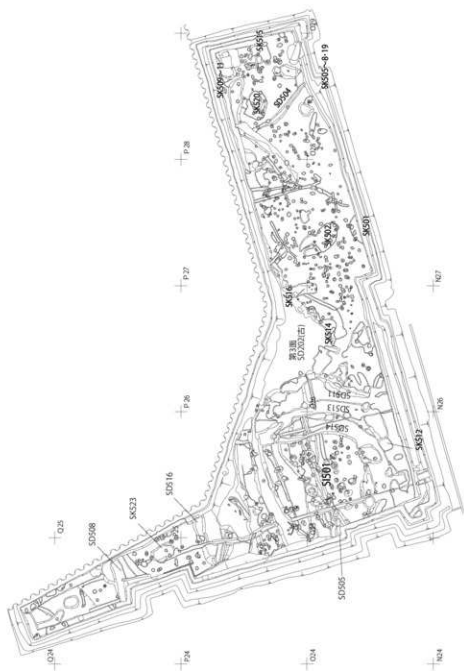
第6節 第5面の遺構と遺物

第5面は、弥生時代中期後半の調査面で、隣接する第8・9次調査成果を加味すれば集落域の西寄りに位置する。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が4.91m(第4面検出面より約40cm)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.75m(同一約30cm)を、調査区北端(R-24区)が4.40m(同一約65cm)をそれぞれ測り、第4面検出面から30~65cm掘り下げたこととなる。標高差は、調査区北東端(P-28区)と調査区南西端(O-25区)で約60cm、調査区北端(R-24区)と調査区南西端(O-25区)で10cm強となり、第4面より緩やかな勾配を示す。遺物包含層は、第4面検出面でもある炭化物が多く混ざる黒褐~暗灰色粘質土(第6図土層断面b土層9)、また遺構検出面(ベース土)は青灰~灰白色を基調とする強粘質土(同図断面b土層12層)となる。

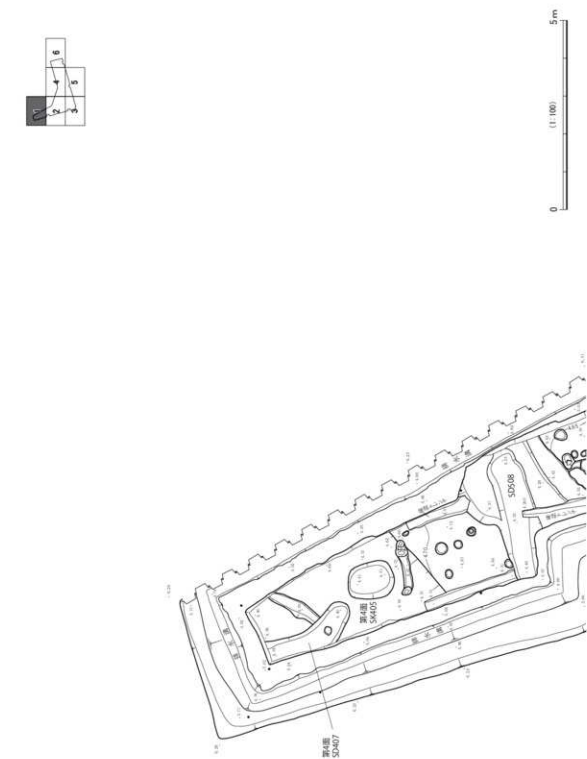
遺構番号は、現地調査時に遺物が出土した遺構に500~700番台を、また報告時に復元した平地建物にそれぞれ番号を付与している。調査の結果、土坑22基(7A5SK501~23、7A5SK504欠番)、溝21条(7A5SD501~521)、ピット約300基(7A5P501~721、欠番あり)を検出し、O・P-24~26区に分布する遺構を組み合わせて平地建物(7A5SI501)を復元している(第88~94図)。遺構別の分布は、O・P-26~28区西側に溝と小ピットが、O・P-28区東側に土坑が偏在する傾向を示し、O・P-24~26区(平地建物北側)は第2~4面遺構による損壊もあり判然としない。遺物は、比較的多くの弥生時代中期の土器に加えて、石器・石製品や平地建物の柱根、枕木が出土した他、SD202(古)に属する遺物がある。

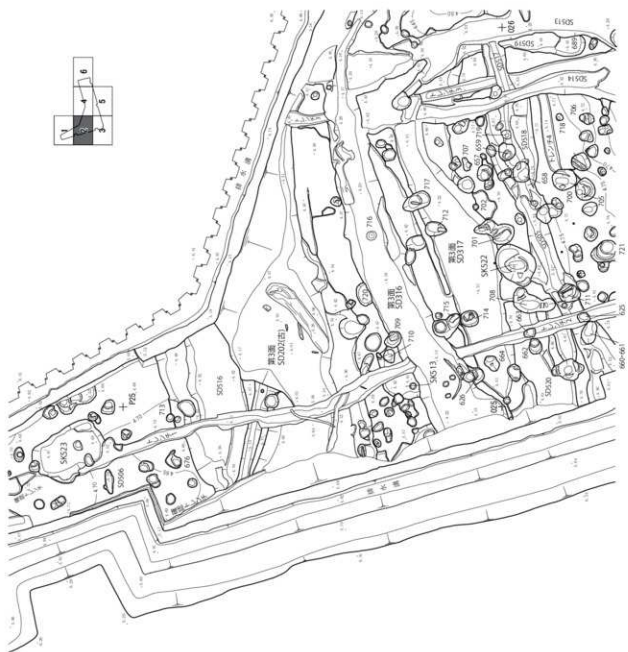
1 平地建物(遺構:第96~98図、第54表、遺物:第99・100図、第58・61・62表)

O・P-24~26区に位置する平地建物SI501は、多数の柱穴が密集しており、北東側~北側を第3面SD202(古)、SD316・317等で大きく損壊する。調査担当の主柱プランの復元、変遷等に関する記録がないことから、以下でプラン復元を試みる。復元は、幅広の外周溝と考えられるSD514・519・513・501土層断面(第97図断面e-e)が、西方向(SD514)から東方向(SD501)に向けて順次新しくなること、同様にSD514・519・513・501の平面位置も西方向から東方向及び北側から南側に向けて移動することから、平地建物は一部重複しながら南東方向に順次変遷すると想定した。また、主柱プランについては、第8・9次調査で検出した平地建物が4本主柱と報告される⁽²⁾ものの、A区第5面で検出した平地建物の占地面積

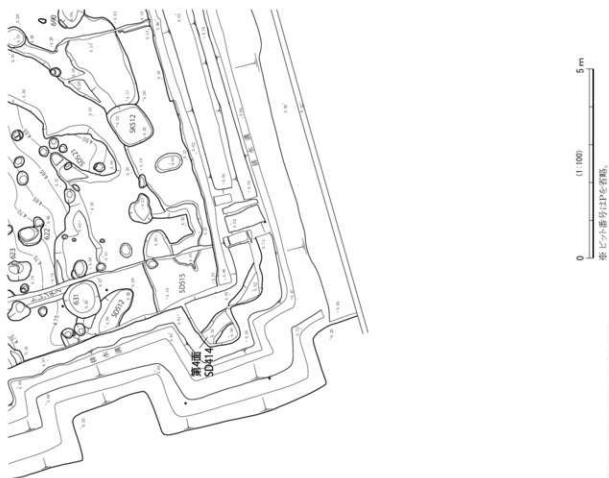


第88図 A区第5面主要遺構配置区(S=1/300)





第90図 A区第5面遺構平面図2 (S=1/100)

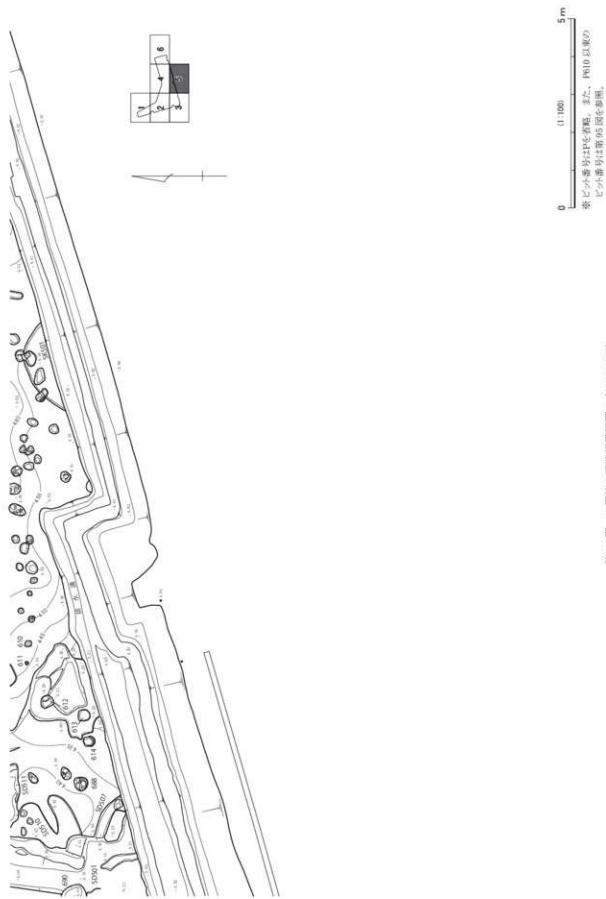


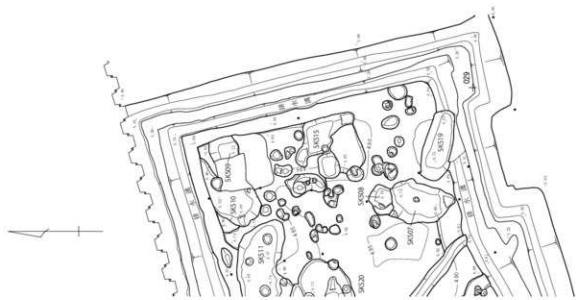
第91図 A区第5面遺構平面図3 (S=1/100)



第92図 A区第5面遺構平面図4 (S=1/100)

※ピット番号はPを省略。また、SK514以上のピット番号は第95図を参照。

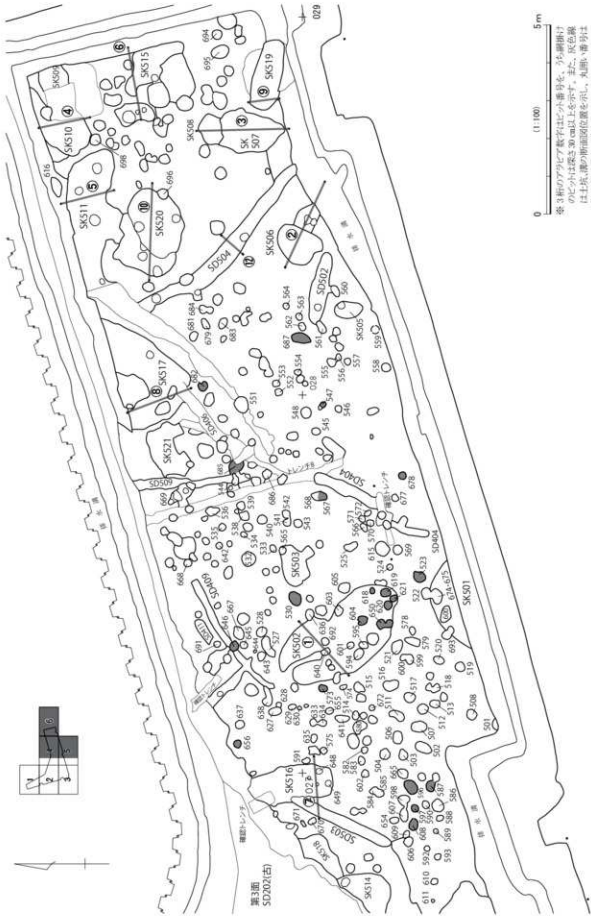




0 1:1000 5 m

※ピット番号は第 95 図を参照。

第 94 図 A 区第 5 面遺構平面図 6 (S=1/100)



第95図 A区第5面東半遺構配置図(S=1/100)

が、それより大きいこと、4本主柱の復元では柱穴に多数の過不足が生じること等から、同心円構造をもつ多柱穴プランと判断、柱根、枕木の出土状況を勘案し、柱穴のおさまりのよい6本主柱を選択した。主柱穴の復元は、P-25区第3面SD316・317付近で東西方向に並列する主柱穴を目安としており、SI501の変遷としてはほぼ同規模の6本主柱建物が南東側に向けて建て替える4小期の変遷(a~d環、第98図)を示した⁵⁾。b環以外で柱根または枕木が出土しており、各主柱の沈降防止のため、主柱下端を抉り、1本の横木をはめ込む「根がらみ」の技術を、継続して用いるものと考えられる。また、外周溝は、南側が途切れるようで、建物入口になる可能性が高い。

a環 最も古い建物として、主柱穴P716、P707、P711、P664、P709等(北東方向から時計回り。以下、同じ)を、外周溝SD519・521・514(一部)を想定した。主柱で囲まれた範囲は径5.3×5.4m、主柱間距離は2.60~3.00m、主柱環の径と外周溝内径との距離は3.0~3.5mをそれぞれ測り、建物敷地は平面円形(約102m)となる。外周溝は判然としないが、幅34~66cm、深さ20cm前後と比較的小規模で、SD519覆土は灰褐~灰色粘質土を基調とする。P709・716から柱根(第99図1022・23)、P711から枕木(未図化)が出土している。なお、SD514も外周溝の可能性をもつが、主柱穴P707との距離が約1.1mと狭く、a環に先行する敷地境界と考えておきたい。

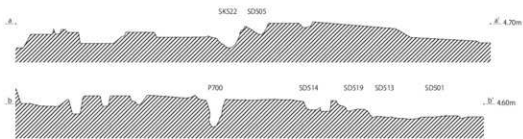
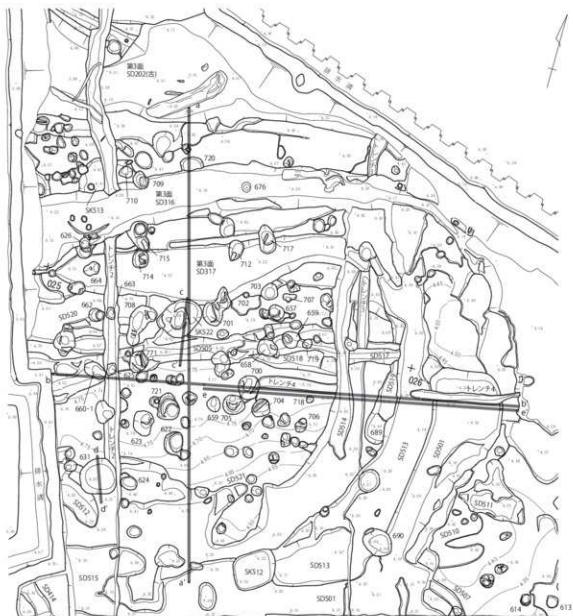
出土遺物のうち、SD514出土の第99図1020・21、主柱根1022・23を図示した。壺1020は口径17.8cmを測り、口縁部を綾杉文と下方からの刻みで加飾する。摩滅が進んだ壺底部1021は、1020と胎土が近似する。P709の柱根1022、P716の柱根1023とも、下端に横幅約12cmの方形抉りを入れ、同程度の太さをもつ1本の横木をはめ込んだと考えられる。柱根は、いずれも長径約25cm、短径20cm弱を測るが、1022がモクレン属の半蔵材、1023がエノキ属の芯持丸木と、樹種、木取りは異なる。

b環 主柱穴としてP657、P705、P662等、外周溝としてSD513・515、建物中央の炉としてSK522、P701・708を想定した。主柱で囲まれた範囲は径4.9~5.2mを、主柱間距離は2.40~2.80mをそれぞれ測る。また、主柱穴と外周溝内径との距離は、東側が3.2m、それ以外が3.5~3.7mをそれぞれ測り、a環より南北方向が長い平面略楕円形を呈する。幅広い外周溝SD513は、最大幅205cm、深さ30~55cmを測り、SD513・515間に延長約3.2mの途切れ部分をもつ。覆土は黄灰色粘質土、暗灰褐色粘質土を基調とする。

また、建物中央に位置するSK522は平面略楕円形を呈する(第97図)。長径108cm、短径88cm、深さ63cmを測り、覆土は暗茶灰色粘土の上位層に、厚さ8~12cmの炭化物層(第97図土層7・8)が確認できる。SK522を中心として対称的な位置関係をもつP701・P708の配置は、松菊里型住居を想起させる。柱根は出土せず、遺構の切りあい関係からSD505より新しく位置付けられる。出土遺物のうち、SK522出土の第99図1024を図示した。石英質の礫石1024は上下2ヶ所に顕著な敲打痕を残し、重さ377.1gを量る。

c環 主柱穴としてP717、P704、P721、P715等、外周溝としてb環と同様にSD513・515を想定したが、主柱穴1ヶ所が欠落する。主柱で囲まれた範囲は径5.1~5.4mを、主柱間距離は2.35~2.70m、3.15m(P717・715間)をそれぞれ測る。また、主柱環の径と外周溝内径との距離は、東側が2.5~2.8m、その他が3.0~3.6mをそれぞれ測り、b環と同様に南北方向が長い平面略楕円形を呈する。主柱は抜き取られたものの、枕木がP715(第99図1026)、P717(同図1027)、P704(同図1028)から出土している。出土遺物のうち、第99図1025~1028を図示した。主柱穴P704出土の大型壺1025は口径27.8cm、器高34.5cmを測り、口縁端部を小さくつまみあげる。また、底部外面に黒斑が残り、胴部は摩滅が著しい。枕木は、幅9cm前後のコナラ属コナラ亜属コナラ節の材を用いる点で共通するものの、1026が断面略三角形を呈する分割材、1027が一部に樹皮が残る分割材、1028が長さ43.6cmの芯持丸木と、形状を優先した適度の選択性が認められる。

d環 最も新しい建物として、主柱穴P712、P659、P623、P714等、外周溝SD501を想定したが、主柱

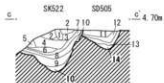
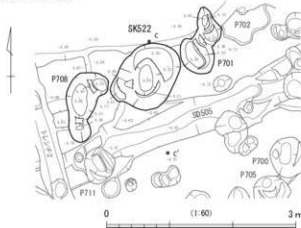


0 (1/100) 5m

※3桁のアラビア数字はピット番号を示す。

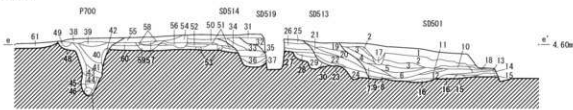
第96図 A区第5面S1501平面図・断面図(S=1/100)

SK522・SD505



1. 暗灰色粘土
2. 灰褐色粘土（炭化物が混ざる）
3. 灰褐色粘土（黄灰色シルト、炭化物が混ざる）
4. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロック、黄灰色シルト、暗灰色粘土が混ざる）
5. 暗灰色粘土（炭化物、黄灰色粘土ブロックが多量に混ざる）
6. 黄灰色粘土（第2層、炭化物が少量混ざる）
7. 炭化物層
8. 炭化物層（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
9. 暗灰色粘土（炭化物、淡灰色シルト粘土が混ざる）
10. 暗灰色粘土
11. 淡灰色粘土
12. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
13. 黄灰色シルト（第2層が混ざる）
14. 灰褐色粘土（第3層が混ざる）

SD501



〔SD501〕

1. 黒褐色粘土（灰褐色粘土と交互層となる部分あり）
2. 灰褐色粘土（炭化物が混ざる）
3. 暗灰色粘土（炭化物、黄灰色粘土小ブロックが混ざる）
4. 黄灰色粘土（暗灰色土が混ざる）
5. 暗灰色粘土（黄灰色粘土小ブロック、炭化物が混ざる）
6. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック、炭化物が混ざる）
7. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロックと暗灰色土の混合土）
8. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロックと暗灰色土の混合土）
9. 灰褐色粘土
10. 淡灰色粘土
11. 暗灰色粘土（灰白色粘土層が混ざる）
12. 暗灰色粘土（灰白色粘土ブロックが多量に混ざる）
13. 緑灰色砂質土
14. 暗灰色粘土
15. 灰白色粘土
16. 灰白色粘土（暗灰色粘土、炭化物が混ざる）
17. 暗灰色粘土
18. 黒褐色粘土

〔SD513〕

19. 灰褐色粘土
20. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロックが少量混ざる）
21. 灰褐色粘土
22. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロック、暗灰色粘土が混ざる）
23. 黄灰色粘土（灰褐色粘土、暗灰色粘土ブロックが混ざる）
24. 黄灰色粘土（黄灰色粘土ブロックと白褐色灰褐色粘土が互層状堆積、炭化物が混ざる）

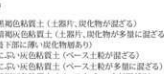
〔SD519〕

25. 灰褐色粘土（黄灰色粘土小ブロックが混ざる）
26. 灰褐色粘土（黒褐色粘土、黄灰色粘土ブロックが混ざる）
27. 黒褐色粘土（黄灰色粘土小ブロックが混ざる）
28. 灰褐色粘土（黄灰色粘土小ブロックが混ざる）
29. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロック多量に混ざる）
30. 暗灰色粘土

31. 灰褐色粘土

32. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック、炭化物が混ざる）
- 〔SD514〕
33. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック多量に混ざる）
34. 灰褐色粘土
35. 黄灰色粘土ブロック主体（灰褐色土が混ざる）
36. 黄灰色粘土ブロック主体（暗灰色粘土が混ざる）
37. 黄灰色粘土（36層との境に炭化物層、黄灰色粘土ブロックが混ざる）
- 〔P700 38~49〕
38. 灰褐色粘土
39. 暗灰色粘土（黄灰色粘土小ブロックが混ざる）
40. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック多量に混ざる）
41. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック多量、40層より少ない）
42. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
43. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロック多量に混ざる）
44. 灰白色粘土（暗灰色シルトが混ざる）
45. 暗灰色シルト（灰白色粘土ブロックが混ざる）
46. 黄灰色粘土
47. 黄灰色シルト（暗灰色粘土ブロックが混ざる）
48. 黄灰色粘土（暗灰色粘土が混ざる）
49. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロック多量に混ざる）
50. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
51. 暗灰色粘土（炭化物が混ざる）
52. 灰褐色粘土
53. 灰褐色粘土（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
54. 灰褐色粘土
55. 灰褐色粘土（炭化物多量に混ざる）
56. 暗灰色粘土（黄灰色粘土ブロックが混ざる）
57. 暗灰色粘土（炭化物が混ざる）
58. 灰褐色粘土
59. 淡灰色粘土
60. 灰褐色粘土
61. 灰褐色粘土

P631



1. 黒褐色粘土（土層片、炭化物が混ざる）
2. 暗灰色粘土（土層片、炭化物が多量に混ざる、粘土層片多量、炭化物多量あり）
3. 淡灰色粘土（ベース土が混ざる）
4. 淡灰色粘土（ベース土が混ざる）
5. 暗灰色粘土（ベース土ブロックが混ざる）
6. 暗灰色粘土（炭化物が混ざる）
7. 灰褐色粘土（ベース土ブロックが多量に混ざる）

第97図 A区5面S101等平面図・土層断面図(S=1/60)

主柱穴等

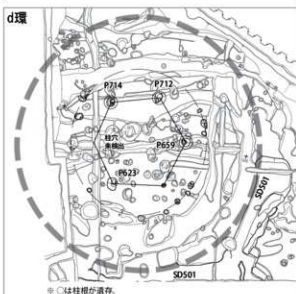
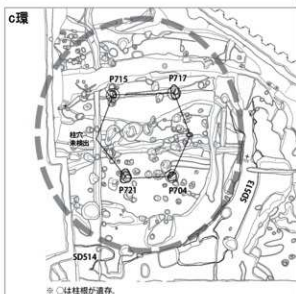
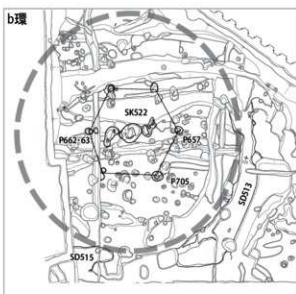
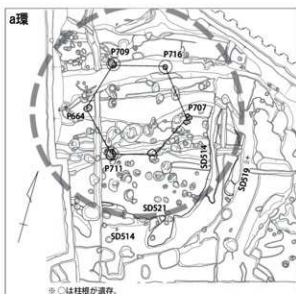
復元案	遺構番号	グリッド	柱穴平面形	規模(cm)			備 考
				長軸	短軸	深さ	
a環(6本主柱)	7A5P716	P-25	楕円形	26	24	38	枕木あり
	7A5P707	P-25	不整形	35	22	51	
	番号なし	O-25	不整形楕円形	68	48	70	
	7A5P711	O-25	不整形円形	50	48	53	柱根あり
	7A5P664	P-25	不整形楕円形	32	20	33	
b環(6本主柱)	7A5P709	P-25	不整形円形	48	38	47	柱根あり。中央一段くぼむ。SK513より新
	番号なし	P-25	不整形円形	52	38	64	
	7A5P657	P-25	楕円形	42	36	76	
	7A5P705	O-25	楕円形	58	52	49	
	番号なし	O-25	楕円形	(26)	(26)	(6)	
	7A5P662	O-25	楕円形	34	32	41	
b環(炉関係)	番号なし	P-25	楕円形	56	52	76	
	7A5SK522	O-P-25	楕楕円形	108	88	63	SD505より新。炭化物層あり
	7A5P701	O-P-25	不整形楕円形	64	52	37	
	7A5P708	O-25	楕楕円形	72	50	75	
c環(6本主柱)	7A5P717	P-25	不整形楕円形	76	40	68	柱根あり
	番号なし	P-25	楕楕円形	(28)	(24)	(10)	
	7A5P704	O-25	不整形円形	52	46	58	柱根あり
	7A5P721	O-25	不整形円形	72	56	80	
	(未検出)	O-25	-	-	-	-	
d環(6本主柱)	7A5P715	P-25	不整形円形	38	36	73	枕木あり
	7A5P712	P-25	不整形楕円形	58	36	87	柱根あり
	7A5P659	O-P-25	不整形円形	46	46	63	柱根あり
	番号なし	O-25	不整形円形	(24)	(20)	(20)	
	7A5P623	O-25	不整形円形	66	53	95	
	(未検出)	O-25	-	-	-	-	
e環(8本柱か)	7A5P714	P-25	不整形円形	45	42	54	柱根あり
	7A5P622	O-25	不整形楕円形	54	34	83	黒褐色粘質土か
	7A5P631	O-25	不整形円形	96	94	54	SD514より古。炭層あり

外周溝

復元案	遺構名	グリッド	規模(cm)			備 考
			延長	幅	深さ	
a環か	7A5SD514	O-P-25	1200~	72~	26~35	SD513より古。SD517より新
	7A5SD519	O-P-25	334~	50~	13~17	SD513・517より古
a環か	7A5SD521	O-25	100~	34~56	21	
	(7A5SD512)	O-25	126~	66	48	P631より古
b・c環	7A5SD513	O-P-25・26	1400~	55~205	31~46	SD517より新。SD501より古
	7A5SD515	O-25	210~	75~	35~55	
d環	7A5SD501	O-25、 O-P-26	1450~	120~185	19~30	湾曲。SD513より新

第54表 A区第5面SI501規模等一覧表

穴1ヶ所が欠落する。主柱で囲まれた範囲は径4.8~5.2mを、主柱間距離は2.40~2.80mをそれぞれ測る。また、主柱環径と外周溝内径との距離は2.7~3.2mと、南北方向が長い傾向を維持する。外周溝SD501は幅120~185cm、深さ20~30cmを測り、覆土は暗灰色粘質土を基調とする。第98図のとおり、主柱環と同心円的に小ピットが点在し、周堤内側の土止杭(壁周壁)とすれば、建物規模は径7.0×7.7m(約42㎡)、周堤幅2.7~3.2mに復元可能である。主柱穴P659から柱根(第100図1029)、P712・714から腐食が進んだ枕木片(未図化)が出土している。柱根1029は、長径20.5cmを測るサクラ属の芯持丸木材を用い、下端に枕木と組み合わせるために浅い抉り痕が確認できる。外周溝SD501から第100図1030~46が出土、1030~37・41は甕、1338~40・42は壺となる。1030は口径23.2cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。上げ底風の底部1031は、内面に炭化物が付着し、胎土が1030と近似する。1032は口径32.0cmを測り、口縁端部を上方から指で押圧して小波状に仕上げる。1033は口縁端部上下方向から刻みを施し、上方から

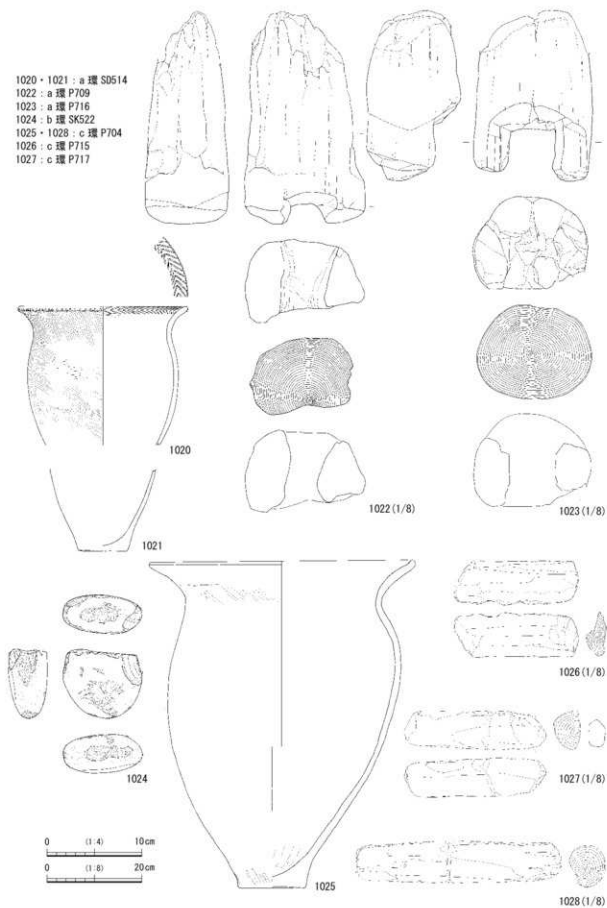


	土台層 深さ法	土台プランと柱頭位置 (ピット)の有無、使 用時期	外周溝地	外周溝内側 深さ法	土台層後と外周溝 内側間の距離
a環	5.4× 5.3m	P716 (2.80m)・P707 (2.80m)・遺構跡 (2.70m) P711 (2.80m)・P709 (2.80m)・P716	(SD519-521)・ S14	SD519-521等 11.4× 11.4m	SD519-521等 3.0~ 3.5m
b環	5.2× 4.9m	遺構跡 (2.80m)・P627 (2.80m)・P63 (2.80m)・P657 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)	SD513-515 中央部 SK522, P701, P705	12.5× 11.5m	3.2~ 3.7m
c環	5.4× 5.1m	P713 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・P714 (2.80m)・P717 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・P715 (2.80m)・P718	SD513-515	12.4× 11.0m	2.5~ 3.6m
d環	5.2× 4.8m	P713 (2.70m)・P623 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・P714 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・P718	SD501	13.7× 12.8m	2.7~ 3.2m
e環	4.6× 4.7m	遺構跡 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)・遺構跡 (2.80m)	-	-	-

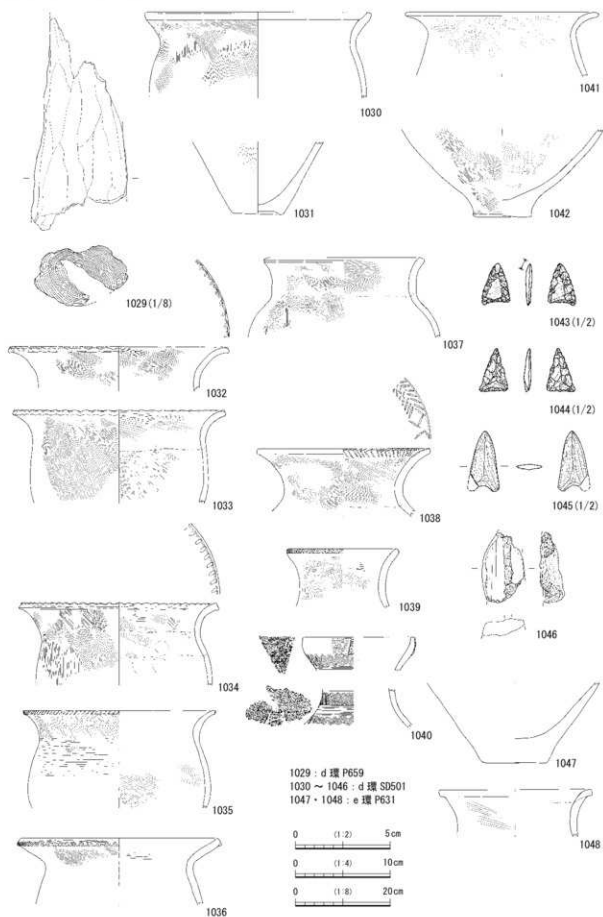
0 1:200 10m

第98図 A区第5面平地建物復元案(S=1/200)

1020・1021 : a 環 S0514
 1022 : a 環 P709
 1023 : a 環 P716
 1024 : b 環 SK522
 1025・1028 : c 環 P704
 1026 : c 環 P715
 1027 : c 環 P717



第99図 A区第5面S1501出土遺物実測図1 (S=1/4・1/8)



第100図 A区第5面S150出土遺物実測図2(S=1/2・1/4・1/8)

の刻みは丸棒状工具を用いるため比較的浅い。1034は、平坦に仕上げた口縁端部に1条の沈線を加えた後、上方から丸棒状工具で刻みを施す。1035は口径20.4cmを測り、胴部外面に横方向のハケ調整が残る。また、胴部内面にコゲ、外面に煤が付着する。1036は頸部の屈曲が強く、破片はP689からも出土した。1037は口径16.0cmを測り、壺形に近い印象を受ける。壺1038は、口縁部内面を大振りの綾杉文で加飾する。1039は口径11.6cmを測り、口縁端部の刻みは密である。1040は口径約11cmを測る小片である。外面を直線文、波状文で加飾した後、口縁部に棒状浮文を貼り付け、その上に横方向の刻みを施す。1041は口径19.5cmを測り、摩滅が著しい。底部片1042は、寛1041と胎土が類似する。平基無莖の石罫1043・44は、黒色のガラス質安山岩製である。1043は先端に磨きを加え平滑となる。重さは、1043が1.05g、1044が0.81gを量る。1045は鋭利に磨かれた磨製石罫で、一部を欠損する。オリブ灰色の透閃石を用い、残存重量1.55gを量る。明青灰色を呈する透閃石製の1016は、磨製石斧を再加工した際の残欠と考えられる。両側面から擦切りを行うため、中央の直線的な折面(幅0.7~0.8cm)を挟んで段差をもつ。

その他 SI501と異なる、P631を中央炉とする8本主柱建物を想定した(第98図左下。e環)が、SI501とは異なる建物構造や外周溝を欠くこと等、その根拠を欠く部分も多く、あくまで可能性として提示しておく。仮に建物とした場合、主柱で囲まれた範囲は径4.6~4.7m、主柱間距離は1.60~2.00mを測る。平面不整形形を呈するP631は径約95cm、深さ11cmを測り、覆土中に炭化物層が存在する(第97図断面d・d'土層2)。両脇の小ピットが位置する関係はSK522と類似し、遺構の切り合い関係からSD514より古く位置付けられる。P631出土遺物のうち、第100図1047・48を図示した。壺底部1047は全体が摩滅する。壺口縁部1048は口径16.0cmを測る。

2 土坑・ピット (遺構: 第101・102図、第55・57表、遺物: 第103図、第58・59・61表)

土坑は22基を確認し、うちSK522はSI501の一部を構成する。分布状況は、SK512・513・523以外が、調査区東半に偏在し、特にO・P-28は密集度が高い。平面形等から、平面不整形を呈する比較的浅い落ち込み状の土坑(SK501~503・505・514・518・521)と、溝状の土坑(SK509~511・516・517)、平面不整形または円形・楕円形を呈する比較的深い土坑(SK506~508・512・513・515・519・520・523)に分類可能である。うち、溝状の土坑、深い土坑は、平地建物外周溝、土坑墓の可能性をもつ。規模等を、第55表に示した。**SK501~503・505・514・518・521** 浅い落ち込み状の土坑である。覆土は、遺物包含層と類似した黒褐・黒茶灰~暗灰色粘質土を基調とし、深さ10cmより浅いものが大部分を占める。SK514・518は、P-26区第3面SD202(古)沿いに分布する遺構番号のない浅い落ち込みと同様に、第3面SD316と一体をなす遺構の可能性をもつ。

SK506 O・P-28区で検出した平面不整形楕円形を呈する土坑である(第101図)。覆土は暗灰~黒灰色シルトで、第7層上面に厚さ約1cmの炭層が確認できる。

SK507・8 P-28区で検出した土坑で、SK508が新しい。覆土は、SK508が暗灰色粘質土、SK509が褐灰~灰色粘質土を基調とし、SK507第5層に多量の炭化物が混ざる。

SK509・10 P-28区で検出した土坑で、SK509が新しい。SK509は、第4面までの遺構で大部分が損壊し、覆土は黒灰色粘質土である。SK510は延長230cm以上を図る溝状の土坑であり、覆土は暗灰褐色粘質土である。SK510出土遺物のうち、第103図の壺1049を図示した。細身の1049は底部外面に初圧痕1ヶ所が確認できる他、胎土の練りが不十分のためマーブル状の色調を呈する。

SK511・517 P-27・28区で検出した溝状の土坑で、調査区外北側にのびる。SK511の底面は起伏をもち、覆土は暗褐灰~暗灰色を基調とする粘質土が堆積する。SK117は逆L字状に屈曲し、覆土最上層に多量の炭化物が混ざる黒灰色粘質土が堆積する。SK511出土遺物のうち、第103図1050を図示した。底部穿

遺構名	グリッド	平面形態	規模 (cm)			備考
			長軸	短軸	深さ	
7A5SK501	O-27	不明	245	70~	2~6	浅い落ち込み状
7A5SK502	O-P-27	不整形	372	約130	2~18	
7A5SK503	O-P-27	不整形方形	112	94	10~13	浅い落ち込み状
7A5SK505	O-28	略梯形	74	44	4~6	浅い落ち込み状
7A5SK506	O-P-28	不整形円形	118	94	35	
7A5SK507	P-28	不整形円形	168	120	21~31	SK508より古
7A5SK508	P-28	不整形方形	78	60~	13~15	SK507より新
7A5SK509	P-28	不整形方形	230~	78	31~49	溝状。SK510より新
7A5SK510	P-28	不明	100~	50~	45	SK509より古
7A5SK511	P-28	不整形方形	453~	115	6~34	SK517より古。溝状
7A5SK512	O-25	不整形	114	94	7~9	SD501より新
7A5SK513	P-25	不整形方形	155	86~	15~18	P709より古。第3面SD316で破壊
7A5SK514	O-26	不整形	222	85~	7~11	浅い落ち込み状。SK518より新
7A5SK515	P-28	不整形	155	142	28	
7A5SK516	O-P-26-27	略長方形	226~	96	8~24	SD503より新か
7A5SK517	P-27-28	不整形	235	118	14~24	SD506より古。SK511より新。溝状
7A5SK518	O-26	不整形	150~	50~	4~20	浅い落ち込み状。SK514より古
7A5SK519	P-28	不整形円形	190	102~	44~49	
7A5SK520	P-28	不整形	170	115	12~29	
7A5SK521	P-27	不整形	146	104	2~11	浅い落ち込み
7A5SK523	Q-24	不整形方形	245	112	19~22	

第55表 A区第5面土坑規模等一覧表

遺構名	グリッド	規模 (cm)			備考
		延長	幅	深さ	
7A5SD502	O-28	192	35~48	5~12	
7A5SD503	O-P-26	290	28~30	10~17	SK516より古か
7A5SD504	O-P-28	565~	30~52	5~18	南側に流下
7A5SD505	O-P-25	980~	64~116	17~35	SK522、SD514より古
7A5SD506	O-24	65	32	15	
7A5SD507	O-26	120~	26~46	6~9	溝曲
7A5SD508	O-24	350~	275~295	15~28	
7A5SD509	P-27	302~	16~30	3~8	
7A5SD510	O-26	-	約200	3~5	不整形な落ち込みか
7A5SD511	O-26	-	145~185	13~16	不整形な落ち込みか
7A5SD516	P-24-25	400~	100~258	42~58	P713より古
7A5SD517	O-P-25	135~	44~56	16~18	SD513-514より古。SD505-518と連続か
7A5SD518	O-25	220~	54~	5~13	SD505と重複
7A5SD520	O-P-25	855~	78~264	10~23	

第56表 A区第5面溝規模等一覧表

孔の鉢1050は、内面に炭化物、外面に煤が付着する。

SK512 O-25区で検出した平面不整形方形を呈する土坑である。SD501より新しく位置付けられる。

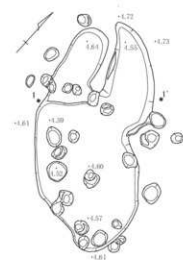
SK513 P-25区で検出した土坑で、大部分が第3面SD316により破壊する。

SK515 P-28区で検出し、平面プランから2つの土坑が重複すると考えられる。覆土は、ベース土が混ざる暗灰~暗褐色粘質土である。

SK516 O-P-26-27区で検出した直線的な溝状土坑で、北側は第3面SD202(古)で破壊する。覆土は暗褐色粘質土で、下位層に多くのベースが混ざる。

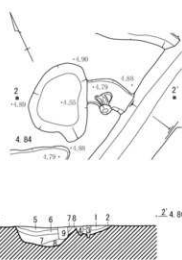
SK519 P-28区で検出した土坑で、一部破壊するが平面不整形円形を呈すると考えられる。長軸約190cm、深さ44~49cmを測り、覆土下位層にベース土混ざりの黒灰色粘質土がほぼ水平に堆積する。出土遺物のうち、第103図1051~54を図示、1051~53は堖となる。1051は口径18.4cmを測り、口縁部

O-P-27区 SKS02



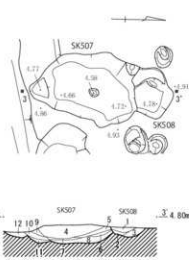
1. 黒茶色粘質土 (多量の茶褐色粘が混ざる)
2. 黒茶色粘質土 (第1層に浅黄色粘質土粒が混ざる)
3. 淡灰色粘質土 (多量のベース土が混ざる)
4. 暗黒褐色粘質土
5. 淡黒褐色粘質土

O-P-28区 SKS06



1. 暗灰色シルト (少量の軽白色シルト土粒, 炭粒が混ざる)
 2. 濃褐色シルト (定量的暗灰色シルトが混ざる)
 3. 黒灰色シルト
 4. 暗灰色粘質土 (少量の軽白色シルト土粒が混ざる)
 5. 暗灰色シルト (粘性あり, 少量の軽白色シルト土粒が混ざる)
 6. 5層と同質土 (軽白色シルトブロックが多量に混ざる)
 7. 黒灰色シルト (少量の暗粒, 緑灰色シルト土粒が混ざる。最上部に炭粒あり(厚さ約1cm))
 8. 黒灰色シルト (定量的暗灰色シルトブロックが混ざる)
 9. 暗褐色シルト (粘性あり)
- ベース土 軽白色シルト

P-28区 SKS07・508



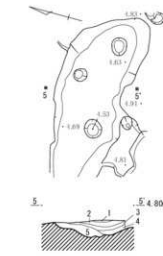
1. 暗灰色粘質土
2. 淡オリーブ灰色シルト
3. 1層と同質土(やや明るい, 少量のベース土粒混ざる)
4. 暗灰色粘質土 (多量の浅黄色粘質土粒, 炭化物混ざる)
5. 暗灰色粘質土 (多量の炭化物が混ざる)
6. 灰色粘質土
7. 6層と同色同質土 (炭化物が混ざる)
8. 灰色粘質土 (多くのベース土ブロックが混ざる)
9. 暗灰色粘質土 (")
10. 暗灰色粘質土 (少量のベース土粒が混ざる)
11. 浅黄色粘質土ブロック層(ベース土主体)
12. 黒褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SKS09・510



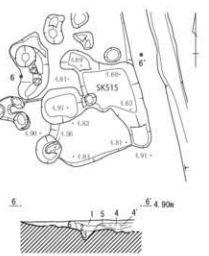
- (SKS09)
1. 黒灰色粘質土 (少量のベース土がハッチ状に混ざる)
 2. 黒灰色粘質土 (層下部に炭化物層あり)
 3. 黒灰色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)
- (SKS10)
4. 暗灰色粘質土 (少量のベース土粒が混ざる)
 5. 暗褐色粘質土 (炭化物層が混ざる)
 6. 暗褐色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SKS11



1. 濃い暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (ベース土粒が混ざる)
3. 暗灰色粘質土 (多くの炭化物が混ざる)
4. 暗灰色粘質土 (多くのベース土粒が混ざる)
5. 濃い暗褐色粘質土 (炭化物と多くのベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SKS15

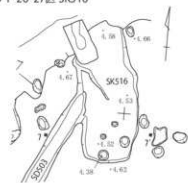


1. 暗褐色粘質土 (少量のベース土粒と炭化物が混ざる)
2. 濃い暗褐色粘質土 (ベース土粒が混ざる)
3. 暗灰色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)
4. 暗褐色粘質土 (若干しまりあり, 少量の炭化物混ざる)
4. 4層と同質土 (4層より深くしまり塗, 少量のベース土粒が混ざる)
5. 淡オリーブ灰色シルト (ベース土ブロック, 暗褐色粘質土が混ざる)
6. 暗褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)

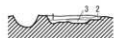


第101図 A区5面土坑平面図・土層断面図(S=1/60)

O-P-26-27区 SKS16

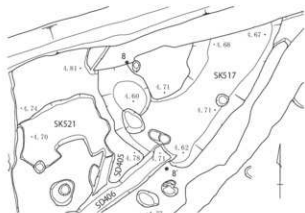


1. 2. 3. 4.80m



1. 暗褐色粘質土（多くの炭化物、少量の土溜片が混ざる）
2. 暗褐色粘質土（多くのベース土粒が混ざる）
3. ベース土と同質土（暗褐色粘質土が混ざる）

P-27-28区 SKS17

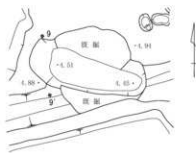


8. 4.80m



1. 黒灰色粘質土（多量の炭化物、少量のベース土粒が混ざる）
2. にぶい灰色粘質土（少量の炭化物、多量のベース土粒が混ざる）
3. 灰褐色粘質土（多量のベース土ブロックが混ざる）
4. 淡オリーブ灰色シルト（ブロック状、灰褐色粘質土が混ざる）

P-28区 SKS19

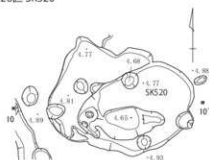


9. 4.80m



1. にぶい暗褐色粘質土（炭化物とベース土が混ざる）
2. 暗褐色粘質土（炭化物と多量のベース土ブロックが混ざる）
3. 暗褐色粘質土（少量のベース土粒と炭化物が混ざる）
4. 暗褐色粘質土（4層よりベース土粒、炭化物多い）
5. 黒灰色粘質土（多量の炭化物と土溜片、ベース土ブロックが混ざる）
6. 黒灰色粘質土（多量のベース土ブロックが混ざる）
7. 淡オリーブ灰色シルト（ベース土ブロック層、6層が混ざる）ベース土 淡オリーブ灰色シルト

P-28区 SKS20



10. 4.80m



1. 暗褐色粘質土（炭化物が混ざる）
2. にぶい暗褐色粘質土
3. 淡黄褐色粘質土（多くのベース土粒が混ざる）
4. 黒灰色粘質土（炭化物と非常に多くのベース土ブロックが混ざる）
5. 暗褐色粘質土
6. 灰褐色シルト（ベース土ブロックが混ざる）
7. 黄灰色シルト（ベース土ブロック、暗褐色粘質土が混ざる）

Q-24区 SK723



11. 4.80m



P-28区 SD504

12. 4.80m



1. 暗褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土（ベース土ブロックが混ざる）

第102図 A区5面土坑等平面図・土層断面図(S=1/60)

を刻む他、胴部外面上部を2列の直線文で加飾する。1052は、口縁端部の一部を粗い刻みで加飾する。1053は口径15.6cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。壺底部片1054は、摩滅が著しい。

SK520 P-28で検出した平面不整形を呈する土坑で、粘質土、シルトが自然堆積する。

SK523 Q-24区で単独に検出した平面不整形長方形を呈する土坑である。長辺245cm、短辺112cm、深さ20cm前後を測る。出土遺物のうち、第103図1055を図示した。壺1055は、口縁端部を指で押圧して刻みを施す他、胴部外面上半に粗いミガキ調整を加える。

ピット 調査区全体でピットを検出、特にO・P-27・28区に多くの小ピットが集中する。第95図・第57表のとおり、深さ30cm未満を測る浅いピットが大部分を占め、柱穴等の有意性をもった配置は復元できなかった。同様な小ピットの集中は、第8～10次調査でも確認でき、耕作痕の可能性をもつ。覆土は、黒褐～褐灰色粘質土を基調とする。番号を付したピットから少量の遺物が出土し、第103図1056～58を図示した。P625出土の土製紡錘車1056は、土器片を再加工し、径5.7cm×5.1cm、厚さ0.7cmを測る。1057・58は、P690から出土した。小型の鉢1057は小片のため、傾きに不安を残す。1058はメノウの原石で、重さ30.9gを量る。

3 溝（遺構：第97・102図、第54・56表、遺物：第103図、第59表）

溝は、SI501外周溝を除くと、P・Q-24・25区で調査区を東西方向に流れる自然流路3条(SD505・508・516・517・518・520)、地勢のほぼ垂直方向に掘られる小溝(SD503・504・509)、短い小溝(SD502・506・507)、浅い落ち込み状の溝(SD510・511)に大別でき、自然流路は第4面までの遺構により大部分が損壊する。各溝の規模等は第56表のとおりであり、以下、主な溝について記す。

SD503 O・P-26で検出した直線的な溝で、長さ290cm、幅約30cm、深さ10～17cmを測る。

SD504 O・P-28区を蛇行気味に南流する溝である。幅30～52cm、深さ5～18cmを測り、覆土は褐灰～淡褐灰色粘質土である。

SD505 O・P-25区で検出し、接続するSD517・518と一連の自然流路と考えられる。覆土は、下位層から灰褐色粘土、黄灰色シルト、灰褐色粘土、淡茶灰色粘土が自然堆積する(第97図断面c-c)。遺構の切り合い関係からSI501(SK522・SD513・514)より古く位置付けられる。

SD509 P-27区で検出した小溝で、幅16～30cm、深さ3～8cmを測る。

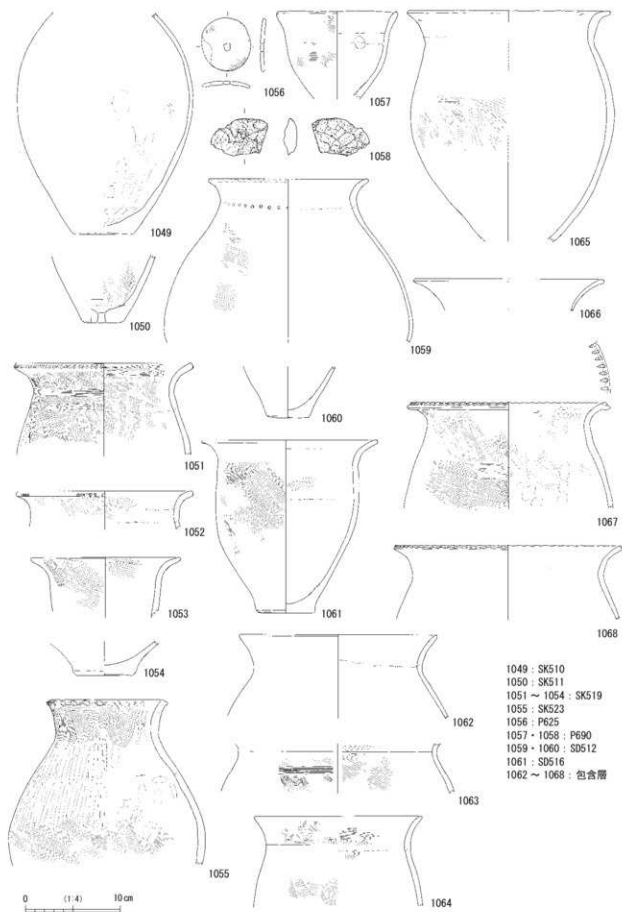
SD512 O-25区で検出した溝で、位置関係からSI501a環外周溝を構成する可能性を残す。上幅66cm、深さ48cmを測り、遺構の切り合い関係からe環P631より古く位置付けられる。出土遺物のうち、第104図1059・60を図示した。摩滅した壺1059は口径16.7cmを測り、頸部外面を竹管文で雑に加飾する。壺1060は、内縁に煮炊きに伴う炭化物が付着する。

SD516 P-24・25区で検出した自然流路で、大部分は第3面SD202(古)により損壊する。第103図1061が出土した。壺1061は口径18.7cm、器高18.3cmを測り、良好に煮炊き痕を残す。

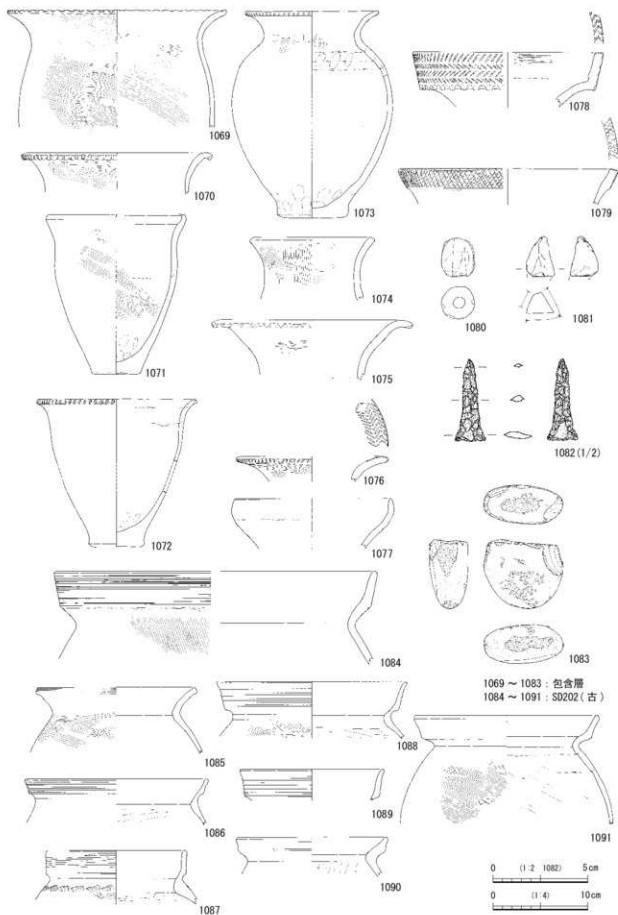
4 包含層等出土遺物（第103～105図、第59～61表）

弥生時代中期後半に属する第103図1062～第104図1083の他、第5面調査時に残存したSD202(古)覆土から取り上げた同図1084～第105図1102を図示した。

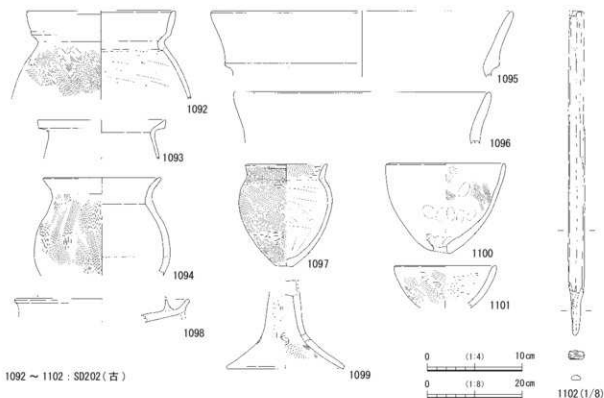
1062～72は甕である。1062は口径20.8cmを測り、摩滅が著しい。1063は胴部外面に直線文、斜行短線文を施す。1064・65は、良好に煮炊き痕を残す。1066は口径20.0cmを測り、摩滅、剥離のため器厚を大きく減じる。1067は平坦に仕上げた口縁端部に1条の沈線を加えた後、上方から刻みを施す。1068は口径23.8cmを測り、摩滅が進んだため調整は判然としない。1069は、口縁端部にかすかに刻みが残る。



第103図 A区第5面出土遺物実測図1 (S=1/4)



第104図 A区第5面出土遺物実測図2(S=1/2-1/4)



第105図 A区第5面出土遺物実測図3 (S=1/4・1/8)

1070は口径20.4cmを測り、小さく折り曲げた口縁端部に棒状工具で刻みを施す。小型の1071は口径14.2cm、器高17.0cmを測り、口縁端部を内屈気味に仕上げる。1072は口径16.6cmを測り、底部は台状を呈する。

第104図1073～79は壺である。1073は口径14.1cm、器高約22cmを測り、大きく外反する口縁部下端を刻みで加飾する。1074は口径12.4cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。1075は口径21.3cmを測り、口縁端部が大きく外傾する。また、口縁部下端を、下方から指で押圧して小波状に仕上げる。1076は口縁端部を綾杉文、刻みで加飾する他、外面に煤が付着する。1077は口径16.4cmを測り、口縁部が内湾する。1078は綾杉文と棒状工具による刻みで、1079はへら状工具を用いたX線文・斜格子文で、それぞれ加飾する。土師質の土錘1080は、焼成がよくない。砥石1081は三角錐状を呈し、折損部以外を研ぎに用いる。灰白色を呈し、凝灰岩製と考えられる。平基無茎の石鏃1082は、細身長身で長さ4.34cm、幅1.61cm、厚さ0.38cmを測る。下呂石製で、重さは1.86gを量る。石英質の敲石1083は、破損した後も使用しており、全面に敲打痕、研ぎ痕が認められる。

第104図1084～第105図1102は、SD202(古)から出土した弥生時代後期～古墳時代前期の土器である。1084～1094は甕で、1085-90・93が弥生時代後期前半、1094が古墳時代前期に位置付けられる。大型の有段口縁の甕1084は口径約34cmを測り、外面に煤が付着する。1085は口径16.8cmを測り、口縁端部に凹線文を施す。1086の擬凹線は、やや乱れる。1087は頸部が厚く、口縁部が直立する。1088は口径19.9cmを測り、幅の広い擬凹線を施す。1089は、外面に煤が厚く付着する。1090は口径16.0cmを測り、器肉は厚い。1091は口径19.4cmを測り、口縁部は直線的に外傾する。1092は、頸部内面の接合が粗い。小甕1093は口径13.4cmを測り、摩滅が著しい。球胴の1094は口径12.4cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。1095は弥生時代終末の有段口縁の大型壺と考えられ、外面に煤が付着する。1096は口径27.0cmを測り、土師器大型甕と考えられる。土師器小甕1097は口径8.3cm、器高10.9cmを測り、口縁部が短くのびる。装飾器台1098は、摩滅が著しい。弥生時代終末の高坏1099は、4ヶ所に透かし孔を穿つ。小

※ 1) 出所は本調査を示す。

検出 番号	遺物 番号	グランド P-25	出土層様	種類	部 類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径色相	外径色相	出土層様	地況	内径調査	外径調査	遺存性	備 考
99	1020	0-P-25	S501a層 7A550514	赤生土器	壺	17.8	-	(14.7)	黒黄緑、灰	黒黄緑、灰	B-3 S ⁺ M-L	員	黒黄不明	ヨコナテ、ハテ	口33/36 底30/36	口縁部内面に黒紗文、外面に黒い。外底に黒い。黒黄不明。黒黄不明
99	1021	0-P-25	7A550514	赤生土器	壺	-	5.1	(8.7)	黒黄緑、灰	黒黄緑、灰	S ⁺ M-L	員	黒黄不明	黒黄不明	底30/36	外底に黒い。1020と同じ一部はか
99	1025	0-P-25	S501a層7A550513 灰黄色粘質土、ト1-2	赤生土器	壺	27.8	7.0	34.5	黒	にがい曜	B-4 S ⁺ M-L	員	黒黄不明	ヨコナテ、ハテ	口33/36 底30/36	外底に黒い。口縁部黒い。黒黄不明
100	1030	0-P-25	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	23.2	-	19.2	にがい黄緑	にがい黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	口26/36	内面ヨコナテ、外底に黒い	
100	1031	0-P-25	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	-	5.4	(7.6)	にがい黄緑	にがい黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	ハテ	ハテ、ヨコナテ	内底に黒い。外底に黒い。1030と同じ一部はか	
100	1032	0-P-26	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	23.0	-	(4.8)	にがい黄緑	にがい黄緑	B-3 S ⁺ M-L	員	ハテ	ヨコナテ、ハテ	口6/36	口縁部に黒い。外底に黒い。1030と同じ一部はか
100	1033	0-P-26	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	22.3	-	(9.0)	黒黄	灰黄	S ⁺ M-L	員	ハテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口15/36	口縁部上下に黒い。外底に黒い
100	1034	0-P-25	S501a層 7A5505091 黒黄赤土層	赤生土器	壺	20.6	-	(8.6)	にがい黄緑	にがい黄緑	B-3 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口32/36	口縁部に黒い。外底に黒い
100	1035	0-P-26	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	20.4	-	(10.3)	にがい黄	にがい黄	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口8/36	口縁部に黒い。外底に黒い。黒黄不明
100	1036	0-P-25	S501a層7A5505091、 S501a層黒黄土層	赤生土器	壺	20.8	-	(7.2)	にがい黄、灰	黒	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口19/36	口縁部下部に黒い。外底に黒い
100	1037	0-P-25	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	16.0	-	(8.5)	にがい黄緑	にがい黄緑	S ⁺ M-L	員	ハテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口4/36	外底に黒い
100	1038	0-P-25	S501a層 7A5505091 下層(灰黄 より上、黒黄粘土層)	赤生土器	壺	18.0	-	(7.2)	にがい黄緑	にがい黄緑	S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口7/36	口縁部に黒紗文
100	1039	0-P-26	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	11.6	-	(6.3)	灰白	灰白	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口6/36	口縁部に黒い。黒黄不明
100	1040	0-P-26	S501a層7A5505091 黒黄赤土層	赤生土器	壺	(計11)	-	-	にがい黄	にがい黄	S ⁺ M-L	員	ヨコナテ	ヨコナテ	口6/36	底にS(1角、黒黄白)、黒黄赤(11角、黒黄赤)。
100	1041	0-P-25	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	19.5	-	(6.6)	黒黄緑	黒黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口8/36	黒黄不明
100	1042	0-P-26	S501a層 7A5505091	赤生土器	壺	-	6.2	(9.2)	黒黄緑	黒黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	ハテ	ハテ、ハテ	底14/36	黒黄不明
100	1047	0-P-25	e層7A5P831 (中黄)	赤生土器	壺	-	6.9	(8.5)	黒	黒	B-3 S ⁺ M-L	員	黒黄不明	黒黄不明	底36/36	黒黄不明
100	1048	0-P-25	e層7A5P831 (中黄)	赤生土器	壺	16.0	-	(5.0)	にがい黄緑	にがい黄緑	S ⁺ M-L	員	黒黄不明	ヨコナテ、ハテ	口36/36	外底に黒い。内面に黒い。外底に黒い
100	1049	P-28	7A550510	赤生土器	壺	-	6.0	(23.4)	にがい黄緑	黒黄緑	B-4 M-L	員	ハテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	底36/36	外底に黒い。内面に黒い。外底に黒い
103	1050	P-28	7A550511	赤生土器	有孔鉢	-	4.0	(7.2)	黒黄緑	にがい黄	B-4 S ⁺ M-L	員	ハテ、ハテ	ハテ	底36/36	外底に黒い。口縁部黒い。黒黄不明
103	1051	P-28	7A550519 黒黄赤土層	赤生土器	壺	18.4	-	(9.8)	にがい黄緑	にがい黄緑	B-3 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口9/36	口縁部に黒い。外底に黒い。黒黄不明
100	1052	P-28	7A550519	赤生土器	壺	18.4	-	(4.1)	にがい黄緑	にがい黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口9/36	口縁部下部に黒い。外底に黒い
100	1053	P-28	黒黄赤土層 7A550519	赤生土器	壺	15.6	-	(6.4)	にがい黄緑	黒	B-3 S ⁺ M-L	員	ヨコナテ、ハテ	ヨコナテ、ハテ	口4/36	内面口縁部外側に黒い。外底に黒い
103	1054	P-28	7A550519	赤生土器	壺	-	6.0	(3.0)	黒黄緑	黒黄緑	B-4 S ⁺ M-L	員	黒黄不明	黒黄不明	底18/36	底面に外底面に黒い。黒黄不明

第58表 A区第5面出土器観察表1

※()は埋存位置を示す。

構造番号	グリッド	土壌構成	種類	形状	口径 (cm)	深さ (cm)	内径色調	外径色調	胎土性状	地底	内径調整	外径調整	遺存物	備考	発掘番号
100	1005	0-24	74S05K23	灰土層	11.6	-	区黄	に少し青	胎土性状 b-5 M-L	良	ハケ、ナシ	ヨコナシ、ハケ、ナシ	ヨコナシ、ハケ、ナシ	ヨコナシ、ハケ、ナシ	C-561
100	1056	0-25	74S0625	灰土層	5.1×5.7	0.7	区黄	区黄	b-3 S-M-L	良	埋蔵不明	ハケ	-	土器片、土器片、土器片	A-018
100	1057	0-25-26	74S0626	灰土層	12.4	-	(18.3) 区黄	に少し青	b-4 S-M-L	良	ヨコナシ、ナシ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-017
100	1059	0-25	74S05D12	灰土層	16.7	-	(17.4) に少し青	青	b-3 S-M-L	良	埋蔵不明	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-030
100	1060	0-25	74S05D12	灰土層	-	4.5	(15.5) 区黄	青	b-3 S-M-L	良	埋蔵不明	ハケ、ナシ	底36-36	内径にハケ	C-725
100	1061	P-24-25	74S05D16	灰土層	18.7	6.0	18.3 に少し青	に少し青	b-3 S-M-L	良	ヨコナシ、埋蔵不明	ヨコナシ、ハケ、ナシ	ヨコナシ、ハケ、ナシ	ヨコナシ、ハケ、ナシ	A-032
100	1062	0-25	埋蔵不明	灰土層	20.6	-	(8.9) 区黄	青	b-4 M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	C-517
100	1063	0-26	埋蔵不明	灰土層	-	-	(5.3) 区黄	に少し青	b-3 S-M-L	良	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	A-020
100	1064	-	埋蔵不明	灰土層	17.7	-	(9.6) に少し青	に少し青	b-4 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-033
100	1065	0-26	埋蔵不明	灰土層	21.3	-	(24.4) 区黄	青	b-3 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	C-536
100	1066	P-26	埋蔵不明	灰土層	20.0	-	(13.4) 区黄	青	b-3 S-M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	A-039
100	1067	0-26	埋蔵不明	灰土層	20.5	-	(11.2) 区黄	青	b-5 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-011
100	1068	0-26	埋蔵不明	灰土層	23.6	-	(7.0) 区黄	に少し青	b-6 S-M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	C-544
104	1069	P-26	埋蔵不明	灰土層	23.0	-	(12.4) 区黄	に少し青	b-3 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-014
104	1070	-	埋蔵不明	灰土層	20.4	-	(4.4) 区黄	区黄	b-4 S-M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	A-006
104	1071	P-26	埋蔵不明	灰土層	14.2	5.0	17.0 に少し青	に少し青	b-3 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	C-537
104	1072	0-26	埋蔵不明	灰土層	16.6	6.0	約16	に少し青	b-6 M-L	良	ヨコナシ、ナシ	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	A-012
104	1073	0-27	埋蔵不明	灰土層	14.1	7.3	約22	区黄	b-3 M-L	良	ナシ、ハケ	ナシ、ハケ	ナシ、ハケ	埋蔵不明	C-542
104	1074	-	埋蔵不明	灰土層	12.4	-	(6.7) 区黄	青	b-4 S-M-L	良	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	ヨコナシ、ハケ	A-040
104	1075	-	埋蔵不明	灰土層	21.3	-	(6.4) に少し青	に少し青	b-3 S-M-L	良	ヨコナシ	ヨコナシ	ヨコナシ	ヨコナシ	A-036
104	1076	-	埋蔵不明	灰土層	16.0	-	(2.7) 区黄	区黄	b-3 S-M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	A-005
104	1077	0-25	埋蔵不明	灰土層	16.4	-	(5.3) 区黄	区黄	b-4 S-M-L	良	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	C-541
104	1078	0-25	埋蔵不明	灰土層	約20	-	(5.0) に少し青	に少し青	b-3 S-M-L	良	ハケ	埋蔵不明	埋蔵不明	埋蔵不明	A-046
104	1079	P-27	埋蔵不明	灰土層	約23	-	(3.8) 区黄	区黄	b-3 M-L	良	ヨコナシ	ヨコナシ	ヨコナシ	ヨコナシ	A-000

第59表 A区第5面出土器類表2

※()は埋蔵品を示す。

検出 番号	遺物 番号	グランド レベル	出土層位	種類	部 位	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径位置	外径位置	出土層位	地質	内面形状	外面形状	外周形状	通年層	備 考	
104	1090	O-P-28	黒褐色土層	土器	土鉢	高さ 4.0	口径 3.4	-	瓦質	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	-	ナリ	-	-	埋付層位 3.00c	C-543
104	1084	O-P-26	黒褐色土層	土器	土鉢	約34	-	(9.9)	におい滑壁	におい滑壁	S ⁺ M-L	瓦	縁底不明	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□5-36	埋付層位10.0c1単位、外周一部埋付	C-556
104	1085	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	16.8	-	(7.0)	壁、黒焼	壁、黒焼	S ⁺ M-L	瓦	縁底不明	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□12-26	外周埋付層	C-558
104	1086	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	19.5	-	(4.0)	埋底質	におい滑壁	b-3 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナカ	ヨコナナリ、ハナカ	□6-36	埋付層4.0c1単位、外周埋付層	C-550
104	1087	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	14.6	-	(5.7)	におい滑壁	におい滑壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□10-36	埋付層5.0c1単位、新瓦文、外周埋付	C-547
104	1088	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	19.9	-	(6.0)	壁	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□5-36	埋付層5.0c1単位	C-562
104	1089	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	15.2	-	(3.3)	におい滑壁	におい滑壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ	ヨコナナリ	ヨコナナリ	□12-36	埋付層、外周埋付層	C-548
104	1090	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	16.0	-	(4.2)	におい滑壁	におい滑壁	S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ハナ、ウズリ	ヨコナナリ	ヨコナナリ	□7-36	外周埋付層	C-549
104	1091	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	19.4	-	(11.6)	壁	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□8-36	外周埋付層	C-559
105	1092	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	15.6	-	(9.4)	におい滑壁	におい滑壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□9-36	-	C-557
105	1093	-	赤生土層(埋付層)	土器	土鉢	13.4	-	(4.2)	壁	壁	b-3 S ⁺ M-L	瓦	縁底不明	縁底不明	縁底不明	□13-36	埋付層	C-564
105	1094	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	12.4	-	(10.4)	瓦質	瓦質	b-3 S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ、ナリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□8-36	外周埋付層	C-554
105	1095	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	約31	-	(7.0)	黒瓦	におい滑壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	縁底不明	ヨコナナリ	ヨコナナリ	□4-36	内周ヨコナリ、外周埋付層	C-555
105	1096	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	27.0	-	(5.5)	におい滑壁	におい滑壁	S ⁺ M-L	瓦	ヨコナナリ	縁底不明	縁底不明	□6-36	-	C-560
105	1097	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	8.3	1.9	10.9	におい滑壁	におい滑壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ハナ、ウズリ	ヨコナナリ、ハナ	ヨコナナリ、ハナ	□20-36 高さ20/36	外周に黒焼あり	C-552
105	1098	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	18.0	-	(2.5)	壁	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	縁底不明	土が平か	土が平か	□6-36	埋付層	C-561
105	1099	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	-	-	12.3	(9.4)	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	ハナ、ナリ	土が平	土が平	高さ26/36	埋付層	C-551
105	1100	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	12.4	-	9.5	におい滑壁	におい滑壁	b-6 S ⁺ M-L	瓦	ハナ埋ナナリ	ナリ、ハナ埋ナナリ	ナリ、ハナ埋ナナリ	□24-36 高さ26/36	埋付層5.0c1単位1.0cm、埋付1.0cm、外周埋付層	C-560
105	1101	O-P-26	赤生土層	土器	土鉢	10.7	-	(4.5)	壁	壁	b-4 S ⁺ M-L	瓦	土が平	土が平	□13-36	外周埋付層	C-579	

兼60表 A区第5面出土器調査表3

※()は残存量を示す。

発掘 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 材	備 考	実測 番号
99	1024	O-P-25	S1001b層 7A55D502	礎石	8.0	6.7	5.1	377.1	石英質	灰白色、2ヶ所に露骨な割 行痕。	石01
100	1043	O-25、O-P- 26	S101d層 7A55D501・7A55D503	石鉢	2.21	1.49	0.36	1.05	ガラス質安山 岩	完形、黒色	石50
100	1044	O-25、O-P- 26	S101d層 7A55D501・7A55D503	石鉢	2.28	1.49	0.38	0.81	ガラス質安山 岩	完形、黒色	石51
100	1045	O-25、O-P- 26	S101d層 7A55D501	複製石鉢	3.21	1.57	0.28	(1.56)	透閃石	オリーブ灰色、一部折損	石35
100	1046	O-25、O-P- 26	S101d層 7A55D501	石葬隈文か	(7.4)	4.5	(2.5)	(99.4)	透閃石	明黄灰色。複製石葬を再 加工した隈文か。両側面 から磨切り	石33
103	1058	O-25-26	7ASP690	原石	4.1	6.1	1.5	30.9	メノウ	灰白色	石52
104	1081	-	管倉壁	礎石	(4.2)	3.0	(2.3)	(23.0)	凝灰岩か	灰白色。折損部以外も研 ぎに使用。平滑。下方折 損後に修繕、埋付痕	石53
104	1082	O-25	管倉壁(黒褐色土層)	石鉢	4.34	1.61	0.38	1.86	下呂石	完形、黒色	石06
104	1083	R-24	管倉壁(黒褐色土層)	礎石	7.4	8.4	4.1	366.1	石英質	オリーブ灰色。表面を磨行。 磨ぎに使用。研ぎ痕、研 磨面を磨行に使用	石32

第61表 A区第5面出土石器・石製品観察表

※()は残存量を示す。

発掘 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	木型り	樹種	備 考	実測 番号
99	1022	P-25	S101a層 7ASP709	柱礎	(44.9)	25.6	17.7	平截木	モクレン属	斜方向に幅約11.5cm、深 さ約7.5cmの鉢り	特記-06
99	1023	P-25	S101a層 7ASP716	柱礎	(36.1)	25.2	19.8	芯持丸木	エノキ属	幅約12cm、深さ約10cmの 鉢り	特記-07
99	1026	P-25	S101c層 7ASP715	礎板(枕木)	26.4	9.4	4.3	分割材	コナラ属コナラ 属属コナラ類	断面略三角形	木-38
99	1027	P-25	S101c層 7ASP717	礎板(枕木)	30.1	8.3	5.5	分割材	コナラ属アカ ガシシ属	一部樹皮残る	木-37
99	1028	O-25	S101c層 7ASP704	礎板(枕木)	43.6	8.0	7.9	芯持丸木	コナラ属アカ ガシシ属		木-36
100	1029	O-P-25	S101d層 7ASP659	柱礎	(44.7)	20.5	12.0	芯持丸木	サクラ属	深さ約3.5cmの鉢りか	木-24
105	1102	O-P-26	7A55D202(溝)	棒状木製品	69.7	3.6	1.9	分割材	スギ	断面略長方形。表面両側 面から削り丸くなる	木-75

第62表 A区第5面出土木器・木製品観察表

型の有孔鉢1100は口径12.4cm、器高9.5cmを測り、円孔を雑に穿つ。小型鉢1101は内面をミガキ調整で仕上げる他、外面に煤が付着する。スギ材を用いた棒状木製品1102は長さ約70cmを測り、一端を尖らせる。

〔註〕

(1) 本報告で記した古代の土器年代は、田嶋明人氏の土器編年に基づく(田嶋2013)。暦年代は、第7表左表によるが、右表のとおり暦年代の比定に関して県内の研究者間で差異をもつ。そのため、本書では、主に田嶋氏の土器編年による表記とし、必要に応じて暦年代を用いることとした。また、土師器の表記について、ロクロで成形と推される土師器を「ロクロ土師器」、古墳時代より続く非ロクロ成形の土師器を「土師器」として区別している。

(2) (財)石川県埋蔵文化財センター2003「加茂遺跡(第8次)」『石川県埋蔵文化財情報 第10号』

(財)石川県埋蔵文化財センター2004「加茂遺跡(第9次)」『石川県埋蔵文化財情報 第12号』

(3) 復元試案では、第98図のとおり、未検出の柱穴を想定せざるを得ないことや、主柱穴としたビット以外にも例えばT658-700等の主柱穴級の規模をもつビットがいくつか残存することから、今後とも県内外の平地建物の類型を参考に、第5面平地建物の復元プランの検討を続ける必要を痛感している。

〔引用・参考文献〕

田嶋明人2013「平安期土器の暦年代と横江荘遺跡の変遷」『加賀 横江荘遺跡Ⅱ』白山市・白山市教育委員会

第5章 C・D・K区上層の遺構と遺物

第1節 調査の概要

C・D・K区は、第4章で報告したA区の南側にあたり、西側は第6次調査B区を挟んで主要地方道高松津幡線に、東側は道路を挟んで第9次調査H区・第10次調査J区と隣り合う。調査時は「第I区(南側)」と呼称していたが、本報告では第8次以降のアルファベット表記に倣い、調査区の西側をC区、東側は北をD区、南をK区と区分する。第7次調査においてはC・D・K区の上層を調査したのち、C区は第8、9次、D区は第9次、K区は第10次において、それぞれ下層の調査を行っている。上層の調査対象面積は約2500㎡を測り、調査杭グリッドでいえば、C区がK-28～30区、L-27～30区、M-27～30区、N-27～29区、O-27～29区に、D区がN-30～33区、O-30～33区、P-30～33区に、K区がL-31～33、M-31～33区にあたる(第106図)。遺構検出面は、C区の北西端(O-27区)が標高5.3m弱、D区北東端(O-33区)が5.6m弱、C区南西端(K-29区)が5.2m強、K区南東端(L-33区)が5.4m強を測り、北東方向から南西方向に向けて、緩やかに標高を減ずる。遺物包含層は水田耕作土・耕地整理盛土の直下で検出しており、褐灰・暗褐灰～黒褐色を呈する粘質土を基調とする。ベース土は淡褐灰～にぶい黄褐色を呈する粘質土を基調とする。

調査の結果、第1～6次調査と連続する、古代Ⅵ期(9世紀後葉～10世紀前葉)を主体とした集落跡を確認した。検出した遺構には、掘立柱建物6棟(SB01～SB06)、柱穴列25列(D区1～7・9・11・13・14・16～24号柱穴列、D・K区8・12号柱穴列、K区10・15号柱穴列)、土坑6基、耕作に伴う小溝等約60条、柱穴を含むピット多数がある(第107図)。遺構の分布状況を概観すれば、まず調査区西側にあたるC区では、グリッドLライン以北に掘立柱建物6棟が集中し、Lライン以南は耕作に伴う小溝が密に並んだ畝溝状遺構と、それらを切り込みながら北東方向に横断する溝SD53・SD54が占めている。このような遺構分布状況は調査区西側の第6次調査B区上層の調査成果と近似している(『加茂Ⅲ』にて既報告)。対照的に調査区東側のD区及びK区は、長さ20m以上の列(1・2・4号柱穴列)を含む、列状の杭穴と思われる遺構(調査時は「柱穴列」と表記)と、水田面(1～6号水田面)を主体とする。

遺物は、「福」「平」等の墨書土器を含む須恵器、土師器、ロクロ土師器や弥生土器、柱根等の木製品、和同開珎1点が出土している。また、下層に属する磨製石斧や管玉等の石製品が少数出土した。

以下、各遺構種別に主な遺構及び遺物を報告する。なお、先述の通り本書の奈良・平安時代の器種分類や時期表示は、田嶋明人氏による北陸地方の古代土器編年(田嶋1986)により記述しており、本章での報告もそれに準拠する。暦年代に関しては、第4章の第7表を参照されたい。

第2節 建物・柱穴列

1 掘立柱建物(遺構：第119～127図、第63表、遺物：第136・139図、第71・76表)

調査区西壁際の建物については第6次調査成果を参照しつつ、掘立柱建物6棟(SB01～05、いずれもC区)を復元した。分布状況としては、調査区北西部に建物跡が集中しており、うちSB01とSB02、SB02とSB06はそれぞれ一部が重複する。

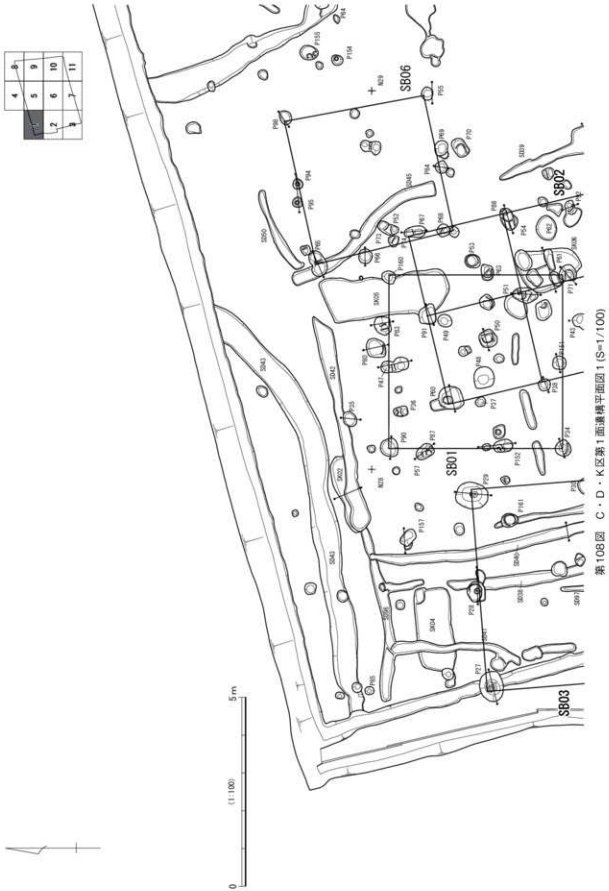
建物構造については、総柱構造をとるのはSB02のみで、それ以外の5棟は側柱構造である。総柱構造のSB02は、2×2間の柱配置を持ち、うち3本の柱根が遺存していた。柱穴の規模は中程度で、小



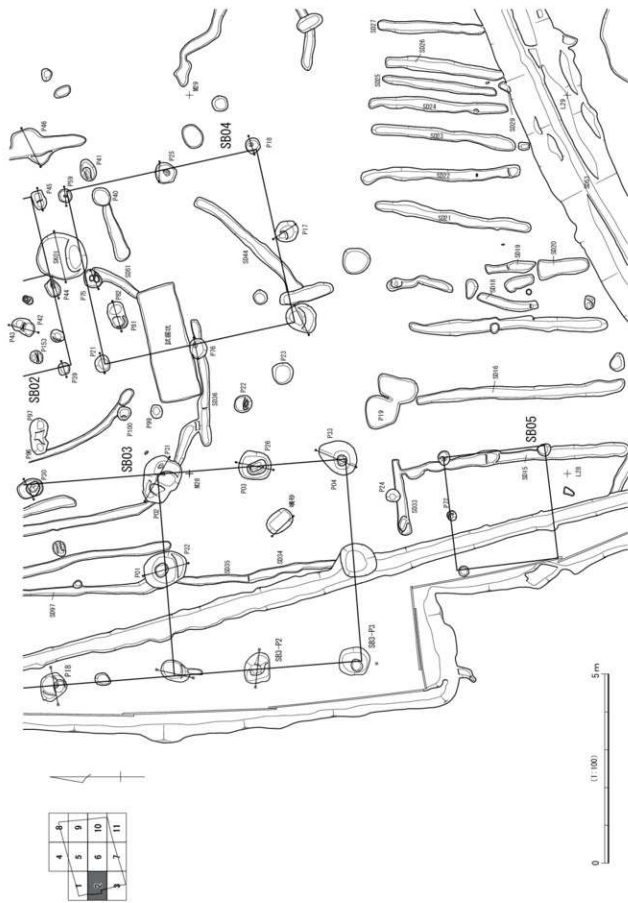
第105団 C・D・K区第1面グリッド配置図(S=1/300)



第107図 C・D・K区第1面主要遺構配置図(S=1/300)



第108図 C・D・K区第1面遺構平面図1 (S=1/100)



第109図 C・D・K区第1面遺構平面図2 (S=1/100)

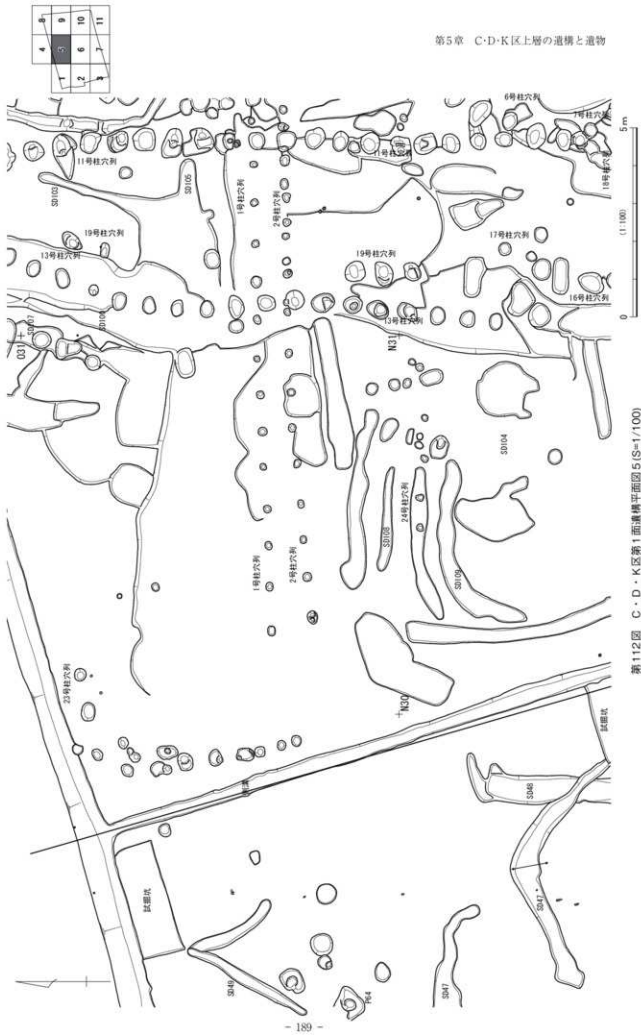


第110図 C・D・K第1面区遺構平面図3 (S=1/100)

4	5	6
5	9	10
2	6	10
3	7	11



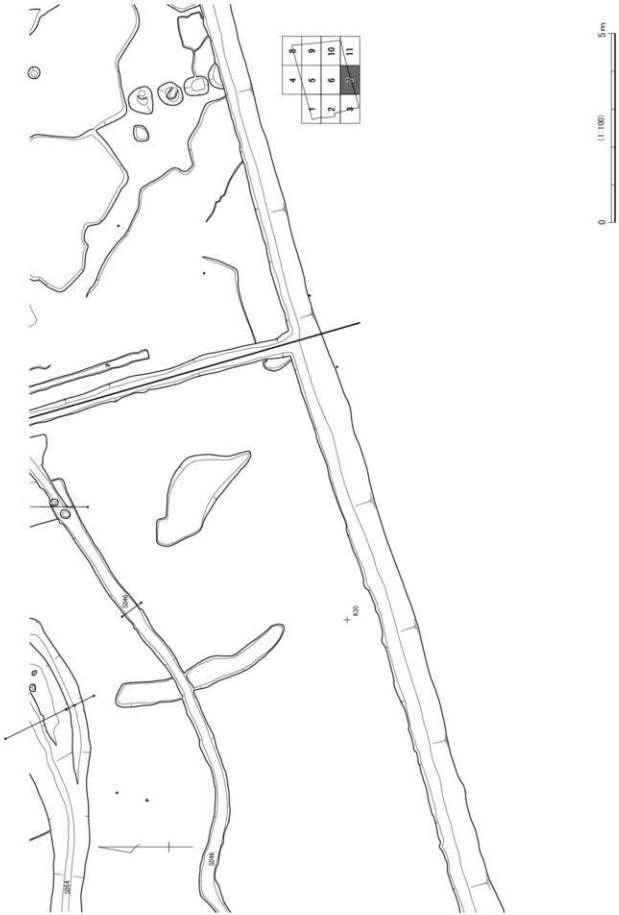
第111図 C・D・K区第1面遺構平面図4 (S=1/100)



第112図 C・D・K区第1面遺構平面図5(S=1/100)

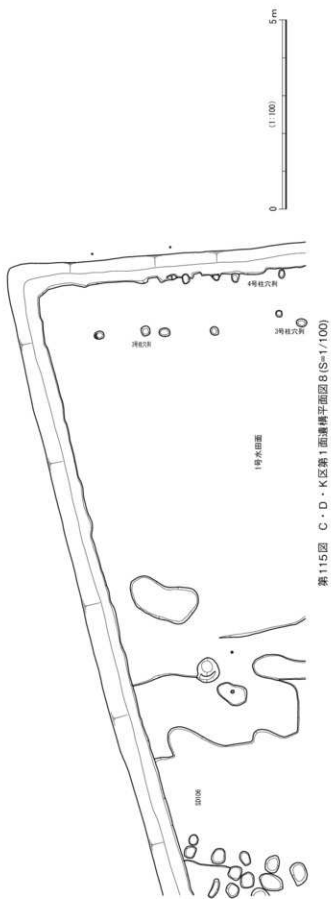


第113図 C・D・K区第1面遺構平面図6 (S=1/100)



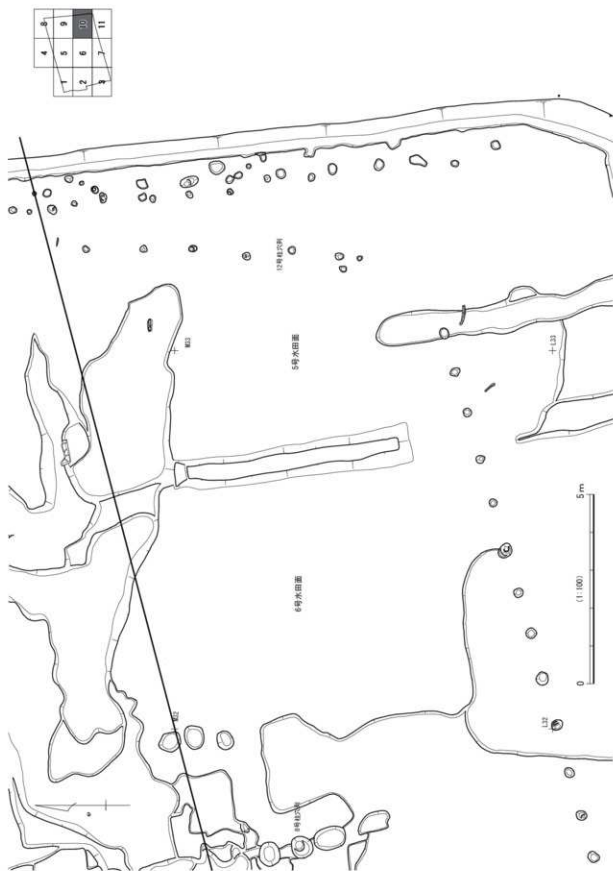
第114図 C・D・K区第1面遺構平面図7 (S=1/100)

4	5	9	
1	2	6	10
3	7	8	11

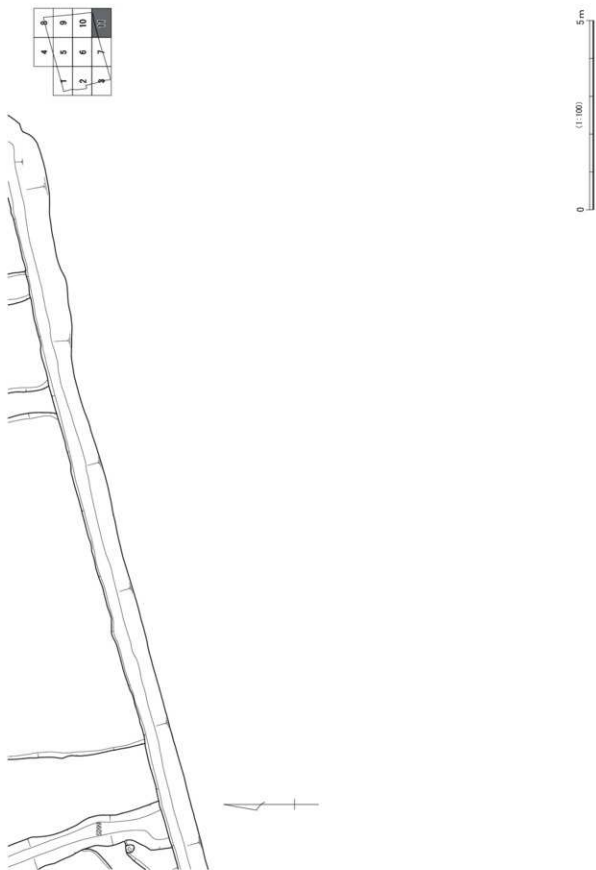




第116図 C・D・K区第1面遺構平面図(S=1/100)



第117図 C・D・K区第1面遺構平面図10(S=1/100)



第118図 C・D・K区第1面遺構平面図11(S=1/100)

型倉庫の可能性がある。側柱構造をとる他の5棟の平面プランとしては、2×1〜間が1棟 (SB05)、2×2間が3棟 (SB01・04・06)、4×2間が1棟 (SB03) に分類できる。床面積については、8㎡以下が2棟 (SB01・05)、18〜25㎡が3棟 (SB・02・04・06)、61㎡の大型建物が1棟 (SB03) となる。大型の構造をとるSB03は柱筋が安定しているが、それ以外の比較的小型な建物は柱筋が不安定である。このような小型建物群が検出される状況は、A区第1面の西側と共通している。調査区西側に隣り合う第6次調査区B区の建物と比較すれば、主軸方位がN-12° W〜15° Wの、2×2間の正方形に近い側柱構造といった類似がみられ、調査区北側に建物が集中する立地が共通している。また、今回報告する掘立柱建物から出土した遺物は、VI・VI₂期 (9世紀後葉〜10世紀前葉) を主体とする。

なお、今回の報告に伴い建物として復元したが、懸念が残るものについては各遺構の説明に付記している。また掘立柱建物として復元した柱穴以外にも、柱穴と考えられるピットがある程度存在しており、実際の掘立柱建物の数はさらに多くなる可能性をもつ。加えて、調査時に「柱穴」と判断している遺構については別に検討しており、次項にて詳述する。

※ 柱間寸法は北壁から南壁柱穴、または東壁から西壁柱穴の前に計測。

遺構名	区画	グリッド名	建物構造	柱配置 (間)	床面積 (㎡)	桁行長 (m)	桁行柱間寸法 (m)	梁行長 (m)	梁間柱間寸法 (m)	主軸方位	柱穴の平面形態	柱穴の規模 (cm)	柱根の有無	備考
7C1SB01	第119区	N-27,28	側柱	2×2間	11.3	4.56	西桁 3.16+1.40	2.48	北梁 2.12+2.36	N-1° 東	不整形円形	36~43	なし	
7C1SB02	第120・121区	N-26	側柱	2×2間	22.5	4.95	2.55+2.40	4.55	2.40+2.15	N-13° 西	不整形円形 略円形	31~70	あり (3本)	
7C1SB03	第122・123区	N-27, M-27	側柱	4×2間	61.0	11.40	3.35+3.20+ 2.60+2.30	5.35	2.70+2.65	N-5° 西	不整形円形	51~123	あり (4本)	
7C1SB04	第124・125区	N-26, M-26	側柱	2×2間	24.2	5.15	2.40+2.75	4.70	2.30+2.40	N-13° 西	不整形円形 略円形	35~84	あり (3本)	
7C1SB05	第126区	M-27,28	側柱	2×1〜間	8.0	2.65	東桁 1.25+1.40+?	3.00	北梁 1.45+1.55	N-6° 西	略円形	24~38	なし	
7C1SB06	第127区	O-26, N-26	側柱	2×2間	18.2	3.72	西桁 1.28+2.44	4.88	北梁 3.12+1.76	N-13° 西	略円形	26~66	なし	

第63表 C区第1面SB規模等一覧表

SB01 (遺構：第119区、第63-66表、遺物：第136図、第71表)

N-28区で検出した側柱構造と思われる掘立柱建物で、2×2間で復元した。主軸方位はN-1° Eで、ほぼ南北に沿う。桁行2間 (4.56m)・梁間2間 (2.48m)、床面積11.3㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が3.16m+1.40mで不揃い、北梁行が2.12m+2.36mでやや不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整形円形で、規模は36~43cm。柱根は遺存していなかった。P34で長軸43cm・短軸40cm・深さ45cmを測る。遺物は1088~1091を第136図に図示した。1088は須恵器の有台坏で、焼成は良好であり、外面に降灰がみられる。VI₂期とした。1089は須恵器の無台坏で、焼成が不足しており灰白色を呈する。VI₁期とした。1090は須恵器坏で、焼成は良好だが、灰色を呈する外面に比して、内面はやや白みがかっている。外面に降灰がみられる。VI₁期とした。1091は土師器甕の口縁部である。外面の一部に煤が付着する。

SB02 (遺構：第120・121区、第63-66表、遺物：第136-139図、第71-76表)

N-28区で検出した、2×2間の総柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-13° Wで、SB04・06と同一方向を示す。桁行2間 (4.95m)・梁間2間 (4.55m)、床面積22.5㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が2.55m+2.40mでやや不揃い、北梁行が2.40m+2.15mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整形円形ないし略円形で、規模は31~70cm。柱根は3カ所 (P44-51-88)に残っていた。P44で長軸45cm・短軸35cm・深さ55cmを測る。第7次調査区では唯一の総柱建物と思われる遺構で、

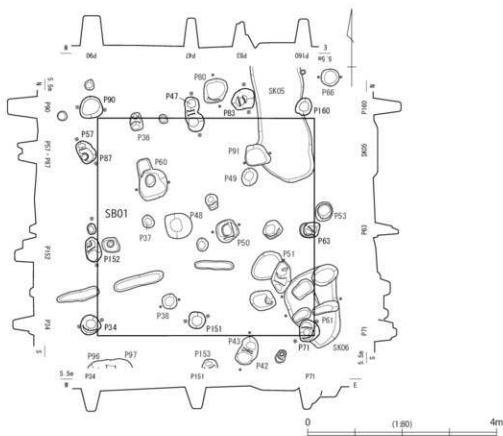
小型の倉庫の可能性がある。遺物は1092を第136図、柱根1195～1197を第139図に図示した。1092は須恵器の提瓶である。外面に降灰がみられる。1195はP44から出土した柱根である。クリの丸木を使用しており、現存長で58.7cm、最大幅17cm、最大厚13.8cmである。1196はP60から出土した柱根である。スギを板目取りで使用しており、断面形態は不整長方形をとる。現存長24.8cm、最大幅13.2cm、厚さは5cmを測る。1197はP88から出土した柱根で、スギを板目取りで用いている。1196と同様に断面形態は不整長方形をとる。現存長69.4cm、最大幅18.5cm、最大厚5cmを測る。

SB03 (遺構：第122・123図、第63・66表、遺物：第136・139図、第71・76表)

N-27・M-27～28区で検出した、4×2間の側柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-5°Wで、SB03とは同一方向を示す。桁行4間(11.40m)・梁間2間(5.35m)、床面積61.0㎡を測る。柱間寸法は、東桁行が3.30m+3.20m+2.60m+2.30mで、北側2間と南側2間で幅に差があり、P01を間仕切柱としたと考えられる。南北梁は北梁行2.70m+2.65mではほぼ等間である。柱筋の通りはよい。柱穴の平面形態は不整円形で、規模は51～123cm。柱根は3カ所(P28・29・27)に残っていた。P28で長軸55cm・短軸47cm・深さ65cmを測る。第7次調査では南北梁行～東桁行を調査している。遺物は1093～1100を第136図、柱根1198～1201を第139図に図示した。1093は須恵器の無台坏で、焼成は良好で灰色を呈し、口縁に重ね焼き痕がみられる。P01の柱抜き取り痕から出土している。VI₁期とした。1094は須恵器無台坏の底部で、内面に「本」の墨書がある。外面に降灰がみられる。VI₁～VI₂期とする。1095は須恵器の双耳瓶で、外面に降灰がみられる。1096は須恵器の無台坏で、外面底部に墨書がみられる。VI₂期とした。1097は鉄鉢を模倣した須恵器鉢である。漆痕、重ね焼き痕がみられる。1098は土師器甕である。口縁部のみ遺存している。1099は須恵器の瓶で、焼成は良好で灰色を呈する。P27北西隅から出土している。1100は和同開珎である。左上が欠損しており、P04から出土した。1198はP27から出土した柱根である。現存長40cm、最大幅22.7cmで、最大厚14.6cmを測る。アサダの芯持ち材で、一部に加工痕が残る。1199はP28から出土した柱根で、現存長45.3cmを測り、最大幅16.8cm、最大厚13.2cmで、断面形態は楕円形をとる。カエデ属の丸木である。1200はP29から出土した柱根である。現存長37.5cm、最大幅19.7cm、最大厚12.3cmを測る。材はアサダの分割材を用いており、一部が炭化していると思われる。1201はP76から出土した柱根で、現存長44.2cm、最大幅17.9cm、最大厚9.3cmを測る。1200同様にアサダの分割材で、一部に加工痕が残る。SB03の西桁行は隣接する第6次調査B区で先行して検出しており、遺物に関する詳細は「加茂Ⅲ」にて報告されているが、特筆すべき遺物としては「千カ」と墨書された須恵器坏蓋(VI₁期)、神功開寶銅銭が挙げられる。

SB04 (遺構：第124・125図、第63・66表、遺物：第139図、第76表)

N-28・M-28区で検出した2×2間の側柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-13°Wで、SB02・06と同一方向を示す。桁行2間(5.15m)・梁間2間(4.70m)、床面積24.2㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が2.40m+2.75mで不揃い、北梁行が2.30m+2.40mでやや不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整円形ないし略円形で、規模は35～84cm。柱根は4カ所(P18・59・75・76)に残っていた。P76で長軸54cm・短軸45cm・深さ40cmを測る。遺物は1202・1203を第139図に図示した。1202はP18出土の柱根で、現存長31.9cm、最大幅12.2cm、最大厚11.8cmを測る。ケヤキのミカン割材である。1203はP76から出土しているが、ほぼ全体が炭化しており、詳細は不明である。現存長36.3cm、最大幅10.5cm、最大厚10.2cmを測る。ケヤキの分割材である。



P34 断面 1/50



1. に近い灰色粘質土
2. に近い灰褐色粘質土 (淡灰色粘質土を含む。)
3. 暗灰色粘質土 (淡灰色粘質土を含む。)
4. に近い灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土を含む。)

P47 断面 1/50



1. 灰褐色土 (灰白色粘質土粒と炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土 (淡灰色粘質土ブロックと炭化物含む。)
3. 1層より暗く粘質土 (淡灰色粘質土ブロック多く含む。)
4. 3層と同色同質 (淡灰色粘質土ブロック多く含む。)
5. 黄灰色粘質土 (黒褐色粘質土粒多く含む。)
6. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
7. 1層と同色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)
8. 暗灰色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)

P57・P87 断面 1/50



1. 暗灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より暗い。)
4. 黄灰色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック多く含む。)
5. 灰褐色粘質土 (2層と同色。)
6. 淡灰色粘質土 (灰褐色粘質土をブロック状に含む。)

P71 断面 1/50



1. 暗灰色粘質土 (淡黄灰色粘質土粒と炭化物含む。)
2. 暗灰色粘質土 (淡黄灰色粘質土粒と炭化物少量含む。)
3. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土を含む。)
4. 1層と同色 (黄灰色粘質土ブロックと炭化物片含む。)
5. 淡灰色粘質土 (灰白色細砂を含む。)
6. 不明

P83 断面 1/50



1. 暗灰色粘質土 (3層をブロック状に含む。)
2. 淡黄灰色粘質土 (2層をパッチ状に含む。)
3. 2層と同色同質 (3層をパッチ状に含む。土器片含む。)

P90 断面 1/50



1. に近い灰色粘質土 (細砂含む。)
2. に近い灰色粘質土 (細砂含む。)
3. 灰色粘質土 (灰白色細砂を層状に含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)

P151 断面 1/50



1. 灰黄色粘質土 (暗褐色・淡黄灰色粘質土ブロック多く含む。)
2. 暗灰色粘質土 (灰褐色粘質土を含む。)
3. 黒褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。炭化物を非常に多く含む。)
4. 黄灰色粘質土 (淡灰色粘質土ブロック含む。)

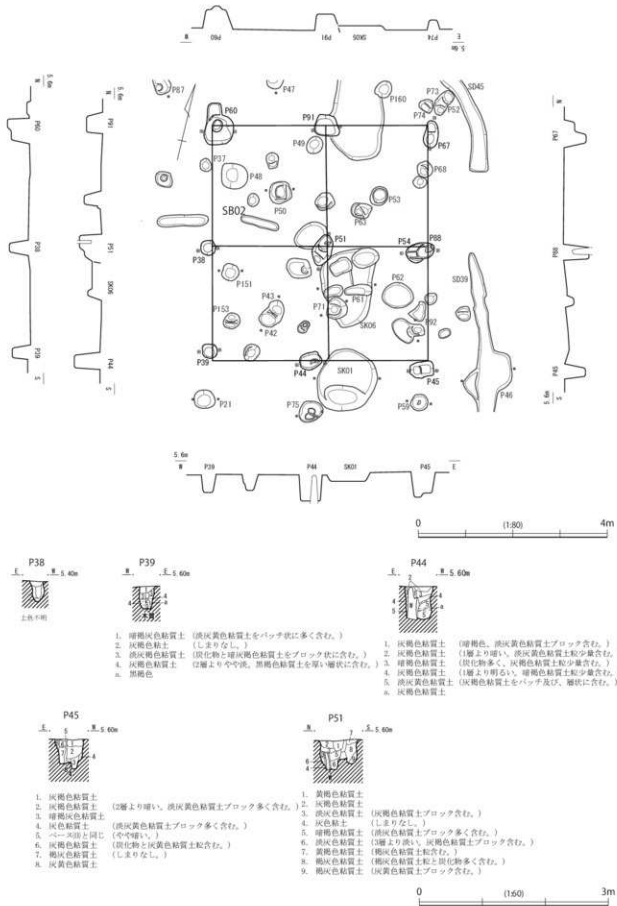
P152 断面 1/50



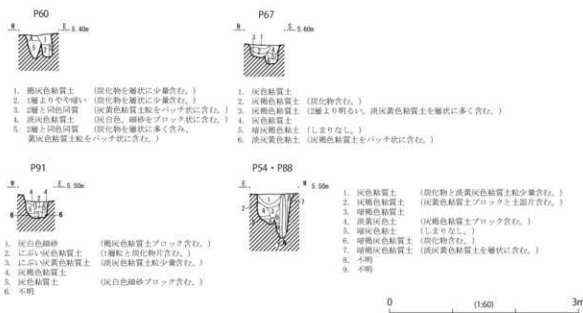
1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土 (炭化物少量含む。)
3. 淡褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多く、炭化物片少量含む。)
4. に近い灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
5. 灰褐色粘質土 (1層より暗い。炭化物含む。)
6. 3層と同層
7. 暗灰色粘質土 (淡黄灰色粘質土ブロック含む。)
8. 暗灰色粘質土 (3層より暗い。炭化物含む。)
9. 灰色粘質土 (淡灰色粘質土ブロック含む。)
10. 淡灰色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)

0 (3.60) 3m

第119図 C区第1面SB01平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)



第120図 C区第1面SB02平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)



第121図 C区第1面SB02土層断面図(S=1/60)

SB05 (遺構：第126図、第63-66表)

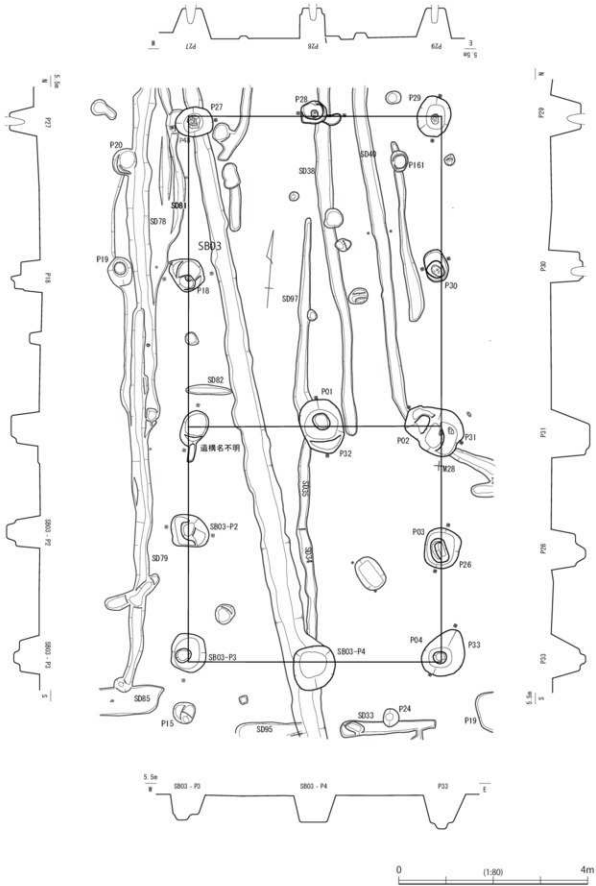
調査区西壁際のM-27・28区で検出した、2×1間の側柱構造と思われる掘立柱建物である。主軸方位はN-6°Wで、SB03とほぼ同一方向を示す。桁行2間(2.65m)・梁間2間(3.00m)、床面積8.0㎡を測る。柱間寸法は、東桁行が1.25m+1.40mでやや不揃い、北梁行が1.45m+1.55mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は略円形で、規模は24~38cm。柱根は遺存していなかった。P72で長軸26cm・短軸24cm・深さ11cmを測る。

SB06 (遺構：第127図、第63-66表)

O-28・N-28区で検出した側柱構造と思われる掘立柱建物で、2×2間で復元した。主軸方位はN-13°Wで、SB02-04と同一方向を示す。桁行2間(3.72m)・梁間2間(4.88m)、床面積18.2㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が1.28m+2.44mでやや不揃い、北梁行が3.12+1.76mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は略円形で、規模は26~66cm。柱根は遺存していなかった。P55で長軸35cm・短軸35cm・深さ35cmを測る。

2 柱穴列 (遺構：第64表)

主にD区、一部K区やD・K区に分布する状況を示す。調査段階で「柱穴列」と呼称し遺構番号を付与している遺構群であるが、各穴間は建物跡に比して幅が狭く、建物の柱穴というより杭等を列状に打った跡である可能性が高いと推察する。とはいえ調査時の検討を含み置き、本報告ではSA等として遺構番号を振り直すことはせず、「〇号柱穴列」とそのまま表記する。遺物は確認していない。調査区内の溝や水田面を切り込んでおり、最も新しい時期の痕跡だと考えられる。以下、埋土の性質ごとに分類して報告する。



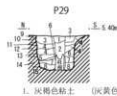
第122図 C区第1面SB03平面図・土層断面図(S=1/80)



1. 暗灰色粘質土 (φ70mm炭化物多量含む。一部黒土。黒褐色土) (黒褐色土) ブロック混入する。)
2. 暗灰色粘質土 (φ70mm炭化物片や多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。)
3. 灰色粘質土 (青灰色シルト土や多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。炭化物も多量含まない。)
4. 黒灰色粘質土 (多量の炭化物 (φ70mm) と青灰色シルト土が混入する。)
5. 灰色粘質土 (1層より暗・4層より明。シルトと炭化物を極めて多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。)
6. 黒灰色粘質土-シルト (φ70mm炭化物の混入顕著。4層よりやや明。)

1. 淡黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 暗灰色粘土 (炭化物含む。)
3. 淡黄灰色粘質土 (2層をバッチ状に多く含む。)
4. 暗灰色粘質土 (炭化物粘ブロック含む。)
5. 黄灰色粘質土 (暗灰色粘含む。)

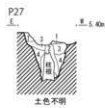
1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
 2. 暗灰色粘質土 (黄褐色粘・炭化物含む。)
 3. 灰褐色粘土 (しまりなし。黄灰色粘少量含む。)
 4. 淡黄褐色粘質土 (炭黄色粘多量含む。炭化物少量含む。)
 5. 黄灰色粘質土 (炭黄色粘多量含む。)
 6. 3層と同色同質 (炭黄色粘少量含む。炭化物多量含む。)
 7. 灰色粘土 (黄灰色粘含む。)
- ベース
8. 黄灰色粘質土
 9. 炭黄色粘質土
 10. 炭黄色粘質土



1. 灰褐色粘土 (炭黄色粘質土含む。)
 2. 灰褐色粘土 (しまりなし。)
 3. 暗灰色粘質土 (炭色粘・炭化物少量含む。)
 4. 炭黄色粘質土 (炭褐色粘ブロック含む。)
 5. 炭黄色粘質土 (炭褐色粘ブロック多量含む。)
 6. 炭黄色粘質土 (炭褐色粘ブロック多量含む。)
 7. 暗灰色粘質土 (炭褐色粘少量含む。)
 8. 暗灰色粘質土 (炭褐色粘ブロック・暗褐色粘質土ブロック少量含む。)
- ベース
9. 暗灰色粘質土
 10. 炭黄色粘質土
 11. 炭黄色粘質土
 12. 炭黄色粘質土
 13. 炭黄色粘質土 (炭化物少量含む。)
 14. 3層と同色
 15. 青灰色粘質土



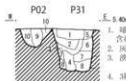
1. 黒灰色土 (しまり強・粘性非常に強。炭化物を多く含む。灰白色粘ブロック混入する。)
2. 暗褐色土 (しまり非常に強。極めて粘性に富む。黄灰色粘多量混入。一部黒色土が含まれる。)
3. 暗灰色土 (しまり弱・粘性非常に強。黒色土・黄白色粘がランダムに混入。φ10~15mm炭化物片を含む。)
4. 淡灰色土 (しまり強・粘性非常に強。若干の炭化物を混入。)
5. 暗褐色土 (しまりやや強。粘性極めて強。炭化物多量含む。)
6. 淡灰色土 (しまり強・極めて粘性に富む。黒土の混入の土質。φ10mm炭化物片や多量含む。)
7. 淡灰色土 (しまりやや弱。粘性非常に強。青灰色シルト多量。ほとんど炭化物多量ない。)
8. 灰色土 (しまり弱・粘性極めて強。φ70mm炭化物片多量含む。黄白色粘ブロック混入。)



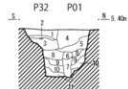
土色不明



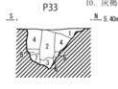
1. 炭黄色粘質土 (炭化物を含む。)
2. 炭黄色粘土
3. 暗灰色粘質土 (炭黄色粘ブロック含む。)
4. 炭黄色粘質土 (炭黄色粘ブロック含む。)
5. 暗灰色粘質土 (炭黄色粘ブロック含む。)
6. 炭黄色粘質土 (暗褐色粘ブロック・炭化物含む。)
7. 暗灰色粘質土 (炭化物含む。)
8. 炭黄色粘質土
9. 暗灰色粘質土
10. 炭黄色粘質土
11. 暗灰色粘質土



1. 暗灰色粘質土 (炭黄色粘質土ブロックと炭化物含む。)
2. 暗褐色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)
3. 淡黄灰色粘質土 (暗褐色粘質土と暗褐色粘質土ブロック含む。)
4. 3層と同色粘質土 (暗褐色粘質土と暗褐色粘質土ブロック多量含む。)
5. 暗灰色粘質土 (炭黄色粘質土をバッチ状に含む。)
6. 淡黄灰色土 (炭黄色粘質土をバッチ状に含む。)
7. 炭黄色粘質土 (炭黄色粘質土ブロック含む。)
8. 炭黄色粘質土 (暗褐色粘質土を層状に含む。)
9. 炭黄色粘質土 (炭黄色粘質土ブロック含む。)
10. 炭黄色粘質土 (炭黄色粘質土と炭化物少量含む。)



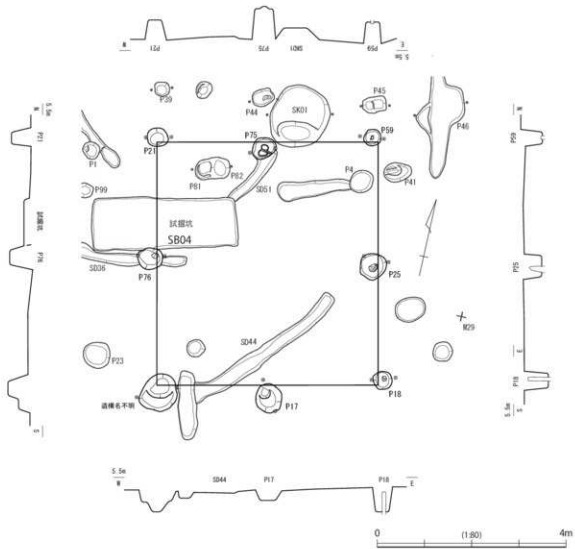
1. 暗灰色粘質土 (炭化物を少な量。炭黄色粘ブロック含む。)
2. 炭化物層 (3層と土層片少量含む。)
3. 暗灰色粘質土 (1層より炭黄色粘ブロック少ない。)
4. 炭黄色粘質土 (黒褐色・炭褐色粘ブロック多量含む。炭化物含む。)
5. 炭黄色粘質土 (黒褐色・炭褐色粘ブロック多量含む。)
6. 炭黄色粘土 (炭色粘ブロック含む。)
7. 黒灰色粘土 (炭色粘ブロック含む。)
8. 炭黄色粘質土 (3層より暗。暗褐色粘ブロック多量含む。)
9. 暗褐色粘質土 (炭色粘を層状に含む。)
10. 黒褐色粘質土 (炭色粘を層状に含む。)
11. 黒褐色粘質土 (炭色粘ブロック含む。)



1. 暗褐色粘質土 (炭黄色粘粘と炭化物含む。)
2. 暗褐色粘質土 (炭黄色粘粘・ブロック多量。黒褐色粘ブロック少量含む。)
3. 炭黄色粘土 (炭褐色粘ブロック少量含む。)
4. 淡黄灰色粘質土 (炭褐色粘ブロック含む。)
5. 炭黄色粘質土 (暗褐色粘を層状に含む。)
6. 暗灰色粘質土 (炭黄色粘質土ブロック含む。)
7. 暗褐色粘質土 (炭黄色粘粘ブロック少量含む。)



第123図 C区第1面SB03土層断面図(S=1/60)



P17
断面 1.5m



1. 淡灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物と灰黄色粘質土含む。)
3. 灰黄色粘質土 (陶器色粘質土ブロック含む。)
4. 灰黄色粘質土 (細砂含む。)

P18
断面 1.5m



1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (灰黄色粘質土と炭化物含む。)
3. 暗褐色粘質土 (灰黄色粘質土と薄い層状に含む。)

P21
断面 1.5m



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と灰黄色粘質土と含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや薄い。炭化物と灰黄色粘質土と多く含む。)
3. 淡灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 暗褐色粘質土 (炭化物と淡黄色粘質土ブロック多く含む。)

P25
断面 1.5m



1. 灰色粘土
2. 黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰白色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック多く含む。)
4. 灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック少量含む。)
5. 灰褐色粘質土 (灰白色細砂をパッチ状に含む。)
6. 暗褐色粘質土
7. 淡灰色粘質土

第124図 C区第1面SBO4平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)

第2節 遺構と遺物



1. 灰褐色粘質土 (しまりなし。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物と、灰黄色粘質土を含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より硬い、灰黄色粘質土ブロックを含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土ブロックを含む。)



- 遺構名不明
1. 灰色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック多く含む、炭化物含む。)
 2. 暗褐色粘質土
 3. 暗褐色粘質土
 4. 灰褐色粘質土 (炭化物多量に含む。)
 5. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土和、暗褐色粘質土を含む。)
 6. 暗褐色粘質土 (炭化物、灰黄色粘質土ブロック含む。)
 7. 黄褐色粘質土 (細砂、灰褐色粘質土ブロック含む。)
 8. 灰黄色粘質土



1. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック、炭化物含む。)
2. 灰色粘土 (しまりなし。)
3. 灰褐色土 (炭化物と灰白色細砂を層状に含む。)
4. 灰褐色粘質土 (炭化物と灰褐色粘質土ブロックを含む。)
5. 暗褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)



1. 灰白色細砂 (灰褐色粘質土をブロック状に含む。)
2. 灰色粘土 (しまりなし。)
3. 暗灰色粘質土
4. 灰褐色粘質土



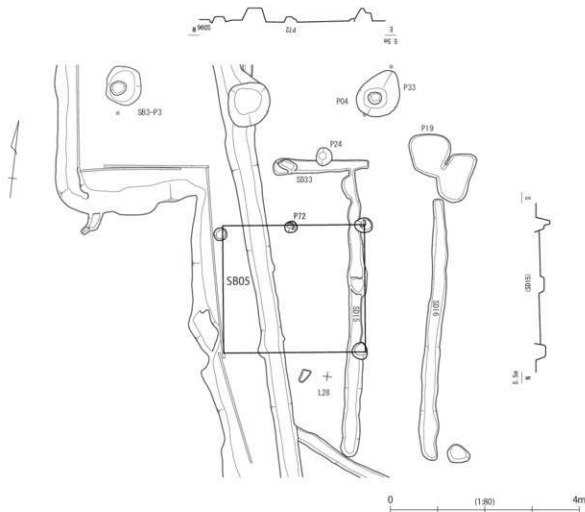
第125図 C区第1面SB04土層断面図(S=1/60)

遺構名(報告書)	グリッド	柱穴の数	規模[m]			方位	土色	柱穴の平面形状	備考
			長さ	柱穴の幅	深さ				
7D11号柱穴	O-30.0-31.0-32.0-33	29	2873	15-45	8-25	N-68° E	砂	不整形、略楕円形	
7D12号柱穴	O-30.0-31.0-32.0-33	45	2830	15-35	10-33	N-67° E	砂	不整形、略楕円形	
7D13号柱穴	P-33.0-33	8	694	17-27	7-30	N-5° W	灰褐色粘質土(砂まじり)	不整形、不整形円形	
7D14号柱穴	P-33.0-33、N-33	25~	2100~	10-30	5-39	N-6° W	灰色砂	不整形	
7D15号柱穴	O-33、N-33	18	1069	16-30	6-35	N-6° W	灰色砂	不整形	
7D16号柱穴	N-31	4	241	26-80	11-17	N-25° E	灰褐色粘質土	不整形	
7D17号柱穴	N-31	2	43	46-58	6-11	N-12° E	灰褐色粘質土	不整形	
7D19号柱穴	N-31	2	78	58-75	7-9	N-22° E	灰褐色粘質土	不整形	
7D111号柱穴	P-31.0-31、N-31	22	1468	44-86	11-21	N-2° W	灰褐色粘質土	不整形	少しS字状に湾曲
7D113号柱穴	P-31.0-31、N-31	19	1373	30-61	10-23	N-2° E、N-14° E	灰褐色粘質土	不整形、略楕円形	S字状に湾曲
7D114号柱穴	N-31	2	66	59-62	16-17	N-15° W	灰褐色粘質土	不整形	
7D116号柱穴	N-31	5	297	51-76	9-14	N-7° W	灰褐色粘質土	不整形	
7D117号柱穴	N-31	3	198	33~	5-9	N-26° W	灰色	不整形	
7D118号柱穴	N-31	2	63	50~	10	N-58° E	灰色	不整形	
7D119号柱穴	O-31、N-31	7	919	25-60	12-20	N-5° E	灰褐色粘質土(一部灰色)	不整形	
7D120号柱穴	N-30	9	600	41-59	7-19	N-20° W	灰色	不整形	
7D121号柱穴	N-30	4	235	72-92	5-11	N-6° W	灰褐色粘質土(一部灰色)	不整形	
7D122号柱穴	N-30	3	177	50~	9-13	N-18° W	灰色	不整形	
7D123号柱穴	O-30	2	102	27-50	13-20	N-77° E	灰褐色粘質土	不整形	
7D124号柱穴	N-30	2	196	20	20	N-67° W	砂	不整形	
7D・K18号柱穴	N-31、M-31	8	967	55-85	5-17	N-13° W	灰褐色粘質土	不整形	
7D・K112号柱穴	N-33、M-33	5	465	15-25	25-43	N-4° W	砂	不整形、略楕円形	
7C110号柱穴	M-31	8	517	38-60	2-12	N-19° W	灰色	不整形	
7C115号柱穴	M-31	3	167	65-81	6-13	N-22° W	灰褐色粘質土	不整形	

第64表 C・D・K区第1面柱穴列規模等一覧表

7C1・1・2・4・5・24・7D・K1 12号柱穴列

砂ないし灰色砂で埋まっていた穴の列を挙げた。1・2号はO-30~33区、4号はP-33-O-33-N-33区、5号はO-33-N-33区、12号はN-33-M-33区(D・K区)、24号はN-30区に位置する。長さは1・2号が28m以上、



第126図 C区第1面SB05平面図・土層断面図(S=1/80)

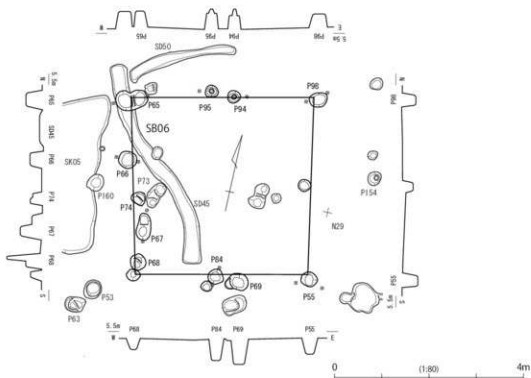
4号が21m以上、5号が10m程、12号が5m弱、24号が2m程である。主軸方位は1・2・24号がN-87~88°E、4・5・12号が約N-4~6°Wで、2方向に大別できる。穴の平面形態は不整形・不整楕円形が多く、一部略楕円形を含む。規模については、径は10~45cm、深さは5~43cmと非常にバラツキがある。

7C1 17・18・20・22・7K1 10号柱穴列

灰褐色粘質土で埋まっていたと思われる穴の列を挙げた。10号はM-31区(K区)、17・18号はN-31区、20・22号はN-30区にそれぞれ取まる。列の長さは20号が6m、10号が約5m、17・22号が20m弱、18号が0.6m程である。主軸方位は10・20・22号がN-18~19°Wで類似しているが、17号はN-26°W、18号はN-58°Eで他との共通性はみられない。穴の平面形態はいずれも不整形である。規模については、径は33~60cmとバラツキがあり、深さは2~19cmと比較的浅い。

7K1 3・6~9・11・13・14・16・19・21・23・7K1 15号柱穴列

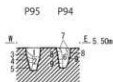
主に灰褐色粘質土で埋まっていたと思われる穴の列である。3号がP-33・O-33区、6・7・9・14・16号がN-31区、11・13号がP-31・O-31・N-31区、19号がO-31・N-31区、21号がN-30区、23号がO-30区、8号がN-31・M-31区(D・K区)、15号がM-31区(K区)に位置する。列の長さは11・13号が15m弱、8・19号が10m弱、3号が7m弱、6・16・21号が2~3m、15・23号が1~2m、7・9・14号が1m以下である。主軸方位は不揃いで、東向きのが6号(N-25°E)・7号(N-12°E)・9号(N-22°E)・13号(N-2°E)・N-14°E)・19号(N-5°E)・23号(N-77°E)で、共通性が認められない。西向きのは3号(N-5°W)・8号(N-13°W)・11



1. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。) (1層より薄い。)
3. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)



1. 灰褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より明るい。灰黄色粘質土を層状に多く含む。)
4. 灰色粘質土
5. 暗灰褐色粘土 (しまりなし。)
6. 暗灰黄色粘土 (灰褐色粘質土をパッチ状に含む。)



1. 暗灰褐色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多く。炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土
4. 濃い灰褐色粘質土 (炭化物多く含む。)
5. 灰褐色粘質土 (3層より薄い。)
6. 濃い黄灰色粘質土 (炭化物少量含む。)
7. 灰褐色粘質土
8. 暗黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
9. 灰褐色粘質土



1. 濃い灰褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土 (暗褐色粘質土と炭化物含む。)
3. 濃い暗灰色粘質土 (2層より炭化物多い。)
4. 2層と同色同質
5. 3層と同色同質 (3層より薄い。黄灰色粘質土粘含む。)
6. 灰褐色粘質土 (黄灰色・暗褐色粘質土粘多く含む。)
7. 濃い灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
8. 暗褐色粘質土
9. 8層と同層
10. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土粘含む。)



1. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土粘含む。)
2. 暗灰色粘質土 (炭化物層状に含む。)
3. 暗褐色粘質土 (2層より明るい。炭化物と灰黄色粘質土粘含む。)
4. 暗灰色粘質土



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土ブロック含む。)
2. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
3. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. 濃い灰黄色粘質土 (暗灰褐色粘質土ブロック含む。)



1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや薄い。炭化物含む。)
3. 黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 暗灰色粘質土
5. 暗灰褐色粘質土



第127図 C区第1面SB06平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)

号(N-2' W)・14号(N-5' W)・15号(N-22' W)・16号(N-7' W)・21号(N-8' W)となっており、8・15号を除いて、N-2' W～8' Wの範囲に取まる。穴の平面形態はほとんどが不整形で、一部のみ不整形楕円形・略楕円形を含む。規模については、径は13～86cmと非常にバラツキがあり、深さは6～30cmで、比較的浅い穴が多い。3号については灰褐色粘質土に砂が混じり、19・21号は灰褐色～灰色粘質土を埋土とする。

第3節 土坑、ピット

1 土坑(遺構：第128図、第65表、遺物：第136・137図、第71・72表)

土坑は、C区で6基を検出し、主にⅥ期、一部Ⅰ期の遺物が出土している。ほとんどがO-28・N-28区付近に分布しており、平面形態や規模をみると、不整形～不整形円形を呈する深さ20cm弱の土坑(SK01・06)、不整形で深さ10cm以下の土坑(SK02)、不整形長方形で長軸が2m以上、短軸が1m前後の土坑(SK03・04・05)に区分できる。埋土は主に褐灰色を呈する粘質土である。第65表に規模、他遺構との切り合い関係等を示しており、以下では主な土坑について記す。

遺構名	グリッド	平面形	規模(cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7C1SK01	N-28	不整形円形	134	126	16	第128図	
7C1SK02	O-27・O-28	不整形	206	38	7	褐灰色粘質土	
7C1SK03	M-29M-30	不整形長方形	225	128	3-6	褐灰色粘質土	
7C1SK04	N-27	不整形長方形	217	95	8-15	褐灰色粘質土	取溝(遺構番号なし)に切られる
7C1SK05	O-28・N-28	不整形長方形	330	105	8	褐灰色粘質土	
7C1SK06	N-28	不整形	160	108	17	第128図	

第65表 C・D・K区第1面土坑規模等一覧表

SK01(遺構：第128図)

炭化物を含んだ灰黄色粘質土と砂混じりの暗褐灰色粘質土の二層から成る、不整形の土坑である。深さは16cm。SB01の南辺・SB04の北辺上に位置するが、いずれの柱穴とも切り合いはみとめられない。

SK04(遺物：137図、第72表)

長軸2.17m、短軸0.95mを測る不整形長方形の土坑である。深さは最も深い地点で15cm、浅い地点で7cm。畝溝状遺構に切られており、生産域となる前の段階に位置付けられる。遺物は1139、1140を図示した。1139は須恵器甕の口縁部破片で、焼成は良好である。内面に降灰がみられる。1140は重さ27.96gの土錘である。

SK05(遺物：137図、第72表)

長軸3.30m、短軸1.05mを測る不整形長方形の土坑である。深さは8cm程度。遺物は1141、1142を図示した。1141は須恵器の有台坏で、焼成はやや甘く内外面ともに灰白色を呈する。Ⅵ期と判断した。1142は口縁部に返しがある須恵器の坏身で、Ⅰ期と判断した。

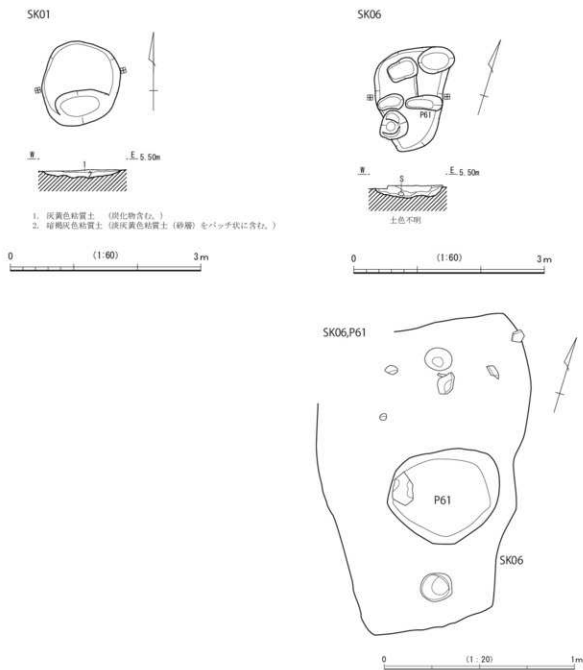
SK06(遺構：第128図、遺物：第137図、第72表)

断面図の注記が無く土層は不明だが、P61を切り込む不整形の土坑である。深さは17cm。遺物は1143を図示した。須恵器の底部で、ヘラ記号がみられる。また1092の一部破片が出土しており、遺構の年代をSB02と同時期に位置付けられる。

2 ピット(遺構：第129・130図、第67・68表、遺物：第136・139図、第71・76表)

調査区全体で多数のピットを検出している。遺物が出土したピットに対して遺構番号を付しており、報告段階で確認できた、遺構番号のあるピットは101箇所、うちC区のP25、51等で柱根を確認しており、復元しえなかった建物等の柱穴を含むと思われる。今回復元した掘立建物6棟を構成する柱穴

第3節 土坑、ピット



第128図 C・D・K区第1面土坑・ピット平面図・土層断面図 (S=1/60・S=1/20)

P34



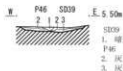
1. におい灰色粘質土 (赤灰色粘質土と混含む。)
2. におい灰褐色粘質土 (赤灰色粘質土と混含む。腐化物含む。)
3. 暗灰色粘質土
4. におい灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土と混含む。)

P35



1. 灰黄色粘質土
2. 暗灰色粘質土
3. におい灰黄色粘質土 (炭化物と赤灰色粘質土と混含む。)

P46,SD39



- SD39
1. 暗灰色粘質土 (黒と黄灰色粘質土ブロック含む。)
- P46
2. 灰黄色粘質土
3. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)

P47



1. 灰褐色土 (灰白色粘質土と炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土
3. 1層より暗い粘質土 (赤灰色粘質土ブロックと炭化物含む。)
4. 3層と同色同質 (赤灰色粘質土と混含む。)
5. 黄灰色粘質土 (黒褐色粘質土と混含む。)
6. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
7. 1層と同色粘質土
8. 赤褐色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)

P50



1. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土と炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土と混含む。炭化物含む。)
3. におい黄灰色粘質土
4. 1層より暗い粘質土 (灰黄色粘質土と炭化物少量含む。)
5. 灰色粘質土
6. におい暗灰色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック含む。)

P54



1. 灰色粘質土 (炭化物と淡黄灰色粘質土と少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロックと土跡片含む。)
3. 暗褐色粘質土
4. 淡灰色土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
5. 暗灰色粘質土 (土跡なし。)
6. 暗褐色粘質土 (炭化物含む。)
7. 暗褐色粘質土 (赤灰色粘質土を層状に含む。)
8. 不明
9. 不明

P55



1. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
2. 暗褐色粘質土 (炭化物少量含む。)-1層より暗い
3. 暗灰色粘質土 (炭化物含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)

P57



1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より暗い。)
4. 黄灰色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック多く含む。)
5. 灰褐色粘質土 (2層と同色。)
6. 淡灰色粘質土 (灰褐色粘質土をブロック状に含む。)

P66



1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや濃い。炭化物含む。)
3. 黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 暗灰色粘質土
5. 淡灰色粘質土

P81,B2



1. 灰黄色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 暗褐色粘質土 (炭化物、黄灰色粘質土と混含む。)
4. 灰黄色粘質土 (1層より暗い。)
5. 灰色粘質土 (赤灰色粘質土をパッチ状に含む。)
6. 不明
7. 不明
8. 不明
9. 不明

P83



1. 暗灰色粘質土
2. 灰黄色粘質土 (3層をブロック状に含む。)
3. 暗褐色粘質土 (3層をパッチ状に含む。)
4. 2層と同色同質 (3層をパッチ状に含む。土跡片含む。)



第129図 C・D・K区第1面ビット土層断面図1(S=1/60)

第3節 土坑、ピット

P84

Ⅲ. 1 Ⅲ. S. 50m



1. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土と粘含む。)
2. 暗灰色粘質土 (炭化物を層状に含む。)
3. 暗灰色粘質土 (2層より明しい。炭化物と灰黄色粘質土と粘含む。)
4. 暗灰色粘質土

P92

Ⅲ. 3 Ⅲ. S. 50m



1. 灰黄色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土粘多く含む。)
2. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックと炭化物多く含む。)
3. 赤褐色粘質土 (赤黄灰色粘質土ブロックと層状の炭化物多く含む。)
4. 黄灰色粘質土 (赤黄灰色粘質土ブロックと炭化物片含む。)
5. 灰黄色粘質土

P95,94

Ⅲ. P95 P94 Ⅲ. S. 50m



1. 赤褐色粘質土
2. 褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多く、炭化物含む。)
3. 赤灰色粘質土
4. 濃い灰褐色粘質土 (炭化物多く含む。)
5. 赤灰色粘質土 (5層より暗い。)
6. 濃い灰黄色粘質土 (炭化物少量含む。)
7. 赤灰色粘質土
8. 赤黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
9. 灰褐色粘質土

P98

Ⅲ. 2 Ⅲ. S. 50m



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土ブロック含む。)
2. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
3. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. 濃い灰黄色粘質土 (赤黄灰色粘質土ブロック含む。)

P42,43

Ⅲ. 2 10 Ⅲ. S. 50m



1. 灰褐色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (炭化物と赤黄灰色粘質土粘含む。)
3. 暗灰色粘質土 (炭化物多く、赤黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. 赤黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
5. 赤黄灰色粘質土 (細砂含む。)
6. 褐色粘質土 (炭化物多く含む。)
7. 5層と同じ同質
8. 褐色粘質土 (赤褐色粘質土と炭化物粘多く含む。)
9. 灰褐色粘質土
10. 赤灰色粘質土 (炭化物含む。)

P80

Ⅲ. 3 Ⅲ. S. 50m



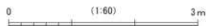
1. 暗褐色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)
2. 暗褐色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)
3. 赤褐色粘質土
4. 灰褐色粘質土 (暗褐色粘質土、灰白色細砂をブロック状に含む。)
5. 灰褐色粘質土 (4層より暗い。黄灰色粘質土粘含む。)
6. 褐色粘質土 (4層より暗い。黄灰色粘質土ブロック含む。)

P92

Ⅲ. 3 Ⅲ. S. 50m



1. 灰黄色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土粘多く含む。)
2. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックと炭化物多く含む。)
3. 赤褐色粘質土 (赤黄灰色粘質土ブロックと層状の炭化物多く含む。)
4. 黄灰色粘質土 (赤黄灰色粘質土ブロックと炭化物片含む。)
5. 灰黄色粘質土



第130図 C・D・K区ピット土層断面図2 (S=1/60)

※ 網掛けは、深さ30cm以上のビットを示す。

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7C1S801 (P151)	N-28	不整形	36	35	44	褐色粘質土	
7C1S801 (P152)	N-28	不整形円形	52	33	40	第119層	
7C1S801 (P160)	N-28	不整形	36	32	58	褐色粘質土	
7C1S801 (P34)	N-28	不整形	43	40	45	第119層	
7C1S801 (P47)	N-28	不整形	75	30	62	第119層	
7C1S801 (P57)	N-28	不整形円形	30	18	40	第119層	P87より新
7C1S801 (P63)	N-28	不整形	41	31	52	褐色粘質土	
7C1S801 (P71)	N-28	不整形	45	43	46	第119層	
7C1S801 (P83)	N-28	不整形	53	43	56	第119層	
7C1S801 (P87)	N-28	不整形	35	33	38	褐色粘質土	P57より古
7C1S801 (P90)	N-28	不整形	49	45	63	第119層	
7C1S802 (P38)	N-28	不整形円形	32	31	41	褐色粘質土	
7C1S802 (P39)	N-28	不整形	31	30	37	第120層	
7C1S802 (P44)	N-28	不整形	45	35	55	第120層	柱根抜き取り
7C1S802 (P45)	N-28	不整形	50	34	52	第120層	
7C1S802 (P51)	N-28	不整形	68	40	46	第120層	
7C1S802 (P54)	N-28	不整形	(24)	45	51	褐色粘質土	P88より古
7C1S802 (P60)	N-28	不整形	63	60	49	第121層	柱根直 (径50cm) あり
7C1S802 (P68)	N-28	楕円形	37	31	54	褐色粘質土	P54より新
7C1S802 (P91)	N-28	不整形	50	45	35	第121層	
7C1S802 (P67)	N-28	不整形円形	32	31	45	第121層	P74より新
7C1S802 (P66)	N-28	不整形円形	34	33	73	褐色粘質土(炭化物を含む)	
7C1S803 (P01)	N-27	不整形円形	118	88	108	第123層	P32と同一
7C1S803 (P02)	N-28	不整形円形	120	98	81	第123層	P31と同一
7C1S803 (P03)	M-27,M-28	楕円形	85	73	72	褐色粘質土	P26と同一
7C1S803 (P04)	M-27,M-28	不整形円形	105	81	73	第123層	P33と同一
7C1S803 (P18-2)	N-27		37	31		第123層	柱根報告段階に付与
7C1S803 (P27)	N-27	楕円形	0	61	23	第123層	柱根抜き取り
7C1S803 (P28)	N-27	不整形	55	47	65	第123層	柱根抜き取り
7C1S803 (P29)	N-27	不整形円形	85	71	64	第123層	柱根抜き取り
7C1S803 (P30)	N-27	不整形円形	68	47	71	第123層	柱根直 (径50cm) あり
7C1S803 (P2)	M-27	不整形	85	69	65	褐色粘質土	
7C1S803 (P3)	M-27	不整形	83	82	54	褐色粘質土	
7C1S804 (P17)	M-28	不整形円形	55	62	20	第124層	
7C1S804 (P18-1)	M-28	不整形円形	40	37	53	第124層	柱根報告段階に付与
7C1S804 (P21)	N-28	不整形円形	45	40	45	第124層	
7C1S804 (P25)	N-28	不整形	56	55	37	第124層	柱根抜き取り
7C1S804 (P59)	N-28	楕円形	36	34	42	第125層	
7C1S804 (P75)	N-28	不整形	51	44	71	第125層	
7C1S804 (P76)	M-28	不整形円形	54	45	40	第125層	
7C1S805 (P72)	M-27	不整形円形	26	24	11	褐色粘質土	
7C1S806 (P55)	N-28,N-29	不整形	35	35	35	第127層	
7C1S806 (P65)	O-28	不整形	66	38	35	第127層	
7C1S806 (P66)	O-28	不整形円形	38	36	29	第127層	
7C1S806 (P84)	N-28	不整形	31	35	44	第127層	
7C1S806 (P94)	O-28	不整形円形	26	25	42	第127層	
7C1S806 (P95)	O-28	不整形	26	25	42	第127層	
7C1S806 (P96)	O-28	不整形	35	30	30	褐色粘質土	

第66表 C・D・K区第1面ビット規模等一覧表1

※ 網掛けは、深さ30cm以上のビットを示す。

通称名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7C1P07	N-29	不整形	52	36	22	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P08	N-29	不整形	58	56	17	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P09	M-29	不整形円形	60	50	20	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P10	M-29	不整形円形	51	46	29	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P11	M-29	不整形	46	41	7	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P12	M-29	不整形	50	45	18	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P13	M-29	不整形	73	50	15	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P14	M-29	不整形円形	58	55	13	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P15	M-29	不整形	55	53	12	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P16	M-29	不整形	66	49	9	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P19	M-28	不整形	91	88	6	褐灰色粘質土(少量の炭化物を含む)	
7C1P22	M-28	絶円形	46	45	45	褐灰色粘質土	
7C1P23	M-28	不整形円形	56	53	12	灰褐色粘質土	
7C1P24	M-27	不整形円形	37	33	38	褐灰色粘質土	
7C1P35	O-28	不整形	42	35	31	第129図	
7C1P36	N-28	不整形円形	36	26	27	褐灰色粘質土	
7C1P37	N-28	不整形	21	20	39	褐灰色粘質土	
7C1P40	N-28	不整形円形	53	46	9	暗灰褐色粘質土(炭化物を含む)	
7C1P41	N-28	不整形	60	41	25	暗褐色粘質土(炭化物を含む)	
7C1P42	N-28	不整形	36	31	54	第130図	
7C1P43	N-28	不整形	35	28	61	第130図	
7C1P46	N-28	不整形	(105)	(80)	12	第129図	
7C1P48	N-28	不整形	55	55	25	灰褐色粘質土(少量の炭化物を含む)	
7C1P49	N-28	絶円形	37	34	42	褐灰色粘質土	
7C1P50	N-28	不整形	46	45	54	第5-24図	
7C1P52	N-28	不整形	28	25	26	褐灰色粘質土	P52より新
7C1P53	N-28	不整形円形	36	41	59	褐灰色粘質土	
7C1P56	M-30	不整形	46	29	5	褐灰色粘質土	
7C1P58	M-29	不整形	49	32	4	灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)	植栽痕か
7C1P61	N-28	不整形	60	20	10	暗褐色粘質土	
7C1P62	N-28	不整形円形	66	55	11	暗褐色粘質土(多量の炭化物を含む)	
7C1P64	O-29	不整形	25	15	21	褐灰色粘質土	
7C1P69	N-28	不整形	49	34	55	褐灰色粘質土	
7C1P70	N-28	不整形長方形	55	35	13	褐灰色粘質土	
7C1P73	N-28	不整形	(30)	30	27	褐灰色粘質土	P73より古
7C1P74	N-28	不整形	(24.5)	25	23	暗灰褐色粘質土(炭化物を含む)	P67より古
7C1P77	N-29	不整形円形	63	40	9	褐灰色粘質土	
7C1P78	N-29	不整形	45	43	18	褐灰色粘質土	
7C1P80-1	N-28, O-28	不整形	56	50	44	第130図	柱巻報告段階に付与
7C1P80-2	N-29	不整形	105	45	12	褐灰色粘質土	柱巻報告段階に付与
7C1P81	N-28	不整形	41	33	25	第129図	P82より古
7C1P82	N-28	不整形	45	38	57	第129図	P81より新
7C1P85	O-27, N-27	不整形円形	25	21	20	暗褐色粘質土	
7C1P92	N-28	不整形	37	25	50	第130図	
7C1P96	N-28	不整形	40	35	44	褐灰色粘質土	

第67表 C・D・K区第1面ビット規模等一覧表2

※ 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			土色	備 考
			長軸	短軸	深さ		
7C1P97	N-26	不整形	50	35	70	褐灰色粘質土	
7C1P99	N-26	不整形	35	31	40	褐灰色粘質土	
7C1P100	N-26	不整形	35	35	45	褐灰色粘質土(少量の炭化物を含む)	
7C1P153	N-26	不整形円形	35	35	45	褐灰色粘質土	
7C1P154	O-29	不整形	31	28	32	褐灰色粘質土	
7C1P155	O-29	不整形円形	48	37	16	暗灰色粘質土	
7C1P157	N-27	不整形	46	30	59	褐灰色粘質土	
7C1P161	N-27	不整形円形	45	37	45	褐灰色粘質土	

第68表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表3

以外のピットについて、土層断面図を第129・130図に示した。以下は、主に出土遺物について報告する。

ピットから出土した遺物について、1101～1112を第136図、柱根1204、1205は第139図に図示した。1102は須恵器の蓋である。内面に墨痕と思われる痕跡と、外面に重ね焼き痕がみられる。Ⅳ～Ⅴ期とした。1105は須恵器無台坏で、シルト質に似た素地である。Ⅴ₂期とした。1106は須恵器の無台坏で、外面底部に「信續□」の墨書がみられる。Ⅴ₂期とした。1107は須恵器の無台坏である。焼成はやや不良で灰白色を呈し、外面の口縁部に降灰がみられる。Ⅴ₁期とした。1109は須恵器の無台坏で、外底面に墨書がある。内外面共に口縁部に重ね焼き痕がみられる。接合痕や、外面に板目上の圧痕もみえる。Ⅴ₂期とした。1110は須恵器の無台坏底部の小片である。青灰色を呈し、Ⅴ₂期の可能性がある。1111は須恵器の有台坏である。焼成は良好で灰色を呈する。Ⅴ期か。1112は須恵器の坏身で、口縁部に返しがある。外面に降灰がみられる。Ⅰ期と推定した。1204はP25から出土した柱根である。現存長31cm、最大幅11cm、最大厚8.8cmを測る。材はサクラ属の丸木である。1205はP51から出土した柱根で、現存長37.5cm、最大幅6.8cm、最大厚5.1cmを測る。クリの丸木で、一部にコゲがみえる。底部には穿孔痕がみられる。

第4節 溝

調査区全体で多数検出しており、遺物が出土した溝に対して遺構番号を付している。遺構番号のある溝のうち、報告段階で確認したものは59条で、土層断面図を第131～134図に示した。調査区内の分布状況としては、主にC区に集中する。特にC区の南側、グリッドLライン以南は耕作に伴う小溝が密に並んで畝溝状遺構を成しており、それらを溝SD53・SD54が切り込んで北東方向に横断している。西側の第6次調査B区上層と近似した分布状況である。以下、主な溝について記す。

溝(遺構：第131～134図、第69・70表、遺物：第136・137・139図、第71・72・76表)

SD40(遺構：第134図、遺物：第137図、第72表)

調査区西側を南北方向に流れ、南端は東側へと屈曲する溝である。屈曲部がSB03のP02・31に切られる。深さは10～20cmで埋土は二層に分かれ、上層が暗灰色粘質土で、下層は灰黄色粘質土に上層の土が混ざる。遺物は1123・1124を図示した。1123は須恵器坏で、外面に墨書がみられるが判読できない。1124は須恵器壺で、焼成は良好で硬質である。外面の一部に薄く降灰がみられる。

SD42(遺構：第134図)

調査区北西隅を東西方向に流れる、直線的な溝である。SK02を切り込み、P35に切られる。深さは4～12cmと浅く、灰色・灰褐色・灰黄褐色の粘質土を埋土とする。

遺構名(報告書)	グリッド	規模(cm)			方位	土色	性格	備考
		長さ	幅	深さ				
7C1SD01	L-28,K-28	543~	26~39	5~13	N-17° W	第131図	耕作小溝	SD53より古
7C1SD02	L-28,K-28	1248~	24~41	9~15	N-12° W	第131図	耕作小溝	SD53,54より古
7C1SD03	L-28,K-28	1250~	17~34	7~17	N-11° W	第131図	耕作小溝	SD53,54より古
7C1SD04	L-28,K-28	1003~	15~29	7~12	N-11° W	第131図	耕作小溝	SD46,53,54より古
7C1SD05	L-28,K-28	1348~	23~33	6~13	N-約9° W	第131図	耕作小溝	SD46,53,54より古
7C1SD06	L-28,K-28	1143~	17~30	7~10	N-9° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD07	L-28,K-28	1068~	21~25	8~13	N-9° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD08	L-28,K-28	1157~	21~33	5~22	N-約9° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD09	L-28,K-28	1132~	10~26	6~22	N-6° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD10	L-28,K-28	1130~	17~32	6~15	N-7° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD11	L-28,K-28	1103~	17~35	8~18	N-6° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD12	L-28,L-29, K-29	1097~	14~29	6	N-3°~10° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD13	L-29,K-29	1087~	14~29	5~10	N-6° W	第131図	耕作小溝	SD46,54より古
7C1SD15	M-28,L-28	598	12~31	11~20	N-3° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD16	M-28,L-28	530	25~35	7~12	N-3° W	褐色粘質土(炭化物少量)	耕作小溝	
7C1SD17	M-28,L-28	516	28~43	5~12	N-0°	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD18	M-28	169	20~24	6~12	N-8° E	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD19	M-28	138	21~25	5~9	N-6° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD20	M-28	129	30~46	3~7	N-約10° W	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD21	M-28	415	21~35	7~18	N-10° E	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD22	M-28	405	15~24	8~10	N-0°	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD23	M-28	380	14~36	7	N-8° E	褐色粘質土	耕作小溝	
7C1SD24	M-28	360	18~32	2~11	N-3° E	褐色粘質土	耕作小溝	
7D1SD25	M-29	302	25~32	2~8	N-8° E	褐色粘質土	耕作小溝	

第69表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表1

SD46 (遺構：第132-134図、遺物：第137図、第72表)

調査区南西隅からC区とK区の境まで、北東方向に横断する流路で、境付近でSD53・54と合流する。中央部で緩いS字状に流れを変え、後述の耕作に伴う小溝群を横断して切り込む。東側と西側の二地点、及びSD53・54との合流部で断面を図化している。淡灰色シルト・黄灰色砂質土・灰色粘質土の順に堆積しており、西側の最下層に灰白色粘質土がみられる。合流部では、SD53・54の埋土を、南端で切り込んでいると推定する。遺物は1126・1127を図示したが、いずれもSD53・54との合流部から出土している。1126は、くの字状を呈する弥生土器の口縁部である。1127は口縁部に段をつくり、上部に擬凹線9条を配する甕で、弥生時代終末期と判断した。外面に煤が付着している。

SD53 (遺構：第132-134図、遺物：第137-139図、第72・76表)

C区を南西壁から北東方向に横断し、L-29杭付近でSD54・46と合流する流路である。幅は1.7m程、深さは1.02mを測る。表層には灰黄褐色粘質土が堆積し、その下には炭化物を含んだ褐灰～灰褐色粘質土が層状に累積する。断面図は東側・西側・合流部で計測しているが、西側より東側の方が炭化物を多く含んでいると思われる。遺物は1128～1135、木製品の1206～1208を図示した。1128は返しが付いた須恵器帯で、ヘラ記号がみられる。I期とした。1129は灰陶陶器の有台坏とみられる。1130～1132は順に土師器の小型高坏・台付鉢・高坏・有台坏である。1133は粟林式系の弥生土器の小片とみられる。1134・1135はSD54との合流部から出土した遺物である。1134は土師器の甕で、内外面共にヨコナデ・ハケ調整がみられる。古墳時代前期と推定した。1135は有段の口縁部に8条の擬凹線を描いた甕で、弥生時代終末期と判断した。1206はムクノキの丸木で、芯持ち材である。1207はスキの分割材、1208はスキの板目材で遺存長は137cmを測る。いずれも部材と思われるが、詳細は不明である。

SD54 (遺構：第132・134図、遺物：第137図、第72表)

SD53とSD46の間に位置し、C区を南西壁から概ね北西方向へ蛇行し、SD53・46と合流する流路である。合流する前の幅は0.7m程、深さは0.78mを測る。SD54と同様に表層には灰黄褐色粘質土が、その下には褐灰色・灰黄褐色粘質土が堆積する。さらに下層には灰白色粘質土がみられ、淡灰色砂質土が基調となる。東側の最下層では、還元がかかった青灰色の砂層がみられる。SD53との合流部では、SD53の埋土がSD54の埋土の上から堆積している。遺物は合流部を除き、1137・1138を図示した。1137は土師器の甕で、内外面が摩耗している。1138は小型高坏で、内外面共にミガキを施すが、摩耗がみられる。

SD99 (遺構：第133・134図、遺物：第139図、第76表)

主にK区を南北方向に流れ、M-30杭付近で西方向へ直角に流れを変えてSSD53・54の合流部に突き当たる流路である。D区とK区の境で、確認のためトレンチ掘削を行っている。幅は南北方向の地点では0.9m程度だが、流れを変えた後2.9m程に拡がり、深さも0.54mから1.02mに変わる。埋土は灰褐色～褐灰色粘質土から、下層はシルト・砂質土に変化する。遺物は木製品の1209・1210を図示した。共にスタジイを板目取りで使用し、杭状に加工している。上方部は炭化しており、下方部は先端を尖らせるように加工する。

耕作に伴う小溝(遺構：第131図、第69・70表、遺物：第136図、第71表)

SD01～27 (遺構：第134図、遺物：第137図、第72表)

調査区南西部に集中する小規模な溝群である。南北方向に向かって幅30cm強に切った溝が畝溝状に並んでおり、耕作に伴う小溝だと考えられる。他遺構との切り合いをみれば、南西方向から調査区中央に向かうSD46・53・54に斜めに切られている。埋土は淡灰褐～灰褐色の粘質土である。遺物は1113～1116を図示した。1113はSD03から出土した土師器の高坏、1114はSD06から出土した土師器甕の口縁部で、共に石英・長石の砂粒を含む。1115はSD07から出土した須恵器の無台坏で、焼成は良好で灰白色を呈し、外面の片側に降灰がみられる。Ⅴ₂期とした。1116はSD22から出土した須恵器壺の口縁部で、焼成は良好で黄灰色を呈する。

第5節 その他

その他の遺構(遺構：第135図)

N-27グリッドの噴射断面図を第135図に図示した。表層は暗褐色粘質土で、噴砂に落ち込んだ旧表土の可能性ある。遺物は確認していない。

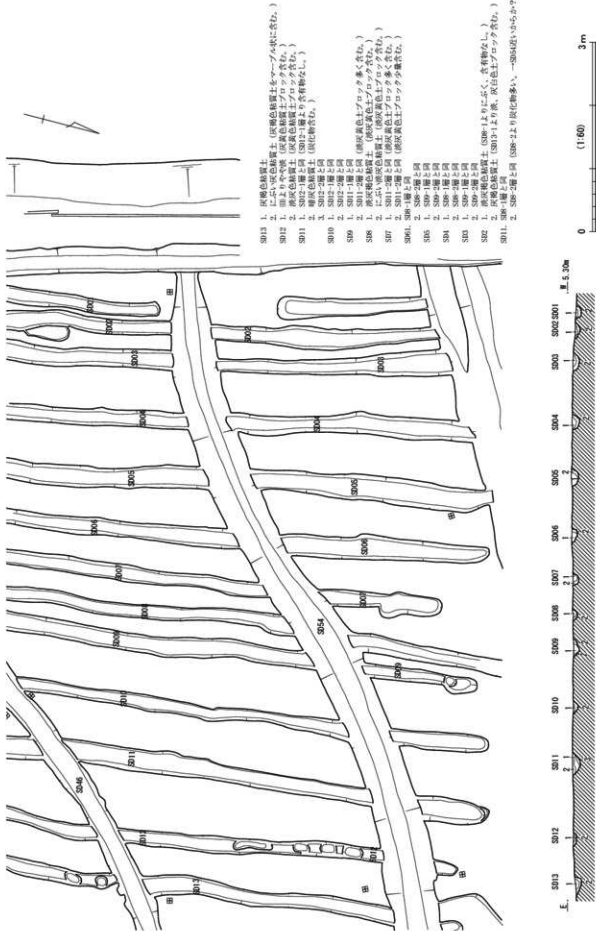
表土・包含層の出土遺物(遺物：第137～139図、第72～76表)

水田面から出土した1144・1145を第137図、表土から出土した1146～1174、第1面精査時の包含層から出土した1175～1177を第138図、検出面から出土した1178～1188を第138～139図、下層検出面出土と思われる1189～1194を第189図に図示した。1144は水田面出土の須恵器有台坏で、素地から鳥屋窯産と思われる。歪みがみられ、Ⅴ₁期とした。1145は水田面から出土した丸瓦である。以下、1146～1157は表土出土の土器である。1146は須恵器有台坏で、Ⅴ₁期か。1147は須恵器有台坏で、Ⅴ₂期とした。1148は須恵器の有台坏で、Ⅴ₁期か。1149は須恵器の有台坏で、内外面の口縁部に降灰がみられる。Ⅳ期か。1150は須恵器無台坏で、灰白色を呈し、外面口縁部に降灰がみられる。Ⅴ₂期とした。1151は須恵器無台坏で、内外面口縁部に降灰がみられる。Ⅴ₁期とした。1152は須恵器の無台坏で、外面口縁部に降灰がみられる。Ⅴ₁期とした。1153は須恵器無台坏で、灰白色を呈する。Ⅴ₁期か。1154も須恵器無台坏で灰白色を呈し、Ⅴ₂期とした。1155は須恵器無台坏で、外面底部に墨書がある。外面には板目瓦痕が5

遺構名(報告書)	グリッド	規模(m)			方位	土色	性格	備考
		長さ	幅	深さ				
7D1SD26	M-29	310~	21~31	3~10	N-8° E	褐色粘質土	耕作小溝	SD53より古
7C1SD27	M-29	278~	28~35	3~7	N-0°	褐色粘質土	耕作小溝	SD53より古
7C1SD28	M-29	301	49~70	6	N-0°	褐色粘質土	不明	
7C1SD29	M-29	28~	約18	6	N-約8° W	褐色粘質土	不明	SD53より古
7C1SD33	M-27,M-28	196	11~35	5~15	N-80° W	褐色粘質土	不明	
7C1SD34	M-27	236	21~25	6~12	N-8° E	灰褐色粘質土	不明	SD53より古
7C1SD35	M-27	180	14	9	N-3° E	灰褐色粘質土	不明	
7C1SD36	M-28	247	10~28	4~11	N-88° E	褐色粘質土	不明	
7C1SD37	L-28	33~	約36	10	N-18° W	褐色粘質土	不明	SD53より古
7C1SD38	N-27	755	18~31	6~11	N-9° W	褐色粘質土	不明	
7C1SD39	N-28	398	22~69	2~15	N-4°~19° W	褐色粘質土	不明	
7C1SD40	N-27	約1130	20~24	10~20	N-9°~59° E	第134区	不明	溝曲
7C1SD42	O-28,O-27	550	24~56	4~12	N-79° E	第134区	不明	
7C1SD43	O-27,O-28	1113	36~71	3~11	N-81°, N-52° E	暗褐色粘質土と黄褐色粘質土混在	不明	
7C1SD44	M-28	357	20~47	5	N-約45° E	灰褐色粘質土	不明	
7C1SD45	O-28,N-28	441	約30	3~7	N-16°~51° W	暗褐色粘質土・褐色粘質土	不明	二度溝曲
7C1SD46	K-28,L-28, L-29,L-30	2511~	23~61	23~42	N-58° W,78° E	第134区	不明	SD53より古、溝曲
7C1SD47	N-29,N-30, M-30	1410~	27~58	3~15	N-66° E,9° W	第134区	不明	
7C1SD48	N-29	約620	42~63	7~17	N-6° E	褐色粘質土	不明	
7C1SD49	O-29	342	22~34	2~8	N-29° E	灰色粘質土(黄褐色粘質土がブロック状)	不明	
7C1SD51	N-28	約121	22	3	N-30° E	褐色粘質土	不明	
7C1SD53	L-28,M-28, M-29,M-30, L-30,L-29	2677~	約173	86~101	N-49° W,64° E	第134区	不明	
7C1SD54	L-28,L-29, M-30,L-30	2213~	64~189	69~83	N-84° W,78° E	第134区	不明	
7C1SD97	N-27	395	14~33	8~13	N-8° E	灰褐色粘質土	不明	
7C1SD98	N-27,O-27	464	11~42	4~8	N-86° W,77° E	暗褐色粘質土・暗灰色粘質土	不明	
7D・K1SD99	M-30M-31, L-31	2590~	73~169	22~60	N-58° E~20° W	第133区	不明	溝曲
7D1SD100	P-31,O-31, O-30	258~	32~53	4~22	N-23° E	褐色粘質土	不明	
7D1SD101	O-31	261~	60~150	2~4	N-約90° E	褐色粘質土	不明	
7D1SD102	P-31	75~	約40	3	N-34° W	褐色粘質土	不明	
7D1SD103	O-31	283~	約24	4~6	N-5° W	褐色粘質土	不明	
7D1SD105	O-31	88~	約38	3	N-約90° W	褐色粘質土	不明	
7D1SD106	P-31	約856	約435	1~3	N-約0° W	褐色粘質土	不明	
7D1SD107	O-30,O-31, P-30,P-31	約420	約53	3~6	N-約20° E	褐色粘質土	不明	
7D1SD108	O-30	266	18~24	4	N-85° W	褐色粘質土	不明	
7D1SD109	N-30	523	49~60	2~3	N-27° E~84° W	褐色粘質土	不明	溝曲

第70表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表2

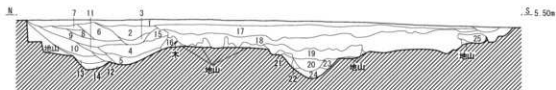
本みられる。VI期とした。1156は須恵器の有台皿で、内外面に降灰がみられる。VI期か。1157は須恵器の皿で、灰白色を呈する。VI期とした。1175は第1面精査時に包含層から出土した須恵器無台坏で、灰白色を呈する。口縁の一部に炭化物が付着している。VI期とした。以下、1178~1180~1182は検出面から出土している。1178は須恵器有台坏で、IV期か。1180~1182は須恵器の坏身で、いずれも口縁部に返しがある。I期と置く。続いて1190~1193は下層検出面出土と考えられる。1190は須恵器蓋で、歪みがあり、内面に墨痕がみられる。VI期とした。1191~1193は須恵器の坏身で、返しがあり、黄色灰~灰、灰白色を呈する。I期とした。



- S013 1. 灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S012 1. 灰よりやや硬質 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. 灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S011 1. S012-1層と同 (S012-1層より含有物なし。)
- 2. S012-2層と同 (灰化物を含む。)
- S010 1. S012-1層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. S012-2層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S09 1. S011-1層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. 土に近い灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S08 1. 灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. 土に近い灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S07 1. S011-2層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. S011-1層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- S06 1. S06-1層と同 (灰褐色粘質土ブロックを含む。)
- 2. S06-2層と同 (S06-2層より含有物なし。)
- S05 1. S09-1層と同 (S09-1層より含有物なし。)
- 2. S09-2層と同 (S09-2層より含有物なし。)
- S04 1. S08-1層と同 (S08-1層より含有物なし。)
- 2. S08-2層と同 (S08-2層より含有物なし。)
- S03 1. S09-1層と同 (S09-1層より含有物なし。)
- 2. S09-2層と同 (S09-2層より含有物なし。)
- S02 1. 灰褐色粘質土 (S02より含有物なし。)
- 2. 灰褐色粘質土 (S02より含有物なし。)
- S01 1. S08-1層と同 (S08-1層より含有物なし。)
- 2. S08-2層と同 (S08-2層より含有物なし。)

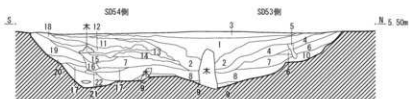
第131図 C・D・K区第1面遺構平面図・土層断面図1 (S=1/60)

SD46,53,54合流部



1. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層を含む。)
2. にびい(黄褐色粘質土) (やや暗い、黄褐色粘質土層含む。同化物少量含む。)
3. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
4. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。同化物少量含む。)
5. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。同化物少量含む。)
6. 灰白色シルト質土 (黄褐色シルト質土層を含む。同化物少量含む。)
7. 灰白色シルト質土 (やや暗い、黄褐色シルト質土層を含む。)
8. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
9. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
10. 黄褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層を含む。)
11. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
12. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層少量含む。)
13. 黄褐色粘質土 (同層を含む。)
14. 黄褐色粘質土 (やや暗い、石層を含む。)
15. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
16. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層を含む。)
17. 灰白色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層を含む。)
18. 黄褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層を含む。灰白色粘質土がゴロツキ状にとりまじり混ざる。)
19. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。明黄褐色粘質土、灰黄色粘質土が混ざり混ざる。)
20. 灰白色シルト質土 (同層を含む。明黄褐色粘質土と互層をなす。)
21. 灰白色シルト質土 (やや暗い、同層を含む。)
22. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
23. 黄褐色粘質土 (明黄褐色粘質土と互層をなす。)
24. 灰黄色粘質土
25. 明黄褐色粘質土

SD53,54合流部

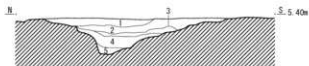


1. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
2. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層を含む。)
3. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層を含む。)
4. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。SD715(東側)の4層と似てる。)
5. 黄褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層を含む。)
6. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層少量含む。)
7. 灰黄色粘質土 (やや暗い、同層を含む。)
8. 灰黄色粘質土 (同層を含む。)
9. 黄褐色粘質土 (同層を含む。)
10. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
11. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。SD715(東側)の2層と似てる。)
12. にびい(黄褐色粘質土) (黄褐色粘質土層少量含む。)
13. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層少量含む。)
14. 黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層少量含む。同化物少量含む。)
15. 黄褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層を含む。同化物少量含む。)
16. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。同化物少量含む。)
17. 灰白色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層少量含む。同化物少量含む。)
18. 明黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層少量含む。同化物含む。)
19. 明黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土層を含む。)
20. 灰黄色粘質土 (黄褐色粘質土層少量含む。)
21. 灰白色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土層少量含む。)
22. 灰白色粘質土 (同化物少量含む。)



第132図 C・D・K区第1面満土層断面図2 (S=1/60)

SD99(西から)



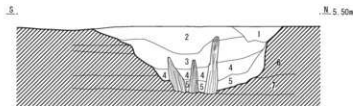
1. 灰褐色粘質土
2. 黄灰色粘質土
3. 褐色砂層
4. 灰白色粘質土 (粘性や中強い。)
5. 灰白色粘質土 (やや中強い。粘性や中強い。)

SD99(北から)



1. 灰褐色粘質土 (下方に灰層あり。)
2. 灰白色粘質土 (灰より砂混じり。)
3. 黄灰色シルト層土 (灰化物含む。)
4. 黄褐色粘質土 (灰化物含む。)
5. 黄褐色粘質土 (灰化物含む。)

SD99



1. 黄褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。)
2. 明褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。)
3. 濃い黄褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。灰化物少量含む。)
4. 灰白色粘質土 (やや中強い。明黄褐色粘質土を含む。)
5. 明褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。)
6. 黄褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。)
7. 明黄褐色粘質土 (明黄褐色粘質土を含む。灰化物含む。)

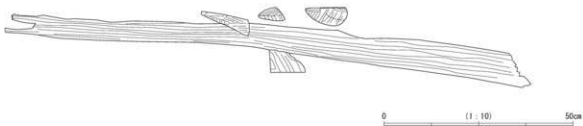
SD100(南から)



1. 灰褐色粘質土
2. 灰黄褐色粘質土
3. 明褐色粘質土

0 (1:60) 3m

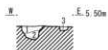
SD99平面図(遺物出土状況)



第133図 C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図3(S=1/60・1/20)

第5節 その他

SD40



1. 暗灰色粘質土 (赤灰色粘質土・暗褐色粘質土をバッチ状に含む。炭化物含む。)
2. 灰黄色粘質土 (1層をブロック状に含む。)
3. 暗灰色粘質土 (暗褐色粘質土含む。)

SD42



- SD42
1. にぶい灰色粘質土 (炭化物含む。)
 2. 淡褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック含む。)
 3. 灰褐色粘質土
 4. にぶい灰黄色粘質土

SD46(東側)



1. 灰色粘質土
2. 黄灰色砂質土 (黄褐色砂含む。)
3. 淡灰色シルト (黄褐色砂含む。)

SD46(西側)



1. 灰色粘質土
2. 黄灰色砂質土 (黄褐色砂含む。)
3. 淡灰色シルト (黄褐色砂含む。)
4. 灰白色粘質土 (灰色粘質土ブロック少量含む。)

SD47(南側)



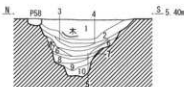
1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (淡灰黄色粘質土ブロック含む。)

SD47



1. 暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (1層よりにぶい。淡灰褐色粘質土含む。)
3. 暗褐色粘質土

SD53(東側)



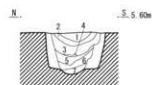
1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色砂質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
3. にぶい黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
4. 灰黄褐色粘質土 (やや明るい。黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
5. 暗灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒少量含む。炭化物少量含む。)
6. 暗褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 灰褐色砂質土 (やや明るい。炭化物含む。)
8. 灰褐色砂質土 (炭化物含む。)
9. 暗灰色砂質土 (炭化物含む。)
10. 灰褐色粘質土 (やや暗い。炭化物含む。)

SD53(西側)



1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色砂質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
6. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 灰褐色砂質土 (やや明るい。炭化物粒含む。)
11. 暗灰色粘質土 (やや暗い。黄褐色粘質土粒含む。)
12. 暗褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒少量含む。)
13. 灰色粘質土 (炭化物含む。暗灰色砂質土ブロック含む。)
14. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。6次調査から続くSD (北西-南東へ流れる) 部分。)
15. 明褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。SD7105。)

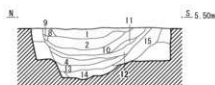
SD54(西側)



1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物多く含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物含む。)
4. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
5. 灰黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。炭化物少量含む。)
6. 暗灰色砂質土 (やや明るい。黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 暗褐色砂質土



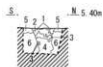
SD54(東側)



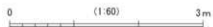
1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
2. 暗灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物多く含む。)
4. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
8. 淡黄灰色砂質土
9. 暗黄灰色砂質土
10. 暗灰色砂質土
11. 淡灰色砂質土 (粘性ずれる。)
12. 淡黄灰色砂質土
13. 青灰色砂質土 (茶灰色粘質土と互層をなす。有機物多量に含む。)
14. 青灰色砂
15. 灰白色砂質土 (茶灰色粘質土と互層をなす。13層よりあらい。)

第134図 C-D-K区第1面満土層断面図4 (S=1/60)

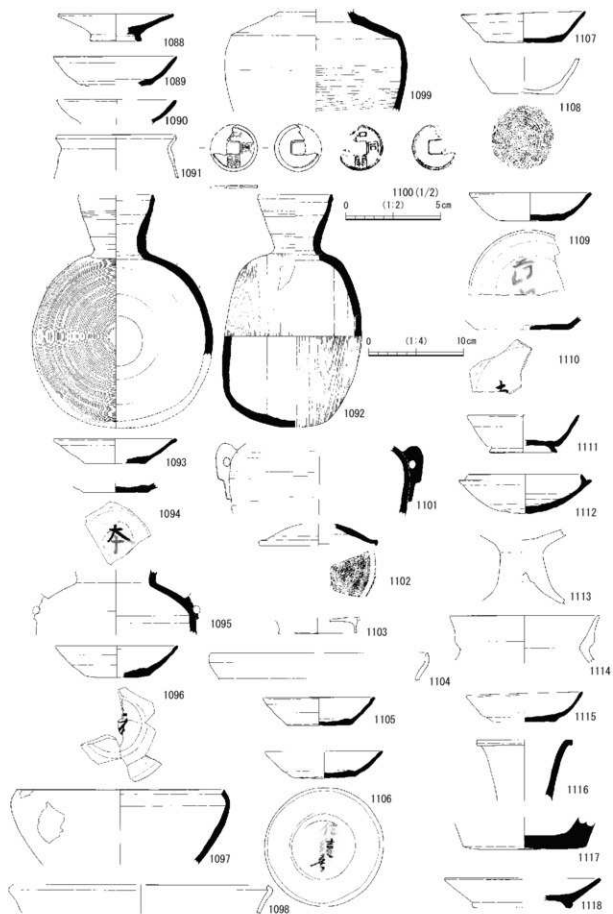
N27填砂



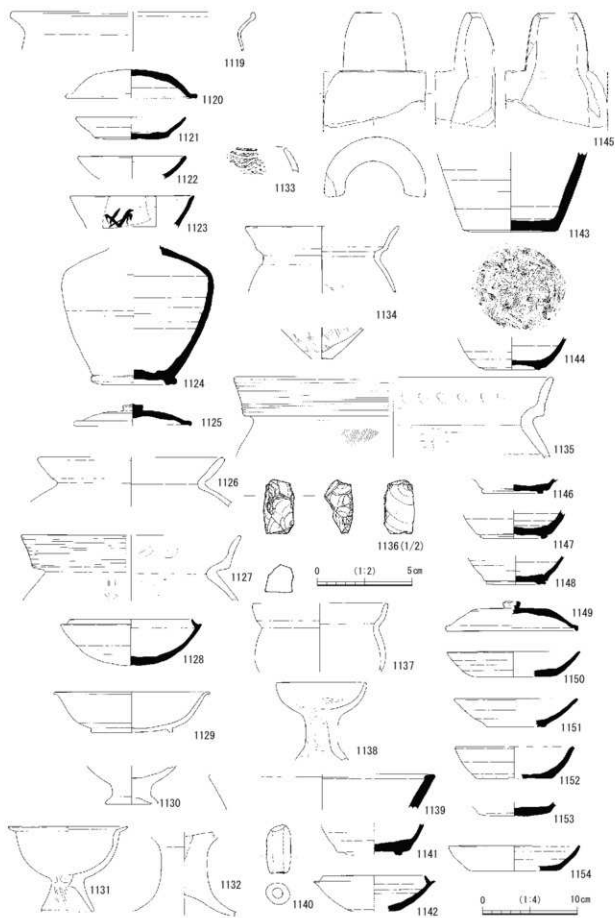
1. 暗褐色粘質土 (埋砂中に落ち込んだ旧土上?)
2. 淡灰黄色粘質土 (埋砂含む。)
3. 灰褐色粘質土 (灰白色細砂含む。)
4. 淡灰色細砂 (埋土含む。)
5. 灰黄色粘質土 (埋砂含む。)
6. 淡灰黄色粘質土 (埋砂含む。)



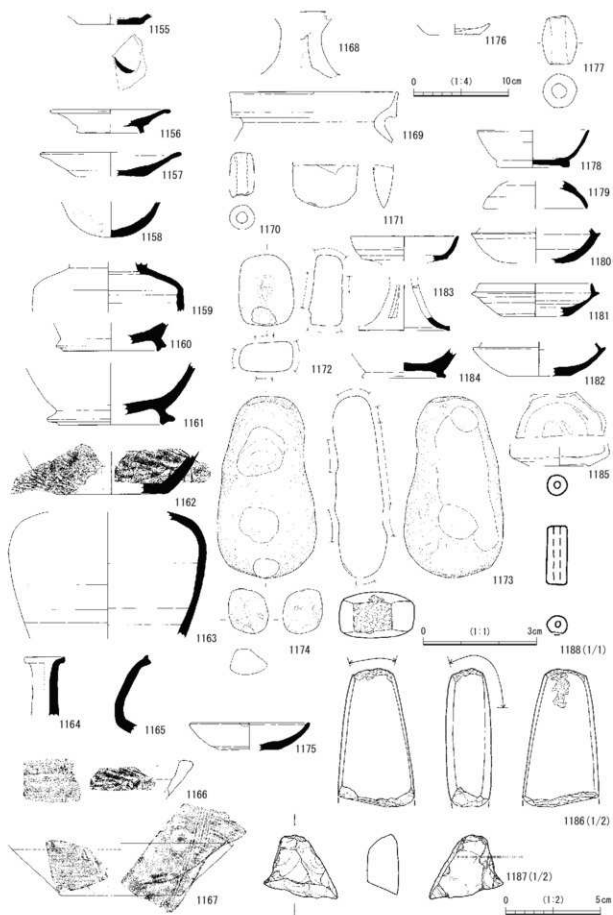
第135図 C・D・K区第1面噴砂土層断面図(S=1/60)



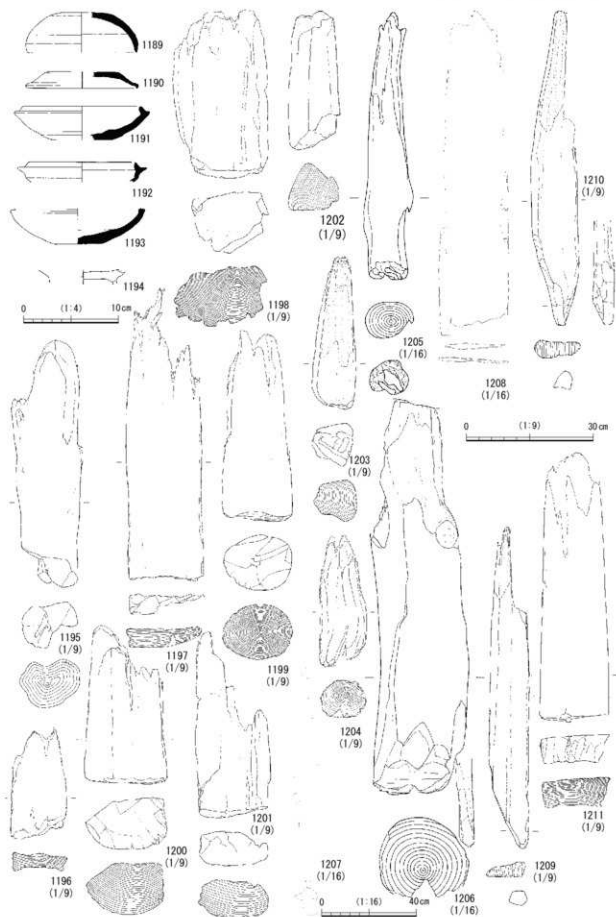
第136図 C区第1面出土遺物実測図1 (S=1/2・1/4)



第137図 C区第1面出土遺物実測図2 (S=1/2・1/4)



第138図 C区第1面出土遺物実測図3(S=1/1・1/2・1/4)



第139図 C区第1面出土遺物実測図4 (S=1/4・1/9・1/16)

※()は残存品番号を示す。

施設 番号	出土品 番号	出土品 種別	出土品 数量	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内径色	外径色	加工部分	加工 形式	内径 形状	外径 形状	通存 番号	備 考	時期 番号	
136	1068	土器 須恵器	香台杯	12.2	5.6	2.9	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子 口ワロ子 口ワロ子	口13.36 底14.36 底12.36	外周部灰	Ⅱ	D-067
136	1069	土器 須恵器	香台杯	13.1	-	-	灰白	灰白	D-b	不員	口ワロ子	口ワロ子	口11.26 底12.36	外周部灰	Ⅱ	D-027
136	1090	土器 須恵器	香台杯	12.6	-	-	灰白	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口11.26	外周部灰	Ⅱ	D-028
136	1091	土器 須恵器	香台杯	12.6	-	-	に少し青 ～ ～ ～	に少し青 ～ ～ ～	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口11.26	外周部灰	Ⅱ	D-028
136	1092	土器 須恵器	香台杯	7.8	-	24.7	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口29.76 底31.76 底13.26	外周部灰	Ⅱ	D-021
136	1093	土器 須恵器	香台杯	13.0	6.6	2.6	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口12.36	外周部灰	Ⅱ	D-031
136	1094	土器 須恵器	香台杯	-	(脚)6.6	(1.0)	灰白	灰白	外周部	員	口ワロ子	口ワロ子	口12.36	外周部灰	Ⅱ	D-031
136	1095	土器 須恵器	香台杯	-	-	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	-	外周部灰	Ⅱ	D-051
136	1096	土器 須恵器	香台杯	12.8	7.2	3.4	灰	灰	外周部	員	口ワロ子	口ワロ子	口15.36 底16.36	外周部灰	Ⅱ	D-051
136	1097	土器 須恵器	香台杯	22.0	-	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口5.36	外周部灰	Ⅱ	D-035
136	1098	土器 須恵器	香台杯	(27.0)	-	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口5.36	外周部灰	Ⅱ	D-035
136	1099	土器 須恵器	香台杯	-	-	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	-	外周部灰	Ⅱ	D-030
136	1101	土器 須恵器	香台杯	12.4	-	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口5.36	外周部灰	Ⅱ	D-216
136	1102	土器 須恵器	香台杯	-	8.0	-	灰	灰	外周部	員	口ワロ子	口ワロ子	口5.36	外周部灰	Ⅱ	D-216
136	1104	土器 須恵器	香台杯	(23.0)	-	-	に少し青 ～ ～ ～	に少し青 ～ ～ ～	b-4	員	口ワロ子	口ワロ子	口7.36 底17.36	外周部灰	Ⅱ	D-042
136	1105	土器 須恵器	香台杯	11.8	7.1	3.0	灰白	灰白	外周部	員	口ワロ子	口ワロ子	口7.36 底17.36	外周部灰	Ⅱ	D-042
136	1106	土器 須恵器	香台杯	12.2	6.7	(2.9)	青灰、灰白	青灰、灰白	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口29.76 底30.76	外周部灰	Ⅱ	D-029
136	1107	土器 須恵器	香台杯	13.1	8.0	3.4	灰白	灰白	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口29.76 底30.76	外周部灰	Ⅱ	D-043
136	1108	土器 須恵器	香台杯	12.8	7.4	3	灰	灰	b-4	員	口ワロ子	口ワロ子	口11.26 底14.36	外周部灰	Ⅱ	D-043
136	1110	土器 須恵器	香台杯	-	(3.0)1.2	(1.4)	青灰	青灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口14.26 底17.26	外周部灰	Ⅱ	D-002
136	1111	土器 須恵器	香台杯	11.8	7.2	4.0	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口14.26 底17.26	外周部灰	Ⅱ	D-005
136	1112	土器 須恵器	香台杯	12.0	-	-	4.2 灰白	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口3.36	外周部灰	Ⅱ	D-018
136	1114	土器 須恵器	香台杯	15.6	-	(5.0)	に少し青 ～ ～ ～	に少し青 ～ ～ ～	b-3 b-3 b-3	員	口ワロ子	口ワロ子	口3.36	外周部灰	Ⅱ	C-03
136	1115	土器 須恵器	香台杯	12.2	6.9	3.2	灰白	灰白	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口20.36 底21.36	外周部灰	Ⅱ	C-04
136	1116	土器 須恵器	香台杯	10.0	-	6.4	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	底15.36	外周部灰	Ⅱ	D-005
136	1117	土器 須恵器	香台杯	-	13.2	-	灰	灰	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	底15.36 底15.36	外周部灰	Ⅱ	D-220
136	1118	土器 須恵器	香台杯	16.5	10.8	3.2	に少し青 ～ ～ ～	に少し青 ～ ～ ～	D-b	員	口ワロ子	口ワロ子	口5.36 底15.36	外周部灰	Ⅱ	D-007
137	1119	土器 須恵器	香台杯	(25.4)	-	-	に少し青 ～ ～ ～	に少し青 ～ ～ ～	外周部	員	口ワロ子	口ワロ子	口2.36	外周部灰	Ⅱ	D-219

第71表 C・D・K区第1面出土品目録表1

※()は残存品番号を示す。

検出番号	出土遺物(種類)	種別	数量	口徑 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	内面形状	外面形状	出土位置	出土層位	組成	内面調査	外面調査	通存率	備考	図録番号
137 1120	7C1S0209	須磨器 壺	13.7	-	3.1	底	底	底	底	底	底	底	底	14/30		D-010
137 1121	7C1S0209	須磨器 弁	11.0	8.0	2.4	底	底	底	底	底	底	底	底	底		底
137 1122	7C1S0209	須磨器 須磨器	11.4	-	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-021
137 1123	7C1S0400	須磨器 弁	13	-	(3.4)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		壺01
137 1124	7C1S0404	須磨器 壺	-	9.0	(14.7)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-006
137 1125	7C1S0444	須磨器 壺	12.1	7.4	2.2	(2.3)	底	底	底	底	底	底	底	底		壺01
137 1126	7C1S0446	50・54合流部 土須磨器 壺	19.1	-	(5.3)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-006
137 1127	7C1S0446	50・54合流部 土須磨器 壺	23.0	-	(7.0)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-05
137 1128	7C1S0553	須磨器 弁	13.0	-	4.9	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-703
137 1129	7C1S0553	須磨器 須磨器	16.2	8.4	4.3	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-011
137 1130	7C1S0553	土須磨器 小型壺	9.6	7.6	4.4	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-052
137 1131	7C1S0553	土須磨器 白付鉢	12.6	5.4	9.0	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-02
137 1132	7C1S0553	土須磨器 壺	-	(11.3)	9.0	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-01
137 1133	7C1S0553	土須磨器 小弁	-	-	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-10
137 1134	7C1S0553	54合流部 土須磨器 壺	16.2	2.2	(7.0)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-012
137 1135	7C1S0553	54合流部 土須磨器 壺	(3.4)	-	(6.6)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-07
137 1137	7C1S0554	土須磨器 小壺	14.2	-	(7.3)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-06
137 1138	7C1S054	7C1S053 土須磨器 小型壺	(9.4)	-	(8.3)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-08
137 1139	7C1S0604	須磨器 壺	23.6	-	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		C-09
137 1140	7C1S0604	須磨器 土須磨器	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺		D-045
137 1141	7C1S0605	須磨器 須磨器	10.8	5.6	3.76	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-047
137 1142	7C1S0605	須磨器 須磨器	10.8	5.6	3.76	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-215
137 1143	7C1S0606	須磨器 須磨器	-	10.2	(13.5)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-024
137 1144	水田遺物	須磨器 須磨器	-	6.0	(3.5)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-023
137 1145	水田遺物	須磨器 須磨器	-	10.2	(13.5)	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-002
137 1146	須土	須磨器 須磨器	-	6.4	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-191
137 1147	須土	須磨器 須磨器	-	7.2	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-193
137 1148	須土	須磨器 須磨器	-	6.3	-	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-186
137 1149	須土	須磨器 須磨器	13.0	7.3	3.1	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-137
137 1150	須土	須磨器 須磨器	13.9	8.7	2.7	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-065
137 1151	須土	須磨器 須磨器	13.1	6.4	3.0	底	底	底	底	底	底	底	底	底		D-066

第72表 C・D・K区第1面出土器類表2

※()は残存位置を示す。

紀元 番号	出土遺構 (形状)	構 造 種 類	口 径 (cm)	底 径 (cm)	高 度 (cm)	内 壁 色 澤	外 壁 色 澤	土 土 分 割	構 成	内 面 調 整	外 面 装 璜	通 飾 等	備 考	相 対 発 見 層 位
130	1152 赤土	須弥部 舞台坪	12.6	8.4	3.4	灰	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口7.30 底0.30	外壁に溝壁あり	Ⅴ、 D-131
130	1153 赤土	須弥部 舞台坪	-	7.6	-	灰白	灰白	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	底30.30	外壁に溝壁あり	Ⅴa D-132
130	1154 赤土	須弥部 舞台坪	13.6	10.0	2.6	灰白	灰白	C-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口6.30 底7.30	外壁に溝壁あり	Ⅴ、 D-140
130	1155 赤土	須弥部 舞台坪	-	6.5	1.2	灰	灰	-	溝壁	黒転子	黒転子、 黒転へう切り	底12.30	外壁に溝壁あり	Ⅴ
130	1156 赤土	須弥部 舞台坪	12.6	7.1	2.5	灰	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口1.30 底14.30	外壁に溝壁あり	Ⅴ、 D-340
130	1157 赤土	須弥部 舞台坪	14.4	7.4	2.6	灰白	灰白	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口3.30 底12.30	外壁に溝壁あり	Ⅴ、 D-339
130	1158 赤土	須弥部 溝蓋部	-	-	-	灰	灰	-	溝壁	白クワ子	へう切り	-	外壁に溝壁あり	D-603
130	1159 赤土	須弥部 瓦	-	-	-	灰白	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子	-	外壁に溝壁あり	D-132
130	1160 赤土	須弥部 瓦	-	11.6	-	灰	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子	底12.30	外壁に溝壁あり	D-134
130	1161 赤土	須弥部 瓦	-	13.7	-	灰	灰	D-b	溝壁	子、 黒転の角不明	白クワ子、 黒転へう切り	底7.30	外壁に溝壁あり	D-602
130	1162 赤土	須弥部 瓦	-	12.0	-	灰白	灰	D-b	溝壁	角状付溝壁不明	白クワ子、 黒転へう切り	底6.30	外壁に溝壁あり	D-135
130	1163 赤土	須弥部 瓦	-	-	-	灰	灰	D-b	溝壁	角状付溝壁あり	白クワ子、 黒転へう切り	底7.30	外壁に溝壁あり	D-354
130	1164 赤土	須弥部 瓦	4.2	-	-	赤灰	赤灰	-	溝壁	白クワ子	白クワ子	口20.30	外壁に溝壁あり	D-064
130	1165 赤土	須弥部 瓦	-	-	-	灰	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子	-	外壁に溝壁あり	D-194
130	1166 赤土	須弥部 瓦	-	-	-	灰白	灰	-	溝壁	白クワ子	白クワ子	-	外壁に溝壁あり	D-133
130	1167 赤土	須弥部 瓦	-	12.6	-	灰	灰	-	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	底7.30	外壁に溝壁あり	D-061
130	1168 赤土	須弥部 瓦	-	-	-	に少し黒	に少し黒	a-4	溝壁	白クワ子、 黒転	白クワ子、 黒転	-	外壁に溝壁あり	C-25
130	1169 赤土	須弥部 瓦	17.6	-	-	赤灰	赤灰	a-4	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転	口22.30	外壁に溝壁あり	C-26
130	1170 赤土	須弥部 土師器	敷土4.6	孔径1.2	-	-	-	a-4	溝壁	-	-	底8.20cm、 高さ30.0cm	外壁に溝壁あり	D-130
130	1175 上層積層	須弥部 舞台坪	12.4	6.4	2.9	灰白	灰白	X-a 5	溝壁	白クワ子	白クワ子、 へう切り	5.30	口壁一部に赤化付溝	Ⅴ、 D-349
130	1176 上層積層	須弥部 舞台坪	-	5.4	-	灰白	灰白	a-4	溝壁	白クワ子	黒轉	底30.30	外壁に溝壁あり	D-036
130	1177 上層積層	須弥部 土師器	敷土5.1	敷土3.6	孔径1.6	-	に少し黒	-	溝壁	白クワ子	白クワ子	36.30 底24.30	高さ3.6cm、 高さ5.9cm	D-017 D-014
130	1178 積土層	須弥部 舞台坪	11.6	7.8	4.0	灰	灰	D-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口10.30 底7.30	外壁に溝壁あり	D-039
130	1181 積土層	須弥部 坪身	-	8.4	(3.7)	灰	灰	C-b	溝壁	白クワ子	白クワ子、 へう切り	底13.30	外壁に溝壁あり	I D-004
130	1181 積土層	須弥部 坪身	12.0	0.7	3.5	灰	灰	-	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	底0.30	外壁に溝壁あり	I D-016
130	1182 積土層	須弥部 坪身	-	7.0	-	灰白	灰白	2a(0.0) 裏付	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	口4.30 底13.30	外壁に溝壁あり	I D-037
130	1183 積土層	須弥部 高坪	11.3	9.7	壁厚12.5	灰	灰	F-a	溝壁	白クワ子	白クワ子	底1.2	溝壁	溝壁 D-003
130	1184 積土層	須弥部 瓦	-	8.5	-	灰	灰	A-b	溝壁	白クワ子	白クワ子	底19.30	外壁に溝壁あり	D-040
130	1185 積土層	須弥部 瓦	-	6.6	(2.1)	-	-	壁厚 壁厚少	溝壁	白クワ子	白クワ子、 黒転へう切り	底0.30 底0.30	外壁に溝壁あり	D-005
130	1189 下部積土層	須弥部 瓦	11.6	-	4.2	灰	灰	C-b	溝壁	白クワ子	白クワ子	口9.30 底0.30	外壁に溝壁あり	D-22

第73表 C-D-K区第1面出土土器観察表3

※()は残存位置を示す。

検出番号	検出位置	出土時期(推定)	種別	形状	備考	時期	数量
139	1190 下層南出庫	11.6	口縁	底径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	1
139	1191 下層南出庫	12.4	胴部	底径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	1
139	1192 下層南出庫	11.3	胴部	底径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	1
139	1193 下層南出庫	-	胴部	底径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	1
139	1194 下層南出庫	-	土師器	底径 (cm)	高さ (cm)	口径 (cm)	1

第74表 C・D・K区第1面出土器類表4

※()は残存位置を示す。

検出番号	遺物番号	グリップ	出土層様	種類	最大径 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考		
137	1136	L-20M-28 L-20M-29 L-30L-29	7C1S053	鉢	2.86	1.48	7.78	緑色顔料		
138	1171	-	赤土	磨製石片	-4.63	4.90	2.11	88.81		
138	1172	-	赤土	磨石	7.54	5.96	3.67	298.72		
138	1173	-	赤土	-	19.54	10.53	5.19	1692		
138	1174	-	赤土	-	4.86	4.06	2.75	6.01		
138	1186	-	緑土	棒状物	-	7.4	4.1	2.5	113.19	
138	1187	-	緑土	磨石	3.99	3.91	1.63	19.05	緑色顔料	
138	1188	-	灰色土層	碧玉	1.86	0.57	-	0.76		
138	1189	-	赤土	外指	外径 (cm)	内径 (cm)	厚 (cm)	0.12	0.7	660部
138	1190	M-27M-28	7C1S003(P04)	網	-	-	1.22	1.0	0.6	

第75表 C・D・K区第1面出土石器・石製品・金属製品類表

※()は残存位置を示す。

検出番号	遺物番号	グリップ	出土層様	種類	最大径 (cm)	最大厚 (cm)	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	本取り	仕様	備考
139	1195	N-28	7C1P44(SB02)	柱礎	58.7	17	13.8	13.8	芯持水	クリ	
139	1196	N-28	7C1P60(SB02)	柱礎	24.8	13.2	5	5	芯持	スズ	
139	1197	N-28	7C1P89(SB02)	柱礎	89.4	18.5	5	5	芯持	スズ	
139	1198	N-27	7C1P27(SB03)	柱礎	140	22.7	14.6	14.6	芯持水	アヤダ	一部加工済みあり
139	1199	N-27	7C1P29(SB03)	柱礎	46.3	16.6	13.2	13.2	芯持水	カエラ	
139	1200	N-27	7C1P29(SB03)	柱礎	37.5	19.7	12.3	12.3	分銅材	アヤダ	一部酸化あり
139	1201	N-27	7C1P30(SB03)	柱礎	44.2	17.9	9.3	9.3	分銅材	アヤダ	一部加工済みあり
139	1202	N-28	7C1P48(SB04)	柱礎	31.9	12.2	11.8	11.8	ミカシ製材	アヤダ	
139	1203	M-28	7C1P29(SB04)	不明	38.3	10.5	10.2	10.2	分銅材	アヤダ	ほぼ全球面酸化
139	1204	N-28	7C1P25	柱礎	31	11	8.8	8.8	芯持水	ヤケラ	
139	1205	N-28	7C1P51	柱礎	37.5	6.6	5.1	5.1	芯持水	クリ	一部コアあり。 一部加工済みあり。
139	1206	L-28M-28 L-30L-29	7C1S053	不明	55.7	13.8	12.3	12.3	芯持水	4ノキ	一部加工済みあり
139	1207	M-20M-30 L-30L-29	7C1S053	磨材	135.3	15.6	8.3	8.3	分銅材	スズ	
139	1208	M-30	7C1S053	不明	137	20.7	2.8	2.8	磨目	スズ	
139	1209	M-30	7D-K1S099	磨?	76.1	9.8	3.8	3.8	磨目	スズ/ナイ	土質面酸化。 上部面酸化。 磨目あり
139	1210	M-30	7D-K1S099	砥	74.7	11.1	4.6	4.6	磨目	スズ/ナイ	上部面酸化
139	1211	-	-	-	64	16.6	7.1	7.1	磨目	スズ	一部加工済みあり

第76表 C・D・K区第1面出土石器・木製品類表

第6章 F区(Ⅱ区)の遺構と遺物

第1節 調査の概要

F区は、加茂遺跡の東端にあたる調査区である。西側を第9次調査(平成15・2003年度)F区に接しており、南側丘陵裾を上がるとマダゲン山地区(第6次・2001年度、巻頭写真参照)にあたる。調査時の調査区名は「Ⅱ区」が与えられていたが、第8次調査時にアルファベットで統一する見直しがあり、第9次調査で西側の調査区と一体のF区として調査されていた経緯を踏まえ、本書でもF区として報告する。調査記録や土器等の注記は「Ⅱ区」であることに注意されたい。

調査の結果、F区では弥生時代中期～古代で計4面の遺構面が確認され、本書ではF区第1面を報告する(F区西側1面及び2面以降は後刊の第9・10次調査報告書)。遺構では水田遺構、土坑5基、溝1条を検出した。水田遺構はグリッドPライン以北で調査区全域に渡り21枚を検出し、時期は田嶋編年古代Ⅵ期(9世紀末～10世紀前半、年代観は第4章第1節を参照)前後と推定する。水口等の水利関連遺構は確認できていない。以後の調査を通じ、水田域はグリッド32ライン(D・K調査区)まで拡がりを確認した。遺物は古代Ⅳ期(8世紀後半)～古代Ⅵ期を中心とする土師器・須恵器が出土し、下層確認のトレンチからは弥生時代～古墳時代の土器も出土している。本文中では遺構番号冒頭に付した「7F1」は省略した。

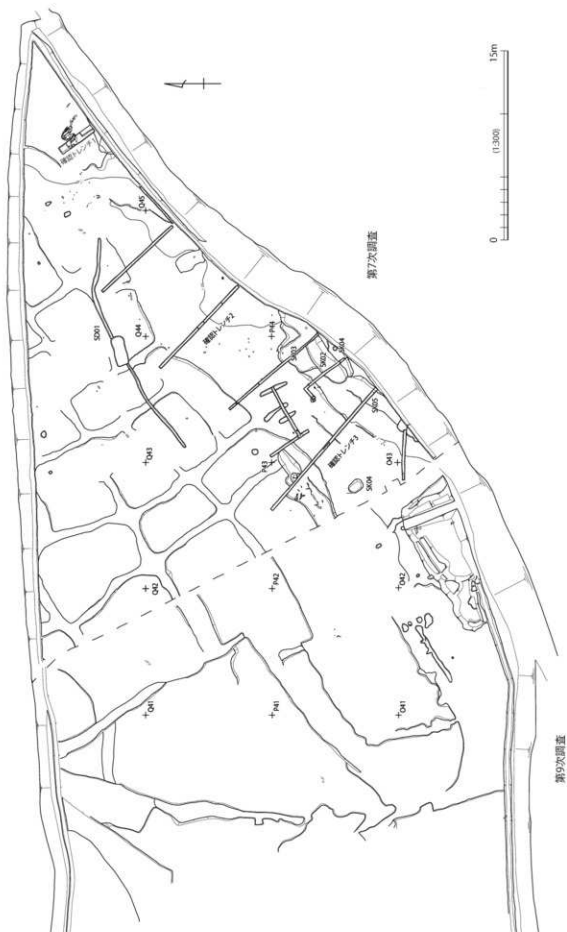
第2節 遺構と遺物

F区の基本的な層序は第149・150図に示した。確認トレンチ1では、南東側の低丘陵(第6次調査マダゲン山)から延びる丘陵裾緩斜面地山層である淡茶灰色粘質土(第7～9層。この層自身も丘陵流出土ないし崩落土)を覆うように北側に向かって淡灰～青灰色砂系の洪水堆積層(第1～6層)が広がっており、水田遺構はこの堆積層上に形成される。これらの層には有機物層や洪水砂が互層状に見られることから、ある程度の沼～湿地状態を挟みながら堆積を繰り返していたようである。確認トレンチ2-1・3では、第2面以下(第9次調査)の堆積状況が確認できる。第1面基盤層となる黄灰色系シルトの下には、2～3層の灰色系シルト層(第4・25・30層等)があり、その下に木質系の有機物や古墳時代の須恵器等を含む茶褐色系粘質土(第19～21層等)、さらにその下に弥生時代後期の土器を含む層(第27・28層)が続く。

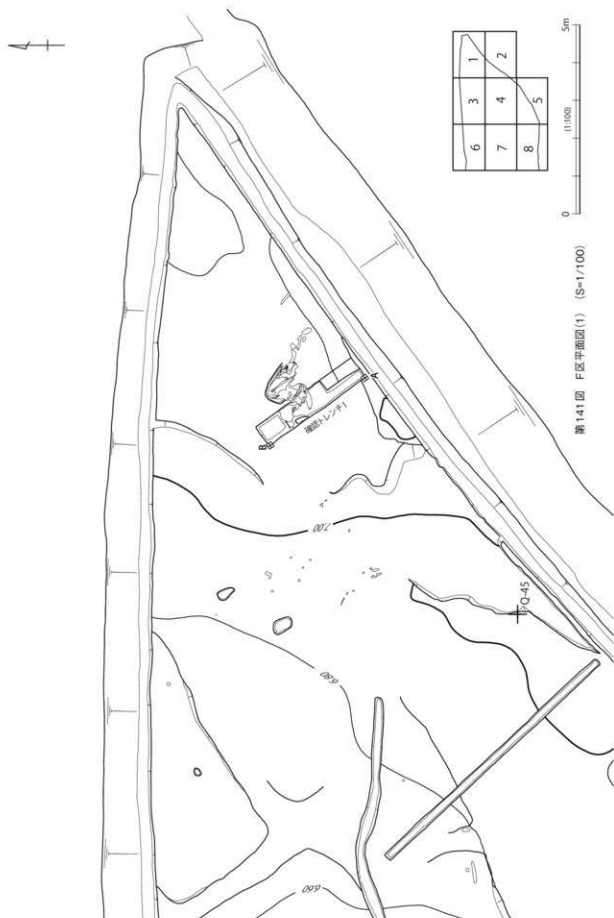
確認トレンチの遺物は第151図1212～1226を図示した。須恵器無台坏1212・1213は古代Ⅳ₂～Ⅴ₁期、内黒土師器無台坏1214・土師器無台坏1215はいずれも底部糸切り離して、古代Ⅵ₁期以降の所産。土師器甕1216は内外面ともハケ調整、古墳時代前期の所産か。1219は甕と考えられる土師器で、器厚は厚く、砂・小礫を多く含む。甕の内部に差し込むのではなく、甕の口縁上に置かれたものであろう。1220は滑石製の紡錘車。木製品1221～1226は確認トレンチ3の中央部で確認された、板状木製品を敷き並べた集中箇所(調査時は「板敷状遺構」)の出土。樹種は全てスギで、何らかの部材の転用であろう。

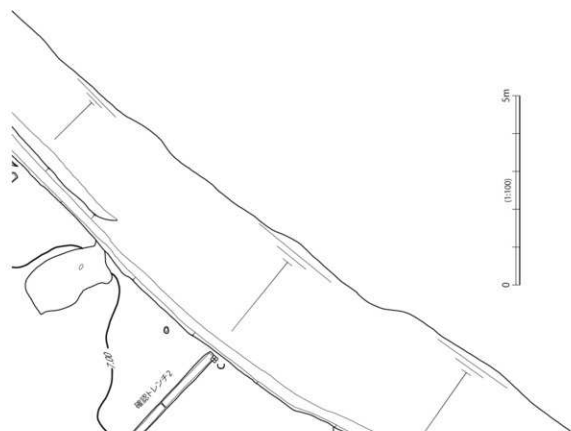
水田遺構(遺構：第152図、遺物：第153図)

約21枚の水田区画を確認した。水田の番号は本報告で新規に付したもので、調査区名+調査面+

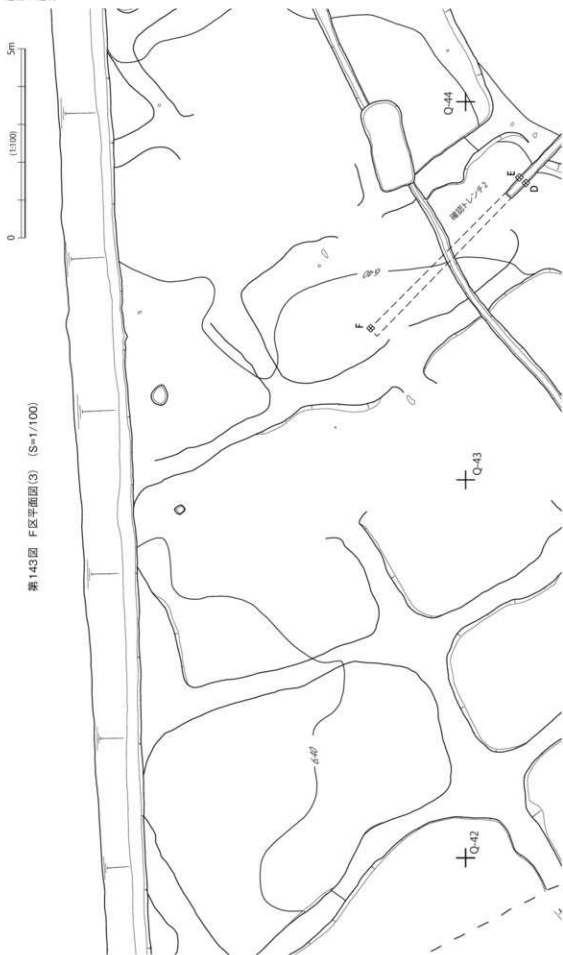


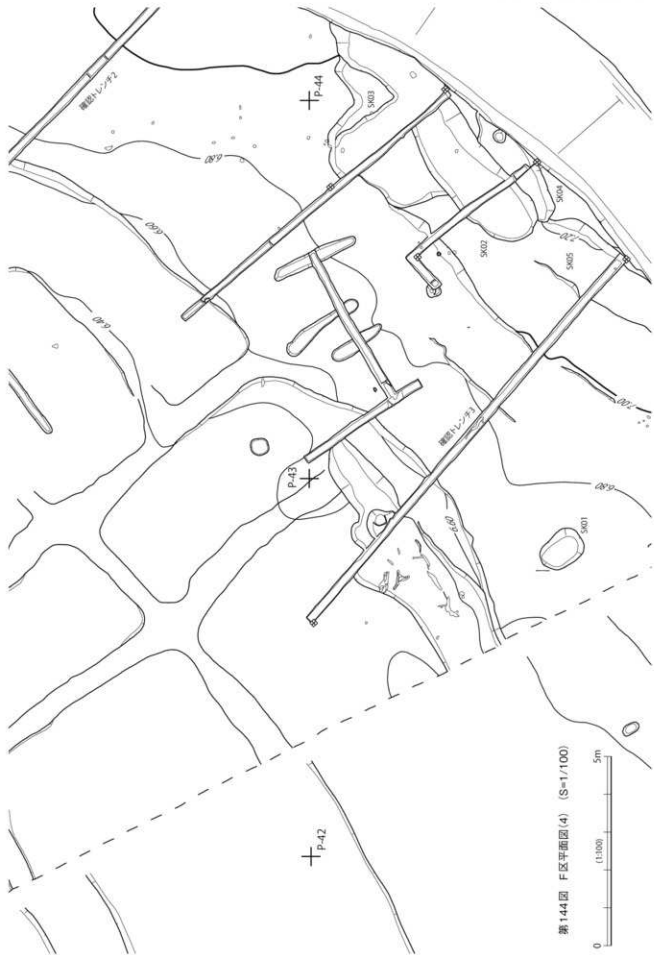
第140図 F区第1面主要遺構配置図(S=1/300)



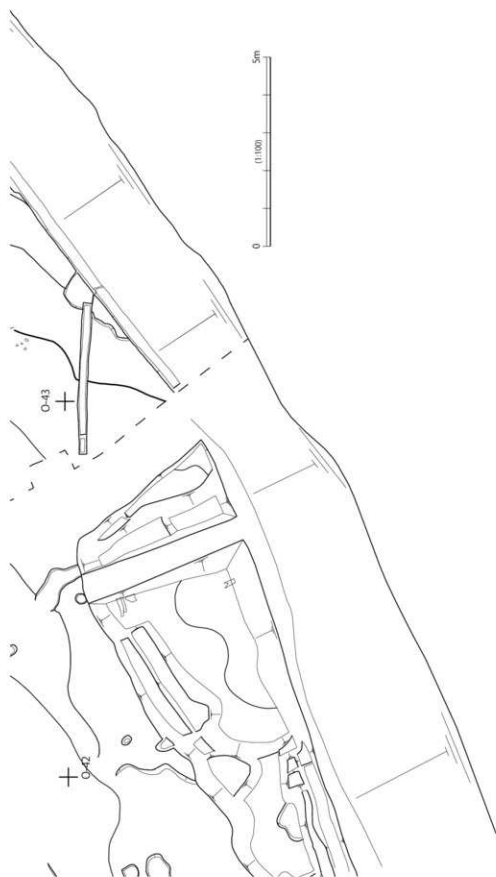


第142図 F区平面図(2) (S=1/100)



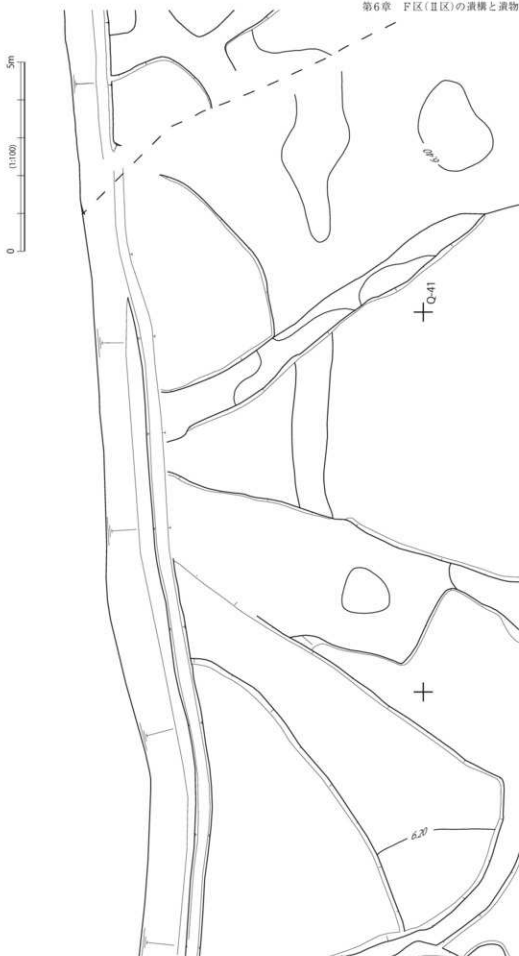


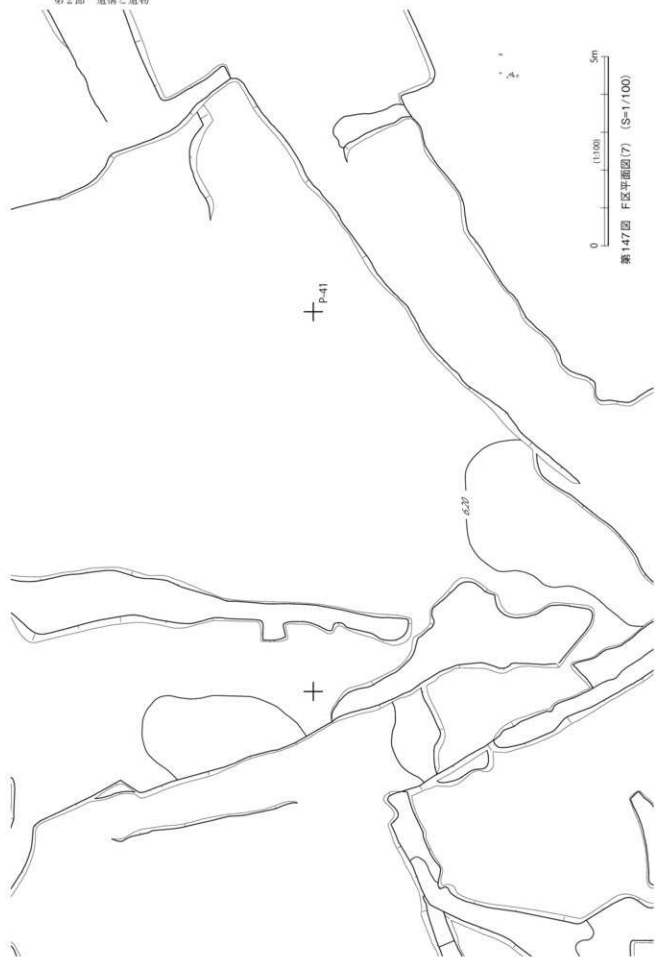
第144図 F区平面図(4) (S=1/1000)

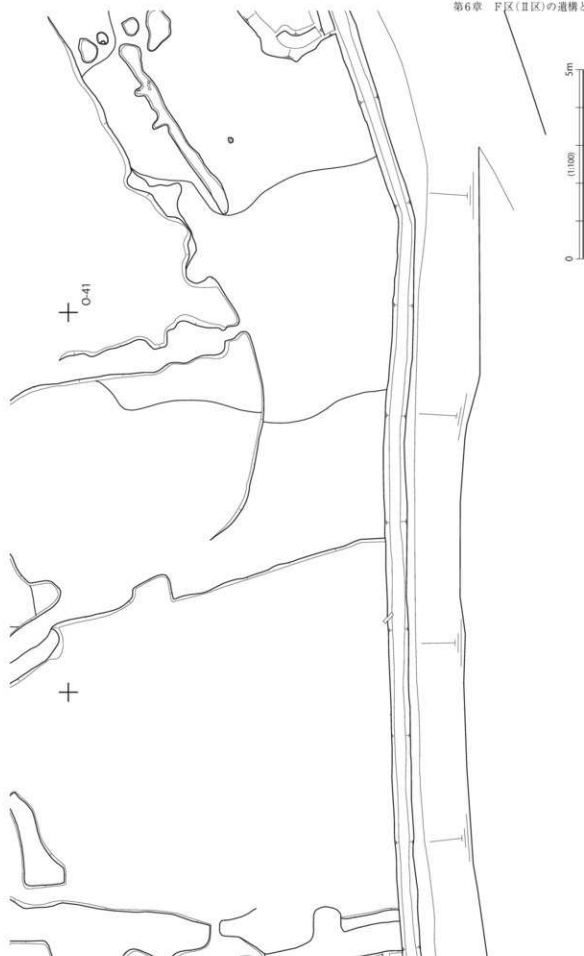


第145図 F区平面図(5) (S=1/100)

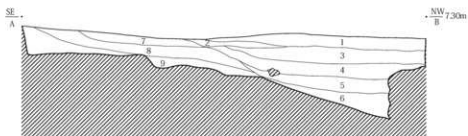
第146図 F区平面図(6) (S=1/100)





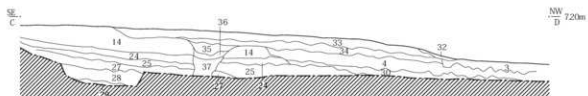


第148図 F区平面図(8) (S=1/100)



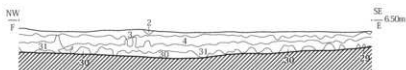
確認トレンチ1 (西壁)

1. 淡灰色砂 (小砂粒含む。)
2. 淡黄灰色砂
3. 淡青灰色砂 (茶灰色粘土を互層状に含む。)
4. 淡青灰色砂 (左側は、有機物を互層状に含む。)
5. 淡青灰色砂 (淡灰色粘土を含む。)
6. 茶灰色粘質土 (青灰色砂を互層状に含む。有機物質。)
7. 淡茶灰色粘質土 (砂、小砂粒含む。)
8. 淡茶灰色粘質土 (茶灰色土混じる。)
9. 淡茶灰色粘質土 (茶灰色土がブロック状に混じる。)



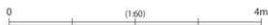
確認トレンチ2-1 (西壁)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 3. 茶褐色粘質土 (有機物含む。ふかふかしている。) 4. 茶灰色～灰色粘質土 14. 暗黄灰色～淡黄灰色シルト 24. 淡茶灰色粘質土 25. 青灰色粘土 27. 青灰色砂 (茶灰色土含む。発酵後期?土層含む。) 28. 茶褐色粘質土 (有機物質。) 29. 青灰色砂 | <ol style="list-style-type: none"> 30. 暗灰色粘土 32. 淡灰色砂 33. 淡茶灰色粘質土 (礫、砂含む。) 34. 淡茶灰色粘質土 (S33に比べ砂を含む量少ない。) 35. 淡灰色粘質土 36. 淡灰色砂 (淡灰色粘質土混じる。) 37. 灰色粘土 (砂粒含む。) |
|---|---|

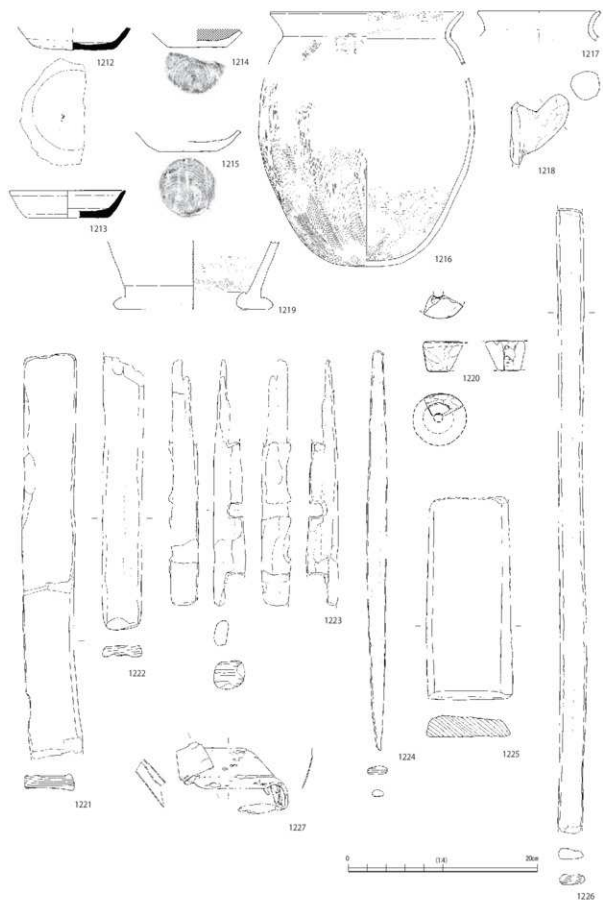


確認トレンチ2-2 (東壁)

2. 暗茶褐色～黒褐色粘質土
3. 茶褐色粘質土 (有機物含む。ふかふかしている。)
4. 茶灰色～灰色粘質土
29. 青灰色砂
30. 暗灰色粘土
31. 茶褐色～黒褐色粘質土 (砂含む。確認トレンチ3-20層に類似。)



第149図 確認トレンチ1・2断面図(S=1/60)



第151図 F区第1面確認トレンチ出土遺物実測図(S=1/4)

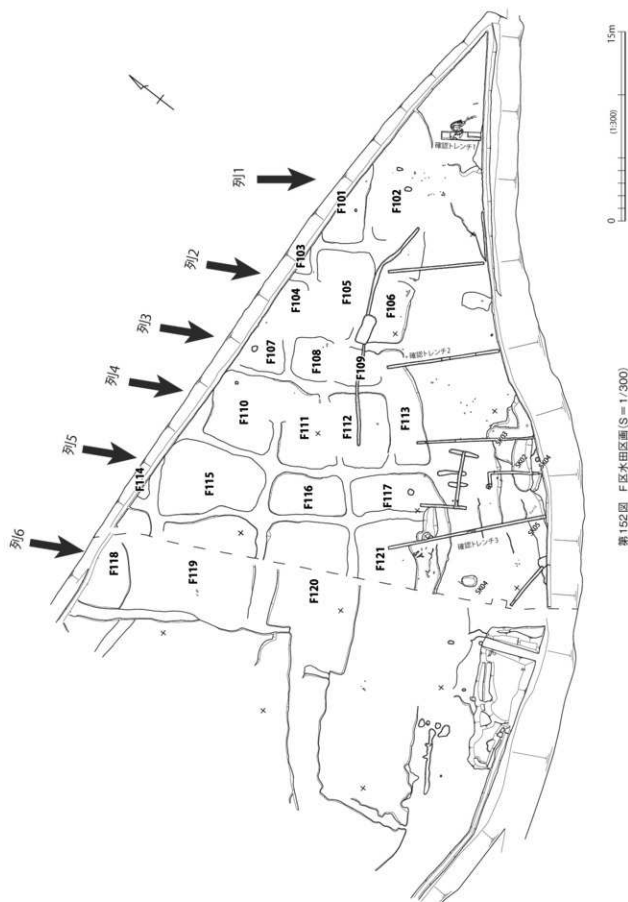
番号となっている(F101であればF区第1面水田1、となる)。畦畔等は確認できず、ほぼ平面の状態を検出されており、また水口のような水利施設も未確認であった。水田の方位軸をみると、約30度前後(31~39度)西傾して比較的揃い、切り合う様相も認められなかったことから同時期に営まれた水田と判断した。形状は短冊型・長方形型・正方形型の3種類が認められ、南北方向に揃う傾向を見せており、列1~列6までにグルーピングした。各水田の規模等の詳細は、第77表に示した。調査区内で用排水路は確認できない。層序は確認トレンチ2・2・トレンチ3で確認でき、土は有機物質を含むしまりのない茶褐色粘質土を基本とし、部分的に上層に黒褐色砂質土が残る水田もある。層厚は17~19cm前後を測る。

- 列1(F101・102) 東西方向に短冊形を呈し、長軸は8mを越える。軸はN39°-W。
 列2(F103~106) 基本長方形を呈する。規模は不揃いで、軸はN35°-W。
 列3(F107~109) 正方形~南北方向に長方形を呈する小型の水田。軸はN31°-W。
 列4(F110~113) 東西に長方形。113は東西に短冊形。軸はN31°-W。
 列5(F114~117) 南北に長方形、117は短冊状か。軸はN36°-W。
 列6(F118~121) 大型の水田で形状は不揃い、軸はN35°-W。

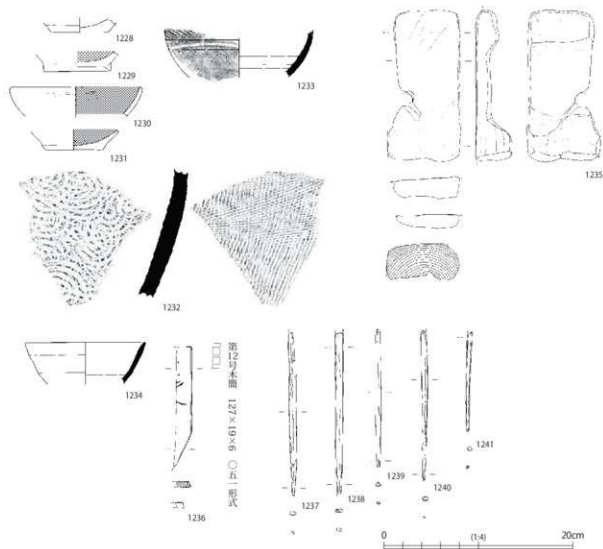
水田番号	平面形	規模(m)			各水田面の標高(m)			備考
		面積	長軸	短軸	最高	最低	標高差	
F101	短冊	(18.8)	(5.8)	3.3	6.63	6.59	0.04	調査区外に延びる
F102	短冊	34.5	8.4	4.1	6.77	6.73	0.04	
F103	-	-	-	-	6.55	-	-	調査区外に延びる
F104	-	-	-	(2.2)	6.45	-	-	調査区外に延びる
F105	長方形	31.7	6.9	4.6	6.62	6.52	0.10	
F106	長方形	14.7	4.8	3.0	6.77	6.57	0.20	
F107	方形?	(8.5)	(3.2)	2.7	6.41	6.36	0.05	調査区外に延びる
F108	方形	10.4	3.4	3.1	6.42	6.37	0.05	
F109	方形	9.9	3.2	3.1	6.49	6.41	0.08	
F110	方形	30.0	5.7	5.2	6.40	6.32	0.08	
F111	長方形	28.0	5.9	4.7	6.34	6.26	0.08	
F112	長方形	22.5	6.0	3.7	6.35	6.31	0.04	
F113	短冊	24.6	9.2	2.7	6.54	6.41	0.13	
F114	-	-	-	-	6.44	-	-	調査区外に延びる
F115	短冊?	50.3	8.3	6.0	6.42	6.36	0.06	
F116	短冊	19.4	6.0	3.2	6.36	6.26	0.10	
F117	短冊	19.2	6.7	2.9	6.47	6.30	0.17	
F118	-	32.8	10.5	3.1	6.32	6.31	0.01	
F119	長方形	74.8	10.1	7.4	6.41	6.29	0.12	
F120	長方形	87.7	13.6	6.4	6.26	6.25	0.01	
F121	-	(39.7)	7.2	(5.5)	6.41	6.31	0.10	

第77表 F区第1面水田遺構規模等一覧

遺物は第153図1228~1233を図示した。現場の注記で、1228・1231がF121ないしF117からの出土であることが確認できる。土師器・内黒土師器16~19は古代Ⅵ期の所産で、無台埴1228は底部に糸切り産し痕跡を残すことからⅤ₂~Ⅴ₃期に位置づけられる。須恵器甕1233は5世紀後半の所産か。下駄1235はクリ材の一本作り。



第152図 F区水田区画(S=1/300)



第153図 F区第1面水田・SK01出土遺物実測図(S=1/4)

SK01 (遺物：第153図)

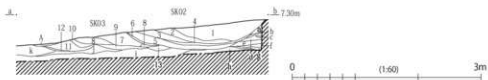
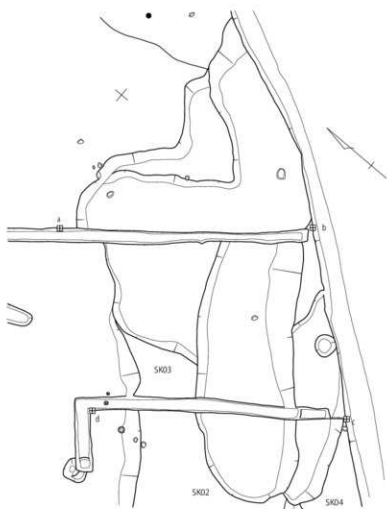
P-42区で検出した不整楕円形を呈する土坑で、長軸1.22m×短軸0.84m、深さ0.34mを測る。遺物は第153図1234～1241を図示した。須恵器坏1234は古代V期。板状木製品1236は第12号木筒。ヒノキ板目材で、方頭で下端を尖らせる。片面に墨痕が2文字確認できるが、左側を欠損し不詳。県内でヒノキ材を使用する木筒は大変珍しく、転用材かもしれない。26～30は箸状木製品。土坑の時期は須恵器からは9世紀代となるが、箸状木製品が出土することから中世に下る可能性もある。

SK02 (遺構：第154図、遺物：第156図)

P-43区で検出した溝状の不整楕円形な土坑で、前後の状況からSK05とあわせて溝状遺構と理解する方が良いだろう。幅約1.5m・深さ0.38mを測り、南西→北東方向へ流れる。SK03を切り込み、SK04に切り込まれる。覆土は茶褐色～茶灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物はSK03で後述する。

SK03 (遺構：第154図、遺物：第156図)

P-43区で検出した不整形を呈する土坑で、SK02・04に切り込まれる。長軸3.58m・短軸2.76m、深さ0.37mを測る。覆土は茶褐色～茶灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物は同時に取り上げ



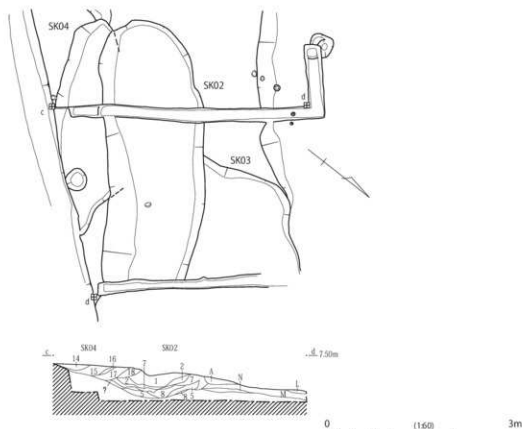
SK02

1. 暗茶褐色粘質土（多層に砂含む。）
2. 淡茶灰色粘質土（多層に砂含む。1層が層状に凝じる。）
3. 淡茶灰色砂質土
4. 淡灰色粘質土（多層に砂含む。）
5. 暗灰色～黒灰色粘質土（多層に砂含む。炭化物多く含む。）
6. 淡灰色砂質土（炭化物含む。）
7. 黄灰色粘質土（砂多層に含む。）
8. 茶灰色粘質土（有機物の濃層。）

SK03

7. 暗茶褐色粘質土（多層に砂含む。）
8. 淡茶灰色砂質土
9. 灰色砂質土（炭化物含む。）
10. 淡茶灰色粘質土（多層に砂含む。茶褐色土が層状に凝じる。）
11. 淡茶灰色粘質土（多層に砂含む。）
12. 淡灰色砂（灰色粘質土を互層状に含む。）
13. 茶褐色粘質土（多層の砂含む。）
- a. 淡茶灰色粘質土（砂多層に含む。）
- b. 灰色粘質土（炭化物多く含む。）
- c. 黄褐色細砂
- d. 淡灰色細砂
- e. 灰色砂質土（炭化物含む。）
- f. 暗灰色粘質土
- g. 黄灰色砂
- h. 黄灰色小砂利
- i. 黄灰色～灰色粘質土（砂、炭化物含む。）
- j. 黄灰色砂質土
- k. 黄灰色～灰色粘質土
- A. 黒褐色粘質土（暗黄褐色粘質土ブロック多く含む。）

第154図 F区SK02・03平面・断面図(S=1/60)



SK02

1. 暗茶褐色粘質土 (砂多量に含む。)
2. 淡茶灰色粘質土 (砂多量に含む。1層が層状に混じる。)
5. 暗灰色～黒灰色粘質土 (砂多量に含む。炭化物多く含む。)
7. 黄灰色粘質土 (砂多量に含む。)
8. 茶灰色粘質土 (有機物の混層。)

L. 暗黄灰色砂

M. 灰色砂質土

N. 暗黄灰色砂質土 (灰色粘質土が互層状に混じる。)

A. 暗灰色～黒灰色粘質土多量に砂含む (第4段状の落ちの覆土あるいは水田か畑?)

SK04

14. 暗茶褐色粘質土 (多量の砂含む。)
15. 灰色粘質土 (多量の砂含む。)
16. 暗黄灰色砂質土
17. 灰色粘質土 (14、15、16層が混じる層。)
18. 暗黄灰色砂質土

第155図 F区 SK02・04平面・断面図(S=1/60)

られたSK02の物を含め、第156図1242～1264を図示した。須恵器有台塊1242は断面三角形の矮小化した高台が巡り、VI₂期の様相を示す。須恵器無台塊1243もほぼ同時期の所産か。1244～1251は土師器埴皿類でVI₂～VI₃期。1251は糸切り底の無台皿。1252・1253は須恵器長胴瓶。1255～1262は弥生時代～古墳時代の土器で、下層の混じりと考える。1240・1241は土師器の甕で、外面ハケ・内面ハケとヨコナデ調整、古代I₂～II₁期の所産か。1256・1260～1262は弥生時代後期後葉の、法仏～月影式の高坏と壺蓋。1263・1264はSK03付近からの出土。以上からSK02は古代VI₂～VI₃期(10世紀前葉)以降の所産と考え、SK03はほぼ同時期か、下層の7世紀後半代の遺構となる可能性もある。

SK04(遺構：第155図、遺物：第156図)

P-43区で検出した溝状の不整楕円形な土坑で、長軸2.96+m・短軸0.69+m、深さ0.22mを測る。SK03を切り込み、覆土は地山質の黄灰色～灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物は第158図1265～1267を図示した。土師器有台塊1265はVI期の所産である。

SD01(遺物：第156図)

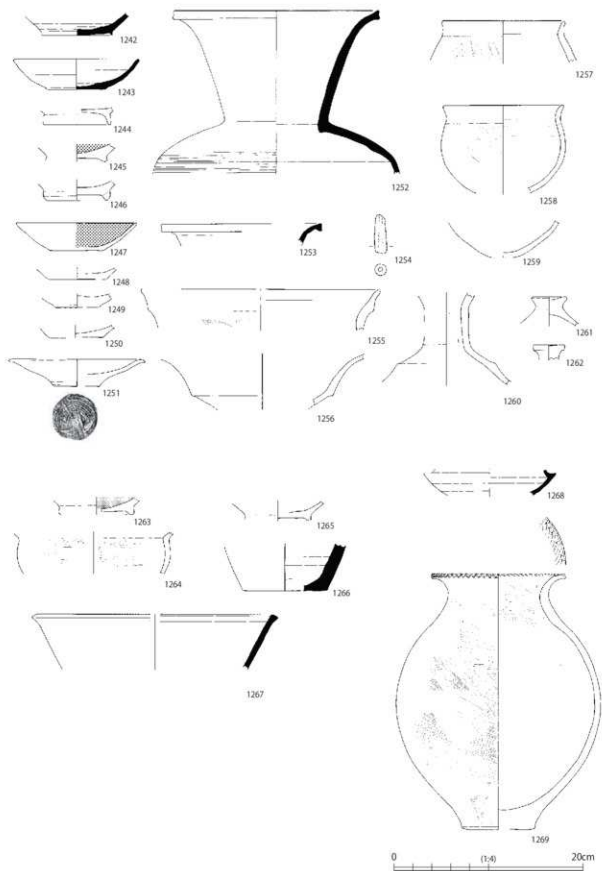
Q～R-43～44区で検出した溝で、調査時の所見では「淡黄灰色砂が根株状に並ぶ」とあることから

植栽痕の類であろう。遺物は坏H身1268を図示し、古代Ⅰ₂～Ⅱ₁期の所産が。

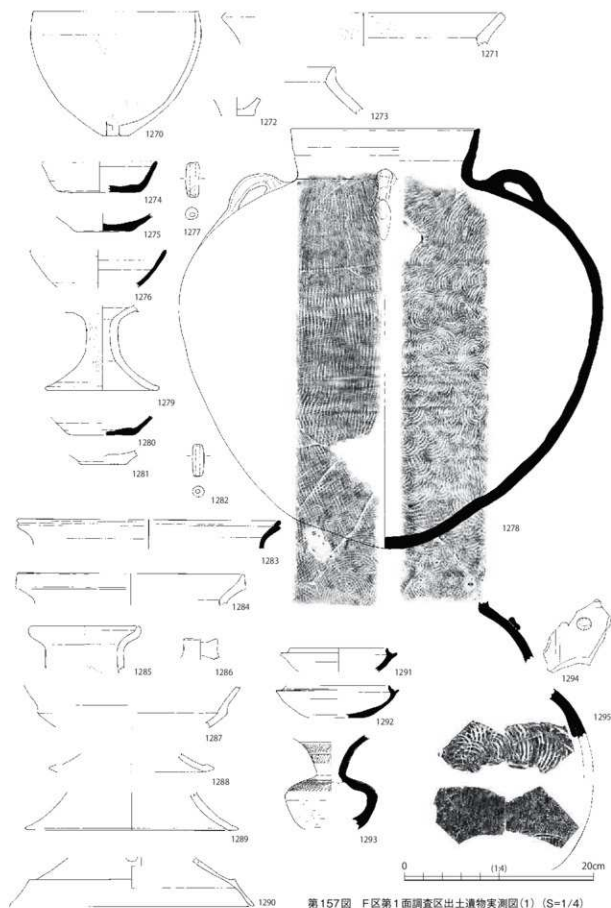
その他の遺構・調査区の遺物(遺物：第156～158図)

1269～1345は調査区内出土の遺物。1258～1266は下層確認トレンチないしそれに類する箇所からの出土。1269・1270は弥生時代中期の壺と有孔鉢で、1271～1273も弥生・古墳時代の土器であり、層名しか記していないがトレンチから出土したものか。1278は須恵器四耳壺で、第2面(茶褐色土)からの出土である。口縁に2条の沈線を巡らし、最大径が体部上半にあり降灰が著しく、肩部に環状の耳を4つ配置する。類例に乏しいが、2面の7世紀後半代とすれば古代Ⅱ期の可能性が高く、胎土は不明だが北側の丘陵に位置する加茂窯のそれに類似する。1279～1283は他の確認トレンチ(断面図・写真なし)からの出土である。1283は須恵器大甕の口縁部で、古墳時代中期にさかのぼるか。1284～1345は遺構検出時・側溝掘削時の出土。1284～1290は弥生時代後期の壺・高坏類。1291・1292は須恵器坏H身、1293は甕、1294は提瓶、1295は横瓶で、Ⅰ2期の所産。胎土は不明だが、坏H身では金沢市観法寺窯や加茂窯に類似するものがある。須恵器蓋1296は無鈕タイプで、天井部に墨書するが不詳、内面は転用硯として用いられている。Ⅵ₂期。須恵器有台坏1297～1299はやや古く、Ⅳ₁～Ⅳ₂期の所産。1300は有台坏ではなく小型の壺類の可能性もある。須恵器無台坏1303は外底部に「里」を大ぶりな字で墨書する。Ⅵ₂期。須恵器無台坏1304は外底部に不明墨書、内面は転用硯として用いられている。Ⅵ₁期。須恵器坏1307は口縁部に油煙痕があり灯明として用いられたもの、Ⅴ～Ⅵ期か。1308・1309は須恵器皿類でⅥ₂期。1310～1316は土師器壺類で、1310～1313は内黒土師器、Ⅵ₂～Ⅵ₃期。1318～1323は土師器甕類、1324～1326は土師器甌ないし塙の把手で古代の所産。1332はフイゴ羽口である、1333は磁器製の蓋で外面に灰釉、内面は無釉で印籠造り。甕等の保存容器か、骨壺の蓋となるか。1334・1335は鉄滓で形状的に椀形滓になるか。1336は擦り石で端面に摩耗痕を残す。1337・1338はヒノキ材を用いた、箱状の組み物容器か。1339は両面黒漆の漆器椀で樹種はトチノキ。1340～1345は曲物底板。

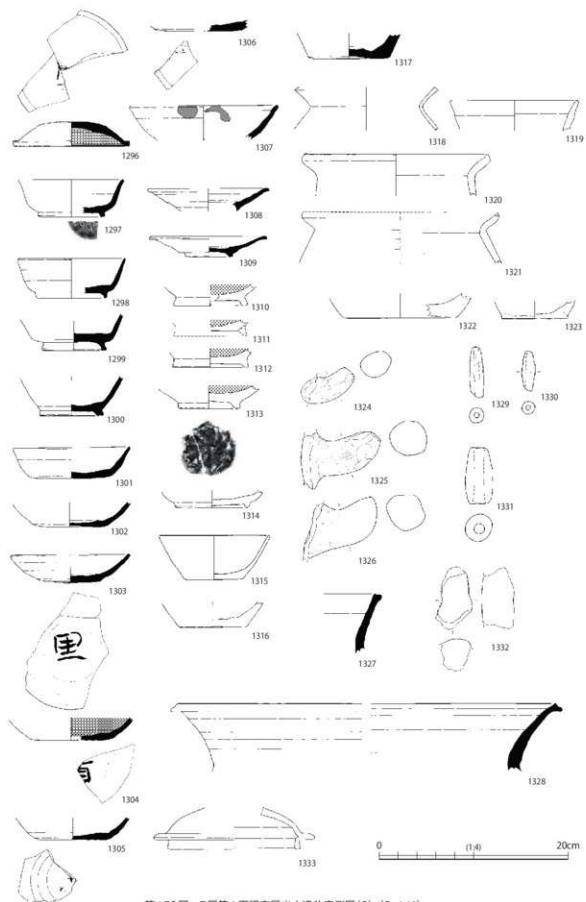
1346～1363は工事立会時の採取品で、ラベルに「工事立会 9区大溝」の記載があるが、埋蔵文化財センター・県文化財課両者とも記録が残らず詳細は不明。出土地点は、第1次調査区C区下7グリッドの大溝出土品と推定する。須恵器有台坏1347は外底面に「英□」とあり、当地の古代郷名である「英太」を記したか。Ⅳ₁期。「英太」墨書は加茂遺跡南大溝地区で約30点と多く出土し、時期分布も古代Ⅲ期～Ⅵ期(8世紀初頭～10世紀)と幅広い。須恵器有台坏1348は器高の高い器形で、高台は緑軸土器に見られる有段状の高台を呈する。Ⅵ₁期。須恵器無台坏1352は外底面に「万」を墨書、Ⅳ₂期。土師器無台坏1340は薄手の作りで、須恵器の器形を模倣したものか。摩耗が著しく調整等不明。須恵器鉢1360は器形などからⅤ期の所産か。



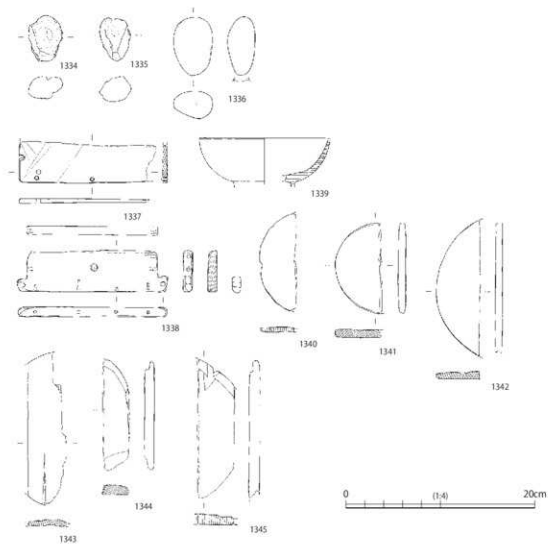
第156図 F区第1面SK02-03-04、その他の遺構出土遺物実測図(S=1/4)



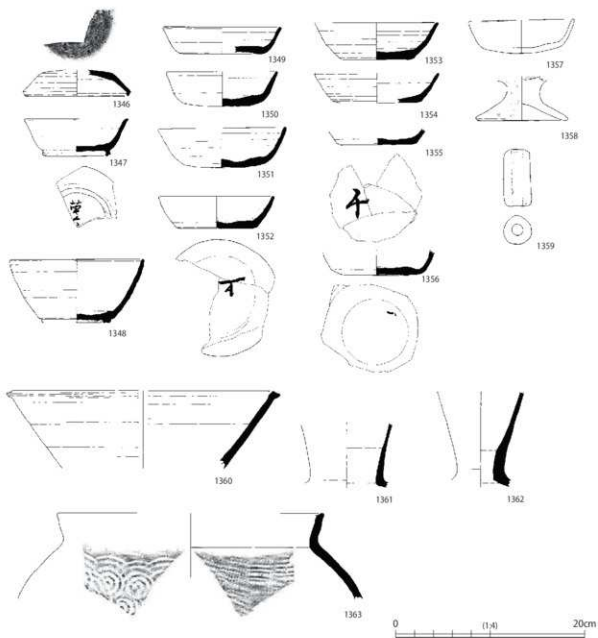
第157図 F区第1面調査区出土遺物実測図(1) (S=1/4)



第158図 F区第1面調査区出土遺物実測図(2) (S=1/4)



第159図 F区第1面調査区出土遺物実測図(3) (S=1/4)



第160図 工事立会(9区大溝) 出土遺物実測図(S=1/4)

年度 番号	グレード	地区名称	種別	用途	口積 (㎡)	延床 (㎡)	積算 (㎡)	内積算 (㎡)	外積算 (㎡)	積上 部分	積上 方式	形成	内積算 箇所	外積算 箇所	通行車	面積	備考	
151	1212	福岡トレンテ2 中央～北	商業街	新設	-	8.5	0.5	0.5	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	内積算面積外、内積算一層 上層
152	1213	福岡トレンテ2中央～北	商業街	新設	12.2	8.7	2.9	2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1214	福岡トレンテ2東側付託	商業街	新設	-	6.4	1.6	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
154	1215	福岡トレンテ2中央～北	商業街	新設	-	6.3	2.1	2.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
151	1216	福岡トレンテ2中央～北	商業街	新設	20.2	8.0	5.7	5.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
151	1217	福岡トレンテ2中央～北	商業街	新設	12.6	-	2.8	2.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
151	1218	福岡トレンテ2東側付託	商業街	新設	-	17.0	7.2	7.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
151	1219	福岡トレンテ2中央～北	商業街	新設	-	6.1	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1220	P-42 43	水田	新設	-	7.1	1.8	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1220	P-42 43	水田	新設	-	7.1	1.8	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1230	Q-44	水田	新設	13.7	-	3.2	3.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1231	Q-43	水田	新設	-	6.2	2.0	2.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1232	Q-44	水田	新設	-	13.3	3.5	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1233	Q-43	水田	新設	-	5.1	1.5	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
153	1234	P-43	7715A02/03土	商業街	12.6	-	4.4	4.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1242	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	7.5	2.1	2.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1243	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	13.2	6.2	3.5	3.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1244	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	7.2	1.5	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1245	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	1.3	0.3	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1246	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	6.2	1.7	1.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1247	P-43	7715A02/03土	商業街	12.7	5.6	3.0	3.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1248	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	6.3	3.1	3.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1249	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	4.8	1.0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1250	P-43	7715A02/03土	商業街	新設	-	5.9	1.1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1251	P-43	7715A02/03土	商業街	13.4	5.1	2.9	2.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1252	Q-43 Q-44	7715A02/03土 林道等、保通 路、歩道等(個人利用)	商業街	21.6	-	0.7	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1253	P-43	7715A02/03土	商業街	16.7	-	2.3	2.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
156	1254	P-43	7715A02/03土	商業街	4.1	最大積 1.3	積上 0.4	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 10-10 建設費

標準番号	グループ	施工領域	種別	用途	構造	高さ (m)	積載量 (kg)	内径 (mm)	外径 (mm)	鋼土	鉄工	鋼材	内径 (mm)	外径 (mm)	付属品	備考	規格	標準
157 1204 -		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	24.0	-	324	336	縦筋・斜筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-581	
157 1205 P-43		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	11.3	-	4.5	336	縦筋・斜筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-259	
157 1206 -		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	3.7	-	336	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-600	
157 1207 -		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-587	
157 1208 O-42, 43		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	17.6	-	2.0	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-590	
157 1209 P-R-42 ~44		射出コンクリート	土留	壁	鋼筋コンクリート	29.6	-	4.0	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-596	
157 1200 O-43		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	25.0	-	5.2	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			C-594	
157 1201 P-R-42 ~44		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	10.3	-	2.5	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-262	
157 1202 -		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	13.2	-	3.4	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-244	
157 1200 P-R-42 ~44		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	(10.0)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-264	
157 1204 P-R-42 ~44		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	(7.7)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-264	
157 1205 P-42, 43		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-266	
157 1206 O-43		射出コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-266	
158 1206		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	12.0	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-264	
158 1207 P-R-42 ~44		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	10.9	-	4.9	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-248	
158 1208 -		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	11.4	-	7.6	4.2	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-243	
158 1209 -		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	7.0	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-241	
158 1300 -		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-242	
158 1301 -		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-251	
158 1302 P-R-42 ~44		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	12.2	-	8.8	3.4	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-251	
158 1300 P-43 タワリ		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	12.4	-	6.7	3.0	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-251	
158 1304 P-R-42 ~44		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	6.8	(2.4)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-257	
158 1306 鋼筋		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	7.4	(2.4)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-257	
158 1306 鋼筋		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	(3.0)	-	(1.1)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-251	
158 1207 P-R-42 ~44		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	15.6	-	3.6	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-253	
158 1300 P-43		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	12.7	-	2.4	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-258	
158 1300 P-R-42 ~44		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	12.2	-	6.0	2.2	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-257	
158 1310 P-45		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	7.8	(2.2)	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-260	
158 1311 -		鋼筋コンクリート	物置土留	壁	鋼筋コンクリート	-	-	-	336	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋	縦筋			D-263	

※80表 F区第1面上路鋼筋表3

図号 (遺構番号)	グリッド	地土地層	種類	形状	口径 (cm)	底径 (cm)	内径 (cm)	外径 (cm)	外周形状	出土遺物	土質	構成	内周形状	外周形状	用途	備考	図号
158 1312	P-11-42 ~44	耕田土層 土層	土製土器	茶碗	21.4 底径20.0	-	18	19	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-247
158 1313	P-11-42 ~44	耕田土層 土層	土製土器	茶碗	7.8	1.2	6	7	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	-	V1
158 1314	P-11-42 ~44	耕田土層 土層	土製土器	茶碗	6.6	1.2	5.4	6.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	-	V1
158 1315	P-42-03	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	11.6	6.2	4.8	11.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	V1-3
158 1316	P-42-03	耕田土層	土製土器	茶碗	7.2	1.2	6	7.2	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	V2
158 1317	P-42-03	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	8.8	2.7	6	8.8	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-260
158 1318	P-11-42 ~44	耕田土層 土層	土製土器	茶碗	14.4	4.3	10	14.4	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-263
158 1319	Q-44	赤土層土	赤土層土	茶碗	13.2	-	3.1	13.2	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-260
158 1320	-	耕田土層	土製土器	茶碗	19.4	(4.5)	14	19.4	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	C-563
158 1321	-	耕田土層	土製土器	茶碗	(20.6)	(5.4)	15	20.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	C-562
158 1325	-	耕田土層	土製土器	茶碗	12.0	(2.6)	10	12.0	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-320
158 1326	P-42-44 0-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	7.1	1.9	5.2	7.1	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-328
158 1329	-	耕田土層	土製土器	茶碗	-	-	-	-	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	-	D-320
158 1330	P-42-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	(6.1)	1.1	4.9	6.1	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-300
158 1331	P-42-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	5.7	1.1	4.6	5.7	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-286
158 1327	Q-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	(8.2)	(2.2)	6	8.2	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-304
158 1328	-	耕田土層	土製土器	茶碗	(40.0)	-	-	-	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-282
158 1329	P-42-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	底径 7.5 1.6	0.6	6.9	7.5	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-309
158 1330	P-42-43	赤土層土・赤土層中 土層	土製土器	茶碗	底径 4.3 1.4	0.4	3.9	4.3	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-309
158 1331	-	耕田土層	土製土器	茶碗	底径 5.6 1.4	0.4	5.2	5.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-302
158 1332	-	耕田土層	土製土器	茶碗	底径 6.6 3.8	3.5	3.2	6.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-302
158 1333	-	耕田土層	土製土器	茶碗	14.1	(4.5)	-	14.1	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-260
160 1346	-	工事土層 95C土層	陶器	円盤	10.9	-	12	10.9	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1347	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	7.8	7.2	4.0	7.8	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1348	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	7.1	7.4	6.7	7.1	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1349	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	12.3	9.0	2.9	12.3	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1350	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	11.6	8.6	3.7	11.6	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1351	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	13.4	8.7	4.3	13.4	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268
160 1352	-	工事土層 95C土層	陶器	茶碗	12.0	8.5	3.5	12.0	内径	磁石、磁石、磁石、赤色土	磁石、磁石、磁石、赤色土	土製土器	土製土器	土製土器	茶碗	底径20.0 内径	D-268

第81表 F区第3 面土器観察表4

調査年度	クワッド	地土編制	種別	用途	CD値 (㎡)	容積率 (%)	高さ (m)	内照面積	外照面積	地上	形成	内照面積	外照面積	通行車	備	種別	調査年度
160 1303	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	新田併	13.0	8.0	4.0	庇	Dc-3	埋戻・埋戻・埋戻x1.0x	埋戻	ロ70x子	ロ70x子,ハ9x部1	D5.96	-	N2	D-257
160 1304	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	新田併	13.0	9.4	3.2	庇	Dc-1	埋戻・埋戻少溝x1.0x	埋戻	ロ70x子	ロ70x子,ハ9x部1	D7.36 高10.26	敷地延長有り	V1	D-259
160 1305	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	新田併	-	8.0	(1.7)	庇	Dc-1	埋戻少,埋戻少	埋戻	ロ70x子	ロ70x子,ハ9x部1	D30.26	内照面積有り 内照面積有り	102~V	D-263
160 1306	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	新田併	-	7.0	(2.7)	庇	Dc-1	埋戻少,埋戻少	埋戻	ロ70x子	ロ70x子,ハ9x部1	D36.26	内照面積有り 内照面積有り 付置	W17	D-267
160 1307	-	工事立会 90x大溝	土留路	新田併	11.1	0.2	3.6	透射壁	b-4	埋戻・埋戻・埋戻x1.0x	員	厚板	厚板	D22.26 D23.26	内照面積有り 内照面積有り	V7	D-263
160 1308	-	工事立会 90x大溝	土留路	新田併	-	9.4	(4.7)	透射壁	b-4	埋戻・埋戻少,埋戻少	員	内照,工石x,厚板	厚板	D26.26	内照面積有り	D-265	
160 1309	-	工事立会 90x大溝	土留路	土留路	最大幅 0.0	3.1	1.2	-	b-3	埋戻・埋戻少	員	-	-	-	高さ3.05cm,高さ49.7cm	D-264	
160 1300	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	林	(27.4)	-	(8.3)	庇	Dc-1	埋戻・埋戻少溝x1.0x	埋戻	ロ70x子	ロ70x子	D3.96	-	V7	D-254
160 1340	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	埋戻	-	-	6.2	庇	Dc-3	埋戻・埋戻少	埋戻	ロ70x子	ロ70x子	-	内照面積	D-266	
160 1302	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	埋戻	-	-	9.4	庇	Dc-3	埋戻・埋戻少,庇	埋戻	ロ70x子	ロ70x子	-	-	D-265	
160 1305	-	工事立会 90x大溝	埋戻路	兼	27.9	-	9.1	庇	Dc-3	埋戻・埋戻・埋戻少	埋戻	ロ70x子,タタキ	ロ70x子,タタキ	D4.96	-	D-263	

表 2-2-5 F区新1面土留路表5

検出 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種類	仕様	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備 考	実測番号
151	1221	-	埋戻トレンチ2 中央	不明	スチロ目	12.2	5.7	1.6		ホ-46
151	1222	-	埋戻トレンチ2 中央	不明	スチロ目	26.8	4.4	1.25		ホ-47
151	1223	-	埋戻トレンチ3 板敷南側	不明	スチロ目/出し	(27.0)	3.3	3.1		ホ-45
151	1224	-	埋戻トレンチ3 板敷南側	不明	スチロ目	(32.3)	2.2	0.9		ホ-44
151	1225	-	埋戻トレンチ3 板敷南側	不明	スチロ目	21.4	9.0	2.5		ホ-42
151	1226	-	埋戻トレンチ3 板敷南側	不明	スチロ目	(66.1)	3.2	1.1		ホ-43
151	1227	-	埋戻トレンチ 板敷南側	磚皮	-	(11.6)	4.4	0.65		ホ-41
153	1236	P-42	水田	下駄	クリ分層材	(16.0)	7.8	3.85	一部加工済みあり	ホ-16
153	1237	P-43	7F1SK01 覆土	不明	ヒノキ目目	12.7	1.9	1.6	第12号水樋、□□□、051 割式	ホ-6
153	1238	P-43	7F1SK01 覆土	簀	スチロ目分層状	17.1	0.8	0.5		ホ-7
153	1239	P-43	7F1SK01 覆土	簀	スチロ目分層状	17.0	0.8	0.4		ホ-8
153	1240	P-43	7F1SK01 覆土	簀	スチロ目分層状	14.6	0.7	0.5		ホ-9
153	1241	P-43	7F1SK01 覆土	簀	スチロ目分層状	15.7	0.7	0.5		ホ-10
153	1242	P-43	7F1SK01 覆土	(不明)	-	10.6	0.5	0.5		ホ-11
159	1337	-	埋土削り(埋戻土)	不明	ヒノキ目目	4.35	14.5	0.55		ホ-22
159	1338	-	溝、排水(池)	不明	スチロ目	4.4	15.65	1.05		ホ-31
159	1339	-	埋土削り(埋戻土)	透野籠	トノノキ 構木埋戻目	13.7	(6.4)	(4.9)	内外面塗	ホ-21
159	1340	Q-44	埋戻土(埋戻土)	(不明)	-	10.2	3.7	0.5		ホ-18
159	1341	P-45	埋戻土	不明	スチロ目	9.6	5.0	0.9		ホ-32
159	1342	P-43	上層、排水	不明	スチロ目	14.4	4.6	0.8	側面に釘穴か	ホ-34
159	1343	-	排水、溝、排水	不明	スチロ目	15.9	4.1	0.7		ホ-52
159	1344	P-44	排水	(不明)	-	11.7	2.8	1.0		ホ-53
159	1345	P-44	排水	(不明)	スチロ目	14.7	3.9	1.1		ホ-54

第83表 F区第1面水製品観察表

検出 番号	遺物 番号	グリッド	出土遺構	種類	仕様	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	備 考	実測番号
151	1220	-	埋戻トレンチ2 中央一部位置	石製品	板状	2.1	(2.8)	1.66	8.5	石30
159	1334	O-43	埋戻土	鉄製品	釘	4.9	3.7	2.3	33.6	金属4
159	1335	P-42-43、 O-43	埋土	鉄製品	釘	4.6	3.3	2.7	39.0	金属5
159	1336	-	排水、排水	石製品	-	6.2	4.2	3.0	108.0	石55

第84表 F区第1面石・金属製品観察表

第7章 総括

第1節 第7次調査区の変遷

加茂遺跡第7次調査では、弥生時代～古代の集落跡を検出した。調査範囲は遺跡南半部の北辺にあたるA区、その南側のC・D・K区、遺跡東端にあたるF区である。

遺跡南半部の北辺に位置し、主要地方道高松津幡線の東側にあたるA区では、第1～5面を調査している。古代の遺構面である第1面では、9世紀～10世紀前半の掘立柱建物・土坑・溝から成る集落域を確認している。掘立柱建物4棟は、後述のC・D・K区同様に、2～3棟程度の小規模なセットで配置されたものと推定され、大溝に沿った計画的配置がみられる第6次調査区までの構成とは異なる。また、次節で報告する漆紙文書1点が出土している。建物群が廃絶する10世紀以降は耕作地としての使用に転じ、加茂遺跡の年代の下限にあたる。一方、第2～4面は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面である。主な遺構としては、自然流路(7A2SD202)が調査区を蛇行しており、周囲の集落域から流れ込んだ多量の遺物が出土している。調査区全体としては、当該流路を主体とした集落縁辺部の様相を呈し、溝や土坑等を検出している。最下層となる第5面は弥生時代中期後半にあたり、平地建物を検出している。第5次・第6次調査の下層で検出した当該期の遺構群と連続した集落域だと考えられる。

A区の南側に位置するC・D・K区では、第1面を調査している(第2面は第8～10次で調査しており、後刊にて報告予定)。第1面の遺物の年代は9世紀～10世紀前半にあたる。A区と同様に、掘立柱建物6棟が調査区の西側にあたるC区に集中しており、古代集落域の東端と考える。それより南側は耕作に伴う畝(畝溝状遺構)、およびそれらを切り込みながら北東方向に横断する溝が占めており、第6次調査上層の調査成果と近似している。一方東側のD・K区では、水田面及び遺物が伴わない柱穴列が並ぶが、遺構の性格としては建物の柱穴というより耕作に伴う遺構と推定する。以上より、C・D・K区は9世紀～10世紀前半の加茂遺跡集落域の東端で、A区に連続する北西側の居住域・南西側の生産域・東側の水田域の順に使用されており、これらの調査成果は隣接する調査区に符合する。

加茂遺跡東端にあたるF区では、第1面を調査している。(西側及び第2面以降は第9・10次調査)。第1面は9世紀～10世紀前半にあたり、水田遺構・土坑・溝を検出した。遺跡全体からみれば、古代集落域東側の谷奥に位置しており、加茂遺跡の東限を確認した。

さて、第7次調査の中心となっている9世紀～10世紀の加茂遺跡南半部の性格について、県報告2009では「2期」とし、9世紀初頭～第3四半期における南大溝の埋め立て・付替を画期として、N-15～23°-Wを軸線方位とした建物群が展開した時期と位置付けている。この点において本調査成果は矛盾していないが、一方で大溝近辺にみられる規格性の強い建物群に比して、2～3棟の小規模な建物のセットが配されており、古代集落東限の様相を明らかにしている。

本調査から20年余りが経過している現在、加茂遺跡一帯の膨大な調査成果の整理を徐々に進めつつあり、県内の他の遺跡の動向についても新たな情報が累積している。加茂遺跡は調査区割や土層が比較的複雑なため、まず多量な調査成果を整理する点で非常に困難だと筆者自身は感じるが、国史跡及びその周辺を含めた一帯の調査が、当該地域の歴史を知る上でどれほど重要な位置にあるかは述べるまでもない。後続する成果報告に期待するとともに、遺跡一帯の調査成果を踏まえた歴史的空間を復元し、明瞭な形で地域に還元することを目指したい。

第2節 加茂遺跡出土漆紙文書

加茂遺跡では、これまで計2点の漆紙文書が出土している。漆紙文書とは、反故紙を漆容器の蓋紙として再利用したもので、付着した漆により廃棄後も土中で遺存した出土文字資料である。行政文書等として使用・保管されたのち、漆工房等に払い下げられて蓋紙として再利用・廃棄された遺物であり、元来の文書としての文字情報と、漆利用に関係する性格の両方を兼ね備える。

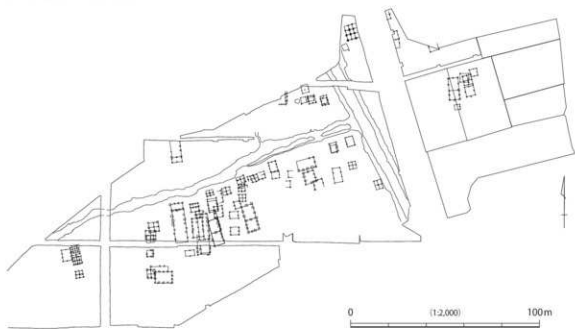
今回報告する加茂遺跡7次調査出土の漆紙文書は、A区第1面の土坑(7A1SK07)から出土している(第4章参照)。文字が記載された面を内側にして谷折りにした状態で出土しており、展開した状態で実測・赤外線カメラによる撮影を行った。裏面に文字はみえない。復元径は約20cmで漆紙文書としては中型にあたり、漆の運搬・保管に用いられた木製の曲物の蓋紙として使用されたものと推定される。釈読に際して、平川南氏(現・大学共同利用機関法人人間文化研究機構長)の指導を受けた。釈文には、人名と思われる「公□万呂」、稲等の石高を示す「石一斗」の記載がみえ、徴税に係る行政文書だと考えられる。さらに「天長九年」(832年)、「承和貳」(835年)と二つの年号が記されており、本史料の使用年代を推定できる。これらの年号を土器編年(第7表)の推定年代に照らせば、「天長九年」(832年)、「承和貳(年)」(835年)はV₂期に該当する。同遺構から出土した須恵器はVI₁期(9世紀後葉)・VI₂期(9世紀末～10世紀初頭)にあたり、文書の使用年代と土坑の廃棄年代との間には少なくとも数十年の時差がみとめられる。

さて、古代における加茂遺跡の性格については、県報告2018にて「郡雑人の(在地統治の)拠点」という見通しがなされている。三浦純夫が指摘した「田領が駐在する郡衙(郡役所)の出先機関」、出越茂和による「加賀郡田領丈部氏の統治施設」といった具体像の想定に基づき整理したものである。本遺跡には官衙の様相をもつ南側のエリアと、私的な様相をもつ北側のエリアが存在し、機能分化に伴う二面性をもつ地方拠点であったとしている。漆紙文書が出土したA区は平安時代前期の集落地・耕作地であり、遺跡全体からみれば南半部の北辺に位置する。

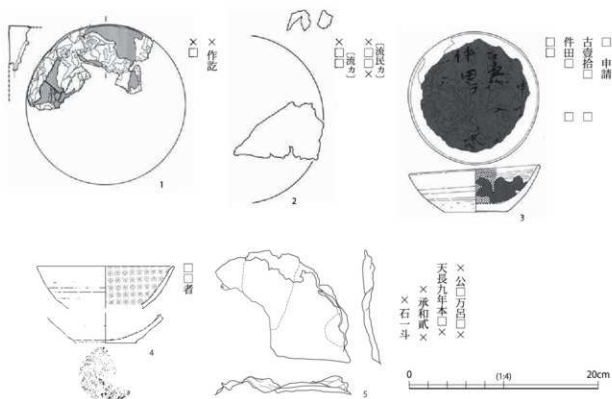
以上により本漆紙文書については、郡が管理していたと思われる9世紀中頃の徴税に係る行政文書が、郡雑人等により加茂遺跡にもたらされ、漆の保管容器の蓋紙として使用されたのち、10世紀初頭頃に官衙のエリア東隅の土坑に廃棄されたという一連の流れを想定する。漆の保管・使用の具体像、共存遺物との時期差等、本遺物からのみでは語りえない課題が多々あるのは言うまでもないが、木簡・墨書土器、漆付着土器、そして当該期の遺物や遺構といった全体を俯瞰すれば、より明確な位置付けが可能となる。自身の力量不足を痛感しているが、自戒の念を込めて今後の課題とし、及ばずながら結びにかえたい。

〔引用・参考文献〕

- 石川県埋蔵文化財センター1993『石川県金沢市戸水C遺跡 平成2・3年度発掘調査報告書』
 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2009『津幡町 加茂遺跡Ⅰ』
 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2018『津幡町 加茂遺跡・加茂窯跡群』
 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2021『津幡町 加茂遺跡Ⅱ』
 金沢市・金沢市教育委員会2016『金沢市大友A遺跡』
 平川南・(財)石川県埋蔵文化財センター2001『発見! 古代のお触れ書き 石川県加茂遺跡出土加賀郡特示札』
 平川南『漆紙文書の研究』1989 吉川弘文館
 古尾谷知浩2014『漆紙文書と漆工房』名古屋大学出版会



第161図 古代掘立柱建物分布図(S=1/2,000)



番号	遺跡名	出土遺構	容器	備考	報告番号	出典
1	戸水C遺跡	S56-F2区包含層	曲物	曲物胴板と底板に付着	第69図-第1号文書	県立埋文1993
2	戸水C遺跡	S57-SD27	不明		第69図-第2号文書	県立埋文1993
3	大友A遺跡	E12-3区 (SD3002)	内黒土師器埴	埴内面に付着	第115図-882	金沢市2016
4	加茂遺跡	94-SX43	内黒土師器埴	埴内面に付着	第208図-2699	財埋文2009
5	加茂遺跡	7A1SK07	木製容器か		第22図-25	本書

第162図 県内出土漆紙文書集成(S=1/4)



第163図 加茂遺跡古代遺構図 (S=1/2,000)



完掘状況(調査区西半部 南から)



完掘状況(調査区東半部 南西から)



遺構検出状況(調査区西半部 南から)



遺構検出状況(調査区北西部 北から)



遺構検出状況(調査区南西部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 南から)



遺構検出状況(調査区東半部 南から)



完掘状況(調査区北西部 南から)



完掘状況(調査区西半部 南から)



完掘状況(調査区南西部 南から)



完掘状況(調査区中央部 南から)



完掘状況(調査区東部 南西から)



SB112 (P107)土層断面(東から)



SB113 (P116)土層断面(東から)



SB114 (P141)土層断面(南から)



SB114 (P153)土層断面(南から)



SK07土層断面(南から)



SK07完掘状況(南から)



SK12~14半掘状況(北西から)



SK12土層断面(西から)



SK13土層断面(西から)



SK10、SD91土層断面(西から)



P105土層断面(南から)



P110、P167土層断面(北から)



P111土層断面(東から)



P130土層断面(南から)



P133土層断面(南から)



P136土層断面(南から)



P139土層断面(北から)



P142土層断面(東から)



P142遺物出土状況(東から)



P150土層断面(南から)



P151土層断面(西から)



SD52遺物出土状況(西から)



SD66(西)土層断面(南から)



SD66(東)土層断面(西から)



SD69土層断面(東から)



P152、SD114土層断面(北から)

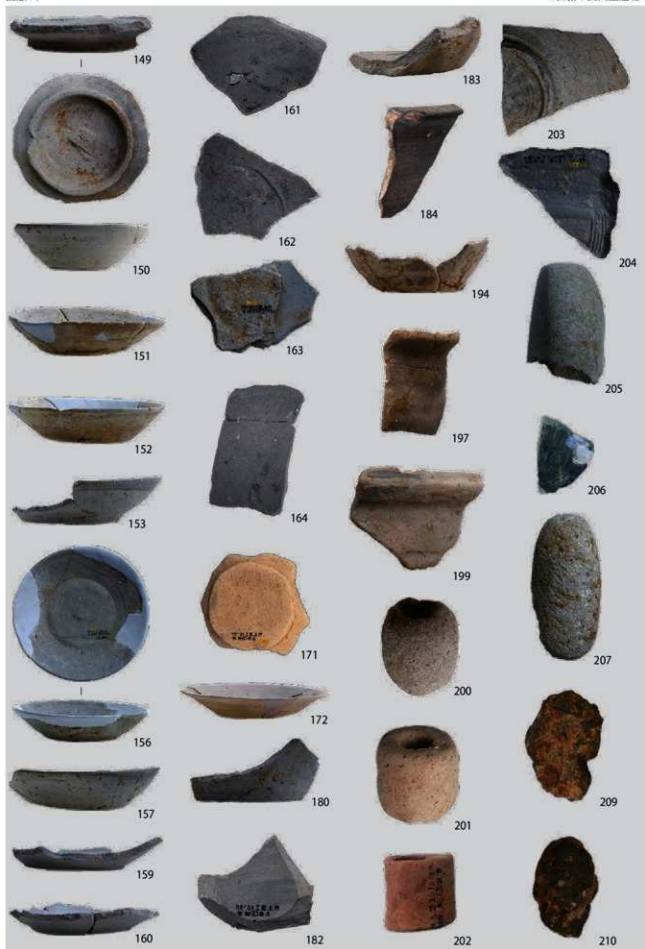


旧耕作土層遺物出土状況(東から)











完掘状況(垂直)



SD202(中央)完掘状況(南から)



完掘状況(調査区東半部 南から)



完掘状況(調査区西半部 南から)



遺構検出状況(調査区南西部 南東から)



遺構検出状況(調査区南西部 南西から)



P201土層断面(南から)



P202土層断面(南から)



SD202東アゼ土層断面(南東から)



SD202西アゼ土層断面(西から)



SD202(中央)完掘状況(東から)



SD201完掘状況(東から)



SD202遺物出土状況(北東から)



SD202(上層)遺物出土状況(南から)



SD202(上層)遺物出土状況(西から)



SD202(上層)遺物出土状況(北から)



SD202(上層)遺物出土状況(北から)



SD202 (西側・下層)遺物出土状況(南から)



SD202 (中央・最下層)遺物出土状況(北西から)全体



SD202 (中央・最下層)遺物出土状況(北西から)



SD202 (中央・最下層)木製品出土状況(南西から)



SD202 (東側・最下層)遺物出土状況(北西から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(東から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(西から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(西から)



SD202 遺物出土状況(南から)



SD202 (中央・最下層) 遺物出土状況(北西から)



SD201 土層断面(西から)



SD201 土層断面(北から)



SD203、204 発掘状況(北東から)



SD203 土層断面(西から)



SD204 土層断面(西から)



SD205 土層断面(南西から)



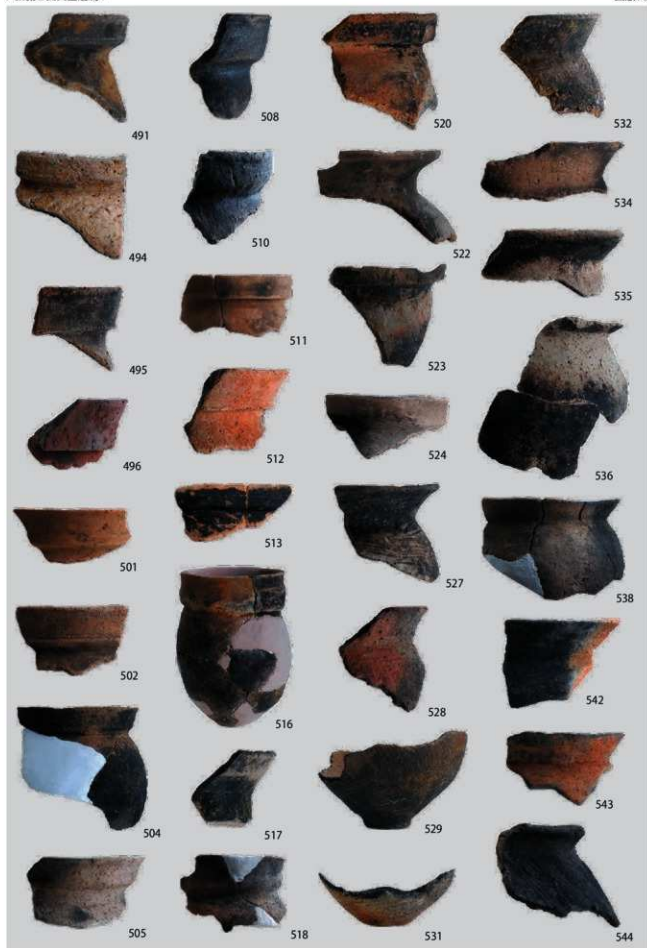
























完掘状況(南から)



遺構検出状況(調査区西北部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 北東から)



遺構検出状況(調査区東半部 北西から)



遺構検出状況(調査区東部 東から)



土層断面 h (東から)



土層断面 g (東から)



土層断面 c (西から)



土層断面 d (南から)



SK302 土層断面(東から)



SK302 完掘状況(北東から)



SK303 土層断面(西から)



SK303 焼土面(西から)



SD308、SD309土層断面(西から)



SD308土層断面(西から)



SD308遺物出土状況(北から)



SD308遺物出土状況(上層② 西から)



SD308遺物出土状況(上層③~⑤ 北から)



SD308遺物出土状況(上層⑥ 北から)



SD308遺物出土状況(下層①② 北から)



SD202、トレンチ2土層断面(西から)



SD307土層断面(西から)



SD310土層断面(南から)



SD311遺物出土状況(北から)



SD312土層断面(北から)



SD315遺物出土状況(西から)



SD317遺物出土状況(南から)



SD320遺物出土状況(西から)



SD321完掘状況(西から)



第3面溝内遺物出土状況(P-25区 東から)



第3面検出面遺物出土状況(北から)



第3面焼土遺構遺物出土状況(北から)



第3面炭化物集中地点(西から)



第4面遺構検出状況(調査区北西部 北から)



第4面遺構検出状況(調査区北部 北東から)



第4面遺構検出状況(調査区東部 西から)



第4面完掘状況(調査区北西部 北から)











完掘状況 (調査区北部 北から)



完掘状況 (調査区北部 北から)



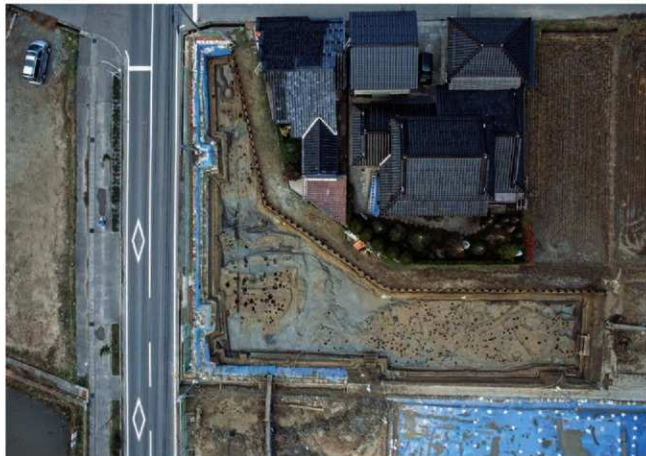
完掘状況 (調査区北部 南西から)



SD403 (南から)



SD411・412・409土層断面(西から)



完掘状況(垂直)



完掘状況(北西から)



完掘状況(調査区南東部 垂直)



完掘状況(調査区南東部 東から)



完掘状況(調査区中央部 北西から)



完掘状況(北西部 東から)



遺構検出状況(調査区南東部 東から)



遺構検出状況(調査区東部 西から)



遺構検出状況(調査区中央部 北から)



遺構検出状況(調査区北部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 西から)



遺構検出状況(調査区南東部 東から)



遺構検出状況(O-P-27区 北から)



遺構検出状況(P-27・O-28区 北から)



平地建物 S1501 完掘状況(南西から)



平地建物 S1501 完掘状況(北西から)



平地建物 SI501a環 P716柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501a環 P711柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501a環 P709柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501b環 SK522,SD505土層断面(西から)



平地建物 SI501c環 P717枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501c環 P704枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501c環 P715枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501d環 P712枕木出土状況(北から)



平地建物501d環 P659柱根出土状況(南から)



平地建物 SI501外周溝 SD501内焼土坑(南から)



P631土層断面(北から)



SK502土層断面(南東から)



SK506土層断面(西から)



SK507-508土層断面(東から)



SK509-510完掘状況(東から)



SK509-510土層断面(東から)



SK511土層断面(東から)



SK517土層断面(西から)



SK520土層断面(北から)



SD504土層断面(南から)



SD508土層断面(西から)



東西アゼ土層断面(北から)



西壁土層断面(北半部 東から)



西壁土層断面(南半部 東から)







C区第1面 遺構検出状況(北西から)



C区第1面 SB01・SB02・SB04・SB06(北から)



C区第1面 SB01・SB02・SB06(西から)



C区第1面 SB01・SB02・SB06(北から)



C区第1面 SB01・SB02・SB03・SB04(西から)



C区第1面 SB03(南から)



C区第1面 SB03(北から)



C区第1面 SK05遺物出土状況



C区第1面 SK02土層断面(西から)



C区第1面 SK06遺物出土状況(南から)



C区第1面 SK01土層断面(南から)



C区第1面 SK04土層断面(南から)



C区第1面 SK05遺物出土状況(南から)



C区第1面 P04・P33和銅間珍出土状況



C区第1面 P01完掘状況(西から)



C区第1面 P02・P31 (SB03)土層断面(南西から)



C区第1面 P02完掘状況(東から)



C区第1面 P04完掘状況(西から)



C区第1面 P157土層断面(南から)



C区第1面 P16土層断面(南から)



C区第1面 P17土層断面(東から)



C区第1面 P18柱根出土状況(南から)



C区第1面 P21土層断面(南から)



C区第1面 P24土層断面(東から)



C区第1面 P25土層断面(南から)



C区第1面 P27(SB03)土層断面(南から)



C区第1面 P28柱根出土状況(南から)



C区第1面 P29柱根出土状況(西から)



C区第1面 P30柱根出土状況(東から)



C区第1面 P31遺物出土状況



C区第1面 P32・P01 (SB03)土層断面(東から)



C区第1面 P33(SB03)土層断面(南東から)



C区第1面 P35土層断面(西から)



C区第1面 P39土層断面(南から)



C区第1面 P42土層断面(南東から)



C区第1面 P44土層断面(北から)



C区第1面 P45土層断面(北から)



C区第1面 P46・SD39土層断面(南から)



C区第1面 P50土層断面(南から)



C区第1面 P51柱根出土状況(西から)



C区第1面 P52遺物出土状況(南東から)



C区第1面 P54(左側)土層断面(北から)



C区第1面 P57(右側)土層断面(西から)



C区第1面 P59土層断面(南から)



C区第1面 P60土層断面(南から)



SK511土層断面(東から)



SK517土層断面(西から)



SK520土層断面(北から)



SD504土層断面(南から)



SD508土層断面(西から)



東西アゼ土層断面(北から)



西壁土層断面(北半部 東から)



西壁土層断面(南半部 東から)



C区第1面 SD45遺物出土状況(北から)



C区第1面 SD46(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD54(東側)土層断面(西から)



C区第1面 SD54(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD53(東側)土層断面(西から)



C区第1面 SD53・SD54合流部土層断面(東から)



C区第1面 SD53(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD46・SD53・SD54合流部土層断面(西から)



C区第1面 SD53・SD54合流部遺物出土状況(南から)



C区第1面 SD54木材出土状況(南から)



C区第1面 SD48土層断面(南から)



C区第1面 SD41土層断面(南から)



C区第1面 検出面(M-29)遺物出土状況



C区第1面 検出面(N-28)遺物出土状況



C区第1面 下面検出(N-28) 遺物出土状況



C区第1面 馬歯? (出土状況(N-27北から)



C区第1面 噴砂(M-27)土層断面(南西から)



C区第1面 噴砂(M-27)土層断面(北東から)



D・K区第1面 遺構検出状況(調査区西半 南から)



D・K区第1面 遺構検出状況(調査区東半 南から)



D・K区第1面 SD99遺物出土状況(東から)



D・K区第1面 SD99土層断面(東から)



D区第1面 SD100土層断面(南から)



D・K区第1面 N-33瓦出土状況









水田遺構完掘状況(西から)



水田遺構完掘状況



確認トレンチ1断面(北東から)



確認トレンチ2断面(1) (南西から)



確認トレンチ2断面(2) (南西から)



確認トレンチ2断面(3) (南西から)



確認トレンチ3木製品出土状況(1) (北から)



確認トレンチ3木製品出土状況(2) (北から)



確認トレンチ3木製品出土状況(3) (北東から)



確認トレンチ3断面(北東から)



須恵器四耳壺等出土状況



SK01 断面(北東から)



SK02・04 断面(北東から)

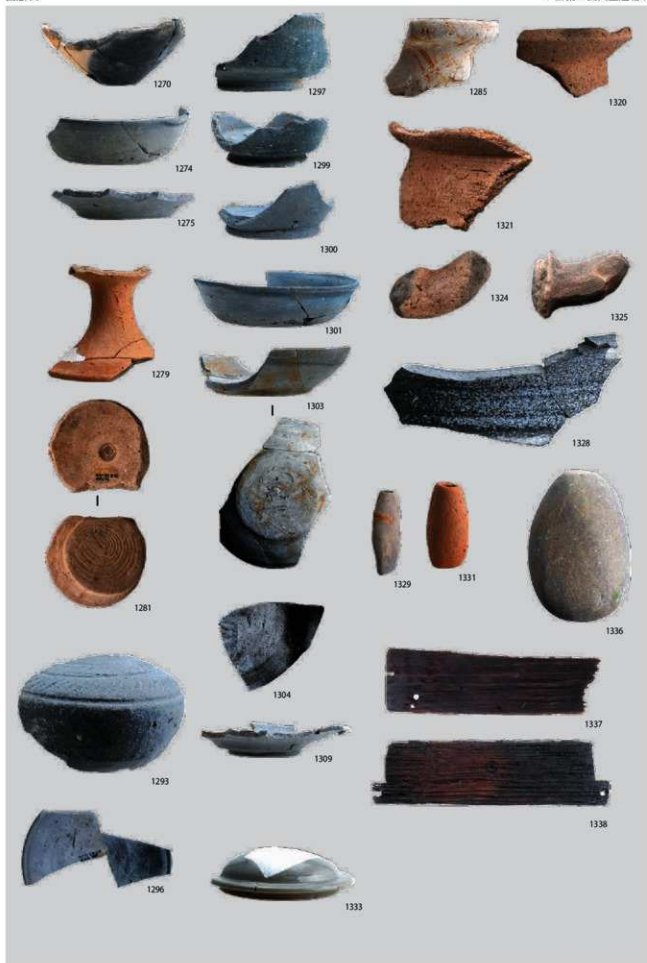


SK02・03 断面(南西から)



SK02~04 完掘状況(北西から)







出土遺物 F区(3)



出土遺物 工事立会

報告書抄録

ふりがな	つばたまち かもいせき IV							
書名	津幡町 加茂遺跡IV							
副書名	一般国道8号 津幡北バイパスに係る埋蔵文化財発掘調査報告書4							
シリーズ名								
シリーズ番号	4							
編著者名	川畑誠、和田龍介、山内花緒							
編集機関	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL (076)229-4477 FAX (076)229-3731							
発行機関	石川県教育委員会、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	令和4年3月22日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
かもいせき 加茂遺跡	石川県 津幡町 あびのこ 字加茂・舟橋	17361	1303000	36度 41分 10秒	136度 43分 37秒	20010515 ～ 20020124	8,000㎡	記録保存 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
加茂遺跡	集落跡	弥生～古墳	平地建物、溝、土坑、自然流路	弥生土器、土師器、木製品、石製品		弥生時代中期の建物跡を検出。弥生時代後期から古墳時代前期の自然流路から土器等が多数出土。		
	集落跡 田畑	古代	掘立柱建物、溝、土坑、小穴、水田跡	土師器、須恵器、木製品、金属製品、漆紙		9世紀～10世紀前半の遺構・遺物を確認。井戸からは漆紙文書1点が出土した。谷奥の調査区は水田が営まれており、古代加茂遺跡の東限を確認することができた。		
要約	<p>加茂遺跡発掘調査報告書の第4冊で、第7次調査（2001年）の成果を所収した。本次調査は加茂遺跡の東半部にあたり、調査範囲はA区第1～5面、C・D・F・K区第1面である。古代の遺構面では、第5次・6次調査に続く9世紀～10世紀前半の掘立柱建物・井戸・土坑・溝と、それらの遺構が廃絶した後に営まれた畠（畝溝群）、さらに谷奥に水田遺構を確認した。第6次調査I区まで遺跡を横断していた大溝と計画的に配置されている掘立柱建物群は、第7次調査では確認できず、2～3棟程度の小規模な掘立柱建物で構成されるようなあり方を見ている。これらの遺構は、同時に加茂遺跡古代集落の東限となる。A区の井戸から出土した漆紙文書は、「天長」「承和」の年号とともに個人名や稲等の石高が読み取れることから徴税に係る行政文書であったと考え、本遺跡にそれらの業務に従事するような郡人々が存在していたことを想定させる。集落の東側、加茂谷の奥に近いF・K区では水田遺構が確認できた。A区第2面～4面では弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面を確認でき、調査区を蛇行する自然流路を主体に、溝や土坑などを検出した。第5面は弥生時代中期後半の遺構面で、平地建物を検出した。第5次・第6次下層で検出した該期遺構群に続くものとする。</p>							

津幡町 加茂遺跡Ⅳ

発行日 令和4(2022)年3月22日

発行者 石川県教育委員会
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)
(公財)石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 安達写真印刷株式会社